

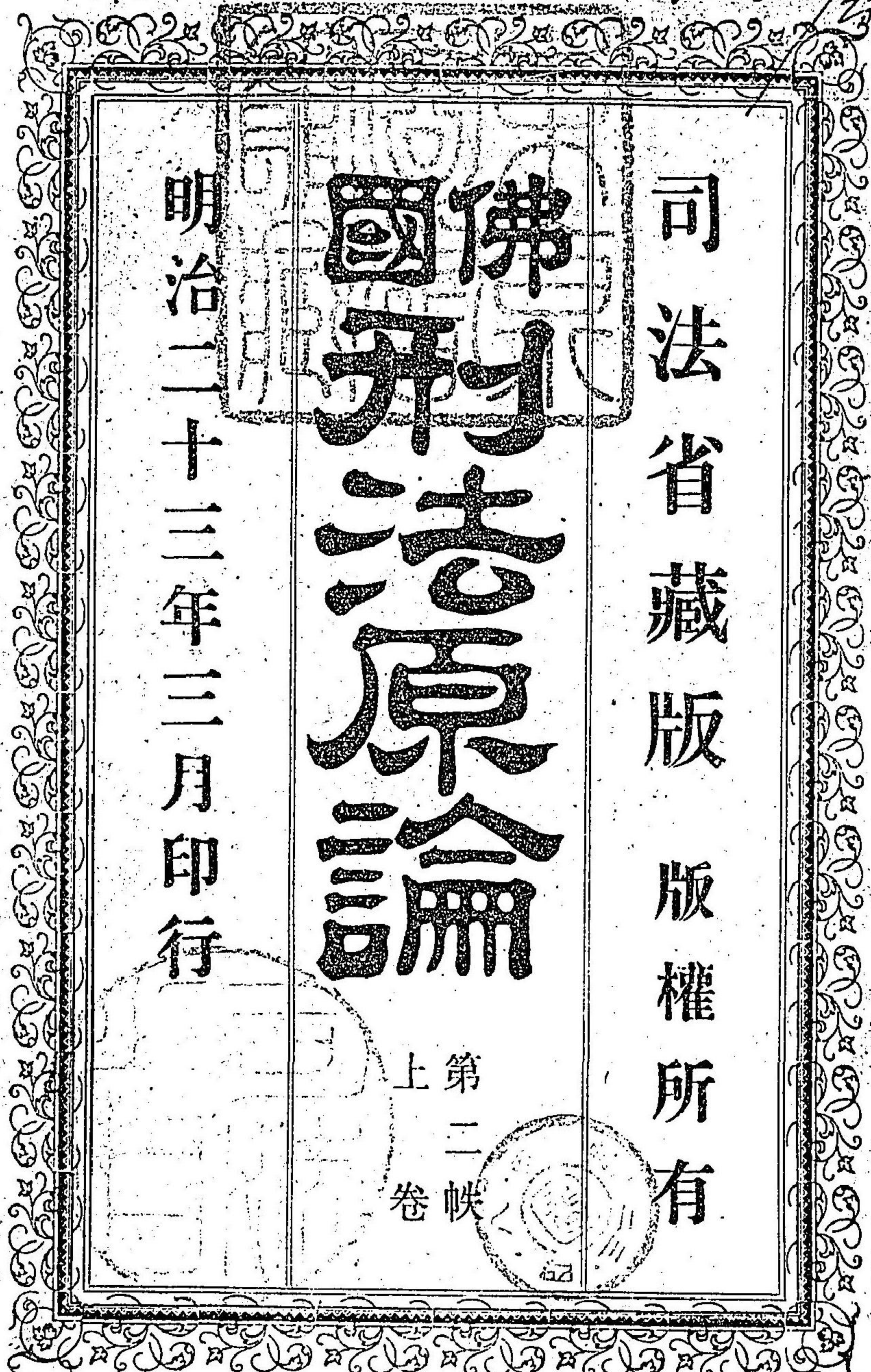
No 2500/23

司法部藏版 版權所有

佛學 司法原論

第二卷
上帙

明治二十三年三月印行



刑法原論 第二帙目錄

第二部

第五編 刑

第一章	刑ノ名稱及ヒ其定義	一
第二章	刑ノ正當ナルコトニ就テノ要件	三
第三章	刑ノ目的	四
第四章	刑ノ度量	四
第五章	希望スヘキ刑ノ性質	一〇
第一	刑ノ正當ナルコトヲ得ルノ條件ニ關スル性質	一一
第二	刑ノ目的ニ關スル性質	一二
第三	刑ノ度量ニ關スル性質	一八
第四	人類ノ裁判ノ短處、公益ノ變遷及ヒ懲治ニ由テ得タル結果等ニ關スル性質	一九
第六章	純理ノ學(シァンス、ラシヨチール)ニ從テ論評シタル諸種ノ刑	二一
第一	犯者ヲ其身體ニ於テ罰スルノ刑	二二

刑法原論 第二帙目錄

第二部

第五編 刑

第一章	刑ノ名稱及ヒ其定義	一
第二章	刑ノ正當ナルコトニ就テノ要件	三
第三章	刑ノ目的	四
第四章	刑ノ度量	四
第五章	希望スヘキ刑ノ性質	一〇
第一	刑ノ正當ナルコトヲ得ルノ條件ニ關スル性質	一一
第二	刑ノ目的ニ關スル性質	一二
第三	刑ノ度量ニ關スル性質	一八
第四	人類ノ裁判ノ短處、公益ノ變遷及ヒ懲治ニ由テ得タル結果等ニ關スル性質	一九
第六章	純理ノ學(シァンス、ラシヨテール)ニ從テ論評シタル諸種ノ刑	二二
第一	犯者ヲ其身體ニ於テ罰スルノ刑	二三

第二 犯罪者ヲ其心意ニ於テ罰スル刑 七三

第三 犯人ヲ其權利ニ於テ罰スルノ刑 七九

財産ニ關スル權利ニ及フノ刑 八〇

人ノ身分ト法律上ノ能力トニ關スル權利ニ及フノ刑 九〇

第四 結論 九七

第五 自由ヲ剝奪スルニ係ル刑ノ排置 九八

防禦ノ監禁、刑ノ監禁、懲治教育ノ監禁 九九

制度身體ニ對スル取扱(トレイトマン、フヒシツク)心ニ對スル取扱 (トレイトマン、モラール) 一一六

交通(コンミュニカシヨン)小房監禁(アンブリグンヌマン、セリユレー
ル)、各囚徒ヲシテ不斷離隔セシムルコト(セパラシヨン、コンチニユー、
アントル、デトニユー) 一二一

囚徒間ノ不斷ノ離隔ノ小房監禁ニ於ケル勞務 一二六

勞務ノ利得ノ使用 一三八

敎學(アンストリユグシヨン)及ヒ教育(エデュカシヨン) 一五二

建築術(アルシテクチャウル) 一五三

囚徒間ノ不斷離隔ノ小房監禁ノ班次 一五四

囚徒間不斷離隔ノ小房制度ヲ使用ス可カラサル所ノ監禁 一五七

懲治教育ノ監禁(アンブリグンヌマン、デシユカシヨン、コレクシヨネ
ール) 一六一

婦女ニ對スル獄舎 一六五

老年人ニ對スル獄舎 一六六

刑ヨリ社會ノ通常ノ生活ニ至ル移轉方法ノ處分 一六七

島地發遣及ヒ國外ニ於テ刑事上ノ托身(ルフューシユ)ノ殖民地 一七九

第六 監獄方法(システーム、ペニタンシユール)ノ歴史 一八三

第七章 我成文法諸種ノ刑 二四五

第一節 被刑者ノ身體、其心又ハ其權利ニ及フノ刑 二四六

被刑者ノ身體ニ及フノ刑 二四六

被刑者ノ心ニ及フノ刑 三四三

人ノ身分及ヒ法律上ノ能力ニ關スル權利ニ及フノ刑 三五三

被刑者ノ財産ニ關スル權利ニ及フノ刑	三九六
第二節 犯罪ノ等級ニ關スル刑ノ班次	四一七
第三節 一刑ノ成立ト他ノ刑ノ成立トヲ結合スル所ノ連絡ヨリスル刑ノ班次	四二二
第四節 被刑者ニ對シ又ハ公衆ニ對シテ生スル所ノ結果ノ點ヨリシタル刑ノ班次	四三五
第五節 期限ノ點ヨリ論シタル刑ノ班次	四三九
第六節 約説	四五六
第七節 刑ノ列籍ヨリ論シタル刑ノ班次	四五九
第八章 刑ノ適用加重及ヒ減輕	四六〇
第一款 刑ノ通常ノ適用	四六〇
第二款 刑ノ加重	四八二
第三款 宥恕ニ原因スル刑ノ減輕	四八八
第四款 酌量減輕ニ原因スル刑ノ減輕	四九九
第五款 同一ノ事件ニ付キ加重宥恕減輕及ヒ酌量減輕ノ集合	五一五

刑法ノ改正第五十七條及ヒ第五十八條ノ適用

五一九

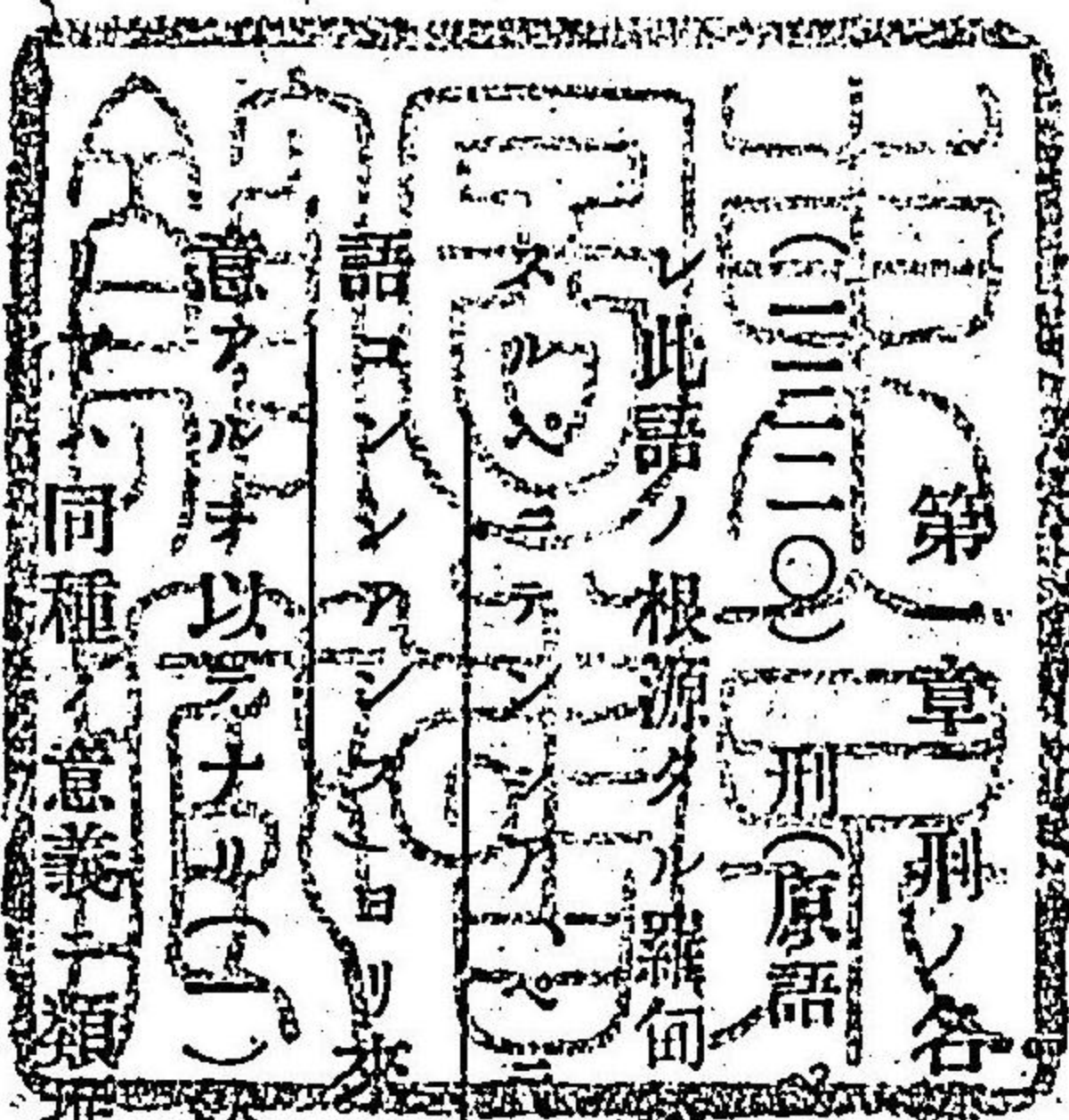
第六款 被刑者ノ身体ニ起因セル刑ノ變更

五二〇

第二部

第五編 刑

第一章 刑ノ各種及ヒ其定義



此語ノ根源ヲル羅甸語ノヘエナアヨリ來リタル意義ナリ、又羅甸語ニ於テ悔悟ノ意ヲ表

テレーノ兩語ハヘエナアト同本源ヨリ出ツ、是レ慚愧及ヒ良心(原

語)ニシテ、悔悟ハ必ス惡事ヲ爲シタルノ悔悟、心中ノ苦痛ヲ惹キ起スノ

意ヲ示ス以テナリ、然シテ此本源ハ亦希臘語ヨリ羅甸語ニ來リタルナリ、希臘語ノボネ

同種ノ意義ヲ類推シ一字ヲ以テ苦痛、困苦、兇惡、狡猾等ヲ指示セリ故ニ此語ヨリ出

タル形容詞ボネロスハ不幸者、狡猾者ヲモ弁ヒ指セリ而シテ我國語ニ於テハ此二個ノ意義

ヲミゼラールブルノ語ニ含蓄セシム

(一)日耳曼語ナル刑ノ名稱ストラフェハ全ク他ノ語源ヨリ來レリ

(二三二二) セン、オウギユスタン氏ガ其著書シテ、ド、デ、ユ第三編第四章ニ於テ羅馬人



佛國ナルトラン著
宮城浩藏譯

No 2500 / 23

中ニ於テ古來尤モ學識ニ邃キモノナリト稱揚セルハロン氏ハ深ク言語ノ構造シ來レル秘訣ニ漸リテ研究シベエナアノ語ヲ以テ他ノ本源則チ重量(羅旬語ボネレー又ボンデニス)ノ語ヨリ出テタリトセリ然ルニケンチリアン氏ハ之ヲ嘲ルト雖モハロン氏ガペエナアノ語ヲ以テ此本源ニ基ケタルヲモ亦其故ナキニ非ス本來苦痛、慚愧及ヒ重量ノ意義ハ相共ニ密ニ連絡スルモノニシテ彼ノ慚愧ト云ヒ後悔ト云フ如キ心中ノ苦痛ノ有形上ニ現ル、結果ハ人體ノ支軀ニ於テ殊ニ呼吸器、消化器ニ壓迫ヲ來ラシメ重壓ヲ知ラシメ重量ヲ感セシムルノ結果ナリトス、是ヲ以テ人常ニ言ハスヤ(此心中ノ苦痛此慚愧此罪犯ハ彼ノ人ノ重荷ナリ彼ノ人ノ呼吸ヲ窒塞ス)ト、又(惡事ハ彼ノ人ノ良心ノ負擔ナリ彼ノ人ノ良心ニ重量ヲ感セシム)ト、又之ニ加フルニハロン氏ガペエナアノ語ヲ以テ重量ノ語ヨリ出テタリトスルニ就テハ古代ノ譬喩ヨリ出テタル刑事訴訟ノ一記事アリ此譬喩ト此記事ニ用ヒタル言辭トフ會得セハ愈々其杜撰ニ非サルヲ知ラン、則チ其譬喩ハ先ツ刑事裁判官ニ手ニ秤機ヲ執リ一手ニ劍ヲ握リテ立ツ、而シテ證人ノ陳述証憑ノ審査アリ、因テ生シタル事件ハ被告ノ責任ヲ負重スルト卸解スルトノ証據ニシテ各、之ヲ秤機ノ左右ノ盤ニ盛ル、此ニ於テ裁判官ハ秤衡ヲ鈎リ上ケ左右秤盤ノ輕重ヲ試ム是レ原被ノ申立ヲ比較論議スルナリ然ル後チ此秤盤ノ一、落下スル時裁判官其議決ヲ知ラシム而シテ其落下スル所ノ秤盤被告ノ任ヲ負重スル證據ヲ盛リ

タル者ナル時ハ裁判官ハ秤衡ヲシテ再ヒ平均ヲ得セシムル爲メ他ノ秤盤ニ秤錘ヲ盛ル此秤錘ハ即チ刑ナリ

(二二二二) 吾人ハ此語源ニ依リテ刑事判決ハ嚴正ノ測度ヲ爲スニ在ルコト并ヒニ刑ハ毫末ノ差ナキ平均ヲ立ツルニ用フヘキ秤錘ナルコトヲ知ルチ得ベシ然レモ嚴正ニ平均ヲ取ル事ハ吾人理想上ノ裁判ニハ適合スルモ人類ノ裁判ニハ爲シ得サル事ナリ是レ人類ノ裁判ハ正理ノ外尙ホ他ノ一、原則ニ基クカ故ナリ(第二百五號第三ノ結果參看)

(二二二三) 吾人ハ刑ナル一語ノ通常ノ語源ニ由リテ刑ハ須ラシク犯者ニ科スル苦痛、哀痛タル可ク且此思想ノ能ク性法ノ理義ト符合スルヲ知ル、故ニ予輩ハ彼ノ社會刑罰權ノ基礎ヲ論スル諸學者カ與ヘタル諸名稱(社會ニ對スル賠償、社會ノ防衛、等)ヲ排斥シ刑ノ本義ニ從テ刑ヲ名稱シ刑ノ定義ヲ下シテ(刑トハ社會ノ公權ヲ以テ犯罪ヲ理由トシ犯罪ノ主者ニ科スル苦痛ナリ)(一)ト云ハントス

(一)葡萄牙刑法草案ハ第七十九條ニ於テ刑ノ定義ヲ與ヘテ曰ク刑ハ其犯罪ノ爲メニ生シタル有形ノ惡事ト無形ノ惡事トノ理由ヲ以テ犯者ニ科スル痛苦又ハ艱難ナリト

第二章 刑ノ正當ナル事ニ就テノ要件

(二二二四) 人類ノ刑罰ニ於テ刑ノ正當ナル事ヲ得ル所以ノモノハ予輩ノ已ニ之ヲ知ルカ

如シ正理ト社會ノ自衛若クハ緊要トナ合同シタル基礎ニ據ルニ在リ、此二元素ハ同ク欠ク可ラサル者ニシテ若シ其一ナ欠ケハ刑ヲ施スノ正當亦茲ニ絶ユ、此點ハ刑罰權ノ基礎論ニ於テ既ニ詳辨シタルヲ以テ今復此ニ贅セス（一八五號及ヒ次號參看）

第三章 刑ノ目的

（一三二二五） 此點ニ於テモ予輩ハ既ニ研究シ來レル眞理ヲ適用スルニ過キス（一九一號及ヒ次號參看）則チ原來刑ノ目的ハ復雜ナレトモ其尤モ重要ナルハ標例ト懲戒トノ二者ナルヲ知ル此二目的ニシテ能ク達スルヲ得ハ他亦從ヒテ舉ルモノトス、又若シ此二目的ノ中ニ就テ其一ヲ撰ヒ他ヲ捨テサルヲ得サル場合アルトキハ標例ハ社會ノ爲ニ尤モ緊切ノ目的ナリト謂ハサルヘカラス

第四章 刑ノ度量

（一三二二六） 凡ソ一物ノ分量ヲ測定スルニハ同種ノ事物ニ就テ既ニ度ヲ知り得タル若干ノ量ヲ本位トシテ、測ラント欲スル所ノ事物中ニ此本位ヲ含蓄スルコト幾許ナル歟ヲ探知セズンハアルヘカラズ、故ニ測定ヲ爲シ得ヘキ爲メニ第一ノ要件ニシテ決シテ欠ク可カラサルハ測定ノ本位ニ用フル事物ト測定セント欲スル事物トノ種類全ク同一同様ナルコトナリ今刑ナルモノハ一個ノ苦痛ニシテ苦痛ナルモノハ感覺ノ一結果タルニ過キス然ルニ感覺ハ

人々異ナラサルヲ得サレハ人々ノ苦痛トスル所モ從ヒテ異ナラサルヲ得ス苦痛ノ原因種々ハ從テ其種類多カラサルヲ得ス、敢テ問フ苦痛測量ノ本位ニ用ヒントスル所ノ者ハ果シテ何者ソヤ、本位トナル可キ苦痛ノ多寡ハ如何ニシテ之ヲ知り得ヘキヤ如何シテ一個ノ苦痛ヲ以テ他ノ苦痛ヲ測ルノ本位ニ適用スルヲ得ヘキヤ、同種類ノ苦痛ニ係ル時ナリトモ一人ノ苦痛ヲ以テ他人ノ苦痛ヲ測ルヲ得ヘキヤ否ヤ

（一三二二七） 苦痛眞成ノ多寡ハ到底測定シ得ヘカラサルモノナレトモ或ル刑ヲ構造スル一二ノ元素ハ之ヲ測定スルノ資料ト爲リ得ヘキカ如シ則チ時限ヲ長短シ得ヘキ刑ニ關スル時限ノ如キ又財産剝奪ノ刑ニ係ル財産ノ額數ノ如キ是ナリ、然レトモ此時限ト云ヒ此額數ト云ヒ畢竟皆ナ由リテ以テ苦痛ヲ生セシメントスル一方法タルニ過キス。故ニ已ニ説キシ如ク苦痛ノ多寡ハ果シテ各人ノ体格ト其位地トニ從テ各異ナラサルヲ得サル時ニ於テハ此測定ハ只外形ノ測定タルノミ、須カラク測定ス可キ者ハ苦痛ナルニ此ハ是レ只時ヲ測リ員數ヲ測リタルニ過キス之ヲ要スルニ右測定法ノ如キハ短處太タ炳然タレトモ他ニ之ニ優ルモノ無キヲ以テ已ムヲ得スシテ採用セル一箇ノ便法ニ過キサルナリ

（一三二二八） 是ヲ以テ科學ハ吾人ニ告ケテ曰ク此事ニ關シテ數理的ノ精確ヲ得ントスルノ希望ハ全ク之ヲ放棄セヨト、其意ニ曰ク煩惱ト云ヒ苦痛ト云フ心意上ノ量ニ係ルニ因リ之

カ測度モ亦心意上ノ斟酌ニ因テ之ヲ爲サ、ルヲ得スト、故ニ立法者ハ宜シク一般ノ感情即チ情感ヲ惹起スル通常ノ情感ヲ基礎トスヘク裁判官ハ須カラク各人ノ感情ト位地トニ依リ酌量ス可シ、是レ裁判官ニ刑ノ適用ニ於テ若干ノ寛縦ヲ與フ可キ一個ノ新理由ナリトス
 (二三一九) 刑ヲ測度スルニ就テノ問題ハ又他ノ形態ヲ具シテ現出シ來ル。苦痛ノ多寡ニ據リ刑ノ輕重ヲ測量セル後各犯罪ニ對シテ之ヲ測度スルノ方法ハ如何ニスヘキヤ辭ヲ改メテ之ヲ言ヘハ如何ニシテ各犯罪ニ適當ノ刑量ヲ該當スヘキヤ

此問題ニ答フル二個ノ法語アリ一ニ曰ク(刑ハ須カラク寛ナルヘシ)ト、此語更ニ一點ノ意味ヲモ有セス、刑ニ尙フ所ハ其應ニ止ルヘキ所ニ止マルニ在リ、若シ唯ニ寛ナルヲ以テ刑ノ徳トセハ盡ク速カニ刑罰ヲ全廢セサルヤ、二ニ曰ク(刑ハ須カラク犯罪ノ度ニ配當スルヲ要ス)ト、此語ヤ誠ニ争フ可ラサル大体ノ眞理ヲ説キ盡セリト謂ツヘシ然レトモ曩ニ犯罪ヲ分析シテ看取シ來リタル數多ノ元素中ニ就テ何レノ元素ニ從ヒテ此配當ノ度ヲ立ツ可キヤ、罪ヲ犯サントセル心意ノ傾向ニ從ヒテ配當ス可キヤ、犯罪ヨリ生出セル不當ノ利益ニ從フ可キヤ、被害者ノ損害ニ從フ可キヤ社會ノ被フレル損害ニ從フ可キヤ抑モ又道德上ノ損害ニ從ヒテ配當ス可キヤ。吾人ノ仔細ニ研究スヘキハ實ニ此ニ存スルナリ

(二三三〇) 刑罰權ノ基礎ヲ論スル諸説各々其見識ヲ持シ各々自ラ之ヲ稱揚ス。正當防禦ノ

説、社會自護權ノ説、緊要主義ノ説、孰レモ罪ヲ犯サントスル心意ノ傾向、犯罪ヨリ生ゼル不當ノ利益ニ從テ刑ヲ測度セント欲シ、賠償ノ説ハ被害者ノ損害ト社會ノ損害トノ合量ニ從ハンコチ欲シ、純正主義ノ説、道德上ノ損害ニ從テ刑ヲ測度セント欲ス(一)而シテ我輩ノ説ハ嘗テ既ニ之ヲ示セリ、夫レ社會ノ刑罰ノ正當ナルニハ二個ノ基礎ヲ要スルヲ以テ其量ニ關シテモ亦二個ノ測度ヲ受ケサルヲ得ス、則チ正理ノ點即チ道德上ノ損害ニ從テ測度シ又緊要ノ點即チ社會ノ損害ニ從テ測度スル是ナリ(但シ社會ノ害ハ自ラ被害者ノ害ヨリ來ルニ因リ此二害ハ相共ニ密ニ連絡スルモノナリ)此故ニ刑ハ二個ノ限界ヲ有シ決シテ之ヲ越ユルヲ得ズ、則チ決シテ正理ニ適スル點ヲ踰ユ可ラス又決シテ緊要ノ點ヲ越ユ可カラス刑ノ測度ハ須カラク此二限界ノ中ニ就キ其尤モ近クシテ且卑キ所ニ止マラサルヘカラス而シテ立法者及ヒ刑事裁判官ノ任トスル所ハ此限界ト刑トノ嚴格ナル平均ヲ立ツルニハ非スシテ(二)單ニ此各限界ノ中ニ在テ中ラスト雖モ遠カラサランコチ求ムルニ在ルノミ
 (二〇五號及ヒ次號參看)

(一)此説ハガンス氏ノ説ヲ續キタル伯林府ノスタール氏ニ依テ左ノ言辞ヲ以テ説明セラレタリ(刑ハ總テ上帝ノ權勢ヲ回復スルヲ以テ其目的ト爲シ而シテ上帝ノ最モ大ナル榮光ヲ保持スルモノナリ)

(二) チツソ一氏ハ其道德政事兩學博士院ニ於テ賞譽ヲ博セル著書刑法哲學入門第三編第二章ニ於テ刑ト犯罪トノ關係ニ係ル問題ハ解明シ得サルモノト論セリ然レモ同氏モ亦彼ノ千七百九十一年ノ刑法中ノ堅硬不撓ナル律例ガ規定セント欲セル刑ト犯罪トノ精確ノ關係即チ數理的ノ關係ヲ論スルニハ非スシテ唯中ヲスト雖厄遠カラサル關係則チ立法者ノ制作ハ自ラ裁判ニ依テ補充シ得ラル可キノ關係ヲ論スルニアルコトヲ明言セリ

(二三三二) 右二個ノ測度ノ中ニ就キ道德上ノ損害ノ測度ハ大ナル變化ヲ受クル性質ナク殊ニ常事犯罪ニ關シテハ一定不動ナレトモ之ニ反シテ社會ノ損害ノ測度ハ常ニ變更シ時代邦國、事情、風俗、及ビ時ノ利害等ニ從ヒテ不同ナリ。刑ノ量ハ常ニ正理ノ區域中ニ在ル可キハ勿論ナレトモ社會ノ公利ニ從ヒ此區域中ニ於テ上下スヘキヲ以テ刑法ニ規定セル刑量ノ變動増減ハ到底避ク可カラザル事ニ屬スルナリ

(二三三三) 我輩ハ既ニ立法者ハ犯罪ノ各種類ニ對シ此二個ノ測度ヲ爲スニ當リ只抽象的ノ方法即チ想像ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得ルニ止マル所以、又立法者ハ各事件ニ於テ各人ニ對シ此測度ヲ斟酌スルヲ得セシムル爲メ裁判官ニ與フルニ充分ノ寬限(原語ラテイテュード或ハ任他限ト譯スルヲ得ヘシ)ヲ以テセサル可ラサル所以ヲ知レリ(第二三〇號參看)立法者ハ犯罪ヲ其最高度ト其最低度トニ想像シテ之ニ對スル最高度最低度ノ刑ヲ制定セハ其任務

ヲ充シタルモノニシテ此中間ハ則チ裁判官ニ與フベキ任他ノ餘地ナリトス○此寬限ハ刑ノ測度ノ規則ニ關スル種々ノ理由ニ依リテ極メテ緊要ノモノタルナリ則チ刑ハ各人ヲ同一様ニ感傷セズ(第一三二八號)各人、同種類ノ犯罪ヲ爲ストモ常ニ同一様ニ罰ス可カラサル事情アリ又社會ノ情狀ノ如何ニ由リテ必シモ同一様ノ刑ヲ施スヲ要セサルカ故ナリ○裁判官ニ課シタル此二個ノ限界ノ中ニ就テ最高度ノ限界ハ緊要ニシテ避ク可カラサルノモノタリ辭ヲ改メテ之ヲ言ハハ此限界ハ各人權利擔保ノ爲ニ又刑量ヲシテ法律ノ管理中ヨリ出テサラシムル爲メニ避ク可カラサルノモノタリ(前數五七三參看)然ルニ最低度ノ限界ハ之ニ異ナリ犯人ニ因リテ大ニ減輕スルコトヲ得ヘキ輕小ノ犯罪ニ關シテハ之ヲ除却ストモ大ナル妨ケ無カル可シ假ヒ除却スヘカラストスルモ大ニ減下スルコトヲ得ヘキナリ現時我國ニ於テ酌量減輕ノ方法ヲ輕罪ニ適用スルハ則チコレ遂ニ其最低度ノ限界ヲ撤去スルニ至ルノ第一着歩ナリトス(刑法第四百六十三條ニシテ千八百六十三年ニ改正セラレ千八百七十年ニ於テ再設セラレタル同條ヲ參看ス可シ)

(二三三三) 立法者刑ヲ定ムルノ方便ハ須ラク下ノ如クナル可シ。先ツ最も重大ナル一罪ヲ取リテ標準ト爲シ之ニ該當スヘキ刑ヲ定メ次ニ有ラユル罪ヲ此罪ト比較シテ等級班次ヲ定メ其降下スルニ從ヒ標準トセル刑ヲ減輕シテ各罪ニ該當スヘキ刑ヲ定ムヘシ○是ヲ以テ

刑ノ測度ニ關シテ成典ノ刑法ハ刑罰ノ配置其宜ヲ得ルコト特別法ニ勝ルコト遠シ何トナレハ一般ノ刑法ノ制定ニ係ル時ハ總テノ犯罪皆立法者ノ眼中ニ在リト雖モ特別法ニ係ル時ハ立法者ハ止タ一犯罪ヲ看ルヲ以テ屢々偶然ニ生スル所ノ情狀ノ爲メニ制セラレ又時トシテハ立法者一時ノ恣情ニ制セラレ(此ハ是レ既ニ歴史中ニ看ル所ナリ)遂ニ犯罪ノ度ヲ見ルコト實ニ過キ容易ニ其刑ヲ重クスルヲ以テナリ特別法ニ附着セル此不便ヲ避クルノ方法ハ之ヲ制定スルニ當リ刑ニ至當ナル配置ヲ立ツル爲メ一般ノ刑法ニ照准スルニアリトス○又上陳ノ理由ヨリシテ若シ刑ノ等級ニ從テ之ヲ節用スルコトヲ力メ下級ノ犯罪ニ對シテ容易ニ刑ノ嚴ナル者ヲ用フル時ハ忽チ至當ノ配分ヲ失シ罪ノ大ナル者ニ進ムニ從ヒ刑ニ不充分ヲ來スカ若クハ數級ノ罪ニ同一ノ刑ヲ用非サルヲ得サルニ至ルヘキナリ

第五章 希望ス可キ刑ノ性質

(一三三四) 我輩ハ單ニ希望ス可キ性質ト云フ、何トナレハ此諸性質中其至緊要タルニ拘ハラズ人類ノ刑罰ニ於テハ到底之ニ達シ得ル能ハサル者アレハナリ、只立法者ノ企テ得ル所ノモノハカメテ之ニ近カラントヲ求ムルニアルノミ人或ハ云ハンはレ唯學問上訓誨ニ過キスシテ到底空理タルヲ免レスト、然レトモ刑ノ性質ノ宜シク希望スヘキモノヲ示スハ亦一個有要ナル訓誨ニ非スヤ

我輩カ今此章ニ講究セント欲スル一點ハ善良ノ處罰方法ヲ組織スルニ關シテ尤モ緊要ノモノナリ、若シ立法者ニシテ刑ノ須カラク有ス可キ性質上ニ完見無カリセハ如何ニシテ處罰方法ヲ構成スル所ノ刑ヲ明確ニ選擇スルヲ得ンヤ然リト雖トモ此事ヲ論スル者常ニ錯雜ノ弊ニ陷ルヲ免レズ、刑ノ須カラク有ス可キ數多ノ性質ヲ希望スルハ極メテ容易ナレトモ實際上如何ナル規則ト雖モ斯ク數多ナル希望ヲ實行スルコト能ハズ、我輩ハ茲ニ之ヲ學理ニ照シ合正明潔ナラシメンカ爲メ元則ノ命スル所ニ從ヒ且ツ此元則ノ順序ヲ履ミテ講明スル所アラントス

第一 刑ノ正當ナルコトヲ得ルノ條件ニ關スル性質

(一三三五) 此條件ニ關シテ刑ハ須カラク第一ニ苦痛ヲ感セシムルモノタル可シ、辭ヲ改メテ之ヲ言ヘハ社會カ善事ヲ以テ惡事ニ報ヒ以テ自ラ自然ノ法ヲ顛倒スル爲メニ其威權及ヒ能力ヲ用フルコトヲ欲スルニ非サル以上ハ又自己ニ賞譽ヲ來タスノ方法ハ罪ヲ犯スニ在ルヲ知ラシメントスルニ非サル以上ハ刑ハ須ラク犯人ニ一ツノ苦痛思難ヲ科スルノモノタル可シ此性質ハ之ヲ得ルコト常ニ容易ナリトス

(一三三六) 刑ハ須カラク道義ニ合スルモノタル可シ、辭ヲ換ヘテ之ヲ言ヘハ立法者ハ力メテ被刑者又ハ公衆ノ道義感情ヲ傷ルニ至ル可キ刑ヲ忌避ス可シ例ヘハ猥褻ノ性質ヲ有ス

ルカ如キ卑劣ニ誘キ慘刻ニ推致シ蠢愚ニ至ラシムルカ如キ若クハ利益ヲ餌トシテ貪婪饒毀ニ誘導スルカ如キ種類ノ刑罰ノ如シ○此性質モ亦之ヲ得ルヲ常ニ容易ナリトス

(一一三三七) 又最終ニハ刑ハ一身ニ止ルモノナルヲ要ス、辭ヲ改メテ之ヲ言ヘハ其痛苦ノ効果單ニ犯人ノ一身上ノミニ生シテ直接ニモ又間接ニモ他人ニ及ハサルヲ要ス○然レモ是レ人類ノ刑ニ於テハ完行スルコト能ハサル事ナリ夫レ吾人ハ皇天ノ寵祐ニ由リテ孤立ノ活物ニ非ス是ヲ以テ一犯人ニ科スルノ刑ハ其惡結果必ス之ト情義若クハ命運ヲ以テ連絡スル者ニ及フ、若シ一家ノ主人獄舎ニ在ル時ハ其妻子眷屬ハ爲メニ患難ヲ受ケ彼レ罰金ニ處セラル、時ニ於テモ亦然リ故ニ立法者ハ唯力ヲ盡シテ此性質ニ近カラントヲ求メ、直接ノ結果唯リ犯人ヲ打撃スルノミナラス并セテ他人ヲモ打撃スルニ至ルヘキ性質ヲ有スル刑ハ須ラク之ヲ處罰方法中ヨリ除去スヘキナリ、若シ夫レ法律犯人ヲ刑スルニ當リ其ノ不辜ノ親屬ヲ救助スルノ必要ナル場合ニ於テ之ヲ救助スルニ至リテハ是レ恩惠上ノ所行ニシテ賞揚スルコト堪ヘタルモノトス

第二 刑ノ目的ニ關スル性質

(一一三三八) 刑ノ第一ノ目的ハ標例ヲ示スニ在ルヲ以テ此點ヨリ見レハ刑ハ第一ニ標例トナルモノタルコトヲ要ス則チ刑ハ其適用ヲ以テ警戒ノ標例トナリ犯罪事件ニ因テ生スル所ノ

惡例ヲ打破セサル可カラサルナリ○凡ソ刑ハ其大小重輕ヲ論セス必ス此性質ヲ有セサル可カラス万般ノ刑ヲ其性質ニ據リテ區別シテ標例タルヘキモノト然ラザルモノトノ二者ト爲スコトハ理論上倣シ得ヘカラザルコトニシテ只犯罪ニ依リテ生セル惡例ノ輕重ニ從ヒ刑ノ警戒ノ標例モ亦或ハ強ク或ハ弱カルヘキノミ而シテ此性質ハ刑ニ含蓄スル所ノ痛苦ノ多寡ヲ以テ之ヲ得ヘシ是ヲ以テ刑ノ正當ナルコトヲ得ルノ條件ニ答フル所ノ痛苦ノ性質ハ又人類ノ刑ニ至要ナル目的ノ一ニ答フルモノトス又是チ以テ之ヲ社會刑罰權ノ基礎タル正義ト社會ノ緊要トニ照セハ此表例トナル可キ所ノ痛苦ハ犯罪ノ輕重ニ從テ或ハ輕ク或ハ重カル可シ抑モ此正義ト緊要トノ兩思想ハ相連合シテ須臾モ偏廢ス可カラスシテ緊要ノ意ハ常ニ正義ノ點ニ附着シテ之ト共ニ進退セサル可カラス故ニ彼ノ陸軍大將ワルレンスタインノ所爲ニ倣フコトヲ得ス、嘗テ一兵卒アリ劫掠ノ罪アリトシテ告發セラレ大將ノ前ニ於テ辯白スル所アラントセルコト大將ノイヒケラク罪科ノ如何ニ拘ハラス之ヲ絞首セヨ軍隊ニ表例ヲ與フルノ要アリト、是レ豈事理ニ合セル言ナランヤ

(一一三三九) 刑ニ含蓄スル所ノ痛苦ニシテ假令ヒ其實際ニ於テハ太タ嚴刻ナリトモ若シ公衆ヲ感動シ刑ノ苦痛ヲ覺リ感セシムルノ性質ヲ有スルニ非サレハ標例ノ目的ヲ缺キ隨テ刑ノ目的ヲ失ヒタルモノナリ○古代ニ於テ公衆ノ感動ヲ増加センカ爲ニ有形ノ景像表様ニ力

ヲ借レリ則チ衣服、標識、言語(譯者曰公塲ニ於テ罪ヲ數フルノ類)巡行(譯者曰引キ廻シノ類ナリ)等目ニ賭耳ニ聞クヲ得ル所ノ儀式ニ依頼シ感動ヲ増加セシメテ圖リタリ然ルニ開化ノ度漸ク歩ヲ進ムルニ從ヒ知識ニ訴フル所ノ公示(譯者曰新聞紙等ヲ以テ公示スルヲ云フ)ヲ以テ此有形上ノ公示ニ代フルニ至レリ夫レ有形上ノ公示ハ必ス其一區域ニ止マリテ之ヲ見聞スル者ノ外ニ及フ能ハスト雖モ知識ニ訴フル所ノ公示ニ至テハ所トシテ至ラサルナク人トシテ知ラサルナカラシムヘシ其得失果シテ如何ソヤ(一二四〇)刑ノ第二ノ目的ハ被刑者ノ心ヲ懲治スルニアルヲ以テ刑モ亦須カラク懲治的タル可シ辭ヲ換ヘテ之レヲ言ヘハ可及的被刑者ノ心ヲ矯正スルニ至ルノ方法ヲ以テ組織ス可キナリ(前數二一〇參看)刑ハ總テ此性質ヲ有セサル可カラズ然レモ死ノ一刑ハ絶エテ懲治的ノ性質ナク其刑法中ニ存スルハ唯表例ノ目的ニ達スルニ過キス是レ諸學說ノ互ニ相一致スル所ナリ(前數六八五參看)

懲治モ亦表例ト同ク犯罪ノ輕重ニ相當シ且ツ之ニ加フルニ犯罪ノ性質ニ適合セサル可カラズ〇故ニ悖逆乖戾ノ感情又ハ邪僻ノ慣習ヨリ來ラスシテ只懈怠又ハ規則ノ不遵守、偶然ノ過誤等ヨリ出ル所ノ犯罪ニ於テハ其犯人ノ心ヲ矯正スルヲカムルノ要アルヲナク只將來犯者ヲシテ再ヒ斯ノ如キ過失ニ陥イラサラシメンカ爲ニ犯者ヲシテ其科セラレタル刑罰ノ痛苦ニ感得セシムルヲ以テ足レリトス(前數六八五參看)〇國事犯罪ヲ犯スニ至レル情感思

想ハ政府ノ加刑シテ之ヲ消滅シ若クハ變更セントスル所ナレトモ常事ノ重輕罪ニ對スル懲治方法ヲ適用スヘキニ非ス(前數七〇七參看)〇立法者ノ必ス改惡移善ヲ企テ勤ム可キ所ハ常事ノ重罪輕罪ニアリトス只犯人ニ痛苦ヲ加フルニ止マリテ古昔王者ノ罪人ヲ懲罰シテ(譯者曰原語ニハ瘰癧ヲ病ム者ヲ治療シテトアリ蓋シ罪人ヲ懲罰スルノ譬喩ナリ)法律ハ汝ヲ罰シ神ハ汝ヲ改化スト言ヘタルカ如ク懲治ヲ以テ鬼神ノ恩惠ニ任スルノ足レリトスル所ニアラス須カラク刑ノ機關(原語ルッソール)節目(原語デタイユ)ハ常ニ此改化ノ主義ヲ体シ次チ追テ活動スルノ方法ヲ以テ之ヲ排置ス可ク又之ヲ執行スルニ當テ犯罪ヲ原因シタル所ノ邪僻、惡俗、情欲ノ各異ナル所ニ從ヒ屈曲適合スベキ性質ヲ有セサル可カラサルナリ(前數二一〇參看)

(一二三四一)然シテ幼者ヲ矯正スルハ一日ノ能クスル所ニアラス況ンヤ成人ヲ又況ンヤ成人中ノ兇惡ナル者ヲ矯正スルニ於テヲヤ是ヲ以テ此種ノ業務ハ自ラ若干ノ期限ヲ有スル所ノ刑ヲ設クルノ必要ヲ來タシ又自ラ被刑者ヲシテ其日々ノ生活方法ニ關シ政府ノ管理ノ下ニ在ラシムルノ已ムヘカラサルニ至レリ

(一二三四二)懲治方法ニ關シ刑罰ノ組織如何ニ其宜シキヲ得タリトモ當該官吏如何ニ勉勵ストモ全ク目的ヲ達スルコトハ到底能クスヘカラス立法者唯應ニ適當ノ方針ヲ執リ可及的

之ニ近カンコトヲ勉ムヘキノミ○然レモ立法者ノ必ス爲シ得ヘキノニシテ且必ス爲シ得サルヘカラスナルモノハ刑ヲシテ敗俗的タラシメサルコト是レナリ若シ被刑者ヲシテ受刑ノ後ニ於テ腐敗ナルニ至ラシムヘキノ刑ヲ制定スルコトアラハ更ニ兇惡是レ社會ニ良藥ヲ與フヘキノ却テ毒藥ヲ與ヘ惡事ヲ抑壓スル方法ヲ施スヘキノ反テ之ヲ増加スルモノト謂ハサルヘカラス是レ豈理ニ合セルモノナランヤ

(一三四三) 被刑者ヲ改化シテ社會ヲシテ再犯ノ危險ヲ免レシメンカ爲コ刑ハ懲治ノ性質ヲ有セサル可カラス然ルカ故ニ立法者ハ之ヲ組織スルニ當リ須カラシク其豫料スル所唯リ刑ノ執行ニ係ル時限内ノミニアラスシテ尙終刑放免ノ者再ヒ自由ニ動作スルコトヲ得ル時ニ及フ可キナリ則チ刑ハ被刑者ニ與フルニ勤勉ノ習慣ト職業ノ教育トヲ以テシ被刑者ノ爲メニ將來ニ向テ正當ニ生活スルノ方法ヲ授ケ放免ノ後ニ至ルモ尙ホ常体ノ生活ニ移ル時限内ニ於テハ須ラク之ヲ補助指揮スルヲ要ス是ヲ以テ刑法ノ職章ハ施體ノ刑ト共ニ止ムモノニ非スシテ尙ホ他日平常ノ生活ニ移ルコトヲ助ケンガ爲ニ刑ニ附屬シテ教育ヲ施スノ避ク可カラサルノモノタルハ今日學問上ノ認諾シテ疑ハサル所ナリ

(一三四四) 我輩ハ刑ガ其目的ニ關シテ有セザル可カラザル性質中ニ犯者ヲ以テ再ヒ罪ヲ犯ス能ハサルノ位地ニ置クノ性質ヲモ加算セス我輩ハ有形上ノ不能(原語アンボツシビリ

テ、フィジック)ニ代フルニ考ニ無形上ノ不能(原語アンボツシビリテ、モラール)ヲ以テセサルヘカラスシテ此無形上ノ不能ハ刑ノ有セル懲治的ノ性質中ニ含蓄セラル、ヲ知レハナリ(前數一九六參看)○又此再犯不能ノ思考ハ權利若クハ官職ノ濫用ヨリ生セル犯罪ニ對シテハ之ニ科スル所ノ權利若クハ官職ノ剝奪刑中ニ於テ不充分ナガラモ其主旨ヲ達セルナリ

(一三四五) 我輩ハ又十八世紀ニ於テ學者ノ大ニ稱讚シタル刑ノ一性質則彼ノ須ラク刑ハ犯罪ニ類似セサルヘカラストイフ一性質ヲ加ヘ算セス有形上ヨリ觀察スレハ此類似(原語アナロヂー)ハ我々ヲシテ再ヒ幼稚ノ人民ノ時世ニ至ラシムルモノナリ往古刑ノ苛刻ニシテ且ツ粗暴ナルノ原因ハ即チ此類似ナリ犯罪ノ無數ノ種類ニ應ゼンカ爲ニ刑ノ無數ノ種類ヲ來シタル者モ亦此類似ナリ類似ナル者ハ畢竟、以同惡報惡主義(原語タリオン)ノ法ニ過キサルナリ然レモ無形的ヨリ論スル時ハ類似モ亦其趣キナ異ニフ具チ犯者ノ精神又ハ心中ニ於テ誤謬ノ思考、不幸ナル心ノ傾向、邪僻ノ感覺、毒惡ノ根據ヲ鑑ミ恰モ適切ニ之ヲ刺撃スルノ方法ヲ以テ犯者ノ矯正ヲ企ツルカ爲メニ執ル所ノ注意即チ無形ノ類似(原語アナロヂー、モラール)ニ至テハ之ヲ容レサル可カラサルナリ但此意義ノ類似ハ常ニ刑ノ懲治ノ性質中ニ含蓄スルモノトス○又類似ハ權利若クハ官職ヲ剝奪スルニ係ルノ刑ニ於テハ有益ニ

成立スルコトヲ得ベシ

(一三四六) 我輩ハ又最終ニ於テ彼ノ刑ハ須ラク有利ナルベシトイフ性質ヲ加ヘ算セサル可シ(絞首サレタル者ハ何事ニモ利スル所ナシ)トハ是レボルテール死刑廢止論ノ論據ナリトス、經費ノ問題則チ刑ノ適用ヨリ生スル所ノ費用入額ノ權衡ニ於テ利益ノ得分ト費用ノ減少トニ係ル會計ノ問題ハ疑ヒモナク良好ナル施政上ノ一問題ナリトス然レモ是レ決シテ刑法上ノ問題ニハ非ス抑モ經費ノ問題ハ大ニ緊要ナルモノニシテ決シテ之ヲ蔑視ス可ラス又實際ニ於テハ屢々之カ爲メニ制セラレサルヲ得サルヘシ然レモ此問題ヤ刑事ノ要求ヲ満足セシムル爲メニ幫助スル所アラスシテ却テ之カ妨害トナリ之ヲ錯失セシムルノ原因トナルニ至テハ刑ハ其目的ヲ缺キ又ハ不充分ニ之ヲ達スルニ至ル可ク社會ハ猶節儉ノ理由ヨリシテ良藥ヲ與ヘス又ハ之ヲ不充分ニ與フル所ノ病人ノ如クナル可キナリ然レドモ現時我國ニ於テ懲治ノ改正ニ關スル大ナル妨害ハ此點ニ在ルヲ忘ルベカラズ

第三 刑ノ度量ニ關スル性質

(一三四七) 度量ニ關シテ第一ノ要件ハ刑ハ同等ナルコト則チ一樣ニ總テノ人ヲ感動スルコト是ナリ何トナレバ若シ此同等ナクンハ度量モ亦有名無實ノモノタル可キカ故ナリ然ルニ此性質ハ我輩ノ既ニ知ルカ如ク之ヲ得ル能ハサルモノトス(前數一三二六參看)立法者ハ只可

及的之ニ近キ刑ヲ選擇ス可シ

(一三四八) 第二ノ要件ハ刑ハ分割スベキコト是ナリ然ルニ此性質モ亦立法者ノ企テ及フヘカラサル所ナリ凡ソ刑ハ之ヲ要スルニ數理上ノ總テノ分割ヲ受ケ得サル所ノ痛苦ノ強弱力ヲ以テ其構造ヲ成スモノナリ故ニ立法者ハ此不便ヲ補フカ爲メニ分割ヲ受ケ得ヘキ他ノ元素ヲ有スルノ刑ヲ求ム可シ則チ此元素トハ時ヲ以テ長短シ得ヘキ性質ノ刑ニ於テハ其期限、又財産又ハ權利ノ剝奪ニ因テ成リ立ツ所ノ刑ニ於テハ其額數是ナリ然レモ此方法ノ短處アルヲ論スル迄モ無キコト故立法者ハ刑ノ班次、裁判官ハ刑ノ適用ニ於テ爲サ、ル可ラサル所ノ此件ノ主眼タル斟酌商量ヲ以テ之ヲ糾正スルヲ要ス(前數一三二七及ヒ一三二八參看)

第四 人類ノ裁判ノ短處公益ノ變遷及ヒ懲治ニ因テ得タル結果等ニ關スル性質

(一三四九) 吾人ハ裁判ノ迷誤ニ依リテ不辜ヲ罰シ社會ノ上ニ大災殃ヲ來スコトアルヲ考フル毎ニ戚然トシテ戰慄セズンハアラズ

今日ハ已ニ陪審ノ制度アリ治罪方法亦太々寛ナレトモ尙ホ此種ノ迷誤ハ屢々諸國ニ於テ且ツ重大ナル被告事件ニ關シテ其例ナキニ非ラス是故ニ斯クノ如キ迷誤ノ發見セラル、ヤ刑ノ結果ハ直チニ停止セラレ得ルモノヲササル可ラス

又他ノ一方ヨリ觀察センニ若シ懲治方法ヲ以テ組織セラレ犯人ニ科セラレタル刑其目的ヲ

達シ矯正ノ術其功ヲ奏シ隨テ社會ノ過去ニ關シテ満足シ將來ニ向テハ保險ヲ得ルノ位置ニ在ルニ至ラハ刑ハ此ニ變改セラレ若クハ全ク止メラレ得ルヲ必要スルナリ又社會ノ情狀事變又ハ公益ノ次第ニ變遷スルヨリ已ニ科セル刑ノ上ニ影響スル所モ亦同シ故ニ右三箇ノ關係ヨリ見レハ刑ハ常ニ撤回ス可ク減廢ス可ク又隨意ニ之ヲ止ムルヲ得ルノモノタラサル可カラサルハ明瞭ナリトス、是レ決シテ失フヘカラサル要件ニシテ立法者ノ威權ヲ以テ充分ニ之ヲ實行シ得ルモノナリ

(一三五〇) 又或ル場合ニ於テハ即チ裁判ノ迷誤ノ發覺シタル場合ニ於テハ刑ハ賠償ニ可クアルヲチモ希望セサル可ラス然レモ如何シテ既往ニ漸リテ既ニ成リタル痛苦ノ結果ヲ賠償スルヲ得ルヤ如何シテ冤罪ニ因テ不幸ニ科シ既ニ受ケシメタル患難ヲ補償スルコトヲ得ルヤ賠償ハ到底唯關係ノモノタルニ止マルノミ然レトモ立法者及ヒ裁判官ハ又此賠償ヲ以テ可及的有効タラシムルヲ力メサルヘカラサルナリ

(一三五二) 之ヲ要スルニ此章ノ歸着スル所ハ、刑ハ〇刑ノ正當ナルヲニ關スル條件ニ關シテハ痛苦ヲ感セシメ道義ニ合シ且可及的の一身ニ止ルヲ要シ〇其目的ニ關シテハ表例トナリ且可及的懲治ノモノタルヲ要シ〇度量ニ關シテハ可及的の同等ニシテ且ツ分割ス可クアルヲ要シ〇最終ニ人類ノ裁判ノ短處ニ關シ公益ノ變遷ニ關シ及ヒ懲治ニ因テ得タル結

果ニ關シテハ撤回ス可ク且可及的賠償ス可クアルヲ要スル是ナリ

此性質一タビ明カナル時ハ純理ノ學及ヒ之ニ據準シテ法ヲ制スルモノハ諸種ノ刑ノ價格ヲ檢定シ又善良ナル處罰方法ヲ組織スルニ適當ナル刑ヲ選擇スル爲ニ必要ナル方針ヲ有スルナリ

第六章 純理ノ學(シアンス、ラシヨネール)ニ從テ論評シタル諸種ノ刑

(一三五二) 刑ヲシテ止メ苦痛セシムルノモノタラシメハ人類ヲ感セシメ得ル所ノ若痛ノ種類ノ夥多ナルニ由リ刑事立法者ハ其種類ニ從テ之ヲ用フルヲ意ノ如クナルヲ得ヘシ是レ總テノ患難ハ刑罰トシテ用フヘシト爲シ單ニ苦ミヲ與ヘテ満足スル所ノ復讐主義ヨリ出タル粗暴ノ刑ノ場合ナリトス然レモ凡ソ法律上ノ刑ヲ成ス所ノ痛苦ハ種々ノ條件ニ應ジ且ツ得易カラサル種々ノ性質ヲ有セサルベカラズトセバ痛苦ノ種類ヲ擇フハ極メテ狹限ナル區域中ニ在テ之ヲ爲サ、ル可ラス但如何ナル種類ノ痛苦ト雖モ自ラ此性質ヲ普有スルヲ得ス若シ幸ニ此性質ニ尤モ接近スル種類ノモノヲ發見スルヲ得ハ必ヤ之ヲ以テ處罰方法ノ基礎ト爲サ、ル可カラサルナリ故ニ刑ノ繁多數様ナルハ粗惡ノ處罰方法ニ固有ナルヲニシテ純理ノ學問ハ之ニ反シ其數ヲ減少センコトヲ欲シ自然主刑ノ單一同種ニシテ之ニ附屬スル刑ノ補助ヲ俟テ之ヲ數様ニシ之ヲ補充シ得ルヲ希望スルモノトス

(一二三三) 然レトモ人類ハ假令ヒ無數ノ方法ニ依リテ痛苦ヲ感シ得ヘキモノタリト雖トモ止タ其身体ト其心意ト其權利ト三者ニ於テ之ヲ感得スヘキハ尙ホ犯罪ノ被害者ノ上ニ於ケルカ如シ(前數五八八參看)茲ニ法律ノ刑ヲ選擇ス可キ諸種ノ痛苦ヲ檢閲スルニ當リ理論上取ル所ノ順序ハ左ノ如クナルヘシ(一)犯者ヲ其身体ニ於テ攻撃スル痛苦、(二)犯者ヲ其心ニ於テ攻撃スル痛苦、(三)犯者ヲ其權利ニ於テ攻撃スル痛苦

第一 犯者ヲ其身体ニ於テ罰スルノ刑

(一二三四) 此點ニ關シ現出シ來ル所ノ痛苦ハ左ノ如クナルヲ得ヘシ○第一 支解(ミユナチシヨソ)折割(レシヨソ)毆打(ク)駭驅(マルク)又ハ身体上ノ拷責(トルチウル、フヒツク)是ナリ而シテ其身体ノ如何ナル部分ニ於テスルト其如何ナル器械ニ依リテ之ヲ爲ストヲ分タス○第二 殺滅(デストリユクシヨソ)即チ死刑○第三 監禁即チ多少狹隘ナル囚獄是ナリ

(一二三五) 右体刑ノ第一類ニ關シテハ毫モ疑ヲ挾ム所ナシ孰レモ理論上ノ處罰方法中ニ容ル可ラサルモノナリ則チ苛刻卑陋及ヒ蠢愚ノ感覺ヲ懲動傳播スルヲ以テ此種ノ刑ハ道德ニ背クモノトス則チ或ハ人ヲシテ失望セシメ或ハ撤去ス可ラサル痕跡ヲ殘シテ之ヲ汚辱シ或ハ其能力ノ機關即チ天賦ノ活動ノ器械ヲ減少シ又ハ毀壞シ從テ就業ノ方法ヲ失ハシムル

ヲ以テ此種ノ刑ハ全ク懲治ノ目的ニ反スルモノトス則チ裁判ノ如何ナル迷誤アリタルニセヨ如何ナル事變ノ生シタルニセヨ撤回ス可ラサルモノトス實ニ此惡弊ノ一以テ之ヲ斷然棄却セシムルニ足ル可キナリ但此種ノ刑ハ表例トナリ迅速ニシテ且費用ヲ要セス又人ヲ震慄セシメ犯者ヲ知ラシメ若クハ復讐ノ感ヲ満足セシムル爲メニ其當ヲ得タルカ如キナキニ非ス然レモ彼レニ固有ナル惡弊ヲ見レハ是等ノ事ハ固ヨリ論スルニ足ラサルナリ此ハ是レ總テ野蠻ニシテ兇暴ナル時代ノ刑ナリ吁、此クノ如キノ紀事ハ宜シク我ヨリ之ヲ遠ク可シ假令ヒ奇聞ヲ好ミ又ハ古事ヲ知ルノ希望ニ出タルニモセヨ希クハ此クノ如キ絶望ノ範圍中ニ入テ講究スル苦ミノ我ニ來ラサランコトヲ

(一二五六) 殺戮即チ死刑ハ若シ拷責支解其他煩惱ヲ急激ニスルノ方法ヲ以テ之ヲ行フニ於テハ亦前段ノ場合ニ入ルモノトス故ニ假令ヒ今日死刑ヲ刑法ニ存ストスルモ是レ單ニ尤モ迅速ニシテ且ツ可及的の痛苦ヲ少ナクシテ行フ所ノ單純ナル生命剝奪ニ止マル可キハ何人ト雖モ認諾シテ疑ハサル所ナリ○(彼レヲシテ死ヲ感セシメヨ)トハ復讐ノ念ヨリ出タル語ニシテ正理ヨリ出タル辭ニアラス○人或ハ云ハシ假令ヒ死刑ヲシテ單純ナル生命剝奪ニ止マラシムトモ尙是レ標例ノ効尤モ著シク犯者ヲシテ此社會ニ於テ有形上ニ再ヒ害ヲ爲ス能ハサル位地ニ置クヲ得ルモ亦此刑ノミ然リトス、加之其性質上尤モ不同等ノ少ナキモノナ

リト然レモ懲治ノ點、將來ニ向テ撤回ス可ヘキ點犯罪ノ度ニ從テ等級ヲ立ツル點等ニ至テハ決シテ此刑ノ有スルヲ得サル所ナリ、死刑ハ是レ無對ノ極刑ニシテ之ヲ最モ重大ナル罪犯ノミ之ヲ該ツルヲ得ヘシ決シテ之ヲ以テ此處罰方法ノ基本ト爲ス能ハス假令ヒ死刑ヲ處罰方法中ニ存ストストモ極メテ適用ノ稀ナル最終ノ補助刑トシテ其方法中ノ最上級ニ於テ之ヲ存スヘキ而已、夫レ犯罪ノ重大ナルモノハ最苦ノ極刑ヲ加ヘサルヘカラサル點ヨリ觀察セハ死刑ハ處罰方法中ノ最上級ニ位スベク社會ヲ保護スル爲ニ刑ヲ加ヘサル可ラサル逐日時ニ生シ來ル犯罪ノ屢次繁多ナルト此犯罪ノ各種類各程度ニ適合スル處罰方法緊要ナルトヨリ考フレハ死刑ハ刑ヲ撰定スルノ問題ニ關シテハ誠ニ附屬ノ地位ヲ有スルノミ、是ヲ以テ死刑ハ刑ヲ撰定スルニ當リテハ毫モ之カ資トナル所ナク從テ善良ノ處罰方法ヲ構成スル刑ヲ撰定スルニ至テハ之ヲ他ノ種類ノ刑ニ求メサル可カラス

(一五三七) 然レトモ今假令ヒ死刑ヲ以テ處罰方法中ノ最上級ニアラシムトモ最モ重大ナル犯罪ニ對スル最終ノ極刑トシテ之ヲ保存ス可キモノトスルヤ將タ處罰方法中ヨリ之ヲ除去スヘキモノナリヤ是レ學理上ノ一問ナリ

死刑存否ノ論ハ我佛朗西國ニ於テ一種奇異ノ歴史ヲ有セリ死刑廢止論ハ全十八世紀間常識者ノ辯駁論議スル所トナリテ夫ノ幾多ノ生靈ヲ斷頭臺ニ送り已レモ亦タ首斷頭器ノ爲ニ

命ヲ致スニ至リシマラー、ロベスピエール、及ヒ後年シロンド黨ノ首領ト仰カレタルブリッソ
 一輩ヲシテ赫々乎タル威名ヲ得セシメ(一)千七百九十一年憲法議院ノ論壇ニハロベスピエ
 ルノ口ヨリ發シ(二)コンパンシヨン(譯者曰佛朗西共和政ヲ創定シタル國會ナリ)於テハ路易十六世ヲ弑セシ後良久
 ニシテコンドルセエニ提出セラレ此議院ノ開期中屢々出テ會期ヲ終ラニ至ルマテ尙ホ止マ
 ズ(三)千八百卅年ニ於テハシヤル、第十世ノ宰相ヲ判決スル時ニ際シシヴィエーノ黨派及ヒ
 負傷者(譯者曰シヴィエーハ曆ノ第七月ノ月名ニシテシヴィエー、ノ黨派及負傷者トハ千八百三十年七月佛國人民其王シヤ
 ル、十世ヲ廢シロウエー、ヒリツプヲ立ルニ際ル内乱ノ際シヤル、十世ヲ保護セントシタル者及ヒ此時負傷シタ
 ヲ云フ)ノ建白ニ因リ議院ノ論壇ニ現ハレ千八百四十八年共和政ノ憲法制定ノ時憲法議院ニ
 提出セラレタリ故ニ死刑廢止論ノ立法者ノ前ニ現ハレシハ平易虚心ニシテ靜ニ正否ヲ辨ス
 可キ時ニ在ラスシテ常ニ革命ノ後人情感激ノ時ニ當リ人心ノ感發ヨリ出テ寛宏哀憐ノ情ヨ
 リ生セル行爲ナルカ如シ本來此ノ如キ問題ニ關シテ平易虚心ニシテ之ヲ論スルハ難シトス
 ル所ト雖モ若シ爲シ得ヘキコトナリトセハ現今コソ是レ此論ヲシテ慷慨過激ノ感情ヨリ脫
 離セシメ實際ノ著述者博識者、公益ノ保護者ヲシテ公平ニ之カ可否ヲ論セシムルノ時代ナ
 レ管テ此論ノ起リシ世波騷擾ノ際ニアリテハ其結果ヲ誤マルニ至ルノ恐レナキニ非サリシ
 ト雖モ今日ハ然ラズ學者ノ論結ヲ以テ之ヲ成文法ニ掲ケ文明事業ノ一捕獲物トシテ尊重ス
 ルヲ得ルノ時代ニ達セルコトハ予ノ確信シテ從ハサル所ナリ

(一) 我刑法比較講義史紀小引第六十七丁及ヒ六十八丁參看又前數一四六參看又千七百八十九年ニ著ハシタルマラーノ書ハ左ノ表題ヲ掲ケタリ

(二) 刑法比較講義史紀小引第七十九丁參看

(三) 同第百八十八丁參看

(一三五八) 我々ノ經過シタル革命ノ歷代中、即チ我社會ノ組織ト政事トノ維新ノ始メヨリ今ニ至ルマテ爾來數十年間ニ於テ此論ニ關スル思想ハ既ニ異常ノ轉變ヲ經タリ、十八世紀ノ哲學ト千七百八十九年ノ人權ノ公告並ニ憲法議院及ヒコンヴァンション(譯者曰佛國共和政ヲ創定シタル國會ニ出ツ)ノ論壇ニ登リタル諸辨士ガ死刑廢止ヲ請求セルニ當リテハ國事犯事件ヲ顧ミズシテ唯リ常事犯事件ニ於テノミ其廢止ヲ請求シタリキ、コンドルセー其ノ理由ヲ附シテ曰ク(是其國事ニ係ルト常事ニ係ルト論旨自ラ異ナレハナリト)而シテコンヴァンションノ末期ニ在テハ既ニ此常事ニ係ルト國事ニ係ルトノ區別漸ク消滅セントスルノ點ニ至リタリキ(一)嗚呼是レ各政黨力僅ニ數年ノ間ニ於テ幾多著名ノ人士ガ累々トシテ死刑ノ犧牲トナルヲ見ルノ致ス所ナリ」然ルニ今日ニ至テハ世人一般ニ社會ノ變遷ニ因リ獲得セル經驗ト此死刑ニ關スル法律ノ同一箇條ナルニ更ル々々 當時勢力ヲ得タル政黨ノ爲メニ政黨ヲ殺戮スル兇器トナルカ如キ實ニ慘澹タル光景ヲ湧出シ武將博士文客王侯ノ別ナク凡ソ有用ノ人士ヲ誅

殺シテ顧ミズ爲ニ國家ノ損乏擧テ數フ可ラサルニ至ルヲ觀來リタルニ因リ其論ニ關スル思想ハ全ク昔日ト其趣キヲ異ニシ國事犯事件ニ死刑ヲ廢センコトヲ欲スルニ至レリ、又國事犯罪ノ罪ヲナス所以ト其性質及ヒ犯者ノ罪惡ノ度量トニ關スル純理ノ學問上ニ於テハ(七〇〇號及ヒ次號參看)亦此種ノ犯罪ニ加フル所ノ死刑ハ是レ寧ロ戰鬥ノ所爲、怨恨激情ヨリ出タル所業ト云フ可クシテ決シテ法律上ノ所爲ト云フ可ラサルヲ發見セリ」然シテ學問ノ指明稱揚スル所ハ遂ニ歐洲ニ於テ公衆一般ヲ感セシメ理論ニ於テモ實際ニ於テモ國事犯罪ノ死刑ハ公論ノ爲メニ排斥セラル、所トナレリ(二)我佛朗西國ニ於テハ法律ヲ以テ嚴ク之ヲ排斥シ、之ヲ實行スルニ當リ刑法ノ各條ニ就テ之ヲ明示スルコトナク更ニ一步ヲ進メ乃チ之カ一般ノ元則ヲ公告シテ曰ク(國事犯罪事件ニ關シテハ死刑ヲ廢止ス)ト(七三六號參看)

(一) 共和紀元第四年二月頒布ノ犯罪及刑(譯者曰刑法ノ表題ナリ)ノ刑法第六百十二條ハ左ノ如シ(國人ヲシテ相ヒ互ヒニ兵器ヲ執ラシメ戰乱ヲ起シテ共和政体ヲ攪乱セントスル總テノ陰謀結黨ハ死刑ノ存スル限リハ此刑ヲ以テ罰セラレ此刑廢セラル、時ハ二十四年ノ徒刑ヲ以テ罰セラル可シ)

(二) 此論ニ關シ既ニ千八百二十二年ニ於テギグー氏ノ著述シタル國事犯罪死刑ト題

シタル書及ヒ千八百二十三年ニ於テ著シタル同氏ノ陰謀及ヒ國事犯裁判ト題シタル書
 ナ參看ス可シ」英吉利及ヒ北亞米利加ハ未タ國事犯罪事件死刑ノ廢止ヲ公布セス英
 吉利ニ於テハ千八百六十一年ノ法令(ビル)ニ於テ謀殺ノ罪ト謀反ノ一二ノ場合ニ對シ
 テ死刑ヲ保存ス

(一三五九) 刑法ノ學問上ニ於テハ尙ホ更ニ歩ヲ進メ常事犯罪ニ對シテモ死刑ヲ排斥セサ
 ル可ラサル歟、立法者ハ實際ニ死刑ノ廢止ヲ行ヒ之ヲ成文法ニ載セサル可ラサル歟、此議
 論ニ關シテハ諸邦ヨリ出版セル著書實ニ數フルニ違アラサルナリ」中ニ就テ近時易讀セラ
 レタルミツテルマイエル氏ハ同論ニ關シ特別ノ一書ヲ著述セリ、而シテ氏ノ此書ヲ著ハス
 ヤ過激ノ熱心者トシテ論ヲ立テヌシテ博識ノ學者及ヒ確信不動ノ注意家ノ資格ヲ以テ案ヲ
 起シ其指實説明ノ點ニ至テハ有形理學ヲ引用シテ論據ト爲シ且ツ主トシテ實際家ノ不信用
 ヲ來サ、ランカ爲ニ務メテ平常ノ事實ニ照シテ以テ之ヲ說破センヲ力メタリ又氏ハ此大
 議論ニ關シ獨逸、以太利、英吉利其地歐洲ノ諸國ニ於テ概ネ論駁辨議シテ已マサルニモ拘ハ
 ラス我佛蘭西國ニ於テハ學者ノ沈黙シテ論スル所ナキニ驚駭セリ而シテ氏以爲ラシ其沈黙
 スル所以ノモノハ佛蘭西ニ於テハ學者死刑ヲ排斥スル片ハ恰モ社會ノ組織ヲ襲撃スルカ如
 ク見做サル、ヲ恐ル、ノ致ス所ニシテ他ノ理由アルニアラサルナリト(二)然リト雖モ我

邦ニ於テ眞成ノ學問ハ未タ決シテ其勢力ヲ失墜セス今人アリ學問上公明正大ノ議論ヲ以テ
 法律變改ノ必要ナルコヲ指明スルニ當リテヤ如何ソ之ヲ刑罰ヲ蒙ルベキ襲撃ナリト見做ス
 ノ理アランヤ、元來佛蘭西人ハ世人ノ誤テ并立スヘカラスト信スル二箇ノ性質ヲ兼有ス豪
 俠輕快ノ氣象ト實行當務ノ聰明則チ是ナリ、看ヨ、第一ニ國事犯事件ニ關シ死刑ノ廢止ヲ公
 告セシハ我輩佛蘭西人ニシテ他邦ハ我輩ノ例ニ倣ヒタルニ非スヤ誰カ識ラン世人ハ我邦人
 ナ以テ此事ニ冷淡ナリトスルモ事ノ實際ニ於テハ他邦ノ前ニ立ツコ數十歩ニシテ他邦人ノ
 此事ニ關シ徒ラコ喋々トシテ黃口ヲ弄スルニ當リ我邦人ハ斷然トシテ成法上ニ於テ早クモ
 一條項ヲ挿入シ他邦ヲシテ爭ヒテ之ニ倣ハシムルコトナルヲ、畢竟、予輩法學家ノ見ル所ニ
 依レハ今日既ニ斯ク經過シ復說シタル議論ノ結果ハ是レ速カニ其局末ニ達スルノ便宜ヲ與
 フルニ過キザルナリ

(一) ミテルマイエル氏ノ著書ハ千八百六十二年ニ於テ獨逸語ヲ以テ述ヘタルモノニ
 シテ(學問并ニ立法上ノ進歩ト經驗トノ結果ニ從ヒ死刑ヲ論ス)ト題セルモノ是ナリ」
 巴里控訴院代人ルウ、ン氏ハ千八百六十五年ニ於テ之ヲ佛蘭西語ニ翻譯出版セリ
 (二) 千八百七十一年ノ凶變ハシエルヘル氏ニ因テ國會議院ニ提出セラレタル死刑廢
 止ノ發議ノ成功ヲ得ル能ハサルノ理由ヲ示スニ足ル又右提出者モ自ラ其可否論議ノ延

(一三六〇) 余輩ハ既ニ社會刑罰權ノ基礎論ニ從ヒ刑ハ正ニ理ニ合シ且ツ緊要ナルコアラサル以上ハ決シテ社會ノ名義ヲ以テ之ヲ適用シ得ヘカラサルヲ知レリ、一刑ニシテ假令ヒ緊要ナリトスルモ若シ之ヲシテ公正ナラサラシメハ如何ナル權利ニ因リテ之ヲ適用セントスルヤ又一刑ニシテ假令ヒ公正ナリトスルモ若シ之ヲシテ緊要ナラサラシメハ如何ナル權利ヲ根據トシテ之ヲ適用セントスルヤ(一八五號及次號二〇五號第三節參看)然ラハ理論上ヨリ處罰方法中ニ於テ死刑ヲ保存セント欲セハ必ス此刑ノ公正ニシテ且ツ緊要ナルヲ証明セサル可ラサルヤ毫モ疑フ可カラス

(一三六一) 死刑ハ正理ニ適合セサル可ラス辭ヲ改メテ之ヲ言ヘハ死刑ハ犯罪ノ性質度級ニ相當セサル可ラス、而シテ此事ヲ証明スル爲メニハシャヤン、ジャツク、ルーソーノ如ク(予ハ火災ヨリ來ル危險ヲ免ル、爲メニ身ヲ殺スヲ願ミスシテ高窓ヨリ身ヲ投スルノ自由ヲ有スルヤ明ナリ然ラハ予ハ予ニ對シテ犯サレ得ヘキ犯罪ノ危險ヲ免レン爲メ若シ我ヨリ此ノ如キノ罪惡ヲ犯セハ死ニ處セラル可シト約束スルノ自由ヲ有スルナリ)ト言フノミコト事足ル所ニアラス何トナレハ公正ト不公正トハ約束ニ因リテ變スルノ理ナケレハナリ、之ニ加フルニ余輩ハ既ニ此種ノ問題ニ關シ彼ノ民約ノ說ヲ基礎トスルハ大ナル誤謬ナルヲ知

レリ(一七八號參看) 又カントト如ク(汝人ヲ殺スハ是レ汝自ラ汝ヲ殺スナリ汝人ノ物ヲ盜ムハ是レ汝自ラ汝ノ物ヲ盜ムナリ)ト解説スルヲ以テ足レリト爲ヘカラス此語ハ其作者自ラ與フル所ノ哲學上ノ解説アルニモ拘ハラヌ要スルニ以テ同惡ニ報レ惡(原語タリヨン)主義ノ表章ニ過ギズ、抑モ人ノ人ヲ殺スヤ正當防衛ニ出テ殺スヲアリ、不意ノ災禍ニ因テ殺スヲアリ、不注意ニ因テ殺スヲアリ、怒リニ乘シテ殺スヲアリ、豫メ謀テ殺スヲアリ、支解折割慘刻ノ所爲ヲ以テ殺スヲ等アリ、故ニ唯其最終ノ結果タル殺スノ一事ノミヲ採テ刑ヲ測定スルノ基本ト爲ス可能ハス、必スヤ法律上刑ヲ測定スルニハ他物ノ入ル可キモノアリテ存スルヤ明カナリトス、然リ而シテ人類ハ如何シテ此測定ヲ爲スヤ、如何ニシテ死刑ノ果シテ正理ニ適合スルヤヲ測リ得ルヤ、生死ノ問題ノ如キ重大ナル事ヲ論スルニハ如何ニシテ明ニ正ト不正トヲ區別シ得ルヤ、人類ハ果シテ本原純粹ノ眞理ヲ發見シテ明白タラシムル爲メ或ル器械ヲ具備スルヤ、假令ヒ有形ノ器ニアラスシテ止テ言辭上ノモノタルニ過キサルコトモセヨ斯ノ如キ器具ヲ有スルヤ、正理ハカクアルヘシト思考シ得ル爲メハ我輩人類ハ各々其自ラ有スル高尚ノ能力ヲ除クノ外豈ニ他ニ能ク之ニ優レルノ器械ヲ有スルコトアラシヤ余ハ先ツ有ラヌル情慾并ヒニ心ノ反働力ト總テノ利害ノ思考トヲ拋棄シ去リ唯余カ良心ト精神トニ照シ沈思默考シテ思想ヲ練リ茲ニ人ヲ殺シタル者ノ尤モ重キ者ヲ想像

セン、即チ悪ム可キ心意ノ迷謬ノ爲メニ制セラレテ殺シタルニモ非ス又臨時急速ニ生シタル怒氣ニ乗シテ殺シタルニモ非スシテ計略豫謀ヲ以テ人ヲ殺シタル者ヲ想像セン、又或ハ奸詐ヲ構ヘ若クハ殘虐ノ所爲ヲ以テ殺シタル者ヲ想像セン、又或ハ其被殺者ノ苦痛ヲ見テ兇惡ニモ之ヲ一箇ノ欣喜娛樂ト爲シタル者ヲ想像セン、而シテ余ハ此等ノ場合ニ於テハ塵俗世界ノ有ラユル意想ヲ脱離シテ單ニ極至ナル正理ノ點ヨリ觀察シテ此大惡人ニ死刑ヲ科スルハ果シテ過度ナリヤ否ヤヲ自問センニ、余ハ此ニ一般ノ感覺、公衆通常ノ感情ヲ取テ論スルヲ欲セス又此刑ヲ受クル時ニ當リ之ヲ受クルノ至當ナリト自認スル犯罪人ノ感情ヲモ之ヲ採ラス各人ノ思考ハ各人ニ一任シ去テ之ヲ論セス余ハ唯余カ固有ノ精神ヨリ出ル所ニ從テ答ヘンニ他人ノ此場合ニ於テモ猶ホ死刑ヲ正當ナリト認ムル能ハサル者アルヲ知ルニモ拘ハラヌ余ハ將ニ「唯此謀殺ノ場合ニ於テノミハ死刑ノ決シテ純粹ノ正理ノ度ヲ超過セサルコトヲ信シテ疑ハス」ト曰ハントス、但シ此ノ如キ謀殺ノ場合ヲ除クノ外ハ或ハ犯罪ノ太々危險ナルヲ理由トシ或ハ加重ノ點ヨリ謀殺ト同ク論スルアラントスルモ余ハ此時ニ於テハ決シテ死刑ヲ以テ正理ノ度ヲ超過セスト爲スコトヲ得スト思考セリ

斯ノ如ク論シ來リテ又回顧スレハ余ハ果シテ何事ヲ爲シ得タル、極至純粹ノ正理ニ據リテ測量ヲ爲サント欲シ乍ラ余カ精神ハ常ニ無量ノ束縛ヲ受ケテ到底塵俗界ノ羈絆ヲ脱スル能ハサルノ憾ナキ能ハサルヲ奈何センヤ

嗚呼右ノ測量ハ猶ホ是レ識ラス知ラス余ノ精神ニ勢力ヲ及ホス所ノ以テ同惡ニ報シ惡ノ主義ヨリ出タル測量ニアラスヤ是レ畢竟常ニ余ノ耳朶ニ感シ來ル所ノ「汝人ヲ殺スハ是汝自ス汝ヲ殺スナリ」又或ハ聖書ニ所謂ル「劍ヲ弄フ者ハ劍ニ因テ死ス」(一)ノ語ヨリ出タル結果ニアラスヤ」夫レ死ハ此世界ノ上ニ位スル極度ノ正理ノ測量ナリ人類社會ニハ此死ヲ塵俗世界ノ實行上ニ導キ來リテ之ヲ執行者トナルノ權利アルヤ」昔々世界最初ノ謀殺者ハ自ラ其罪アルヲ感シテ言ヘルハ「予ハ既ニ地球上ノ浮浪人ナリ何人ニテモ予ニ遭遇スル者ハ皆ナ予ヲ殺スコトヲ得ヘシ」ト而ルニ神ノ聲ハ之ニ答ヘテ曰ヘルヤウ「何人ニテモカイン(譯者按スルニ益シ前ニ所)ナ殺ス者ハ七倍ニ罰セラルヘシ」ト(二)ニ「生命ハ造物主ニ因テ各人ニ與ヘラレ其目的ハ常ニ止ムコトナク活動勞動シテ自然ノ終焉ニ達スルカ爲メニアラスヤ人類ハ果シテ社會ノ刑罰ノ名義ヲ以テ此治動ヲ切斷シ此目的ヲ達スル能ハサルニ至ラシムルノ權利ヲ有スルヤ、犯人ヲ罰スルニ死ヲ以テスルハ是レ犯人ニ死刑執行前ノ慘痛ト共ニ執行ノ一時ノ苦痛ヲ受ケシムルノミニ止マラスシテ犯人ノ來世ニ於テ受ケヘキ其運命地位等ヲ今ヨリ必受セシムルナリ、嗚呼判官ハ果シテ此地位ノ如何ナル物タルヲ知ルヤ嗚呼是レ此刑ハ人智ヲ以テ如何ナル物ナル歟ヲ知ル能ハサルノ刑ナリ嗚呼是レ人類ノ威權ヲ以テ人類

ヲ冥々裏ニ他界ニ送り我世界外ニ於テ受クヘキ運命ヲ今ヨリ定ムルナリ、予嘗テ以太利ノ或ル刑法學者ノ雄辯ヲ振ヒテ此思想ヲ擴張スルヲ聽キ爲メニ大ニ感動シタリキ(二)若シ此感ヲ受ケサラント欲セハ狼狽ニシテ神ヲ信セサルノ徒トナリ靈魂ノ不死ヲ認メサルノ一方アルノミ

(一) セント、マシューノ著ハシタル聖書(エヴァンヅール)第二十六章第五十二條ニアリ

(二) シュネーゾト名ツクル書(譯車曰彼ノバイブル中ノ書ナリ)第五章ニアリ

(三) 千八百六十八年發行ノ死刑廢止ト題スル以太利ノ雜誌第二冊目第六十四丁第六十五丁ニアリ

又他ノ一方ヨリ見レハ死刑ノ公衆ノ精神ニ及ホス道德上ノ感覺ニ關シテハ別ニ論スヘキ所ナキヤ、此刑ニ對シテ危險ノ恐ルヘキナキヲ保スルヲ得ルヤ、我輩ハ往古殘刻ノ所業ヲ以テ裁判上ノ一所爲ト爲シ彼ノ犯者ヲ苦シマシメテ之ヲ公衆ニ見セシメシ如キハ邪道敗俗ノモノナリトシテ戰慄シテ之ヲ排斥ス可シ然ルニ犯者ヲ死セシムルヲ公衆ニ示スニ至テハ我輩之ヲ何トカ言ハシ、實ニ眞ノ開明ノ進歩ハ人命ヲ貴ヒ重ニスルノ度ニ從フコト宜シク注目セヨ只恨ラクハ此度ノ進ムコト極メテ遅タルコトヲ、昔者野蠻人民ハ互ニ相ヒ食ム爲メロ

人ヲ殺シ又殺サレテ毫モ恐レサリキ、彼ノモンテズマーハ既ニ自ラ千有餘人ヲ殘殺シタル後コンキスタドルノ來リタルニ會シ一回ノ儀式ヲ行フ爲メニ八百人ヲ殺シタリキ、今ヲ距ルコト僅カニ數年前亞弗利加海岸ノ黑人種ノ一王ハ其父王ノ死シテ一週年ノ祭日ニ會シ其臣民ノ生血ヲ以テ一箇ノ大ナル溝渠ヲ盈タシ舟ヲ浮フルニ堪ヘタラシメタリト云フ、又我輩ノ祖先ゴール人ハ其貴重スル僧侶ノ言ニ從ヒ活人ヲ以テ粧飾シタル巨大ノ偶像ヲ作り之ヲ燒キタリキ、又彼ノ稀世ノ武將ニシテ且ツ政事家タルジュール、セザールハ其戰鬪ニ因テ得タル捕虜ヲ數年間羅馬ノ獄ニ幽閉シ其凱旋ノ日ニ當リ斧ヲ以テ盡ク之ヲ殘殺セリ此捕虜ノ中ニハ我大將軍ヴエルサンシエトリックヌモ在リタリキ(一)其他勇士又ハ虛弱ノ婦人ニ至ルマテ死ヲ懼レサルコト彼ノイフ所ニ及ヒゼフテエノ史傳ヲ看テ知ルヘシ又今日ノ馬塞人タルマサリナツトカ傳染病ノ危害ヲ免ル、爲メ一年間美食ヲ與テ人ヲ養ヒ後チ壯嚴ノ儀式ヲ以テ之ヲ海ニ投棄シタル如キ又諸國共ニ邪宗門徒ヲ火刑(原語チートダツフヒ)ニ處シタル如キハ歴史ニ徴シテ明カナリ、又法律ノ名義ヲ假リテ死刑ヲ課スル所爲ノ夥多ナルコトハ實ニ驚ク可キナリ、今ヨリ之ヲ觀レハ此等所爲ノ中ニハ屢々唯罪トシテ論スルコトタモ爲スコト能ハサルモノモアリテ多クハ是レ我輩ノ尤モ輕キ刑ヲ以テ罰スル者ニ過キス而シテ此死刑ヲ以テ罰スル所爲ハ法律上年ヲ追フテ漸次減少シ此減少ノ行ハレテ風俗ニ入ル

ヤ人皆暗夜ヲ出テ、曙光ヲ見ルノ想ヒナセリ我邦ニ於テ最終ノ減少ハ千八百三十二年及ヒ千八百四十八年ノ刑法改正ニ因テ成レリトス、然レモ尙ホ今日ヨルス人ニハ復讐(ヴェンデツター)ノ爲メ戰鬥ヲ爲シテ榮譽ト爲スノ慣習アリ又我輩ハ未タ決闘ノ風俗ヲ脱スル能ハサルナリ」抑モ右ニ列擧スル所ノ事實ハ今日我輩ヲ以テ之ヲ觀レハ實ニ兇暴懼ル所爲ナリト雖モ古人ハ之ニ宗教ノ所行、敬神ノ所行、裁判上ノ所行、榮譽ノ所行等ノ名ヲ付シテ之ヲ修飾シ唯リ公衆凡俗ノ之ヲ奇トセサルノミナラス大人、高士、文客、僧官、法學士其他各時代ノ善良公正ノ人物モ亦之ヲ怪トセザリシナリ、故ニ我輩ハ時世ノ經歷ヨリ得ル所ノ教誨ニ照ラシ凡ソ公衆ニ對シ人命ノ不可犯ノ感覺ヲ嚙マシ攪亂スル所ノ者ハ總テ邪敗ノ結果ヲ生シ開明ノ進歩ヲ妨害スト明言ス可キナリ若シ夫レ古來ノ傳説ノ勢力ト此傳説ヨリ生出セラル偏見トカ我輩ノ明ヲ掩ヘ我輩ヲシテ右ノ害惡ヲ感スルヲ極メテ薄カラシムルニ至テハ其道德上ノ害ヤ彌大ナリトス、昔者公平無私ニシテ且ツ博愛ノ情ニ乏カラサル有徳ノ裁判官カ車裂ノ刑、肢解ノ刑、鉛刑(鉛ヲ鎔解シテ人ノ身体ヲ割リ之ニ注射スルノ刑ナリ)ヲ宣告スルニ當テヤ其良心ノ靜寧ナルニ至テハ今ノ判官ノ單ナル死刑ヲ宣告スルト異ナルコトナカリキ公衆モ亦之ヲ贊成シテ疑ハサリシナリ看ル可シ人心ノ苛刻ノ所業ニ慣ルハ、ノ甚タ難カラサルヲ然リ而シテ余カ右ニ述ルノ主旨ハ唯々死刑ノ執行ヲ公示スルニ就テ論スルニ非ス

死刑ノ公行ハ之ヲ避クルヲ容易ナリトス既ニ外國ノ法死刑ノ公行ヲ禁シタル者アルヲ見テモ知ル可シ余ハ則チ死刑ノ法ト處罰ト執行トノ存スルニ就テ論ス即チ法律ノ名ニ依リ公安保護ニ辭柄ヲ構ヘテ死刑ヲ存在セシムル事ニ就テ論ヲ立ルモノナリ又學者ノ既ニ發見シタル死刑ノ人身上ニ生スル凶惡ノ結果ニ至テハ余之ヲ贊セス(一)

(一) コンシュル(羅馬ノ官名)リニシユニス、チビニユスハグラツクヲ殺シタル後チ其殘黨ヲ裁判ニ付シ三千人ヲ死刑ニ處セシメタリ(セン、ラノギユスタン著ノシテエド、ドイツト題スル書第三篇第二十四章參看)

(二) 千八百六十二年ノ著述ニ係ルシエンス大學ノ聽訟醫術教師カルロ、リビー氏ノ書ヲ參看ス可シ

以上論スル所ニ依リテ吾人ハ實ニ死刑ノ正理上ト道德上トノ性質ニ至テハ善人ノ精神ヲ攪亂シ又假令ヒ古來ノ傳説ヲ信シ之カ束縛ヲ受クル尤モ甚タシキ者ト雖モ死刑ニ對シテハ不平ヲ抱カシムルニ足ルヲ看取シ得ヘキナリ、今此點既ニ定マリタルハ是ヨリ第二ノ條件ニ入ラン

(二三六二) 死刑ハ果シテ緊要ナル歟、此問ニ答フニ當リテハ余輩既ニ純粹ノ眞理ニ依リテノミ爭論スヘキニ非ズ、緊要トハ本來事物ノ關係ヨリ生シタルモノニシテ決シテ絶對的

ニ存在スルモノニ非ス故ニ緊要ハ此時、此場所、此機會ニ存シテ他ノ時、他ノ場所、他ノ機會ニ存セサルヲ得ルモノトス而シテ社會公衆ノ安寧保護ノ爲メニ死刑ヲ緊要ナリト思惟スル時ハ此緊要ノ一語ハ即チ此保護ノ責任ヲ負擔スル者カ死刑ヲ保存セント欲スル重大ノ理由ナリトス故ニ我邦ノ如キ諸邦國ニ於テ行政官、立法官、裁判官若シ此點ニ關シテ顧慮スルコトナキヲ得即チ全ク顧慮ヲ要スルコトナキヲ得ハ誰カ刑法ヨリ此ノ如キ極刑ノ消滅スルヲ見ルヲ喜ハサル者アラシヤ、又死刑廢止ノ發議ノ立法議事ニ係ル時ニ於テハ此發議ヲ排斥スル者皆ナ之ヲ排斥シテ遺憾ナリトセサルハナシ乃チ公安ハ死刑ヲ保存スルニアルヲ確信シ若シ之ヲ廢スル時ハ犯罪増加シテ社會忽チ之カ襲撃ヲ受ク可シト信スルノ恐レヨリシテ止ムヲ得スシテ此發議ヲ排斥セサルハナキナリ、古ヘ嘗テ溫良ノ人士ヨシテ尙ホ拷問及ヒ殘刻苛虐ノ刑ヲ保存センコトヲカノシハ全ク此理ニ因ルモノトス、然リ而シテ今實際ニ入り實際家ノ見ル所ヲ尋ヌレハ死刑ヲ正理上及ヒ道德上ヨリ論シ刑法ヨリ之ヲ除却セントスル如キハ無形ノ空論ニシテ言フ可クシテ行フ可ラサルノモノナリ且ツ之ヲ論端ニ擧グルスラ甚ダ危險ノ思考ナリトス、死刑ハ緊要ナリトノ一點ハ万般ノ疑義ヲ解シ千百ノ問題ニ答フ豈ニ他ノ理由アラシヤ」若シ狡猾者一人ノ死ヲ以テ良民一人若クハ十人又ハ十數人ヲ救フコトヲ得ハ此交換ハ是レ甚ダ正當ナルニ非スヤ、此緊要ノ點ハ則チ死刑ヲシテ正當ナラシムベシ」

ト嗚呼是レ緊要主義ノ論法ノミ實際家ハ屢々識ラス知ラス此論法ニ陥ルナリ
 (一三六三) 我輩ハ今當時ノ人心及ヒ風俗ノ有様ヨリ考フレハ右講説シ來リタル所ノ二ツノ條件則チ正理ノ點緊要ノ點ニ關シ議論ノ尙ホ已マサル可キヲ認メサルヲ得サルヘシ何トナレハ我輩ノ確信ハ幾何ク深遠ナリト雖モ又反對ノ意ヲ確信スル者アリテ且ツ其數殊ニ多キヲ以テナリ又我輩ハ當時ノ風俗及ヒ現今ノ社會ノ組織ノ有様ニ在テハ政府ニ對シテ(汝カ爲ス所ノ處刑及ヒ其執行ハ裁判ノ名ヲ以テ粧ヒタル謀殺ニ過キス)ト云フノ甚ダ酷且ツ過激ニシテ反テ危險ナルヲ自認ス可シ、謀殺トハ語甚ダ粗暴ナリ然レトモ死刑ハ今日尙ホ存在スル傳來普通ノ信用ニ從ヒ公正及ヒ安寧ノ意思ヲ以テ行フ所ノ過激極端ニ達シタル所行ナルヲ以テ他日若シ理義明カナルヲ得ハ人此所行ノ爲ニ悲慟シ、人此所行ヲ爲シ得タルヲ回想シテ自ラ驚クナラン、今試ミニ彼ノ奴隸ヲ看ヨ、嗚呼何者カ能ク奴隸ノ制ヨリ不正ナルモノアラシヤ、然レモ衆人ヲシテ其不正ナルヲ悟ラシメ此制度ヲシテ地球上ヨリ消滅セシムルニハ幾許ノ困厄ト時間トヲ要シタリシヤ、噫」夫レ然リ。然リト雖モ死刑廢止ニ關シ此ニ第三ノ一要点アリ此點ニ至テハ議論分裂スルヲ得サルヘシ我輩カ此點ノ第三着ニ來ルニモ拘ハラス特ニ之ヲ明カニシ決斷ノ方法ヲ以テ之ヲ論セントスルハ之カ爲メナリ、即チ議論分裂スルヲ得サルニ因リ從テ本論ヲ決スルノ點ナレハナリ、理論上ノ處罰方法ニ

四〇
於テ人類ノ刑ノ須カラク有セサル可カラサル至要ノ一性質アリ則チ除スルヲ得ルハ性質是ナリ、刑ハ除止セラレ得ルノ性質チ有セサル可ラス何トナレハ人類ノ裁判ハ迷誤ニ因テ成ルヲ得ルカ故ナリ一タヒ不辜ヲ罰シテ回復シ得ストセン歟假リニ此過ニシテ一回ニ過キストナサンモ社會ノ不辜果シテ如何シヤ、刑ハ除止セラレ得ルノ性質チ有セサル可ラズ、何トナレハ犯人ノ地位、之ヲ罰スルノ利益、罪ノ性質ハ變遷スルヲ得ルカ故ナリ、何トナレハ犯人過ヲ改メ善ニ遷ルヲアルカ故ナリ、社會一タヒ犯人ニ對シ過去ニ關シテハ満足ヲ得、將來ニ向テ顧慮ヲ要セサル時ハ刑ヲシテ存在セシムルノ理何クニアルヤ、何故ニ刑ヲ除止セサルヤ、(第一三四九號參看)然リ而シテ一旦死ニ處シタル後チ誰カ能ク之ヲ除止スルヲ得ルヤ一タヒ殺シタル後チ何人カ能ク蘇生セシムルヲ得ルヤ、我輩ノ知ル所ニ依レハ僅カニ二十年以來ノ間ニ在テ死刑ヲ以テ不辜ヲ罰シ、後、裁判上其不辜ヲ認メタルヲ凡ソ五回ナリ、其三回ハ佛良西ニ於テシ其一ハ英吉利ニ於テシ其一ハ亞米利加合衆國ニ於テセリ、而シテ皆ナレ裁判ニハ陪審ノ設ケアリ辯護ノ權ハ十分ニ保護セラル、ノ邦ニ於テナリ、幸ニシテ佛良西ニ於テハ酌量減輕ノ適用アリ英吉利ニ於テハ刑ヲ減シ合衆國ニ於テハ死刑宣告ノ後チ六月ヲ經サレハ之ヲ執行セサルノ法アリテ執行ノ定日チ前キタツト僅ニ四ヶ日前ニアツテ偶々其罪ニアラサルヲ發覺シタルヨリシテ皆チ此不辜者ハ僅カニ

生命ヲ絶タレサリシト雖モ若シ是等ノ者ニ對シ全ク死刑ヲ執行セリトハ其不辜果シテ如何ナリシヤ而シテ是等ノ公訴事件ニハ皆チ被告ニ對シテ甚タ重キ懲罰アリタリキ中ニ就テ父ヲ殺シタルノ事件ニ至テハ豫審ニ於テ被告ノ自白チモ得タリキ、嗚呼余ハ此ニ之チ多言スルヲ欲セス余ハ此ノ如キ慘憺タル記念ニ長ク止マリ談スルニ忍ヒサルナリ又其他同種ノ倒ニシテ余カ明カニ記憶セサル所ノ者ナキニ非スト雖モ余ハ之ヲ舉クルヲ欲セス、又死刑ヲ以テ罰シタル事件ニ非スシテ裁判上處刑ノ迷誤ヲ認メタルヲモ今此ニ之ヲ論セサル可シ(一)又第一ノ重罪裁判ニ於テ死刑ニ處シ上告破毀ヲ經テ第二ノ重罪裁判所ニ於テ死刑ヨリ輕キ刑ニ處シタル被告事件ニ就テモ此ニ言フ費ザルヘシ、又終ニ認メ得ラレスシテ冥々ニ經過シタル裁判ノ迷誤ニ至テハ我輩ノ想像シ得ル所ノ如何ツヤ、又自耳義國ニ於テ數多ノ不辜ヲ死刑ニ處シテ之ヲ執行シタル事件ニ關シテハ余ハ今裁判上ニ於テ此迷誤ヲ認メタルヲ明カニセサルヲ以テ此ニ贅セス(二)余ハ只死刑ノ宣告ニシテ確定シタル後チ裁判ヲ以テ其迷誤ヲ證明シタル件ニ就テ近世ニアリタル者ノミヲ舉ケタルニ過キサルナリ(三)然レモ我輩ハ彼ノシヨセフ、下、メーヌトル氏ト共ニ一不辜ノ死スルヤ是レ他ノ不幸ト同ク一箇ノ不幸ノミ即チ人類ニ普通ノ不幸ノミト言ハサル可ラサル歟、又氏ト共ニ(此不幸ナル迷誤ハ人ノ想像スル所ヨリハ實際大ニ少ナシ)(四)ト言ハサル可ラサル歟、抑モ又彼ノカ

ラトレシユルノ不分明ナル歴史ニマテ訴ラサル可ラサル歟、噫々

四二

(一) 我輩カ他日再審ノ訴ヲ講説スル時此種ノ例復タ來ルベシ
(二) 千八百六十二年一月ノ裁判ヲ以テエーノ一重罪裁判所ハ謀殺及ヒ持兇器強盜ノ罪ニヨリ兇徒集合ノ同夥者九名ヲ死刑ニ處セリ」然ルニ同罪ノ理由ニ因リテ既ニ不辜ノ死刑ニ處セラレ執行セラレタル者アリタリ(千八百六十二年一月十三日同十四日發行ノ裁判所新聞ル、ドローワー參看)

(三) 千八百四十三年三月十七日コルスノ重罪裁判所ノ判決ニヨリ謀殺ノ罪アリトシテ罰セラレタルヒリツビーノ事件ハ同裁判所ニ於テ酌量減輕ノ適用ニヨリ無期徒刑ニ處セラレ、後チ眞ノ犯罪人覺發シ刑ニ處セラレタル爲メ再審ノ訴ヲ經テ前裁判破毀ノ上放免セラレタリ、ヒリツビーハ此放免マデ凡ソ二年餘トエーロンノ徒刑場ニアリタリ

千八百四十八年六月三十日シロンド重罪裁判所ノ判決ニヨリ放火故殺二罪集合ノ罪ヲ以テ罰セラレタルレスニエーノ事件ハ同裁判所ニ於テ酌量減輕ノ適用ニヨリ無期徒刑ニ處セラレ、後チ此罪ノ犯人ニシテ偽証ヲ爲シレスニエーヲ陷害シタル者覺發シ刑ニ處セラレタル爲メ再審ノ訴ヲ經テ前判破毀ノ上放免セラレタリ此放免マテレスニエー

カロシユホール及ヒブレストノ徒刑場ニ於テ刑ヲ受ケタル凡ソ五年半

千八百五十五年一月龍動ノ重罪裁判所ニ於テ強盜ノ罪ヲ以テ死ニ處セラレタルマレットノ事件ハ陪審ノ依囑ニ因リ十五年ノ嶋地發遣ニ刑ヲ減セラレタリ然ルニ爾後同人ヲ陷害シタル偽証ノ證擧カリ(千八百五十五年六月十一日同重罪裁判所ノ公判席ニ於テ)裁判上其不辜ヲ認メタルヲ以テ恰モ嶋地ニ發遣セラレタル翌日ニ於テ特赦ヲ得タリ千八百五十五年三月一日及ヒ六月十七日發行ノドローワー新聞ヲ參看スヘシ

千八百六十一年亞米利加合衆國チレコン州ウーゼース、シチーノ重罪裁判所ハ第一級ノ故殺ノ罪アリトシテ外科醫エドウアン、ウチッドチ死刑ニ處シ此州ノ法ニ從ヒ裁判宣告後六ヶ月ヲ經テ刑ヲ執行ス可キ旨ヲ命シタリ」然ルニ執行ノ爲メ定メタル日ノ四ヶ日前ニ當テ覺發スル所アリテ其不辜ヲ知ルヲ得タリ則チ金山ノ職工ニシテジョーン、ブラシトト呼フ者其古郷ナルウーゼース、シチーニ歸リ右外科醫ノ事件ヲ聞キ不辜ヲシテ死ナシムルニ忍ヒス左ノ事實ヲ自首シタルニ因ル曰ク今外科醫ノ所爲ヨリ出テダリトスル人ノ變死シタル事件ハジョーン、ブラシトカ自ラ過失ニ因テ致セル者ニシテ外科醫ノ毫モ與リ知ル所ニアラス但シ自分ハ此過失ヲ爲シタルヤ直チニ逃走シテ金山ニ入りタリト是ニ於テ此ノ知事ハ直チニ死刑ノ執行ヲ止ムルノ命ヲ下シ大審院ハ右ノ裁

四三

判ヲ取消シテ新タニ陪審ヲ召集シ事件ヲ判決セシメ終ニ右外科醫ウチッドノ無罪放免ノ宣告ヲ爲サシメタリ千八百六十二年四月七日同八日發行裁判新聞ドローワーニ出ツ）千八百六十一年八月十三日ノール重罪裁判所ノ判決ニヨリ殺親ノ罪アリトシテ罰セラレタルガルダン婦ノ事件ハ酌重減輕ノ適用ニヨリ無期徒刑ニ處セラレ、後チ眞ノ犯人發覺シ刑ニ處セラレタルニヨリ再審ノ訴ヲ經テ前裁判破毀ノ上放免セラレダリ」豫審ニ於テ被告ヲシテ嘗テ犯サ、ル殺親ノ罪ヲ自白セシメタル、則チ此事件ニ於テナリトス公判ノ席陪審ノ前ニ於テ此自白ノ取消ヲ請求シタレモ容レラレサリシナリ

我輩ハ再審ノ訴ヲ講説セントスルキニ當リ裁判上ノ迷誤ノ此哀シムヘキ此不幸ナル例ヲ復タ用フヘシ殊ニ我邦ニ於テアリタル例ヲ舉クヘキナリ

(四) センペテルスブール夜會ト題シタル書第一章參看

已ニ論ゼシ如ク死刑ナルモノハ犯人ノ改過遷善ニ關シテモ事情ノ變遷ニ關シテモ裁判上迷誤ノ發見ニ關シテモ決シテ未來ノ希望ヲ許サ、ル刑ナリ故ニ學問上ヨリ見レハ只此一事ノミヲ以テモ既ニ已ニ排斥セサル可ラサルノ刑ナリ人或ハ或ル重罪ノ罪質ヲ純理的ニ測量シテ此刑ヲ公正ナリト認メ社會力此測量ニ從ヒ此刑ヲ實際ニ適施スルノ權ニ就キ疑ヲ容レサルヲ得ヘク又時世ニ從ヒ場所ニ從ヒ風俗ニ從ヒ形勢ニ從ヒテ此刑ヲ緊要ナリト信スルヲ得

ヘシト雖モ然レモ死刑ハ是レ除止回復ス可ラサルノ刑ナリ、人類進歩ノ傾向ハ此刑ヲ消滅セシメタルニアルヘキ事ハ余ノ斷信スル所ナリ

(一三六四) 此傾向ハ既ニ五十有餘年來社會ノ胎胚スル所トナレリ故ニ此傾向ヲ胎胚セシメタルノ榮譽ノ歸スル所ハ此人ニアリ又彼ノ人ニアリト言フヲ得サルヘシ、「死刑廢ス可シト」ハ是レ近世時代ノ感覺ナリ、是レ宗教ノ提起シ得タル感情ナリ又我輩能ク傳來ノ妄信ト慣習トノ束縛ヲ脫離シテ我良心ニ照シテ熟思スレハ是レ有ラユル人類ノ感情ナリ、實ニ近年以來此死刑ヲ消滅セシメントスルノ勞務ハ實際ニ施スノ期ニ入ラントスルモノ、如シ是レ假令ヒ緊要ノ意ヲ固執スル者ニ於ケルモ其感ヲ提起シテ止マサルノ眞理アリテ存スレハナリ即チ緊要ハ變遷シ轉倒スル者タルト是ナリ純粹極度ノ正ト不正トニ關シテハ人之ヲ如何トモスル能ハスト雖モ緊要ハ人カヲ以テ之ヲ左右シ得ルモノナリ故ニ看ヨ昨日緊要ノモノナリ若クハ緊要ノ如クアリシ者モ明日緊要ノ者タラス若シクハ緊要ノ者タラサルカ如キヲ得ルヲ、何人カ今日尙ホヨセフ、ド、メーストルノ如ク（總テノ尊榮總テノ威權總テノ服從ハ死刑執行人ニ因テ安寧ナリ）ト又此執行人ハ社會ノ恐赫物ナルト同時ニ（人類ノ集合ヲ連結スルノ繩索ナリ）ト信スル者アラシヤ此ノ總テノ尊榮云々ノ文ハ實ニ千八百九年ニ於テアリタル車裂ノ刑執行ノ尤モ醜惡ナル記事中心ニ載セラレタリ又今ハ既ニ存セスト雖

此文ハ實ニセン、ペテルスブルネハ河岸ノ園地ノ高處ニ記セラレタリキ(一) 借テ風浴ハ粗暴苛刻ニシテ刑法ノ組織モ亦然ルノ國ニ於テハ人此ノ如キ奇性ノ思考ヲ爲シ得ルモノタリ又假令ヒ風俗刑法此點ニ至ラサルモ今日尙ホ一般ニ行ハル、如キ(諸國ニ於テ追々施シタル改良ハ姑ク論セス) 不完全ノ刑法存スル以上ハ若シ此刑法ヨリ死刑ヲ除却セハ實ニ公安ハ害セラル可シト信シ之ヲ恐ル、ナキヲ得サルヘシ然レトモ茲ニ純理ノ學ノ元則ニ從テ組織セラレ諸種ノ條件ニ應スルヲ得學問上希望スル所ノ諸種ノ效果ヲ生シ得ルノ刑法ヲ想像セヨ直チニ死刑ハ之ヲ消滅セシムルモ危險ヲ生スルヲナキヲ知ルヲ得ヘシ故ニ死織ヲ全廢スルノ問題ハ之ヲ實際ニ施シテ又動カス繼續シテ十分ノ效果ヲ生セシムルノ點ヨリ見レハ刑法改革ノ問題即チ新タニ刑法ヲ組織スルノ問題ト同問題ナリトス

(一) 然リト雖トモ總テノ尊榮、總テノ威權、總テノ服從ハ死刑執行人ニ因テ安寧ナリ、此執行人ハ人類集合中ノ恐赫物ニシテ又之ヲ連結スルノ繩索ナリ、試ミニ世界ヨリ此奇物ヲ除却セヨ即時ニ安寧ハ混沌ト變シ王位ハ喪失シ社會ハ消滅セン)(コント、シヨセフ、ド、メーストルノ著述ニ係ルセン、ペテルスブル夜會ト題スル書ノ第一話參看)

然リト雖トモ是レ敢テ死刑廢止ノ事業ヲ延期スヘシト云フノ意ニ非ス此事業ハ既ニ成熟ノ

期ニ到着セリ則チ學問ハ其主義ヲ保證スルノ點ニアリテ實際ハ既ニ經驗ヲ得タリ且ツ二期ノ改革ハ既ニ其緒ニ就キ他ノ改革ヲ鼓動スルノ地位ニアリ

茲ニ散布ノ法律ヲ集合シテ一箇ノ成典ト爲サントスル舉ノ歐洲諸邦ニ生シ來リタルコトニ注目セハ右ノ言ノ妄ナラサルコトヲ知ル可シ、此舉第一ノ着手ハ概テ刑法ニアリ、其結構ニ至リテハ簡單ニシテ且ツ民風ニ適スル佛良西法典ノ結構ニ模擬セリ、今此舉ノ因テ起ル所ヲ尋ヌレハ此舉ハ繼續シテ生シ來リタル三箇ノ鼓舞ニ從ヒタルモノナリ是鼓舞ノ期ト歐洲歴史ノ左ノ三期中ノ精神ト略ク相通スルヲ知ルハ甚ダ難カラストス則チ千八百十四年ヨリ千八百三十年ノ一期、千八百二十年ヨリ千八百四十八年ノ一期、千八百四十八年ヨリ今日ニ至ルノ一期是ナリ(譯者曰ク此三期ノ初年ハ皆ナ佛國ニ於テ刑法ヲ改正シタル期ニ近シ) 又此最終ノ期ニ於テハ前兩期中ニ成リタル數多ノ刑法ヲ改正セシムルマテニ至レリ又歐洲諸國ノ刑法ヲ混合調和シテ全歐洲中刑法ヲ一ニセントスル廣大ナル思想ハ或ル邦ニ於テハ大ニ其勢力ヲ得タリ此思想ハ今ハ是レ後來ニ對スル希望タルニ過キスト雖モ他日之ヲ實行スルノ時アルヘシ既ニ數多ノ小國ヲ合シテ一王國トナリタル以太利ニ於テハ此思想甚ダ必要トナリタリ又此日耳曼ハ千八百七十二年ニ於テ其刑法ヲ日耳曼帝國ノ刑法ト爲シ此思想ヲ實行セリ」サテ刑法ノ學ハ其眞理ノ尤モ明ラカナル者ヲ漸次成文法中ニ進入セシムルニ因リ右數多ノ刑法ニ於テ死刑ヲ以テ罰ス

ル場合ノ數ハ常ニ次第ニ減少シテ止マヌ故ニ制定ノ日尤モ淺キ刑法ニハ僅ク例外ヲ除クノ外尤モ此減少ノ多キヲ見ル、既ニ此等刑法中ニハ死刑ヲ適用スル場合大ニ減少シテ止タ一箇ノミヲ存スル者アルニ至レリ此場合ハ則チ豫謀ヨリ出タル故殺ニシテ是モ亦遂ニ消滅スルナル可シ、亞米利加合衆國最近時ノ刑法ハ皆ナスクノ如シ乃チ第一等ノ殺人ノ罪ニ對シテノミ死刑ヲ存ス、瑞典國千八百六十一年一月二十九日制定ノ刑法ニ於テモ殺人ノ罪ニ對シテノミ死刑ヲ存シ且ツ裁判所ニ所犯情狀原諒ス可キ場合ニ於テハ之ニ換フルニ終身禁錮ノ刑ヲ以テスルヲ得ルノ權ヲ與ヘタリ、又日耳曼帝國ノ刑法ニ於テモ謀殺ノ罪ニ對シテ死刑ヲ保存ス(一)「英吉利ニ於テハ散布セル諸法律ヲ集合シテ一箇ノ成典ト爲スハ其國俗ノ精神ニ非ルヲ以テ之ヲ毫モ思考セサルカ如ク佛蘭西ニ於テモ刑法全体ノ改正ヲ行フ」ハ尙ホ遠キニアルカ如シト雖モ死刑ヲ施用スル場合ノ減少ハ既ニ之ヲ實行セリ則チ英吉利ニ於テハ千八百二十五年以來順次發布セル數多ノ法令ニ因リ(數二三五八參看)佛蘭西ニ於テハ千八百三十二年ノ刑法改正ト千八百四十八年ノ國事犯ニ對スル死刑ノ全廢トニ因リ之ヲ行ヘリ而シテ千八百六十七年ノ白耳義ノ刑法モ亦此進路ニ入レリ

(一) 千八百七十年ニ於テ北日耳曼ノ國會議院(バル、マン)ハ千八百七十年制定刑法改正案ノ第一讀會ニ於テ死刑ノ全廢ヲ投票可決シタリキ、然レモビスマルシ氏ノ大ニ

抗拒スル所トナリ終ニ此發議案ヲ放棄シテ謀殺ニ對シテ死刑ヲ保存スルニ至リタリ
 (千八百七十年發行ノ法律駁義評閱雜誌ノ名、原語ルヴエー、クリテイック、ト、レシスラシ
 ヨン)ニ記載シタル我死刑廢止論ノ老練家シヤル、リユカー氏カピスマルシ氏及ヒ
 普魯西ノ司法卿ニ贈リタル書ヲ看ル可シ)

茲ニ聊カ死刑ヲ適用スル場合ニ減少セル法律ノ發布ヨリ出テタル結果如何ヲ觀察センニ先ツ此等法律ノ頒布以來曩キニ死刑ヲ以テ罰シ今ハ之ヲ科セサル所ノ各犯罪ニ對シ此死刑ヲ科セサルノ結果ハ如何ナリシヤ、社會ハ此廢止ノ爲ニ侵害セラル、所アルヤ、此種ノ罪ノ數ハ増加シタルヤ、現今ノ責罪ハ軟弱ニシテ此種ノ罪ヲ鎮壓スルニ足ラサルヤ抑モ又反對ニ此責罰ハ寬ニ進ムニ從ヒ堅剛確實ノ點ニ於テ大ニ得ル所ナキヤ等ノ諸問題ヲ提起セサルヘカラス假令ヒ小國ニ於テ經過シタル事實ハ根據トスルニ足ラストモテ姑ラク之ヲ論セサルモ佛蘭西ノ統計表英吉利ノ統計表及ヒ日耳曼連邦ノ尤モ大ナル者ノ統計表ニ照セハ之ヲ觀察スルニ蓋シ難キニ非ルナリミテルマイエル氏カ手ニ統計表ヲ握リテ當局實務家ニ向ヒテ大ニ死刑廢止ヲ主張セシハ即チ此理ニ因レリ

佛蘭西ニ於テハ死刑適用ノ場合ヲ減シタルト他邦ニ比スレハ甚タ少ナシ陸海軍ニ係ル事件ハ姑ラク之ヲ論セズ我刑法ノ箇條ト刑法外ノ或ル特別法ノ箇條トニ依レハ常事ニ於テ死刑

ヲ以テ罰スルノ場合其數十二ニ過ク而シテ此場合皆テ豫謀ヲ以テ犯シタル殺人ノ性質ヲ有
 スル者ノミニ非ルナリ又我刑法ハ他國ノ法ニ反シテ未遂犯ノ場合ト雖モ之ニ死刑ヲ誤ル
 既遂ニ同ク且ツ之ニ數人共犯ト再犯加重ノ規則ヨリ出ル結果ノアルアリテ死刑適用ノ場合
 愈々繁ナリ家際ニ於テハ酌量減輕ノ適用ト特赦ヨリ出ル減輕トヲ以テ之ヲ補ハサルニ非ス
 ト雖モ法律ヲ以テ正當ニ之ヲ定ムルノ優レルニ若カサルナリ法律ヲ以テ正當ニ之ヲ定ムル
 ハ刑法ノ爲ニ毫モ失フ所ナクシテ却テ得ル所アルベキハ太大明カナルコト非スヤ
 立法上死刑廢止ノ實驗ニ尙ホ一步ヲ進メタルモノアリ、歐州小國ニ於テ死刑ヲ全廢シタル
 ノ國甚タ多シヌーシャールハ千八百五十四年ヨリラトスカーヌハ千八百五十九年ヨリ
 セン、マラン共和國ハ其一部分ヲ千八百五十九年ニ頒布シ其第二部分ヲ千八百六十一年ニ
 頒布シタル刑法ニ因リ、(一)又ジュリツクハ千八百六十六年ヨリジュネーグハ千八百七十
 一年ヨリ廢止セリサククスノ王國、ナツソノ及ヒタルデンブールノ侯國并ヒニブレームノ
 市府ニ於テ行ヒタル廢止ハ死刑ヲ保存シタル北日耳曼ノ刑法頒布ノ爲メ消滅セリ然レモ之
 ニ反シテ葡萄牙ニ於テハ千八百六十六年十二月三十一日(二)、阿蘭陀ニ於テハ千八百七十
 年十月十九日ヲ以テ此刑ヲ廢止セリ」
 這ハ是レ皆テ此大改新ノ先驅者ナリ開路者ナリ而
 シテ死刑ヲ廢シテ害ナキノ證ニ至テハ前キニ舉クル所ノ者ヨリ尙ホ層明白ノ証左ヲ與フル

モノトス則チ須ラク統計表ニ載スル所ノ事件ト實數トニ因リ此諸國ニ於テ公安ハ妨害セラ
 レタル歟、社會ノ秩序ハ破倒セラレタル歟、嘗テ死刑ヲ該テタル罪多キヲ加ヘタル歟、又
 今ニ當テ行政官、裁判官并ヒハ公衆ノ實驗上ノ信據ハ如何カアル歟ヲ看ハ証左充分ナルヘ
 シ、唯少シク此證左ノ効力ヲ滅殺スルモノハ實驗ヲ以テ未タ十分ノ長キ時間ヲ經過セスト
 スルト大國ノ一市一縣一州ニタモ過キサル此諸小國ニ於テ經過シタル事實ヲ以テ之ニ倍蓰
 スル人口ヲ有スル大帝國ノ事ヲトスルニ足ラストスルト是ナリ余ハ亞米利加合衆國ノ一二
 州ニ於テ死刑ヲ廢シタルコトニ就テハ別ニ論スル所ナカル可シ、止マ此ニ其廢止ノ年月ヲ示
 サシ、ミシガンハ千八百四十六年ヨリ、ロード、イスタン、ハ千八百五十二年ヨリ、ラ、コロ
 ンビーハ千八百六十四年ヨリ又モルダグ、及ヒウテラ、ミ、於テハ國事犯罪ニ關スルノ外
 ニ於テハ久シキ以前ヨリ死刑執行ノ例ヲ見サリシカ千八百六十四年ニ至リ始メテ此刑ヲ全
 廢セリ(三)

(一) 此刑法ノ起案ハ司法卿ニ撰舉セラレタルナアアルノ大學教授、刑法學者ル、
 ツーベッタ氏ニ委任セラレタリキ、氏ノ名ハ余ヲシテ氏カ嘗テ其國ヲ追ハレテ巴里ニ逃
 避シ余カ教ヲ受クルヲ辱フセラレタリシガ余モ以太利ニ至ラハ喜ビテ氏ノ教ヲ受ケン
 トス

(一) 葡萄牙ノ刑法草按ハ此廢止ノ理由トシテ(第七十九條)死刑ハ刑ノ性質ト目的トニ反スト明言セリ

(二) 千八百六十年ニ於テ當時ウエラシノ司法卿タリシボエレスコー氏ニ因テ提出セラレタル刑法草案ハ法律及ヒ判決駁議評閱(譯者曰雜誌ノ名ナリ)第十七冊四百四十一丁及ヒ以下ニ記載セラレタリ、ボエレスコー氏ハ嘗テ我法律大學校ニ入り余カ生徒中ノ優等生ナリキ

我輩カ右ニ列舉シ來リタル諸國ノ中ニ就テ其死刑廢止ノ發議及ビ其發令ハ政事改革ノ關熟擾亂ノ際ニ成リタル者ナキニ非ズ、ナツソト及ヒナルデンブールニ於テハ此廢止ハ千八百四十八年十二月二十七日フラスクフチール國民議會(原語デイエット、ナシヨナール)ノ日耳曼人民根本權利ノ公誥ニ因テ宣告セラレタル一般ノ廢除ヨリ出タル結果ナリトス然レモ此廢除ハ又直チニ繼キ來リタル變革ニ因テ消滅ニ歸シタリ

又此點ニ關シ人能クトスカトヌノ變遷ヲ知ル、則チ此國ニ於テ第一ノ死刑廢止ハ千七百八十六年ニアリテ當時大ニ十八世紀ノ哲學社會チノ喧鬧セシメタリシガ爾後千七百九十年ニ於テ更ニ之ヲ設ケ千八百四十八年ニ再ヒ之ヲ廢シ千八百五十年ニ復タ之ヲ設ケタリキ而シテ千八百五十九年ニ至テ又時勢ノ變動ニ際シ假政府ハ布告ヲ以テグラシ、デツク(譯者曰

グラシ、デツクハ露ノ名ニシテ當時トスカトヌノ國君ハ此爵チ有セル人ナリキ)ノ逃走シタルノ後三日即チ四月三十日ニ於テ復タ之ヲ廢シタリ、然シテ此死刑廢止ハ斯クノ如ク屢々中斷セラレタルニ拘ハラズ已ニ深ク此國ノ風俗ト和合セルヲ以テ假令ヒ此刑ノ法律ニ存シタル年代中ト雖モ嘗テ實際ニ之ヲ適用セシコハナカリケリ(一)以太利ノ革命ハ自ラ以太利法律ノ統一ヲ促スニ因リ人ノ精神チシテ左ノ二中擇一ノ場合ニ在ラシムルヲ以テ又同問題ニ關シ議論ヲ惹起シ來リタリ則チトスカトヌノ文化チシテ死刑ヲ再設スル迄ニ退歩セシムル歟(二)將タ全國一般ニ死刑ヲ廢シテトスカトヌ文化ノ地位ニ進マシムル歟是ナリ、以太利ノ國會ハ千八百六十五年三月十三日ノ會議ニ於テ九十一ニ對スル百五十ノ多數ヲ以テ第二ノ意即チ死刑廢止ニ可決シタリキ、然レモ元老院ハ時勢ニ合ハストシテ此改革ヲ排斥シタリシカ現時尙此事ニ關スル物議洵然タリ

(一) 此布告ノ條文ハ左ノ如シ
(トスカトヌ假政府ハ

歐洲ニ於テ第一ニ死刑ヲ廢止シタル國ハトスカトヌナルコトヲ思考シ
其後此刑ノ再設セラレタル政事上ノ情熱力過度ニ激昂シテ時代ノ進歩ト人心ノ温厚トヲ破壞シタル時ニアリシコトヲ思考シ

我國ニ於テハ開明ノ力常ニ斷頭人ノ斧ヨリ強キニ因リ假令ヒ此刑ヲ再設シタリシ時ト雖トモ嘗テ決テ之ヲ執行セシコトナキヲ思考シ

左ノ如ク布告ス

死刑廢止セラル

其後千八百六十年一月十日ノ布告ハ右布告ノ結果トシテ刑ノ等級ニ照ラシテ死刑ニ換フルニエルガストロノ刑ヲ以テセリ此エルガストロノ刑ハエルブ嶋ニ於テ受ケシムル所ノ無期刑ニシテ最初ノ十年間ハ獄舎ニ獨居セシメ其他ノ年間ハ沈黙ノ規則ヲ守リテ他囚ト共ニ役ニ服スルノ刑ナリ以太利刑法ノ第一ノ草按ハ同ク死刑ニ換フルニエルガストロヲ以テシタリキ

(二)然レトモ是ハ現ニ以太利國會ニ提出セラレタル刑法草案ノ行ハント擬スル所ノモノニシテ(其ノ第十三條ニ於テ)同政府ハ我輩ニ之ヲ通報セラレタリ而シテ其理由說明書ニハ縣令ノ報告書ヲ引用セリ此報告ニ依レハ四十一州ハ死刑保存ニ同意シ二十八州ハ廢止ヲ主張ス、千八百七十二年羅馬ニ開カレタル法律家ノ委員會ニ於テモ亦會員皆ニ廢止ニ同意セリ

死刑ハ右ノ如ク全廢セラレ若クハ減少セラレタルノミナラス尙ホ今日之ヲ保存スルノ國ニ

於テモ其執行上ニ關シテハ奇異ノ變化ヲ受ケタリ、北亞米利加メーヌ州ニ於テハ其千八百三十七年制定ノ法ニ從ヘハ死刑ニ處セラレタル者ハ必ス同時ニ無期徒刑ニ處セラレ行政官ヨリ死刑執行ノ命令下ラサル限リハ此徒刑ニ服スルモノトス故ニ被刑者ハ二様ノ死ヲ受ク可キ運命ノ間ニ在テ彷徨ス則チ神ヨリ來ル可キ死(自然ノ死)ト行政官ヨリ來ル可キ死(刑罰ノ死)是ナリ然レハ此行政官ヨリ來ル可キ死ハ千八百三十七年(此法ノ成リタル年)以來一回モ實際ニ來リタルコトナキヲ見レハ二死中ノ尤モ懼ル可キハ疑モナク神ヨリ來ル自然ノ死ナルナリ

又同ク北亞米利加ノチレゴン州ニ於テハ死刑ハ宣告ノ後六ヶ月ヲ經ルニ非サレハ之ヲ行フコトヲ得ス、嗚呼死ス可キノ日既ニ定マリテ六ヶ月前ヨリ之ヲ待ツ其苦惱果シテ如何ソヤ、然レハ同州ノ裁判所カ不辜ニ因テ罰セラレタル外科醫師ウードノ安全ヲ有テ得シハ其期限アルカ爲メナリ(前數二二六八參看)(一)「法律ニ定メタル出席人ト證人ノ臨席ノミヲ許シ四方ヲ閉鎖シタル場所ニ於テ死刑ヲ執行スルノ規則ハ一般ニ行ハレントスルノ傾向アリ、亞米利和合衆國ノ諸州及ヒ日耳曼ノ諸州ハ既ニ概ネ之ヲ行フ、普魯西ハ千八百五十一年ノ刑法(第八條)ヨリ之ヲ法律ニ明記セリ又英吉利ノ國會ハ千八百六十八年ニ於テ之ヲ可決シタリ(二)又此規則ノ存セサル國ニ於テハ概ネ實際ニ於テ之ヲ補フモノトス則チ公衆集合

ノ場所ヲ遠サカリテ日出前或ハ日没後ニ於テ竊カニ執行スルコト是ナリ、昔シハ此死刑公
行ヲ以テ公安ヲ保護スルノ良法ニシテ懲戒ノ適標ナリトシテ重シカトモ今ハカメテ之
ヲ公衆ニ掩蔽セントスルニ至レリ

(一) 然レドモマンカドニ於テ同一ノ架臺ニ三十八條ノ絞繩ヲ懸ケ急ニ踏板ヲ撤去シ
テ絞殺スルノ方法ヲ以テ土人(原語ポー、ルーシユ皮膚ノ赤キ人ト云フ意ナリ北米ノ
土人ヲ云フ)三十八人ヲ一時ニ死刑ニ處シタルハ則チ千八百六十二年十二月廿六日北
亞米利加聯邦ニ起レル現象ナリ、シカノミナラス白人尙ホ之ニ満足セズ復讐ヲ叫ビ遂
ニ軍法會議ニ於テ更ニ三百十八人ヲ死刑ニ處セリ

(二) 然レモ以太利刑法草案ハ死刑執行ノ公示ヲ保存セントス(其ノ第十四條參看)
サテ前ニ講説指示シ來リタル所ノ者ニ加フルニ現時刑ノ組織上ニ於テ尤モ確實ナル方法ヲ
以テ希望シ探求スル所ノ懲治ノ目的ヲ以テセヨ、懲治ハ刑罰ヲ論スルニ於テ太々重要ノモ
ノナルカ今死刑ヲ執行スルニ於テハ勢ヒ此大事ヲ欠カサルヘカラサルニ非ズヤ、又之ニ加
フルニ激烈ナル重罪ヲ犯シタル大罪人ハ其即チ之ヲ犯サシメタル情慾ノ性質ヨリシテ寧ロ
小惡人ノ其惡ヲ爲スハ慣習トナリ殆ント職業トナリタルカ如キ者ヨリ却テ善ニ誘キ易キ心
理上ノ注意ヲ以テセヨ、且ツ再犯上ノ實驗ト特赦ニ因テ死刑ノ執行ヲ免カレタル此種ノ罪

人ハ徒刑場ニ於テ他ノ罪人ヨリモ却テ容易ニ却テ眞實ニ善ニ歸シタル實際ノ例トヲ以テ右
ノ理論上ノ注意ヲ補助セヨ、又尙ホ之ニ加フルニ特赦ニ因テ死刑ヲ減輕スルノ一般ニ増加
シ統計表ノ證スル所ニ依レハ死刑ニ處シタル數ノ三分ノ一餘、二分ノ一餘又時トシテ或ル
國ニ於テハ此割合ノ上ニ出ルコトアルヲ以テセヨ、又最終ニ至テハ之ニ加フルニ死刑廢止論
ハ屢ニ立法權ノ前ニ提出セラレテ人曾テ之ヲ怪マス之ヲ驚カサルニ至リタルト諸種ノ邦
語ヲ以テ世ニ公ニセラレタル甚ダ勢力アル著書ノ多キトヲ以テセヨ(一)總テ此等ノ事實
ハ此論ヲシテ實行スルニ至ラシムルノ憑証ニ非ズシテ何ソヤ

(一) 此著書ノ中ニ就テ前既ニ引用シタルミツタルマイエル氏ノ著述ヲ除クノ外我輩
ハ止テ左ノ者ノミヲ舉ケ示スヲ以テ自ラ足レリトスヘシ

英吉利ニ於テハ千八百五十八年龍動府ヒリプス著、休暇中死刑上ノ思考(パンセエド、
ザハカンス、シユール、ラ、ペーヌ、ド、モール)

日耳曼ニ於テハ千八百六十一年ドレスドニ於テベルリン法學校教授ベルネール著、死
刑廢止論(アポリシオン、ド、ラ、ペーヌ、ド、モール)

以太利ニ於テハ千八百五十八年ブニーズニ於テ現今ボロトギユ大學教授ビエドロ、エ
ルレ、ロ著、死刑上記事(メモワール、シユール、ラ、ペーヌ、ド、モール) 千八百六十

年ミランカルロ、カツタネチ著、將來ノ以太利法律上ノ死刑ヲ論ス(ド、ラ、ベ、ス、ド、モール、ダン、ラ、フ、イ、ウ、ル、レ、シ、ス、ラ、ン、ン、イ、タ、リ、ア、ン、ス)「千八百六十一年ミランニ於テバビー府檢事ヒリツポー、アンブロッリー著、以太利刑法記事(チアセルバシヨ、ン、シ、ユ、ール、ル、コ、ド、ペ、ナ、ール、イ、タ、リ、ア、ン、)」

以太利ニ於テハ此議論ニ關シ殆ント文壇ノ一騷擾ヲ開キタルカ如シ而シテ一個特種ノ新聞之カ中心ト爲リ以太利國將來ノ刑法ノ爲ニ實際上ノ目的ヲ立ツルヲ主トシ獨リ著述家法學者ノ之ニ會スルノミナラス各等裁判所ノ法官モ亦之ニ與ミセリ(一)

(一) 千八百六十一年ヨリ千八百六十五年ニ至ルマテ發行セラレタル死刑廢止、以太利新聞ト題スル雜誌ナリ而シテビエトロ、エルレーロ氏之カ幹事タリキ、氏言フ此雜誌ノ發行ヲ止ム可キノ時來レリ何トナレハ此論ニ關シ新聞紙ト各人ノ業既ニ畢リ公衆之ニ繼ク可キノ時來リタレハナリ敢テ勝ヲ制スル能ハサルノ失望アルニ非サルナリト是ニ由テ之ヲ觀レハ平易虚心ニシテ敢テ外物ノ爲メニ制セラレヌ只眞理ノ表明ト事實ノ觀察トニ因リテ確乎タル死刑廢止ノ確信自ラ生シ來ルヲ見ルヲ希望シ得ヘク從テ止メ痛苦破壊ノミチ主トシタル陳腐ノ刑ハ自ラ退キ理論ヲ基礎トスル新刑即チ我輩ソ是ヨリ講究セントスル所ノ新刑之ニ代ルヲ見ルヲ希望シ得ヘキノ時來レルナリ(一)

(一) 千八百六十七年發行ノ法律駁義評閱ニエルロー氏ハ死刑廢止動議ニ左袒シタル者ノ中ニ就テ與カリテ尤モカアル者數十名ヲ拔萃シテ記載セラレタリ此拔萃ニ依レハ

王者三人宰相二十七人刑法教授十七人ナリトス

(一三六五) 獨リ支解、折割、毆打、拷責等ノ諸刑ノ排斥セラレタルノミナラス死刑モ輓近大ニ排斥セラレ、所トナリ爲ニ消滅ニ歸セントスルノ運命ヲ有セリ、サレハ犯者ノ身体ニ及フノ刑中ニ就テ採ル可キ者ハ止メ多少嚴酷ニ其自由ヲ剝奪スルニ係ルノ刑ノミナリトス又如何ナル法律ニ於ケルモ死刑ハ刑ノ階級ノ最上等ニ在リテ尤モ重大ナル犯罪ニ對スル極度ノ特刑タルニ過キササルヲ得サルハ假令ヒ此刑ノ存スル所ニ於ケルモ身体ニ及フノ常刑トシテ現ハレ來ル所ノモノハ則チ其自由ヲ剝奪スルニ係ルノ刑タルヘキ而已

(一三六六) 學理上ニ於テ刑ノ須カラク有スルヲ得、其盡ク希フ可ラサル所ノ者ニ關シテハ實行シ得ヘキ者ニ關シテハ全ク之ヲ有スルヲ得、其盡ク希フ可ラサル所ノ者ニ關シテハ人力上可及的接近シテ之ヲ有スルヲ得ルハ則チ此自由ヲ剝奪スルニ係ルノ刑ナリトス故ニ刑ノ正當ナルヲ得ルノ條件ニ關シテハ自由ヲ剝奪スルニ係ルノ刑ハ苦痛ヲ感セシムル所ノ者ニシテ且ツ正義ノ感覺ヲ害スルヲナク又可及的一身ニ止マル者ナリ(一三三五號及次號參看) 刑ノ目的ニ關シテハ此刑ハ是レ標例トナルヲ得ルノ刑ナリ且ツ被刑者ヲ多

少ノ時間官署ノ管理下ニ置キ官署ヲシテ被刑者ノ身体心意トテ御スル適當ノ方法ヲ執ルヲ得セシムルニ因リ眞ニ懲治ノ目的ニ愜フ所ノ刑ヲ組織スルコトヲ得セシムル者ハ獨リ此刑ノミナリ(一三三八號及ヒ次號參看) 刑ノ度量ニ關シテハ何人ト雖モ身体ノ自由ト名クル此貴重物ヲ愛惜セサル者ナキニ因リ此刑ハ是レ不同等ノ點尤ヒ少キノ刑ナリ又此ハ期限ト獄則ノ寬嚴トニ因リ尤モ輕キ罪ノ處罰ニモ適スルヲ得ヘク尤モ重キ罪ノ處罰ニモ適スルヲ得ヘキヲ以テ分割ス可キ刑ノ最タル者ナリ(一三四七號及次號參看) 又後ニ發見シ得タル裁判上ノ迷誤、被刑者ノ悔悟悔改、事情若クハ利害ノ變遷トニ關シテハ自由ヲ剝奪スルニ係ルノ刑ハ隨意ニ除止シ得ヘク且ツ可及的賠償シ得ヘキノ刑ナリ(前數一三四九及次號參看) 是ニ由テ之ヲ觀レハ身体ニ及フノ刑ニ就テ學問上望ム所ノ性質ヲ集合シ得ル者ハ其自由ヲ剝奪スルニ係ルノ刑ニシテ而シテ立法者ハ必ス之ヲ以テ處罰制度ノ基本ト爲サル可テサルヤ昭々乎トシテ明カナリ

(一三六七) 然レモ我輩カ右ニ列舉シ來リタル所ノ希望ス可キ總テノ資格ト結果トヲ盡ク一刑中ニ集合セシムル爲ニハ單ニ人ノ身体ノ自由ヲ奪フノミノ足ル所ニアラス自由剝奪ノ刑ハ必ス學理上必要ト見認メラレ居ル順序ニ從ヒテ適宜ニ組織セラレンコトヲ要ス組織善良ナル所ハ能ク學理ノ吾人ニ指示スル所ニ接近スルヲ得ヘシト雖モ組織弊害アル時ハ之ヨリ

遠サカルコト甚シカルヘシ故ニ處罰制度ノ基礎ニ關スル議論ノ終極スル所ハ自由ヲ剝奪スル刑ニ就キテ善良ノ排置ヲ爲スニアリ (一三六八) 自由剝奪ハ大ニ之ヲ爲スコトヲ得ヘク又小ニ之ヲ爲スコトヲ得ヘシ、被刑者ノ生活ト其身体ノ舉動トヲ閉鎖シ置ク所ノ場所ハ大ニ之ヲ狹隘ニスルコトヲ得ヘク少ク之ヲ狹隘スルコトヲ得ヘク又此所ニ於テシ彼處ニ於テスルヲ得ヘシ是ヨリシテ自由剝奪ニ係ル刑ニ寬嚴ノ差異ヲ來タス而シテ此差異ハ人常ニ種々ノ相異ナル名稱ヲ付シテ之ヲ指別スト雖モ要スルニ監禁(アンプリゾンヌマン)ノ變態ノモノタルニ過キサルナリ、然レモ此差異ハ甚タシク大ナルニ至リテハ特別ノ性格ヲ取り從テ固有ノ利害得失ヲ有スル所ノ刑現出シ來ル、嶋地發遣ノ刑(トランスポルタシヨン)一名流刑(デポルタシヨン)等ノ如キハ則チ是レナリ

(一三六九) 嶋地發遣刑ノ主旨ハ被刑者ヲ其本國ノ土地即チ其罪ノ爲メニ害ヲ被リタル人民ノ群中ヨリ搬去シ之ヲ或ル遠隔ノ場所即チ概ネ海外ノ殖民地ニ遷移スルニアリトス故ニ此刑ヨリ生スヘキ固有ノ痛苦ハ被刑者ノ本國ヨリ遠サケラレ離別セラレ追放セラル、ニ在リ而シテ其特別ノ目的ハ此方法ニ因リ人民ヲシテ被刑者ト共ニ同地ニ居ルコトヲ免レシムルニアリ

(一三七〇) 是ヲ以テ嶋地發遣ノ刑ハ無期ナルカ或ハ其期限大ニ長カラサル可カラス然ラ
 スンハ其特別ノ目的ニ背ク、發遣ノ場所ハ本國ヲ去ルコト十分遠カラサル可カラス然ラ
 スンハ被刑者カ多少ノ艱難ヲ排シテ本國ニ脫歸スルノ恐レアリ

(一三七一) 然レトモ被刑者ハ發遣ノ場所ニ到リテ如何ナル運命ヲ有スヘキヤ獄舎ニ閉鎖
 セラレ監禁各種ノ制度ニ從ヒ狹隘ニ身体ヲ檢束セラル、ヤ、隊伍ニ編制セラレ又ハ工作場
 ニ在リテ新地開墾開拓、又ハ殖民ノ事業ニ服從セサルヘカラサルヤ、殖民地ノ住民等ト相
 混シ賃銀ヲ得テ使役セラルヘキモノナルヤ、如何ナル監督ヲ受ケ如何ナル制限ヲ受ケテ該
 地ニ生活スルヤ、殖民地ノ境界ニ在ル限リハ其身体及ヒ其所業上ノ自由ヲ有スヘキヤ、此種
 ヲノ處分方法ハ被刑者ノ行狀心態ヲ試ミル爲ニ之ヲ若干ノ期限ニ區別シ被刑者ヲシテ順次
 ニ之ヲ經過セシムヘキモノナリヤ、其刑期間若クハ此試驗ノ後ヲ被刑者ノ殖民地ニ於テ有
 スルコトヲ得ル所ノ位地ハ如何ナルヘキヤ、妻ヲ迎ヘテ親屬ヲ構成スルヲ得ヘキヤ、所有權
 ヲ有スルコトヲ得ルヤ、職役ニ任用セララル、コトヲ得ヘキヤ、土地ノ讓與ヲ受クルコトヲ得ヘキ
 ヤ、若シ之ヲ得トセハ如何ナル名義如何ナル條件ヲ以テ之ヲ得ヘキヤ、此等數多ノ問題ヲ
 觀レハ或ハ嶋地發遣刑トモ云ヒ或ハ流刑トモ云ヘル一名義ノ下ニモ實際ハ甚ク異ナリタル
 無數ノ刑罪ノ存スルヲ知ル可シ

(一三七二) 海外遠隔ノ地ニ獄舎ヲ設ケ被刑者ヲ幽閉スルコトアラハ是レ實ニ監禁ト嶋地發
 遣ノ二刑ヲ相合セルモノト謂ハサルヘカラス若シ此ノ如キ監禁ニシテ其内部ノ制度ニ於テ
 能ク刑法學ノ命スル所ニ從ヒタル者ヲ組織シ及ヒ保持スルコトヲ得ルモノトセハ是レ此刑ハ
 尋常ノ刑ニ大ニ痛苦ヲ増加シタルモノニシテ尤モ重大ナル罪ヲ罰スルニ適シ從テ學問上排
 斥スル所ノ死刑ニ換フルニ足ルノ刑ナリトス(一)、故ニ人之ヲ採用セント欲スルナキニ非
 ル可シト雖モ如何セン此ノ如キ監禁制度ヲ組織シ及ヒ之ヲ保持スルハ本來、能スベカラ
 ザル事タルヲ。刑法學ノ命スル所ニ準據シタル監禁ノ制度ニ從フニ若シ監禁ガ尤モ重大ナ
 ル罪ヲ罰スルニ係ルハ中央政府ノ監督、管理及ヒ處分ヲ受ケテ間斷ナキコトヲ要ス、然ルニ
 海外ニアル斯ノ如キ獄舎ノ必須ノ役員ト必須ノ有形機關トヲ見ユルコトノ困難ノ大ナルコ
 トハ姑ク措キテ論セストモ中央政府ノ管理ト處分トハ全然欠如セザルヲ得ス從ヒテ刑ヲシ
 テ嚴格ナラシメント欲シ乍ラ却テ之ヲシテ不定不規則ニシテ其組織執行等モ極メテ拙劣ナ
 ラサルヲ得サルニ至リ遂ニ刑ノ至緊要ノ目的タル責罰、懲治ニツナカラ之ヲ達ス能ハサル
 ニ至ルヘシ」之ヲ要スルニ斯ノ如キ監禁ノ方法ハ唯々本國ニ接近シタル殖民地若クハ附屬
 地ニシテ中央政府ノ權力ノ容易ニ普及シ得ヘキ位置ニ在ル土地ニ於テ之ヲ實行スヘキノミ
 然レモ若シカ、ル接近ノ土地ニ監禁スルナラハ是レ眞ノ嶋地發遣ニハ非スシテ唯監禁チ一

層嚴ニシタル者ニ過キサルナリ

(一) 千八百三十五年九月九日ノ制定ニ係ル法律ノ起案者ノ意ハ此ノ如クナリキ即チ其刑法第十七條ニ於テ流刑ハ大陸地外ニ設ケタル獄舎ニ於テ之ヲ受ケシムルヲ得ヘシト明言セリ然レモ此事ハ曾テ實行セラレタルコトナシ

(二三七三) 是ニ由テ之ヲ觀レハ眞ノ嶋地發遣ニ關シテハ前千三百七十一號(二三七一)ニ於テ歷述セル數多ノ處分又ハ計策中ヨリ適當ナルモノヲ擇取スルノ外他ニ方法ナカル可シ然ルニ此ニ概テ刑ノ執行ニ際シ現ハレ來ル所ノ總テノ困難、總テノ費用、總テノ不確實其他事意外ニ出ル者アル等ハ總テ姑ク之ヲ論セス之ニ加フルニ其國ノ威權ト財富ト政府及ヒ其官吏ノ識見ト技能トニ因リ能ク事ヲ完ウスルニ至ルヲ得ヘシト想像スルモ單ニ刑ノ目的ヨリ之ヲ論シ且ツ常事ノ重罪輕罪ニ之ヲ適用スルニ係ル片ハ嶋地發遣刑ノ制度ハ常ニ二箇ノ甚タ大ナル瑕瑾ヲ有スル者ナリ

(二三七四) 第一ノ瑕瑾ハ大ニ不平等ナルコト是ナリ、此長途ヲ旅行スルコト、大洋ヲ航行スルコト、故地ヲ遠サカリテ新世界ニ到ルコト歸期ナク本國ヲ去ルコト等ハ一方ノ者ニ對シテハ實ニ大ニ悲哀ス可キモノナクト雖モ或ハ他ノ一方ノ者ヨリ之ヲ見レハ一條ノ愉快タラシ一箇ノ僥倖タラン嘗テ希望セル所ノ者タラントス、然シテ此不平等ハ被刑者ノ心ニ對シ

テハ道義ノ望ム所ニ反シタル結果ヲ生スルヲ免レス則チ一時ノ激情ニ因リ又ハ誘惑セラレテ罪ヲ得タル者ニシテ親屬ノ情愛ニ因リ交際ノ情義ニ因リ將來ノ地位ニ因リ復權ノ希望ニ因リ本國ヲ愛慕スル者、是等ノ者ハ大ニ悲哀ヲ感ス可キモ罪惡ニ固着シタル者即チ犯罪ヲ以テ其營業職務ト爲シタルカ如キ者ハ此種ノ刑ヲ感スルコト甚タ薄ク從テ輕ク罰セラル者タル可キナリ、故ニ嶋地發遣ハ是レ正理ノ望ム所ニ反セル效果ヲ生ズルヲ免レス

(二三七五) 第二ノ瑕瑾ハ第一ノ瑕瑾ヨリ生スル自然ノ結果タルニ過キス則チ恐赫力ノ缺乏ニシテ危險ノ最モ大ナル元素ヲ包藏スル民衆ノ精神ヲ恐赫スルニ足ラスシテ從テ社會ニ充分ノ保護ヲ與フルニ足ラサルコト是ナリ、嶋地發遣ノ刑ハ兇行人ノ爲ニハ一箇ノ榮譽ニシテ未ダ惡事ニ熟達セサル者ニ因テ其業ノ成熟ヲ表スル者トシテ熱望セラル、ニ至ル、故ニ微小ノ罪ヲ犯シタル者例ヘハ乞丐ノ罪ニ因テ罰セラレタル者ノ如キ又ハ無害ノ不幸者ノ如キモ殖民地ニ送致セラル、チ以テ一箇ノ恩惠トシテ之ヲ切望スルヲ見ル可シ、余固ヨリ之ヲ知ル若シ一旦其地ニ到ルヤ處罰ノ制度宜キニ從テ組織セラレテ嚴格ニ保持セラル、カ、若シハ居住ノ方法甚タ不充分ナルカ、諸物ノ供給欠乏スルカ、氣候極メテ酷烈ナルカ、服從ノ事業甚タ艱難ナルカ、水土健康ヲ害スルカ、傳染病發生シ來ルカ、若シ是等ノ件存在スルトキハ曩キニ發遣ヲ熱望セシ者事皆ナ遠キニ在テ豫想セルノ外ニ出ルヲ以テ忽チ大ニ失

望スルニ至ル可キヲ知ルナリ故ニ嶋地發遣ハ社會ノ利益ノ希望スル所ニ反背セル結果ヲ生
 スルノ刑ナリ何トナレハ第一ニ將來ノ犯者ヲ恐赫シテ社會ヲ保護スル者ハ即チ刑ノ外面ノ
 形狀ナルニ此刑ハ外面ノ形狀寛ナルカ如クニシテ實際ニ於テ太タ酷ナル刑ナレハナリ、故
 ニ此刑ヲ處罰制度中ニ採用センガ爲ニハ此刑自体ニハ存セサル恐赫力ノ一部分ヲ與フル爲
 メ發遣前ニ在テ若干時間本國ニ於テ至嚴ノ監禁ヲ施スノ緊要ナルハ世人カ幾多ノ實驗ニ由
 リテ知得セル所ニシテ英吉利ニ於テハ現時之ヲ行ヘリ

(二三七六) 刑罰ノ目的ヨリ論シテ嶋地發遣刑ノ有スル第一ノ利益ニシテ尤モ人心ヲ感動
 セシムルモノハ兇行者ヲ遠サケ退クルト是ナリ故ニ人常ニ言フ(希クハ船ノ彼ヲ乗載シ去
 リ人ノ彼ニ付テ話説スルヲ聞クナカラントフ、嗚呼我地ハ爲ニ洗滌セラレヌ)ト我輩ハ
 ベンタムノ如ク(這ハ是レ害惡及ヒ危險ナシテ場所ヲ轉セシメタルニ過キス何トナレハ亞
 米利加ニ於テ犯サルルモ大洋洲ニ於テ犯サル、モ歐羅巴ニ於テ犯サル、モ罪ハ常ニ罪サレ
 ハナリ)ト論スルヲ欲セス何トナレハ此論ハ外形上有理ノ如シト雖モ其實ヲ得サレハナリ
 爰ニ被刑者ヲ未タ十分ニ探究セラレサル海岸、嶋嶼、又ハ爲ニ設置セントシ若クハ設置中
 ナル殖民地等ニシテ人口少ク居住ノ方法未タ整ハス万事多數人ノ勞力ヲ要スル土地ニ發遣
 トセハ罪ノ數ヨリ見ルモ罪ヲ犯スノ利益ヨリ見ルモ又罪ヲ犯スノ機會ヨリ見ルモ彼等ノ遠

サケラレタル社會ノ中央ト今到着シ來リタル土地トノ差異ハ實ニ霄壤ナリトイフベキナ
 リ、止テ害惡ト危險ノ場所トヲ轉シタルコト有ルノミナラス彼等ノ是ヨリ居住セントスル
 地ニ於テハ其所業ニ關シ自ラ害惡ト危險トノ減少アリトス」其レ然リ然リト雖トモ發遣セ
 ラレテ去ル者ノミニ就テ觀察ヲ下タスノ足ル所ニアラス尙ホ特ニ本國ニ殘リ止マル者ニ就
 テモ亦觀察セサル可ラス即チ未タ嶋地發遣刑ニ處セラレサル多數ノ兇人、未タ全ク罪路ニ
 進入セサル所ノ性惡者等凡ソ將來罰ス可キ總テノ此種族ニシテ嶋地發遣刑ノ外形之ヲ恐赫
 スルニ足ラサル所ノ者ニ就テ觀察セサル可ラサルナリ、既ニ發遣セラレタリシ者ヲ發見シ
 テ我社會ヲ淨滌シタルハ誠トニ善シ然レモ是レ我社會ヲシテ未タ發遣セラレサル者即チ其
 數尤モ多ク從テ生シ從テ増加シテ止マサル衆兇人ニ委ヌルモノニ非スヤ、若シ尤モ重大ナ
 ル罪ニ對スル刑ニシテ尤モ恐ル可キ者ニアラスンハ終ニ罪ヲ豫防スルノ關關ナカル可シ然
 ルニ嶋地發遣刑ハ兇人ニ取リテ寧ク唯々犯罪ヲ懲動スルノ具タルニ過キサレハナリ」且殖
 民地ニシテ大ニ開ケ其人民ハ増加シ其事業ハ旺盛ニ趣キ爾後開明國ノ中ニ算ス可キ點ニ至
 ルハペンタムノ駁議ハ其當ヲ得發遣ノ刑ニ處セラレタル者ヲ大ニ忌避厭惡スルニ至ル可
 ク從テフランクリン氏カ英國公使ニ向ヒテ(我地ノ响尾蛇(原語セルパン、ア、ソネット)鈴
 ノ蛇ト云フ意ナリ其尾ヲ動かセハ音響ヲ生ス故ニ斯ク名ク毒蛇ノ最タル者ナリ)ヲ取リ除

ク爲メニ我輩之ヲ君ノ地ニ送ラハ君其レ之ヲ何ト云ハンヤト言ヒシコトノ甚ク妥當ナルヲ見ルニ至ルヘシ

(二三七七) 嶋地發遣刑ノ有シ得ル第二ノ利益ハ犯者悔改ノ目的ニ關スル所ノ者ニシテ則チ被刑者ヲ新地ニ遷移シ犯罪ノ場所ト記念トヨリ遠サカラシメ其慣習思想ヲ變セシメ將來ニ向ヒテ若干時間刑ヲ受ケタル後チ土地ノ讓與又ハ利益アル職業ヲ得ル等ノ希望ヲ有セシメ以テ之ヲ改新ノ生活ニ誘導スルノ好機ヲ得ルコトハ是レ恰モ此刑ニ固有ナル責罰効果ノ不足ト然レモカク罪人ヲシテ希望ヲ有セシムルコトハ是レ恰モ此刑ニ固有ナル責罰効果ノ不足ト恐赫力ノ缺乏トヲ増加スルノ原因トナルナカラシヤ、注意スヘキコトニコソ
(二三七八) 嶋地發遣刑ノ第三ノ利益ハ被刑者ニ由リ他日本國ノ利得トナリ本國ノ威權ト旺盛トチ増加スヘキ殖民地ヲ開設スルヲ得ヘキ推測アルコトナリ即チ困難危險ニシテ健康ヲモ害スヘキ殖民地開設ノ事業ニ被刑者ヲ使用スルニアリ蓋シ政府ハ被刑者ヲ強迫使用シ得ヘキ權力大ニシテ且ツ之ヨリ災害ノ生スルアルモ責任ヲ負フノ度甚ク輕キ故ニ被刑者ヲ使用スルコト尤モ得策ナリトス然レトモ我輩ハ之ヲ犠牲ニ供スルカ如キ壓惡ス可キ拙劣ナル工作ヲ爲サシメントニハ非ス又我輩ハ大ニ費用ヲ要スルト妨碍ノ生シ來ルト遲延ナルトチ知ラサルニ非ス、凡ソ殖民ノ事業ハ自ラ好シテ業ニ就クノ民即チ純良ニシテ疵瑕ナキノ

殖民ヲ以テ之ヲ起スモ費用ト遲延ト困難トチ免レサルナリ、此種ノ事業ニ於テハ他ノ大事業ニ於テノ如ク概ネ今代ノ人民財帛ト勞力トヲ費シテ後代ノ人民ニ其利ヲ享ケシムル者ナリ、故ニ我輩ハ嶋地發遣刑ノ第二ノ利益ハ眞ニ完全ナル者ト想像セン、然レトモコハ是レ刑罰上ノ利益ニアラスシテ一ニ政事上ノ利益ニ係ルコトニ注目ス可シ、抑モ政事上ノ利益ノ爲メニ刑罰上ノ利益ヲ放擲セサル可ラサル歟、殖民地開設ノ希望ノ爲メニ刑ノ孱弱ナルト從テ保護ノ不足ナルトチ顧ミスシテ本國チ數多ノ兇行人ニ委セサル可ラサル歟、余今之ヲ實際ニ照シテ論セン殖民地開設事業ノ勞務ハ實際如何ニ過酷ニシテ危殆ナルニモセヨ政府其費用ヲ供給シ政府ニ於テ自ラ運送及ヒ居住ノ雜費ト生活ノ資料等ヲ負擔シ且ツ之ニ應スル者ヲシテ終ニ産業ヲ立ツルコトヲ得ルノ希望ヲ抱カシムル以上ハ世上幾多ノ勞力者貧困者等純良ノ人民等陸續トシテ募集ニ應シ來ルヲ見ン此ノ如キ勞務此ノ如キ偶然ノ危險ヲ以テ如何ソノ重大ナル犯罪ニ對スル刑トシテ効果アルヲ得ンヤ

(二三七九) 故ニ島地發遣刑ハ之ヲ常事ノ重罪輕罪ニ適用スルニ係ルトキハ其利益ヲ以テ不同等ト恐赫力ノ缺乏トノ二箇ノ大瑕瑾ヲ補償スルコト能ハサルナリ況ンヤ此利益ノ一二ハ却テ此瑕瑾ヲ増加スルニ至ルアルチヤ、故ニ純理ノ處罰制度ハ後ニ我輩カ講説セント欲スル所ノ種々ノ使用(二四九三號及次號參看)ニ之ヲ利用スルノ外眞成ナル刑ノ名義ヲ以テ

ハ常事ノ重罪輕罪ニ對スル刑トシテ此刑ヲ採用スル能ハサルヤ明カナリトス（後數一四九三及ヒ次數參看）

（二三八〇）然レトモ尙ホ之ヲ採用セシ歟、此刑ハ無期ナルカ若クハ年限大ニ長カラサル可カラサルト（前數一二七〇參看）數多ノ犯罪ニ適用スルヲ得ヘキニ非サルトヲ以テ止タ少數ノ大罪ニノミ之ヲ適用スヘキモノナリ故ニ決シテ刑罰制度ハ如何ニ組織スヘキヤノ大問題ヲ解釋スルヲ能ハサルナリ、

（二三八一）假令ヒ此刑ノ善惡得失ハ姑ク之ヲ論セスモテ此刑ヲ採用セントスルモ止タ少數ノ邦國ニ於テ之ヲ能クスルノミ、即チ海國ニシテ此ノ如キ事業ニ適當ナル殖民地ト此ノ如キ企業ニ應スルヲ得ル充分ノ航海ノ權勢トヲ有スル邦國ニ於テ之ヲ能クスルノミ、又此邦國ニ於ケルモ此刑ハ是レ一時ノ方策ニ過キス何トナレハ發遣者ノ護送次第ニ重複シテ場所爲メニ充滿スルカ若クハ殖民地ノ景況旺盛ニ趣クハ方策茲ニ盡キテ他ニ發遣ス可キ場所ヲ求メサルヲ得サルニ至レハナリ、又如何ナル場合ヲ想像スルモ護送ノ船舶發帆前ニ當テ多少時間ヲ費サ、ル可ラサルト航海中意外ノ事件生シ來ラサルヲ保シ難キト戰爭ノ爲メニ航路ヲ妨ケラルハコアル等ヨリシテ此刑ハ是レ其執行上ニ遲延ヲ來タシ或ハ不確實トナリ又ハ屢ニ中斷ヲ受クルノ刑ナリ、是ニ由テ之ヲ觀レハ嶋地發遣ハ到底純粹眞成ナル

刑ノ資格ヲ以テ普通ノ刑法ニ入ルヲ得スシテ唯ク或ル場合カ之カ使用ヲ許スルニ當リ一時特別ノ資格ヲ以テ刑中ニ現ハレ來ルヲ得ルニ止マルノ理由昭々乎トシテ明カナリ（一）

（一）近時殖民地副幹事ミッシヨード氏ニ因テ著述セラレタルエチウド、シエール、ラ、ケスジョン、デー、ペーヌ（刑ノ問題ニ關スル講學）ト題スル書ニ就テ反對ノ說ヲ參看ス可シ

（二三八二）嶋地發遣ノ刑ハ之ヲ國事犯罪ニ適用スルニ係ルルハ其常事ニ係ルトキハ全ク其趣キヲ異ニシ純理ノ學ハ却テ之ヲ實施スルヲ得ルノ國ニ對シテハ此刑ヲ使用スルコトヲ獎勵ス則チ不同等ト恐赫力ノ缺乏トノ二箇ノ瑕瑾ハ此消滅シ去リテ獨リ利益ノ存スルヲ以テナリ、假令ヒ不同等アリトスルモ此不同タルヤ正理ニ反背セスシテ概テ常ニ正理ニ適シテ其結果ヲ生スルモノトス則チ此刑ハ刑罰應ニ輕ナルヘキ附從ノ犯人ニ對シテハ大ナル痛苦ヲ感セサルヘキモ刑罰應ニ重ナルヘキ首魁教唆者ニ對シテハ莫大ナル痛苦タルナリ、歸期ナク本國ヲ追放スルコトハ犯人ヲシテ政事社會ト政事上ノ生活トヨリ脫離セシムルニ因リテ犯人ノ爲メニ實ニ大ナル痛苦ナルヘキモ之ヲ罰スル政府ノ爲メニハ安寧ノ原因ニシテ且時勢若クハ利害ノ變遷シ來ルアルニ當リテハ常ニ之ヲ止ムルヲ得ルノ利アリ又此ノ如キ被刑者ニ對シテハ殖民地ノ住民之ヲ忌ミ拒ムノ理ナク從テ之カ發遣ヲ妨ケサルベシ、又

國事犯罪ハ常ニ生スルモノニ非ス一時偶生スルモノニシテ其平均數モ至リテ少ナキニ因リ
(七三七號參看)發遣地ヲ充滿シテ阻碍ヲ生スル等ノ患アルコトナシ却テ反對ニ財政上ヨリ批
難ヲ容ル可キノ一事ハ受刑場建築及ヒ修繕ノ爲ニ巨大ノ財帑ヲ費スノ必要ノミアリテ此受
刑場ハ時トシテハ空虚ニ又空虚ナラサルモ此ニ住スル者極メテ少ナク爲ニ國財ヲ浪費スル
ノ傾向アルコト是ナリ

我國ノ慣例ニ於テ此刑ハ之ヲ國事犯罪ニ當ツルトキハ特ニ流刑(テポルタシヨン)ノ名ヲ取
リ之ヲ常事犯罪ニ適用スルトキハ嶋地發遣刑(トランスポルタシヨン)譯者曰トランスポ
ルタシヨントハ佛良西大陸外ノ或ル定マリタル場所ニ犯人ヲ移轉シ居住セシムルヲ云フ
語簡略ニシテ意義通スルヲ欲スルカ故ニ姑ク之ヲ嶋地發遣刑ト譯セリ故ニ發遣ノ場所ハ必
スシモ嶋地ナルニ非ス讀者之ヲ諒セヨ)ノ名ヲ取ル

(一三二八三) 人ノ自由ヲ拘束シテ痛苦ヲ感セシムル所ノ刑ヲ尙ホ更ニ改様シ一種特別ノ性
質ヲ有スル自由ノ拘束ニ至ルヲ得ヘシ即チ人ノ身体ノ自由ヨリ寧ロ權利上ノ或ル自由ニ及
ブノ拘束是ナリ而シテ此拘束ハ權利ニ及ブノ理由ニ因リ犯人ヲ其身体ニ罰スルノ刑中ニ入
ラスシテ犯人ヲ其權利ニ罰スル刑ノ部中ニ類序ス可キモノトス我輩ハ他日之ヲ第三ニ於テ
講究ス可キナリ

第二 犯罪者ヲ其心意ニ於テ罰スル刑

(一三二八四) 人ノ受クル所ノ總テノ痛苦、總テノ患難ニハ必ス心中ノ感應アリ、本來痛苦ヲ
感スル所ノ者ハ形體ニ非ス故人ノ身体ノ痛苦ト云フ時ハ是レ言辭ハ意義ヲ超過シタル者ナ
リ、然レモ痛苦ノ人ニ到ルヤ身体ノ傷害ヨリ到ルコトヲ得又心意ノ傷害ヨリ到リテ身体ハ害
ヲ受クルナキコトヲ得(五二九號第二參看)抑モ立法者ハ此心意ノ傷害ヨリ到ル痛苦ノ中ニ就
テ其處罰制度中ニ採用ス可キ刑ヲ發見シ得ルヤ「疑モナク心ノ痛苦ハ犯罪ニ繼キ來ルモノ
ニシテ良心ハ是レ概テ常ニ犯人ヲ苦シマシムル第一ノ裁判官ナリ然レモ立法者ハ此心ノ痛
苦ノ主ニ非ルニ因リ之ヲ生セシムル能ハス之ヲ指揮スル能ハス又之ヲ撫慰スルコトモ能ハサ
ルナリ然ラハ則チ立法者ハ他ニ己レ自ラ左右シ得ル所ノ心意ノ痛苦ニシテ刑罰ノ器械ト爲
シ得ル所ノ者ヲ求メサル可ラサル歟

(一三二八五) 此性質ノ痛苦ノ二個ノ種類ハ嘗テ刑トシ用ヒラレタリ則チ強迫(コントレン
ト)ト屈辱(ユミリアシヨン)トノ二苦痛ヲハ法律上ノ刑ノ名義ヲ以テ犯人ヲ其心意ニ於テ
罰シタリキ

(一三二八六) 強迫ニ因テ犯人ヲ其心意ニ罰スルトハ法律ノ力ヲ以テ人ヲ強迫シテ既ニ言語ニ
發シ又ハ文書ニ載セタルコトヲ取消サシメ(レトラクタシヨン)或ハ或ル事ヲ爲サス又ハ言ハ

スト誓ハシメ(アブジユラシヨ)又ハ自己ノ主義ヲ明言セシメ(デクララシヨ)ン、デー、アレ
 シツプ)謝辞ヲ陳セシメ或ハ榮譽上ノ賠償(レパラシヨ)ン、ドンヌール)ヲ爲サシメテ之
 ナ刑トシ之ヲ刑ナリト託言スル是ナリ、抑モ此ノ如キノ刑ハ甚タ激烈ニ満足ヲ與フル所ノ
 者タリト雖モ畢竟兒戯ニ類シ且ツ卑陋ニシテ法律ノ威嚴ヲ損ズルニ足ルモノナリ、夫レ人
 ノ思想ト感覺トハ他人ノ號令ニ因テ左右シ得ヘキモノニ非ス然ルニ若シ一條ノ明言、一箇
 ノ取消、謝辞又ハ悔悟ノ一陳言ニシテ之ヲ強迫ニ因テ得タリトセハ是レ果シテ何物ソヤ、
 止タ是レ口唇ノ一舉動、音聲ノ一射出、盲力ノ一戲劇、故サラニ命シテ爲サシメタル一虚言
 ニ過キササルナリ、昔シ以太利ノ星學家ガリレハ法王裁判廳ノ威命ニ依リテ已ムヲ得スシテ
 判官ノ前ニ於テ(地球ノ不動タル)ヲ誓言セシト雖モ歸路ニ於テハ衆人ニ告ケテ曰ク(地球
 ハ不動ナレトモ動クモノナリ)ト、アブシユラシヨ)ノ効果、果シテ何クニ在ルヤ又若シ被
 刑者執拗シテ抵抗スルキハ裁判官ハ之ヲ如何ントスルヤ、如何シテ言ハサラント欲スル者
 ニ言ハシメ、書カサラント欲スル者ニ書カシムルヲ得ルヤ、之ヲ拷責スルカ若クハ無期限ニ
 之ヲ監禁スルノ外他ニ方法ナカル可シ、嗚呼皆ナ是レ虚飾ナリ、能ハサルノ事ニ固執スルナ
 リ、憤怒ヲ擅マ、ニスルナリ、正理ニ遠サカルコ果シテ幾何ソヤ
 (一三八七) 屈辱ニ因テ犯人ヲ其心ニ罰スルトハカルカン(鐵製ノ頸枷ヲ木柱ニ付シテ之

ニ被刑者ヲ繫クヲ云フ)ピロリー(犯人ヲ公衆ニ示ス爲メニ之ニ頸枷ヲ加ヘテ繫ク所ノ木柱
 ナ云フ)エキスポジシヨ)ン、ピエブリツク(犯人ヲ拘繫シテ公衆ニ露スヲ云フ)又ハ身體ニ黥
 シ若クハ羞辱ノ衣服ヲ穿タシムル等其他アシキシヨ)ン(背教者ヲ罰スル爲メ羅馬法王ニ
 因テ建テラレタル僧官裁判所ナリ)ノサン、ベニト(アレキシヨ)ンニ於テ被刑者ニ被ラシム
 ル黄色ノ外套ナリ)ノ如キ是ナリ、此刑ノ中ニ就テ一時幾何クカ身体ヲ拘束スル者ナキニ非
 スト雖モ是レ單ニ執行ヨリ出ル一形狀ニ過キス、立法者ノ此刑ニ於テ求ムル所ノ効果ハ常
 ニ則チ屈辱シテ痛苦ヲ感セシムルニアリ、然リ而シテ此種ノ痛苦ハ已ニ最モ不同等ノ者タ
 ルノミナラズ尙ホ殊ニ被刑者ノ情感ノ良否ニ從ヒ立法者カ此刑ニ因テ求ムルモノニ反シタ
 ル結果ヲ生スルモノトス則チ兇惡ナル有罪人ハ之ヲ嘲弄シ之ヲ輕蔑シテ而シテ却テ誤リテ
 罪ヲ得タル者即チ其靈魂ノ中ニ未タ善良ノ種子ノ存スル者ハ痛ク之ヲ感シ之ヲ以テ罰ノ最
 モ酷ナル部分ト思考ス是ナリ故ニ一方ニ於テハ犯人ヲシテ益、厚顔ナラシメ益惡事ニ固執
 セシメ他方ニ於テハ之ヲシテ絶望スルニ至ラシムルノ刑ナリ其他種々ノ理由ヨリシテ此刑
 ハ是レ犯人ノ改心シテ將來ニ向テ常道ノ生路ニ復スルヲ妨害スルニ過キササルノ刑ナリト
 ス又公衆ノ之ヲ觀ル者ニ關シテハ利益トナラスシテ實驗上却テ此種ノ公觀ハ公衆ノ道德
 心ヲ毀敗スルニ過キササルヲ知リ得タリ則チ之ヲ恐赫スルニ足ラスシテ唯リ戲笑、放恣、厭

惡ヲ來タスノミナリ、畢竟此等ノ事ハ立法者カ粗暴ニ人民ヲ御シタリシ野蠻時代ニ屬スルモノトス

(一三八八) 裁判上犯人ニ申告スル所ノ勸戒(アヴェルティツスマン)譴責(デクラ、シヨン、ド、ブラーム)及ヒ呵責(レプリマンド)ハ屈辱ノ刑ノ減省シタル者ナリ、其責罰ノ効果ニ至テハ各人ノ精神ノ稟性ト感覺ノ模様トニ從テ甚タ不定ナリトス且ツ何レノ場合ニ於テモ甚タ軟弱ニシテ純粹ノ刑ノ中ニ地位ヲ占ムルニ足ラサルナリ、止タ此處分ハ各組合、各職業等ニ特別ナル規則中ニ在テ譴責ノ刑トシテ其效果ヲ生スルヲ得ヘキノミ(一)

(一) 然レトモ葡萄牙國刑法草案按ニ於テハ甚タ廣ク警責(アトモニシヨン)ノ使用ヲ爲セリ其第一百八條ニ曰ク特別ニ原諒ス可キ情狀ノ存スルアリテ且ツ犯人ハ常ニ譏批スヘカラサル行狀ヲ有シタリシキハ裁判官ハ又新タニ罪ヲ犯スニ於テハ再犯者トシテ法律ニ記載シタル刑ヲ受ケシム可キ旨ヲ告知シテ、之ヲ警責スルニ止ムルヲ得ヘシ

(一三八九) 裁判宣告ノ公示ヨリ出ル所ノ屈辱ハ亦各被刑者ノ性質ト位置トニ從ヒ多少ノ勢力ヲ有シテ本刑ニ附加シ來ル所ノ心ノ痛苦ノ一種ナリトス、然レモ此點ニ於テ歐州古昔ノ刑ニ倣ヒ責罰ノ具トシテ此刑ヲ組織セントモ甚タ細巧ニ過キ且大イナル不便ヲ來スヘシ、假令ヒ今日單リ批准シ得ヘキ無形ノ方法(譯者曰裁判傍聽ヲ許シ又ハ新聞紙等ニ因テ公

示スルノ謂ニシテ彼ノ昔者鼓ヲ打チ人ヲ集メテ公示スルカ如キ有形ノ方法ニ反ス)ニ因テ公示ヲ爲スニ止ムルニモセヨ其目的ヲシテ決シテ責罰ノ主旨ニアラシム可ラス即チ屈辱ノ方法ニ因リ被刑者ノ受クル刑ニ更ニ一點ヲ添フルノ主旨ニアラシム可ラサルナリ此屈辱ノ點ニ關シテハ犯人ヲ其良心ト公衆ノ良心ノ明ニ任シテ足レリ「裁判宣告ノ公示ハ止タ左ノ社會ノ必要ニ應スル爲メナリトス則チ總テ犯罪ヲ見聞シタル者ナシテ處刑ヲ見聞セシメ因テ以テ正理ノ感覺ヲ満足シ、法律ト官ニ對スル信用ヲ回復シ、惡例ノ結果ヲ撲滅スルノ緊要是ナリ(一三四八號參看)又時トシテハ此公示ハ或ル犯罪ニ關シ警戒ノ告知タル可ク又ハ被害者ニ對スル民事ノ賠償ト共ニ賠償ノ一種タル可キナリ、而シテ總テノ此場合ニ於テ疑モナク屈辱ハ附加ノ結果トシテ存セサルニ非ス然レモ此結果タルヤ不同ニシテ且不定ニ時トシテハ不充分ナル可ク又時トシテハ過度ニ至ルアル可ク常ニ立法者ノ威權外ニ在テ存シ決シテ法律上ノ責罰ノ補助トシテ存セサルナリ、故ニ公示ヲ爲スニ適當ナル方法ヲ選擇シ制規スルニ於テモ必ス此精神ヲ以テ之ヲ爲サ、ル可ラス而シテ其方法ハ例ヘハ榜示ヲ以テシ又ハ新聞ニ挿入スル等其他之ニ類似スル者ニ限ル」サテ此ノ如ク論シ來レハ公示ハ可及的弘ク且ツ遠キニ及フヲ希望セサル可ラス然ルニ實際ニ於テ立法者ハ公示ノ方法ノ使用ヲ尤モ重大ナル犯罪カ又ハ特ニ此種ノ賠償ヲ要スル犯罪カ若クハ處刑ノ公示ヲ尤モ要スル場

所ノミコ限ラサルヲ得サルモノハ是レ一方ニ向テハ實際上其費用ヲ制限セサル可ラス又一
方ニ向テハ公示ヲ一處ニ集ルハ屢々之ヲ強固ニスルノ利益アルニ因テナリ」我輩ハ右ノ講
説ヨリシテ又左ノ結果ヲ得ヘシ、曰ク一般ニ公示ハ人ニ對スルヨリハ寧ロ事件ニ對シテ關
係ヲ有ス、曰ク公示ハ之ヲ人ニ對スル刑ノ執行トシテ思考スルヨリハ寧ロ公益ノ一處分ト
シテ思考ス可キ者ナリ

(一三九〇) 之ヲ要スルニ設刑ノ方針ニ就キ學理カ吾人ニ訓示スル所ハ刑ノ痛苦ノ結果ノ
目的トスヘキハ決シテ犯人ノ心意ニ在ルヘカラストイフニ在リ則チ犯人ノ心意疾病ナリト
センカ之ヲ治療ス可シ、隨落セリトセンカ之ヲ提起ス可シ、昏惰セリトセンカ之ヲ照明ス可
シ、腐敗セリトセンカ之ヲ洗淨ス可シ「頑癖ニ原因シタル常事ノ重罪輕罪ニ係ルハ靈魂ト
精神ト慣習トノ改新ニ着手シ被刑者ヲシテ終ニ其賞ヲ得ルニ至ルコアルヲ窺ヒ見セシム可
シ、訓導ト教育ニ因リ善良ノ生活、良心ノ回復ニ訓練誘導ス可シ」志氣若クハ躁暴ヨリ出タ
ル犯罪ニ係ルハ思想ヲ匡正ス可シ、情慾ヲ柔軟ニシ減少スルコトヲ教諭ス可シ、無意ノ犯罪
ニ係ルハ他人ニ危險ヲ與ヘ得ル種類ノ所業ニ對シ特ニ謹慎ノ心ヲ生セシムヘシ、義務ノ
完了ト法律ノ遵守ニ掛慮スルノ心ヲ鼓舞ス可シ」刑ノ働キハ此ノ如クナラサル可ラス之ヲ
換言スレハ慈善的ノ作用ナラサル可ラス、其重大ナル犯罪ニ係ルニモセヨ輕小ナル犯罪ニ

係ルニモセヨ懲治ノ意義ハ常ニ多少存セサルハナキナリ(一三四號〇參看)故ニ純理ノ處罰
方法ニ關スル善美ナル格言ニ曰ク(身體ニ對シテハ刑ノ痛苦、心ニ對シテハ恩澤)ト、刑ハ社
會ノ安寧上ノ要求ニ満足セサル可ラサルト同時ニ博愛ノ徳ニ合フハ即チ是ヲ以テナリ、惡
ノ使用ハ之ヲ社會ノ手ニ於テ爲ストキハ假令ヒ被刑者ヨリ見ルモ善ニ變スルハ即チ是ヲ以
テナリ、何トナレハ此身體ノ惡ハ是レ心ノ善ニ到ルカ爲メナレハナリ

第三 犯罪者ヲ其權利ニ於テ罰スルノ刑

(一三九一) 凡ソ刑罰ハ必ズ犯人ヲ其權利ニ就テ襲撃スルモノニ非ルハナシ例ヘハ身體ニ
及フノ刑ニ係ルトキハ其安寧ト自由トノ權ニ就テ襲撃スルカ如キ是ナリ、然レトモ我輩ハ
此ニ身體ト心意トノ保護ニ關スル權利ヨリハ他ノ權利ニ就テ犯人ヲ罰スル所ノ刑ヲ論ス、
(五三九號第三參看)而シテ此權利ニ二ツノ種類アリ一ハ財產ニ關スル權、一ハ公私ノ事業
ニ於テ人ノ有スル身分ト法律上ノ能力トニ關スル權ナリ

(一三九二) 此種ノ刑ヨリ生スル痛苦ニ普通ノ性質ハ不同等ノ甚シキコナリトス、此不同
等ハ財產ニ及フノ刑ニ於テ既ニ甚タ大ナリト雖モ多少之ヲ修補シ得ヘシ然ルニ人ノ身分ト
能力トニ關スル權利ニ及フノ刑ニ至テハ特ニ最モ甚シトス、人若シ常事ノ重罪輕罪即チ刑
事々件ノ最大多數ヲ成ス所ノ犯罪ニ就テ此刑ノ痛苦上ノ結果ヲ尋ヌレハ犯人ノ大過半数ニ

對シテ結果ノ強弱ハ姑ク之ヲ論セス其有無ヲモ知ル能ハサルノ點ニ至レリ以テ不同等ノ甚
 タシキ見ル可キナリ、又此種ノ刑ハ其財産ニ及フ者モ身分ト能力トニ及フ者モ心ノ改良ニ
 關シテ働キナ有セス止タ財産ヲ新タニ失フノ恐レト既ニ失ヒタル權利ヲ回復スルノ欲望ト
 ナ來タシ間接ニ被刑者ノ心ニ勢力ヲ及ホスノミ、加フルニ有罪ノ度ノ重キ事件ニ係ルルハ
 此刑ノミニテハ正理ト處罰ノ緊要トヲシテ満足セシムルニ足ラス、是ニ由テ之ヲ觀レハ此
 刑ハ純理ノ處罰方法ノ基本ヲ構成スル能ハサルヤ明カナリ、只我輩ハ是ヨリ此刑ハ如何ナ
 ル方向ヲ以テ如何ナル點ニ至ルマテ處罰方法中ニ採用セラレ得ヘキヤヲ定ムル爲ニ特別ニ
 之ヲ講究セントス

財産ニ關スル權利ニ及フハ刑

(二二九三) 犯人ヲ其財産ニ就テ罰スルノ刑ハ別テ之ヲ二種ト爲ス、

一 沒收(コンフィスカシオン) 二 罰金(アマンダ) 第一ハ所有權ノ移轉ニ因テ成リ第二
 ハ義務ノ生出ニ因テ成ル、第一ノ結果ハ國家ヲ沒收物ノ所有主ト爲スニアリテ第二ノ結果
 ハ國家ヲ罰金額數ノ債主ト爲スニアリ

(二二九四) 若シ沒收ニシテ特定ノ物件ヲ沒收スルニアラスシテ被刑者ノ財産ノ全部又ハ
 一部ヲ政府ニ沒收スルニアルキハ此ニ所有權ノ移轉アルノミナラヌ是レ一種ノ相續ナリト

ス何トナレハ被刑者ハ全ク生命ヲ有シテ存在スト雖モ國庫ハ之ニ相續シ其財産上ノ權利ノ
 全部又ハ一部分ニ對シ被刑者ニ代テ之ヲ所有スレハナリ、此種ノ沒收ハ名ケテ之ヲ一般ノ
 沒收(コンフィスカシオン、ゼネラル)ト云フ、サテ此沒收ハ全部ニ及フキニモセヨ一部ニ
 及フキニモセヨ又此一部ハ如何ニ微小ナルニモセヨ其大ニ他ノ沒收ニ異ナル性質ハ常ニ相
 續ヲ爲スノ結果ニアリ則チ全部ニ係ルニモセヨ一部ニ係ルニモセヨ其生者ニ相續スルノ點
 ニ至テハ一ナレハナリ、然リ而シテ此刑ハ是レ尤モ道德ニ背クノ刑ナリ何トナレハ既ニ歐
 州古昔ノ刑ニ於テ人ノ之ヲ見タルガ如ク人ノ貪心ヲ提起シ又ハ貪慾ニ原因スル性質ノ刑ナ
 レハナリ、歐州古昔ノ刑法ニ於テハ嘗テ此刑ヲ殊ニ富有ナル人ノ財産ニ適用シタリキ或ハ
 法律ヲ以テ此財産ヲ犯罪ノ告發者ニ給與シタリキ、又或ハ帝王ノ威權ヲ以テ此財産ヲハ寵
 賜トシテ請求スル嬖臣ニ與ヘタリキ、又此刑ハ殊ニ不正ノ刑ナリ何トナレハ直接ニ不辜ニ
 及ヘハナリ、嗚呼是レ刑法ヲ以テ財産相傳ノ順序ヲ顛倒スルナリ、未タ時ノ至ラサルニ相續
 ヲ爲スナリ刑ノ名義ヲ以テ國庫又ハ引取人ヲ此ニ呼ビ來リテ不辜ニシテ正當ナル親屬ヲ排
 斥スルナリ、此事件ニ付テハ古ヨリ論シテ漏ス所ナシ一般ノ沒收ハ全ク學問ノ排斥スル所
 トナレリ而シテ此排斥ハ現時ノ進歩ニ從ヒタル成文法ニ於テハ全ク實際ニ容ル、所ロト
 ナレシハ嗚呼此刑ハ政事上ノ爭鬪ニ於テ一箇ノ軍器ナル可キモ決シテ正理上ノ所爲ト云フ

可ラサルナリ

(二三九五) 「一般没収」ノ點既ニ定マレリ此ニ尙ホ特別ノ没収(ロンフェイスカシヨン、スベシアル)存ス、然レモ或ル特定ノ物件ノ没収ニ於テハ如何シテ此刑ノ制定ニ必要ナル一般ノ性質ヲ發見スルヤ、人ナシテ其所有内ニアリテ多少之ヲ愛惜スル所ノ物件ヲ失ハシムルコト固ヨリ多少ノ痛苦ヲ感セシムヘシト雖モ其多少廣狹ハ唯各人ノ特質特情ニノミ關スルヲナレハ此刑ヲ組織スルニハ如何ニシテ可ナルヘキヤ、如何ナル標準ニ依リテ刑法ハ或犯罪ヲ罰スルノ名義ヲ以テ犯人ノ家宅田地或ハ其他ノ物件ノ没収ヲ命スヘキヤ假令ヒ或物件ノ没収ヲ命スルモ此物件ノ果シテ犯罪者ノ所有ニ屬スルヤ否ヤハ如何ニシテ之ヲ知ラントスル、此等ノ疑問ヲ掲ケ來ラハ此特定物没収ノ刑ニハ刑ノ兵器トシテ用フヘキ恒常ナル痛苦ノ存在セサルヲ知ルニ足ラン

(二三九六) 然レモ犯罪ニ關係セル或物件カ其性質用途又ハ之ヲ作り若クハ得タル方法等ノ中ニ於テ自ラ所有權ヲ毀損スヘキ原素ヲ含ム時ニ於テハ此物件ヲ政府ノ手ニ入ラシメ至當ニ處分セシムルハ是レ眞ニ論理ニ合セルヲニシテ事物ノ性質上當ニ然ラサルヲ得サルモノナリ例ヘハ犯人ノ手ニ在ル危險ナル武器又ハ其他ノ兇器又ハ何人ノ手ニ在ルモ危險ニシテ法律ニ因テ禁制セラレタル武器器械ノ如キ或ハ禁制セラレタル毒藥又ハ腐敗シ若クハ健

康ヲ害ス可キ物品ヲ混合シタル飲食物又ハ猥褻ノ書畫等ニシテ社會ヲ害スル物品ノ如キ、或ハ偽變造ノ貨幣、規則ニ違背シ又詐僞ヲ以テ製造シタル飲食物、罪ヲ犯ス爲メニ得タル金額物件(例ヘハ偽證ヲ爲ス爲メ)等ニシテ之ヲ犯人ノ手ニ存セサルノ甚々至要ナル犯罪ヨリ生シタル不正ノ利益物件ノ如キ是ナリ又或ハ罪ヲ犯ス爲メニ犯人ヨリ受取リタル金額物件亦同シ例ヘハ官吏ニ與ヘタル賄賂ノ如キ犯人ハ既ニ之ヲ與ヘタルニ因リ此物件ノ所有權ヲ有セス又官吏モ之ヲ得ス何トナレハ此ノ如キ不正ノ原因ニヨリテ所有權ヲ得ルノ理ナケレハナリ」此種々ノ場合ニ於テハ没収スルニ至ルノ理由ハ必シモ犯人ヲ罰スルノ意コアラズ故ニ没収ニ係ル物件ノ所有者ハ何人ナルモ此所有者ハ果シテ犯人ナラサルモ又所有者ヲ特別ニ事件ニ關係セシムルヲ要セスシテ止メ此物件ノ犯罪ニ連結シ多少犯罪ノ有形ノ元素ヲ成スノ理由ノミヨリシテ屢、没収ヲ宣告スルノ極メテ正當ナルコトアリ

(二三九七) 是ニ由テ觀レハ「特別没収」ノ純理的處罰制度中ニ容レラル、ハ責罰ノ方法トシテ然ルニハ非スシテ單ニ犯罪ニ連結シタル或ル特別ノ物件ノ所有權ノ基本ニ毀損アル時ニ於テ此物件ノ犯者ノ手ニ在ルト他人ノ手ニ在ルトヲ論セス附加ノ名義ヲ以テ處罰方法中ニ現ハル、而已

(二三九八) 罰金ニ對シテハ此ノ如キ駁義ナシ此種ノ痛苦ニ於テハ毫モ一般ノ没収ニ於ケ

ルカ如キ相續ノ結果アルコナシ又特別沒収(立法者之ヲ用イント欲セハ)ニ於ケルカ如キ不確定ト前後ノ不合アルコナシ(前數一三九五參看)何人ト雖モ政府ニ對シ或ル金額ノ負債主トナルコトヲ得、只此負債ヲ消却スルニ適當ナル方法ニ至テハ或ハ異ナルアランノミ而シテ此ノ如キ義務ヲ構成スルコトハ被刑者一人ニ係ルノ事件ニシテ他人ニ及ハサルモノトス

(一三九九) 此種ノ刑ハ被刑者ノ改悛ニ關シテハ毫モ其効果ヲ及ホサズ此刑ハ法定ノ金額ヲ納充スルヲ以テ足レリトスル故ニ此刑ハ唯被刑者ヲシテ其感受スル痛苦ト從來再ヒカ、ル痛苦ヲ受クルヲ恐ル、心情ヨリシテ行爲ヲ謹マシムルニ足ルノミニシテ懲治ナル一語ノ眞意ヨリ見レハ決シテ懲治的ノ刑ナリト云フコトヲ得サルヘシ之ヲ換言スレハ罰金ハ被刑者ノ心ノ改新ヲ眞實ニ企ツル爲メニ組織セラレタル改良ニ誘クノ刑ナリト云フコトヲ得サルヘキナリ、是ヲ以テ兇惡敗心ニ基ツカサル犯罪ニ對シ單ニ犯者ヲシテ再犯セサラシメントスル時ノミ此刑ヲ用ウヘシ其他ノ場合ニ於テハ刑ノ本然ノ目的ノ一タル懲治ヲ欠クモノトシテ排斥セスハアルヘカラス

(一四〇〇) 第二ノ目的即チ痛苦ヲ與ヘテ責罰スルノ目的ニ關シテハ罰金ハ其額數ヲ上下シ得ルヲ以テ最モ輕キ犯罪又ハ我輩カ前論シ來リタル所ノ犯罪ニ於テ有罪ノ度ノ微差ト容易ニ相適合スルモノナリ然レモ有罪ノ度カ或ル點ヲ上リテ後ハ罰金ノ痛苦ハ正理ヨリス

ルモ社會ノ緊要ヨリスルモ不充分ナルモノナリ此ノ如キ場合ニ於テハ犯人ノ身体ヲモ責罰ノ中ニ關係セシメテ之ヲ罰セラレサル可ラス、然ラサレハ金額ト犯罪トヲ交換スルヲ得ルカ如キニ至リテ富有者ハ常ニ罰ヲ遁ルハ容易ナルニ至ルヘシ

此身體ニ及フノ責罰ヲ命ス可キ有罪ノ度ノ點ニアリテモ罰金ハ尙ホ特別ナル利益ヲ有セリ、事實ノ性質地位或ハ情狀ノ如何ニ依リテハ犯人カ身體ニ及フ刑ヲ受クルヨリハ寧ロ金額ヲ失フヲ以テ大ニ痛苦トスルカ如キハ甚タ稀有ノコトニアラス、犯人カ身體ニ及フノ刑ヲ欲シ例ヘハ數月ノ監禁ヲ受ケ因テ以テ法律ヲ満足セシメ其罰ス可キ所業ヨリ利益ヲ得ント欲スルカ如キハ甚タ稀有ノ事ニ非ルナリ然ルニ若シ此ニ財產ニ及フ補助刑ヲ附加スル片ハ處罰ノ效能始メテ完全ヲ得ヘシ、又此補助ハ貪慾ノ情ニ原因シタル所ノ重罪又ハ輕罪ノ責罰ニ關シ大ニ其効アル可シ此ノ如キ犯罪ニ對シテ財產ニ及フノ刑ハ犯者ノ心ヲ罪惡ニ誘キタル惡癖ニ罰スルナリ其貪心ヨリ得タル物件或ハ之ヨリ生シタル物件ニ罰スルナリ、而シテ此罪ト刑トノ相類似スルコトハ我輩ノ容レシ所ノ類似ノ數中ニアリトス(一二四五號參看)

(一四〇一) 此講說ノ結局ハ則テ左ノ如シ、罰金ハ純理的處罰制度中ノ基本ヲ構成スルモノニハ非サレトモ輕キ犯罪ノ主刑トシ重キ犯罪ニアリテ時トシテ身體ニ及フ刑ノ至要ナル補助刑タルヘキナリ(一)

(一) 此ノ如ク罰金ハ重キ犯罪ニ對シテハ一箇ノ補助刑タルニ過キサル片ハ葡萄牙刑法草案按ノ第十七條ヲ以テ甚タ寛ニ過キタル者ト論セサルヲ得ス此第十七條ニ依レハ裁判官ニ許スニ違警罪ノ監禁又第一等若クハ第二等ノ監禁ニシテ我禁錮ノ刑ニ通スル者ニモ罰金ヲ代用スルノ權ヲ以テセリ我千八百三十二年ノ刑法ノ第四百六十三條ハ千八百六十三年ニ於テ改正セラレ又千八百七十年ニ於テ再設スル所トナリシカ(一六六〇號參看)此條モ亦同ク五年ノ監禁一フランクノ罰金ヲ代フルヲ許ス、然レ此ノ如キ大ナル任他限ヲ判官ニ與フルハ是レ我輩ヲシテ擅恣ノ刑法ニ再ヒ陷ラシムルニ非スヤ

(二四〇二) 罰金ハ元來一般ノ沒收ノ如ク相續ノ性質ヲ有セサルモノナレトモ其額數甚タ過多ナル片ハ該刑執行ノ結果トシテ沒收ト同シク不幸ノ親屬ノ瓦解ヲ招クコト無キニ非ス此刑ハ疑モナク一般ノ沒收ニ因リ相續權ヲ親屬ヨリ剝奪スルカ如ク親屬ヨリ直接ニ其相續權利ヲ奪ハスト雖モ親屬ハ常ニ其家長ニ科セラレタル財産ノ喪失ヨリシテ財産上ニ痛苦ヲ受クルヤ明カナリ然レトモガ、ル痛苦ハ總テノ刑ニ避ケ難キ事ニシテ(二三三七號參看)特ニ罰金ノ止マルモノニ非ス且ツ立法者モ如何トモスヘカラサル故ニ判官タルモノハ罰金ノ結果ヲシテ過激ナラサラシメ之ヲシテ一種變形ノ沒收タルニ終ルカ如キ無カラシメンコ

ニ盡力セスノハアルヘカラス又過度ナル罰金ハ犯人如何ニシテモ之ヲ償却スル能ハサル爲ニ課刑ノ效果ヲ生セサルコトアリ

(二四〇三) 然レモ罰金事件ニ關シテハ何ヲ指シテ過度ト云フヤ何ヲ指シテ相當ト云フヤ、痛苦ノ關係ヨリ論スレハ同様ノ犯罪ニ就テ總テノ人ニ同等ノ額數ヲ科スルヨリ不同等ノ甚タシキハナシ、一人ヨリ見レハ其財産ノ剩餘又ハ一部分ナル金額モ他ノ一人ヨリ見レハ甚タ緊要ニシテ其所有物ノ全体ヲ構成スルコトアラン

刑法理論家ハ此相當ヲ或ル普通ノ基礎上ニ定ムル爲メニ數理上ノ方法ヲ講究シタリキ成文法ノ立法者モ亦時トシテハ之ヲ用ヒ試ミタルナキニ非ス、此方法ノ一ハ各被刑者ニ對シ其入額ノ一日分ヲ計算ノ本位トスルニアリ則チ罰金ハ總テ刑法ニ因テ左ノ式文ニ從テ科セラ

ル可シ、曰ク(入額ノ何日分又ハ何月分、又ハ何年分)ト〇是レ立法ノ爲メニハ甚タ簡單ニ且ツ便宜ニシテ採用スヘキ式文ニシテ正理ノ點ヨリ見レハ爭フ可ラサル善美ナル配當ノ方法タリ、然レモ此ニ實際ヨリ來ル一條ノ嚴議アリ、如何シテ各人ノ入額ヲ評定スルヤ、之カ爲メニ如何ナル家宅搜索ヲ爲サル可ラサルヤ、搜索ヲ爲スモ結局ハ不確實ナラスヤ、從テ刑事裁判ノ制度ニ幾多ノ混雜ヲ來スニ非スヤ各被刑者其職業ニ依リテ取リ得ル所ノ利得ニ從ヒ勞力ノ一日分トセンカ、職業ヲ有セサル者、既得資本ノ利子若クハ財産ノ收入ニ由リテ生

活スル者ニ對シテハ如何ニスヘキ利得ノ確定セサル職業ニ從事スル商人ノ如キ又秘密ナル職業ヲ爲ス者ニ對シテハ如何ニスヘキ借家料ヲ基本トセンカ是レ尤モ明瞭ニ尤モ容易ニ評定シ得ヘキ一箇ノ標識ニシテ中ラスト雖モ遠カラサルヲ得ヘト雖モ屢々各人ノ財産ノ實額ニ違フヲ奈何ニセン

罰金ヲ科スル是等ノ方法ハ正理ニ適スル利益ノ外ニ尙ホ各時ト各所ニ於テ自然ニ通用貨幣ノ相場ニ從ヒ常ニ刑法ヲ時ニ合ナハシムヘキ甚々緊要ナル利益ヲ有ス然レトモ世人ハ是等ノ方法ノ少シク繁雜ナルヲ以テ之ヲ棄テ、用弗ス是レ認レリトイフヘシ夫レ此方法ニ附隨セル困難ハ決シテ碎破スヘカラサルニ非ス夫レ入額ナルモノハ本來確適ニ評定シ得サルモノナル故ニ之ヲ確定セント欲スルノ念ヲ止メ實行シ得ヘキ方法ニシテ正格ノ評定ニ近カルヘキ方法ヲ採用セハ時ト場所其他ノ事情トヲ問ハス被刑者ニ同一ノ定額ヲ拂ハシムルニ優ルコト遠シト謂ハサルヘカラス、(入額ノ幾何)ト云フヲ基本トシタル計算ハ諸方法中ノ尤モ正シキ者ニシテ刑法上裁判官ニ與フルニ左ノ權ヲ以テセハ之ヲ實用ニ置クコト甚々難キニ非ス則チ各被刑者ノ入額ヲ評定スル爲メニ細密ナル檢査ヲ以テ嚴格ニ當ル所ノ計算ヲ爲スコト裁判官ニ責メスシテ殆ント明瞭ナル證據ノ重モナル元素ニ從ヒ止テ得サルニ於テハ被刑者ノ住所ノ風評ニ從ヒ中ラスト雖モ遠カラサル評定ヲ爲スノ廣キ權ヲ裁判官ニ與フルコト

是ナリ

右ノ權ヲ與ヘズンハ刑法ハ必ス裁判官ノ上ニ幾多ノ信用ヲ置キ之ヲシテ可及的被害者ノ財産ト此被刑者ニ對シテ宣告スル所ノ罰金トノ間ニ平均ヲ立ツルコトヲ勉メシムル爲メニ罰金ノ金額ヲ定ムルニ關シ最多數ト最寡數トノ間ニ上下スル大ナル任他限ヲ裁判官ニ與ヘサル可ラサルナリ、然レモ這ハ是レ甚々大ニ過キタル獨斷權ナラスヤ且ツ外面ノ極メテ容易ナルカ如クナルニ拘ハラス種々ノ事件ノ間ト種々ノ人ノ間トニ實際ニ至當ノ配分ヲ立ツルコトハ裁判官ノ爲メニ極メテ大ナル困難ナリトス

(一四〇四) 或ル特別ナル犯罪ニ關シテハ罰金ノ入額ヲ政府ニ屬セシメシテ其全部又ハ一部ヲ市町村(コンミニユンヌ)又ハ或ル建設所即チ病院等ニ屬セシムルノ得策タルコトアリ、然レモ決シテ此入額ヲ告發者若クハ犯罪ヲ證セシメ又ハ罰セシメタルノ官吏ノ盡力ヲ賞スル爲メニ之ヲ用フ可ラサルナリ、人或ハ此賞譽ノ方法ヲ甚々便利ト認ムルアラシク又或ル成文法ニ於テモ既ニ其例アリ、然レモ刑事裁判ニ於テハ如何ナル下等ノ官吏タリトモ此ノ如キ利ヲ得ルノ思考ヨリ全ク脫離シ如何ナル疑念タリトモ決シテ一點モ此間ニ狹マレサルヲ要ス

我輩ハ沒収ニ就テモ亦此ノ如ク言フ可シ

人ノ身分ト法律上ノ能力トニ關スル權利ニ及ブ刑

(一四〇五) 人若シ法律ニ就テ人ノ方サニ然ク爲サ、ル可ラサル極度ニ達シタル者ヨリ考フレハ」即チ法律トハ人類ノ活動ノ自然法ニ符合スルモノニ外ナラス人間カ相互ヒニ有スル所ノ關係中ニ存スル行爲不行爲ノ必然ニ符合スルモノニ外ナラス且ツ國語ノ性質如何ニ依リ法律(ドロワー)ノ語ヲ單數ニ取り或ハ復數ニ取り又ハ無形的ノ意ニ取り或ハ指物的ノ意ニ取り又ハ一般ニ取り或ハ特別ニ取りツ、此語ニ與フル所ノ意味ハ如何ニアルコモセヨ常ニ最終ノ解剖ニ於テハ右ニ述タル所ノ點ニ至ラサルヲ得サルモノトセハ(前數一一及ヒ次數參看)人自然ニ此理ニ因リ且ツ別ニ長ク説明ヲ要スルコナクシテ左ノ結局ヲ得ヘシ、曰ク實際ニ於テハ疑ヒモナク此ノ如キノ權利又他ノ此ノ如キノ權利之ヲ換言スレハ是々等ノ所業ヲ爲スト爲サ、ルトノ威權他人ヨリ是々等ノ所爲ヲ要求スルノ威權チ人ヨリ剝奪シテ之ヲ痛苦セシムルノ方法ト爲シ得ヘシト雖モ然レトモ成文刑法ハ之ヲ以テ痛苦ノ一種ト爲スノ單一ノ目的ヲ以テ隨意ニ此痛苦ヲ使用スルノ自由ヲ有セス何トナレハ刑法ハ己ノ欲スル所ニ從テ人類活動ノ必然ヲ變更スルノ自由ヲ有セサレハナリト

(一四〇六) 人類万般ノ權利ハ皆其相互ノ關係ヨリ生スルコトナルガ此關係ノ中ニ就テ人類ノ自存至要ノ關係、人類ノ運命ヲ果タス事又ハ其生活ニ離ル可ラサル至要ノ關係アリ而シテ刑法ハ如何ナル方法ヲ以テストモ決シテ被刑者ヨリ該關係ヨリ生スル權利ヲ剝奪スヘカラス凡ソ之ニ反スルノ刑ハ皆チ是レ人類ノ稟性ノ有様ト相反スルモノニシテ獨リ被刑者ヲ罰スルノミナラス尙ホ犯罪ニ關セサル人ニシテ被刑者トノ間ニ唯該關係ノミヲ生セル無辜者チモ直接ニ罰スルコトアルノ瑕瑾チ有スルモノトス

(一四〇七) 之ニ反シテ前段ノ關係ト同一ナル緊要チ有セサル他ノ關係アリ此關係ハ概ネ人爲ニ出テ多少考定シタル利益ニ據リタル者ニシテ時ト場合トニ從テ制定セラレ又ハ放棄セラレ得ルモノトス、然レモ此關係ニ對シテモ權利ノ一般ニシテ同等ナラサル可カラストイフ元則即チ善良ニ組織セラレタル社會ノ公安ノ基礎タル此元則ハ此關係ヨリ生シタル權利ハ只ダ被刑者ヲ痛苦セシムルノ單一ノ目的且ツ此痛苦ノ種類ノ中ニ此名義ヲ以テ毫モ理ノ命スル所ナキニ拘ハラス刑ノ器械ヲ求ムルノ目的ヲ以テ被刑者ヨリ剝奪スルコト許サ、ルナリ(一二九二號參看)、剝奪ハ必ス犯罪ヨリカ若クハ有罪者又ハ被告人カ犯罪ノ結果ニ因テ得タル地位ヨリシテ今議論ニ係ル權利ヲ剝奪シ若クハ停止スルノ論理上ノ理由アルヲ除キテハ之ヲ行ヒ得サルモノトス、然ルモ此剝奪ハ純粹ノ罰トシテ施スニハ非スシテ犯罪ト犯罪ニ附隨スル地位トノ止ムヲ得サル結果トシテ生スヘキナリ

(一四〇八) 權利ヲ剝奪若クハ停止スルノ尤モ重大ニシテ且合理ナル理由ハ不堪(譯者曰

ク卑陋ニシテ堪ヘストイフ意ナリトイフコニシテ犯罪ニ因テ表彰セラレタル犯人ノ心術ハ此權利ヲ有スルニ堪ヘストイフ事ナリ然レモ犯者ヲシテ此ノ如キ刑ヲ受ケシメンカ爲ニハ單ニ不堪ナリト一般ニ且ツ茫漠ニ言フノミヲ以テ足レリトスヘカラス不堪ノ標徴ハ心ス犯罪ト剝奪セントスル權利トヲ密接ニ比較セルノ結果タラザルヘカラス然ル時ニ於テハ此權利ノ除去或ハ失墜ハ我輩カ曾テ或ル小數ノ場合ニノミ採用セシ所ノ罪刑無形ノ類似ノ新タナル一種類ヲ現ハスナリ(一三四四號及ヒ一三四五號參看)

(一四〇九) 他、又、一箇ノ理由アリ則チ剝奪セントスル所ノ權利ノ享有若クハ使用ハ犯人ニ科セル本刑ノ執行ト相容レサル事ナリ此等ノ權利ヲシテ存在セシメハ体刑ノ効力ノ全部或ハ一部ヲ破壊シ或ハ体刑執行ノ自然ノ結果トシテ此等權利ヲ有シ又ハ行フコトヲ得セシメサルカ故ナリ

(一四一〇) 最終ノ一理由ハ是等ノ權利ノ剝奪ヲ以テ法律ニ抵抗スル人ニ對シ之ヲ強迫スルノ一方法ト爲スノ必要ナルニ在リ例ヘハ欠席裁判ニ係ル被告人ヨリ其抵抗スル法律ニ依リテ生スル利益ヲハ此法ニ從ハサル限りハ之ヲ奪フカ如シ

(一四一一) 然レモ茲ニ注意シテ常ニ明ニセサルヘカラサルモノアリ以上數箇ノ理由ノ何レニ由リテ犯人ノ權利ノ剝奪若クハ失墜ストモ刑法ノ決シテ左右シ得サル所ノ至要ノ權利

ト此法ノ勢力ヲ及ホシ得ル所ノ權利トノ間ニ存スル重大ノ區別則チ是ナリ

(一四一二) 此論題ニ就テハ人類ノ有シ得ヘキ權利ニ關シ法學者ノ所謂權利ノ享有(ジュウツサンス)ト權利ノ施行(エキセルシース)トヲ畫別セスンハアルベカラス、權利ノ享有ト

ハ權利ヨリ生スル利得便益満足等自物トシテ有スヘキ受働的ノ能力ヲ云ヒ權利ノ施行トハ權利ニ附屬スル所爲、及ヒ權利ヨリ生スヘキ利得ヲ發生、収獲處分スル爲ニ必要ナル所業ヲ爲シ得ヘキ主働的ノ能力ヲ云フサテ吾人ノ權利中ニ於テ所有ノ權、債主ノ權裁判所ニ訴フルノ權ノ如キハ吾人ノ名義ヲ以テ他人之ヲ施行シ得ヘキ性質ヲ有シ吾人ハ假令ヒ此等ノ權利ノ施行ヲ剝奪セラレ他人カ吾人ノ名義ヲ以テ其施行ヲ爲スナ傍觀セサル地位ニ在リトモ其權利ノ享有ニ至テハ吾人全ク之ヲ有スルモノナリ之ニ反シテ權利ヲ有スル者獨リ之ヲ施行スルヲ得テ他人ハ何人ト雖モ代テ施行ヲ爲シ得サル權利アリ例ヘハ遺囑ヲ以テ財産ヲ處分スルノ權又ハ官吏ト爲リ若クハ公務ヲ處理スルノ權ノ如キ是ナリ此種ノ權利ニ於テハ享有ト施行トノ區別ハ名アリト雖モ殆ト其實ナキカ如何トナレハ自ラ權利ヲ施行スルノ能力ヲ奪ハレタル者ハ自己ノ爲メニ他人ヲシテ其施行ヲ爲サシムル能ハサルニ因リ其有スル所ノ享有モ實際ニ於テハ空物タルニ過サレハナリ、然リ、此享有ハ屢々空名タルニ止マルヘシ然レ時トシテハ此享有モ尙其利益ナキニ非ス權利ハ其施行ヲ剝奪セラレタル人ノ身体

中ニ抽象的ニ存在シテ滅セサルカ故ニ一タヒ其施行ヲ滅セシメタル原因ノ止ムヤ權利ハ直ニ其効力ヲ現ハスナリ又此等權利ノ施行ヨリ法律上已ニ或ル効果ヲ生ゼリトセンカ假令ヒ後日ニ至リテ此等ノ權利ノ施行剝奪セラレタリトストモ決シテ消滅スルコトナシ是レ權利ノ本体則チ權利ノ享有常ニ存在セルカ故ナリ

兩者ノ區別此ノ如シ今吾人ハ刑法ノ科スル權利ノ剝奪ニ就テ其剝奪スル所ノ者ハ其享有ナリヤ將タ其施行ノミナリヤヲ詳ニセサルヘカラス

(一四一三) 第一ノ理由即チ不堪ハ概ニ權利ノ基本ニ迄剝奪ヲ及ハセトモ其他ノ理由ハ權利ノ施行ニ剝奪ヲ及ホスニ止ルモノトス

(一四一四) 又一箇ノ他ニ注目ス可キアリ我輩カ前數千四百零六(一四〇六)ニ於テ辨シタル所ノ至要ノ權利ノ侵ス可ラサルコトハ此權利ノ基本即チ享有ニ關シテハ實ニ然リト雖モ其施行ニ關シテハ侵ス可ラサル者ニアラサルナリ「實ニ此權利ノ一二ニ對シテハ我輩ノ前ニ枚舉シタル三箇ノ理由ノ何レカニ因リ刑法ニヨリテ被刑者ニ權利ノ利益ヲ全ク殘シテ其施行ノミチ奪フニ就キ毫モ妨ケアルヲ見サルナリ、若シ果シテ然ルルハ此施行力要スル所ノ總テノ所業ハ被刑者ノ名ヲ以テ他人ニ因テ行ハル可ク而シテ被刑者只其利益ヲ得ヘシ、既ニ年齡ノ欠乏、疾病又ハ精神ノ錯乱ハ法律上此ノ如キノ場合ヲ來タスモノトス、故ニ刑法ノ

理論ヨリ見ルモ亦理ノ方サニ然ル可キ場合ニ於テハ此ノ如キ場合ヲ定ムルヲ得ヘシ

(一四一五) 右ノ原則既ニ定マリタル上ハ之ヲ一々各種ノ權利ニ正當ナル適用ヲ爲サ、ルヘカラス然レモ是レ過細ノ講究ニシテ吾人カ此著書ニ於テ詳明スヘキ限りニ非ス此ニ各權利ニ關シ考定ス可キ數點ヲ舉グレハ左ノ如シ

第一 茲ニ一ノ權利アランニ此權利ハ人性ニ固着シテ離ル可ラス刑法ヲ以テ之ヲ被刑者ヨリ剝奪シ得サル至要ノ權利中ニ屬スルカ或ハ刑法ヲ以テ其施行ヲ剝奪シ得ルモ其享有ハ到底之ヲ被刑者ニ殘サ、ル可ラサル權利中ニ屬スルカ將タ刑法ヲ以テ全ク被刑者ヨリ奪ヒ得ベクシテ存否常ナキ權利若クハ人類ノ制作ニ出テタル權利中ニ屬スルヤヲ駁定セサルヘカラズ。夫レ權利ハ一個人ト一個人ト間、或ハ一個人ト社會トノ間ニ存スル關係、則チ私法或ハ公法中ニ存スル者ナリ茲ニ二人アリテ互ニ相接近セリト想像セシニ必ス直チニ一方ヨリ一方ニ對シ要求ス可キ行爲不行爲ノ無形的緊要即チ權利ノ生スルコトハアラス又一人アリ社會ニ棲息セリト想像センニ必ス又直チニ互ニ他ノ一方ニ對シ要求スヘキ行爲不行爲ノ無形的緊要即チ權利ノ生出スルコトハアラス今人ノ此世ニ生活スルヤ必ス他人又ハ社會ニ在リテ或ル地位ニ在ラサル可ラス、故ニ必ス他人及ヒ社會ニ屬シ自己ノ利益或ハ負擔ニ於テ常ニ至要ノ權利ノ存スルコトハアルヘカラス是ニ由テ之ヲ觀レハ彼ノ人事上ノ死

(モール、シビル)ト稱スル刑ヲ科シ生命ヲ有スル人ヲ以テ法律上死人ナリト定ムル事、及ヒ人ヲ法律外(チャール、ドロワー)ニ置キ各人ナソ隨意ニ之ヲ誹謗シ之カ財産ヲ奪ヒ之ヲ凌虐シ之ヲ創傷シ之ヲ殺スヲ許ス所ノ刑罰ノ如キハ要スルニ蒙昧無稽ノ思想ヨリ生セルモノニシテ權利ニ關スル真正ノ思想ハ毫モコレ有ルヲナシ故ニ苟クモ權利ヲ剝奪スルニ當リテハ其多少ニ係ラス必ス先ツ成文刑法ハ此權利ニ對シ如何ナル權力ヲ有スルヤヲ觀察考究セシムルハアルヘカラス

第二〇 〇ニ研究スヘキハ權利ノ剝奪ヲ要求希望スル所ノ理由如何是ナリ而シテ其理由ヲ解スルニハ必ス狹隘ナル限界中ニ於テセサルヘカラス

第三〇 〇最終ノ問題ハ權利剝奪ノ限界如何其施行ノミチ剝奪ルヤ將タ其享有ヲモ剝奪スルヤ等則チ是ナリ

(二四一六) 我輩ハ或ル刑ニシテ有形ニ身体ヲ拘禁スルヲナキモ夫ノ自由ノ權、本國ニ住居スルノ權自己ノ欲スル場所ニ居テ定ムルノ權若クハ或處ニ自由ニ活動スルノ權ニ影響ヲ及ホシテ人ヲ罰シ從テ純粹ノ自由ヲ剝奪スルニ係ルノ刑ト權利ヲ剝奪スルニ係ルノ刑トノ中間ヲ爲ス所ノ刑(前數一二八三參看)トチ以テ右ノ規則ノ例外ニ置カサル可シ、則チ復歸ヲ禁シテ國地外ニ放逐スルノ刑又ハ或ル市府或ハ地ノ多少廣キ或ル部分ニ居住スルノ禁、

又ハ定マリタル或ル場所ニ居住スルノ義務ノ如キ是ナリ」右ノ詳解ニ因レハ此種類ノ權利ノ拘束ハ刑ノ須カラク有ス可キ性質ノ一チモ有セズ却テ大ナル不便アリテ之ニ附隨シ從テ此拘束ハ何レ純理ノ處罰方法中ニ純粹ノ刑ノ名義ヲ以テ現ハル、能ハサルノ義理明カナリ、故ニ此拘束ノ一二カ使用セラレ得ルハ刑ノ終リタル後豫防及ヒ補助ノ處分ノ名義ヲ以テスルニ過キサルナリ(前數一四八七及ヒ次數參看)又此使用ハ常ニ權利ノ剝奪ニ係ルニ要スル所ノ謹慎ヲ以テ止タ犯罪ト之ニ科スル刑ノ結果トニ於テ然ク爲スノ理論上ノ理由ヲ見ルルノミコ於テ之ヲ爲サ、ル可ラサルナリ

第四 結論

(二四一七) 以上陳ヘ來レル評論ヨリ推シテ吾人ハ合理的ノ處罰方法ハ是レ自由ヲ剝奪スルニ係ルノ刑ヲ以テ其基本ト爲スモノタルヲ知ルヘキナリ

罰金ノ如キハ此方法中重要ナルモノニ非スシテ唯或ル輕キ犯罪ニ對スル獨立刑トシテ或ハ重キ犯罪ニ對シテ緊要ナル補助刑トシテ此方法中ニ現出セリ

特別沒收及ヒ權利ノ喪失、失墜等ノ此方法中ニ現ハル、ハ決シテ責罰ノ器械タルニ非スシテ止タ或ル場合ニ於テ犯罪或ハ被刑者ノ地位ヨリ生スル自然ノ結果タルニ過キサルナリ

(二四一八) 歴史ヲ通觀スルニ原始社會ニ於テハ刑罰ハ復讐又ハ同惡相報又ハ罪刑類似ノ

精神ノ鼓動スル所ト爲リ其体式ノ複雑ヲ極メタリキコレ今日尙ホ成文法ニ其痕ヲ止ムル所ニシテ間々之ヲ以テ必要トスルモノアレトモ真正ノ科學ハ遂ニ刑罰ヲ單位ニ導クニ至レリ(前數一三五ニ參看)則チ或ル場合ニ於テ本刑或ハ補助刑トシテ罰金ノ法ヲ用フルノ外合理的ノ處罰方法中ニ存スルモノハ唯自由剝奪ノ刑ニシテ此刑タルヤ敢テ他刑ノ補助ヲ借ルコト無クトモ犯罪ノ程度ノ千萬多量ナルニ適應スルヲ得ヘキモノタリ

第五 自由ヲ剝奪スルニ係ル刑ノ排置

(一四一九) 自由ノ剝奪ハ廣狹自由ニ有リ得ヘシ種々ノ形狀ヲ有シ得ヘシ嚴酷ノ程度ニ於テ頗ル差異アルヲ有シ得ヘシ、是ヨリシテ成文法律ト實際トニ於テ種々ノ形ノ區別來ル此種々ノ刑ハ異ナリタル名ヲ有スト雖モ又種々ノ等級ニアルト雖モ皆ナ此自由ノ剝奪タル普通ノ痛苦ノ中ニ成リ立ツ所ノ者ナリ(前數一三六八參看)我輩カ監禁(アンプリグシヌマン)ト云フ一般ノ名目ヲ以テ此刑ヲ講説スルモノハ則チ此普通ノ目的ニ因ルモノナリ而シテ此監禁ノ語ハ理論上ニ於テハ我刑法ノ法律語トシテ我輩ノ慣用シ來レル意義ヨリハ甚タ廣キ意義ヲ有スルナリ

(一四二〇) 自由ヲ剝奪スルニ係ル刑ハ總テ二箇ノ固有ノ元素ヨリ其構造ヲ成スモノトス即チ期限及ヒ制度是ナリ故ニ立法者ハ期限ヲ測度シ制度ヲ組織セサル可ラス而シテ之ヲ

爲スニハ總テ此測度ト組織トヲ正當ナリトスル理由ト自由ノ剝奪ノ目的トニ從ハサル可ラカルナリ、是ヨリシテ監禁ノ種々ノ變樣出テ來ル

(一四二一) 我輩ハ此ニ全ク民法又ハ親屬法ノ條項ニ基ツク所ノ或ル自由ノ剝奪ニ就テ辨スル所ナカル可シ(精神錯亂、負債消却ノ爲メノ身體束縛(コントレント、バル、コール)、父母ノ權ノ施行)、此自由ノ剝奪ハ全ク刑法外ニアル所ノモノニシテ假令外形上ニノミナリトモ決シテ公罰ノ性質ヲ有セシム可ラサルナリ然レモ場所ノ不充分ナル爲メト時代ノ粗暴ト不注意ヨリシテ屢、不幸ナル混合アリタリキ、我輩ノ講説スル所ノ法律ノ部分即チ刑法ハ毫モ之ニ關セサルナリ

刑法ニ關シテハ監禁ハ常ニ一犯罪ヲ理由トシテ使用セラレ且ツ種々ノ人ニ對シ種々ノ目的ヲ以テ使用セラル、モノトス我輩先ツ初メ監禁ノ區別ヲ爲スノ必要ナルヲ信スルナリ

防護ノ監禁、刑ノ監禁、懲治教育ノ監禁

(一四二二) 監禁ハ第一ニ或ル犯罪ヲ以テ告訴セラレタルモノヲ對シテ使用セラレ則チ被告入ヲシテ治罪方法或ハ刑罰ヲ受ケシムル爲ニ之カ身體ヲ束縛シテ刑事裁判ノ處分ヲ免ル、能ハザラシムルガ爲メナリ」我輩ハ此種類ノ監禁ハ其目的被告入ヲ防護スルニ在ルヲ以テ名ケテ防護ノ監禁(アンプリグシヌマン、ド、ガルト)ト云フ而シテ此種ノ監禁ヲシテ刑ノ

性質ヲ有セシムルコトハ正理ニ合セス法理ヨリ論スルモ公益ヨリ論スルモ其期限成クヘク短ナルヘク其制度決シテ責罰ノ責ヲ寄スヘカス是レ今我輩ノ講究セントスル所ニハ關係ナキモノニシテ他日我輩カ講究セントスル刑事訴訟法ノ必要的及ヒ其規則ニ關スルモノナリ

(一四二三) 監禁ハ第二ノ場合ニ於テハ被刑者ニ對シテ使用セラル、然ルモ是レ公刑ノ器械トシテ使用セラル、ナリ故ニ我輩ハ之ヲ刑ノ監禁(アンプリソンヌマン、ド、ペーヌ)ト呼フ我輩カ此ニ講説セントスル所ノモノハ則チ是ナリ

(一四二四) 最終ニハ監禁ハ或ル年齢ノ幼年者ニシテ被告事件ニ關シテハ罪ヲ判定セラルトモ公刑ノ關係ニ於テハ刑ヲ適用スルニ必要ナル是非ノ辨別ヲ缺如セル所業ナリトシテ放免セラレ且ツ之ニ對シテ國家強迫ノ方法ヲ用ヒテ親屬ニ代リ殆ント家訓ニ類スル善良ノ教育ト懲治トヲ爲スノ權ヲ施行スルノ必要ト判セラレタル所ノ者ニ對シテ使用セラル、ナリ(前數二七一、又二九一及ヒ次數參看)「此教育懲治ノ監禁(アンプリソンヌマン、デデュカシヨン、コレクシヨネール)ナルモノハ責罰ノ性質ヲ有セサルニ非ス然レモ前段ノ監禁ノ性質トハ全ク異ナリタルモノトス何トナレハ彼レニハ處刑アリテ此ニハ放免アリ、彼レハ公刑ニシテ此ハ國家カ親屬ニ代リテ爲ス所ノ教育ト懲治ノ處分ナレハナリ(前數二七一參看)、此監禁ハ刑ノ排置中ニ於テ一箇ノ補遺ヲ成ス然レモ全然刑ノ監禁ト異ナリタル補遺ナリ

(一四二五) 防禦ノ監禁(アンプリグンヌマン、ド、ガルト)刑ノ監禁(アンプリグンヌマン、ド、ペーヌ)及ヒ教育懲治ノ監禁(アンプリグンヌマン、デデュカシヨン、コレクシヨネール)ハ其之ヲ然ラシムル所ノ理由ト因テ以テ達セントスル所ノ目的トヨリシテ法律上斯クノ如ク異ナルコト因リ實際ニ於テモ亦獨リ制度上ニ於テ異ナルノミナラス尙ホ場所ニ於テ即チ此等ノ監禁ヲ受ケシムル所ノ獄舎ニ於テ異ナラサル可ラサルナリ、公衆ノ精神上ニ哀ムヘキ混合ヲ起サシムルヲ欲セス公衆ノ正理ノ思想ヲ顛倒シ刑法ヲシテ票例トナルノ本分ヲ失ハシムルヲ欲セスンハ必ヤ公衆ヲシテ獄舎ノ同一ノ門戸ガ被告ト被刑者ト放免セラレタル幼年者トチ閉鎖シ同一ノ牆壁ガ是等ノ者ヲ圍繞スルヲ見セシム可ラサルナリ、獄舎ノ別離分明ニ定メラレサル以上ハ法理ノ精神ハ常ニ之カ爲ニ毀傷セラル、モノトス、而シテ同獄舎ノ中ニ於テ區域ヲ立ツル如キ因循ノ策ヲ執ルハ是レ人カ或ル困難ト實際上或ル回顧スル所アルトヨリシテ此ニ至ルト雖モ決シテ純理的ノ元則即チ正理ノ元則ニモ社會ノ緊要ノ元則ニモ満足ヲ與ヘ得サル所ノ補缺ノ方法、便宜ノ方法ニ過キサルナリ(一)

(一) ベランゼー氏ハ其府縣監獄改良ノ報告書ニ於テ盛シニ此意義ヲ主張セリ

(一四二六) 右獄舎ノ區別既ニ明カナリ、余輩ハ此ニ刑ノ監禁ヲ講説スルニ際シ先ツ此監禁ノ制度ヲ爲スニ當リテハ社會刑罰權基礎論ノ教規ニ從ヒ刑ノ二箇ノ本然目的タル「票例」ヲ與フルト改悛ヲ生セシムルト即チ「身體」ニ對シテハ「痛苦」心ニ對シテハ「恩澤」(前數一九八及ヒ次數、又一三九〇參看)更ニ常用ノ辭ヲ以テ之ヲ言ヘハ「責罰」ト「懲治」トノ思考ニ基ツクルニ非スハ決シテ善良ノ成効ヲ得サルヘシト明言シ置ントス

(一四二七)自由ヲ剝奪スルニ係ルノ刑罰ヲ構成スルニ必要ナル二個ノ元素、期限ト制度トハ其分量ニ於テコソ多少アレ何レモ右二箇ノ目的ノ各箇ヲ達スルヲ助クルノ性質ヲ有スルモノトス

(一四二八) 責罰ニ關シテ期限ト制度トハ其長短寬嚴ニ依リ刑ニ必要ナル苦痛ノ數多ノ種類ヲ與フルモノナリ、然レモ測量ト班次トノ重要ナル可キ者ハ數ヲ以テ算スルヲ得ルノ方法タル期限ナリトス(前數一二二七參看)「甚タ緊要ナル一點ハ則チ決シテ測量シテ此二ツノ元素ヲ反對ノ方向ニ働カシメサルヲナリトス何トナレハ若シ反對ノ高ニ働カシメハ監禁ノ品級ハ如何カナル可キ歟、最モ恐ル可キ刑ハ其制度ノ甚タ嚴ニシテ期限ノ甚タ短キ者ナルヤ將タ制度ノ尤モ寬ニシテ期限ノ甚タ長キ者ナルヤ、此ニ同一ノ結果ニ至ル所ノ二ツノカラアリ然ルニ此ニカラシテ交、相戰ハシメバ各、其種類ノ異ナル原因ヨリシテ終ニ囚テ

以テ生スル所ノ結果ヲ考定スル能ハサルニ至ラントス、制度ハ常ニ同一ニテ存スルモ期限一箇ニシテ尙ホ能ク品級ヲ立ツルノ確實ナル方法タルヲ得ヘシ、故ニ之ニ加フルニ制度ノ變様ヲ以テセントセハ必ス同時ニ此ニ元素ヲ調和シ常ニ期限ノ嚴ニ制度ノ嚴ノ相通スルヲ要ス、自由剝奪スルニ係ルノ刑ノ排置ニ此規則ヲ遵守セサル者、(不幸ニシテ此規則ハ成文法ニ於テ殆ト決シテ遵守セラレス)必然總テ弊害アルノ排置ナリ」之ニ反シテ此調和能ク遵守セラル、片ハ監禁ハ罰金ノミヲ以テ罰スル犯罪ヲ除クノ外總テノ犯罪ニ對シ或ハ上ホリ或ハ下リテ最モ卑キヨリ最モ高キニ至ルマテ有罪ノ度ノ總テノ階級ニ從フヲ得ヘシ、又實際ニ於テ最モ節ヲ得テ且ツ明カナル品級ヲ以テ刑ノ總テノ減輕又ハ加重ニシテ或ル名義ヲ以テ法律ニ因リ命セラレ又ハ許サル、所ノ者ヲ實行スルノ尤モ簡單ナル方法ヲ與フル者ハ獨リ此調和ヲ得タル監禁ノミナリトス

(一四二九) 之ニ反シテ懲治ニ屬スル所ノモノニ關スル緊要ナル方法ハ制度ノ中ニアリ、期限モ亦此ニ其勢力ヲ有セサルニ非スト雖モ畢竟全ク制度ニ從ヒ屬スルニ過キス監禁制度ニシテ其宜キヲ得ハ被刑者ノ心ノ改良スルコトヲ得ベキモ若シ其宜キヲ得サルニ於テハ却テ敗俗ノ媒介トナルモノナリ

(一四三〇) 此ニ其果シテ然ルヲ看ヨ、人カ其犯シタル惡事ノ理由ニ因リ罰ヲ受クルキ

ハ然ク彼レノ受クル所ノ痛苦カ彼レヲシテ其固有ノ良心ニ反求セシム此點ニ就テハ人之ヲ否定スルヲ得ス、此痛苦カ彼レヲシテ善ニハ善報アリ惡ニハ惡報アリト云フノ人心ノ調和ヲ再ヒ記念セシム、即チ此痛苦カ彼ヲシテ善惡應報ノ實際ノ經驗ヲ爲サシム、故ニ譬ヘハ新タニ罰ヲ受クルノ恐レニ因テ然リトセンカ尙ホ此痛苦ハ被刑者ヲシテ新タナル犯罪ヲ思避セシムルノ或ル歸向ヲ有スルモノトス、這ハ是レ痛苦自ラノ中ニ存在スル懲治ノ初歩ノ結果ニシテ古昔ノ刑ノ目的トシタル單一ノ結果ナリ故ニ云ヘリ（刑ハ人ヲ改悛セシムルコトニ成立ス）ト（前數二一〇參看）然レモ此歸向ノ側ハラニ於テ若シ刑トシテ科シタルノ痛苦ハ有罪者ヲシテ自暴自棄セシメ又ハ卑劣ノ感覺ヲ起サシメ又ハ破廉恥、怨恨、復讐失望ニ誘クカ如キノ性質ヲ有スルハ有罪者ノ生ヲ敗壞シタル人物ノ中央ニ委シ之ヲシテ日ニ惡習ト犯罪教導ヲ受ケシムルカ如キノ性質ヲ有スルハ痛苦ノ自ラ有スル所ノ改良ニ關スル軟弱ナル歸向ハ此ノ如キ兇惡ナル結果ノ中ニ吸収セラレテ終ニ之ヲ見サル可ク、刑ハ其達セサル可ラサル目的ニ反イテ進ム可シ、然ルモハ刑ハ是レ人心ヲ敗壞スルノ器タリ、古昔ノ處罰方法ノ刑ノ大半ハ此ノ如シ、此ノ如キ弊害ノ避ケント欲セバ監禁ノ制度ニ改良ヲ施ササルベカラズ

（二四三二） 刑ノ單一ノ痛苦ノ結果ノ方法ニ因テ懲治スルノ此歸向ハ有罪ノ度ノ下等ノ階

級ニ位スル所ノ輕キ犯罪ニシテ被刑者ノ心ニ對シ改新ノ勞力ヲ取ルノ要ヲ示サ、ル犯罪ニ係ルモハ只是レノミニテ足ルヲ得ルモノトス（前數一三四〇參看）、這ハ是レ單一罰金ノ刑ヲ該ル場合ナル可シ何トナレハ罰金即チ國庫ニ對シ或ル金額ヲ完納スルノ義務ハ毫モ自ラ人心ヲ敗壞スルノ性質ヲ有セサレハナリ、只此刑ハ其自ラ有スル痛苦ノ單一ノ結果ニ因リ懲治ノ意ヲ體シテ働クノミ（前數一三九二及ヒ一三九九參看）、又尙ホ這ハ甚ク短キ期限ノ監禁ヲ該ルノ場合ナル可シ何トナレハ僅カニ數日ノ監禁例ヘハ一二週間ノ監禁ハ人心ニ對シ改良ノ勞力ヲ企ツル爲メニ要スル時ヲ與ヘサレハナリ（前數一三四一參看）此ニ於テモ亦懲治ノ重モナル或ハ又單一ナル結果ハ痛苦ノ中ニ存ス

（二四三三） 然レモ監禁カ或ル期限ニ達スル以上ハ立法者ニ對シ總テノ者カ刑ノ本分ノ第一ノ目的タル心ノ改良ノ勞力ニ皆ナ助ケ來ルノ方法ヲ以テ監禁ノ制度ヲ組織スルノ義務現ハレ來ル立法者カ監禁ニ改良ノ制度ヲ入レ之ニ望ミヲ屬シ得ル爲メニハ此監禁ノ時間稍々長キヲ要ス然レモ必シモ其大ニ長キヲ要セサルナリ我輩ハ彼ノ此期限ヲ一年ト定メ或ハ二年マテモ至リテ而シテ短カキ時間ノ監禁ニ對シハ責罰ノ一結果ナラデハ求メサル所ノ者ノ議論ヲ容レサルヲ甚ク遠シ、疑ヒモナク是ヨリ以下ノ期限ニ於テハ囚徒ヲノ職業上ノ修業ヲ爲サシムル爲メ又ハ學事初歩ノ充分ナル大意ヲ與フル爲メ或ハ又此三箇ノ勞力ヲ企

ツル爲メニハ時間或ハ不足ナルヲ得ヘシ、然レモ囚徒ハ盡ク職業上ノ修業又初歩ノ教誨ヲ要スルニ非ス、規則正シク利益アル勞働ニ従事スルコトハ假令ヒ數月間ニ過キサルニモセヨ既ニ囚徒ノ精神ノ指向ニ關シテ利益ナキニ非ス、且ツ之ニ加フルニ職業上ノ教訓ト學事初歩ノ教訓ト上ニ尙ホ一箇ノ教育アルニ非スヤ即チ殆ント有形上ノ光輝ノ如ク速カニ進ム所ニシテ妨害一旦去リタルキハ靈魂ヲ明カニスル爲メニ屢々一電光ナラテハ要セサル所ノ此人心固有光輝アルニアラスヤ、」此一年ト云ヒ又ハ二年ト云フ期限ハ其實此ニ關係セサル所ノ彼ノ被刑者ヲ工業ニ使用スルノ意ヨリ來レリ、則チ此期限ハ右被刑者使用ノ意ヨリシテ此使用シテ工業ヲ起スノ思考ヲ全ク排斥シナカラモ尙ホ製造場ノ有様ニ倣フテ獄舎ヲ建築シ組織セント欲スル所ノ方法ノ中ニ入り來レリ、然ルモ此期限ハ或ル困難ト利益及ヒ實際上ノ處辨ノ或ル要求トニ關係チ有スルモノトス、然レモ此期限ヲ改良ノ制度中ニ制限ノ界トシテ定メントスルニ至テハ人既ニ學問ノ直理ノ中ニモ大綱領ノ中ニモ在ラサルナリ、心ノ改良ノ勞力ノ希望スル功績ニ對シテ期限ノ勢力ヲ否ミスルハ何人ト雖モ能ハサル可シ然レモ總テノ監禁皆チ責罰ノ性質ノ外ニ懲治ノ性質ヲ有セサル可ラサルハ理ノ明白ナルモノトス、故ニ我輩ハ數日ノ監禁即チ一二週間ノ監禁ニ痛苦自ラニ存スル懲治ノ歸向ヲ限ル可シ、日數此期以外ニアルキハ直チニ謂懲治ニ到着スル爲メニ働キヲ有スル所ノ制度

ノ緊要現ハレ來ル

(一四三三) 又被刑者ヲ改良スルハ困難ヲ以テ充滿シタル謀業ニシテ且ツ屢々齟齬スル所ノ者タリト雖モ此被刑者ヲシテ相互ヒニ敗壞スルヲ妨グルコトハ常ニ達シ得ルノ結果タルコトヲ忘ル可ラス、疑ヒモナク此結果ハ消極的ノ結果ナリ然レモ是ヨリシテ特ニ尤モ緊急ニ立法者ノ義務中ニ入ル者タリ、人心ヲ敗壞スルノ刑ハ之ヲ科セラル、者ニ對シテハ不正ニ且ツ一般ノ利益ニ對シテハ一箇ノ災害ニシテ實ニ奇怪ノ甚シキ者ナリ(前數一二四二參看)然ラハ則チ改良ハ姑ク之ヲ論セサルモ監禁ノ制度ハ囚徒ノ相互ヒニ敗壞スルニ妨害ヲ置クノモノタル可ク即チ根本ノ妨害ヲ置クノモノタル可キハ盡ク止ム可ラサルノコトナリトス、且ツ敗壞ハ改良ヨリハ速カニ進ムニ因リ此ニ長短ノ期限ノ監禁ヲ區別スルヲ得ス、又此元則ニ就テハ刑ヲ施スニ係ラスシテ政府ノ義務ト囚徒ヨリ要求スルコトヲ得ル權利トニ係ルカ故ニ其防禦ノ監禁ニ係ルト刑ノ監禁ニ係ルト教育懲治ノ監禁ニ係ルトヲ區別ス可キノ理之ナキナリ、總テノ監禁ニ於テ其期限ハ如何カアルニセヨ又如何ナル方法ニ因テ此目的ニ到着スルニモセヨ囚徒ヲシテ相互ヒニ敗壞スルヲ得サラシムルハ制度ニ欠クベカラザル條件ノ一ナリ

(一四三四) 今日ニ在テハ人カ引キ來ル所ノ結果ト其適用ヲ爲スノ方法ニ至テハ微差アリ

ト雖モ責罰ト懲治トノ此二ツノ思考ハ活潑ニ刑ノ中ニ集合セサル可ラサルノ緊要ヲ認可シ
公言スルコトハ少ナクモ理論上ニ於テハ尋常ノコトナリト雖モ未タ尋常普通ノコトトナ
ラスサレド監禁ノ排置上ニ最緊要タルベキノ者ハ則チ此二ツノ思考ノ各箇ハ監禁ノ排置ニ
有ス可キ位置ヲ定ムルコトト如何ナル割合ヲ以テ此ニ入ラサル可ラサルカヲ定ムルコト是
ナリ

(一四三五) 刑ノ同一ノ場合ニ於テ責罰ノ要用ト懲治ノ要用トガ一致シテ進マス或ハ又相
反背シテ進ムコトナキニ非ス且ツ實際上屢此事實アリ、今其果シテ然ルヲ見ル可シ、義務ノ大
ナラサル者ヲ破ルト社會ノ保護及ヒ安寧ノ爲メ大ニ畏懼スルニ足ラサル害惡トニ誘ク所ノ
惡癖ナリト雖モ此惡癖タルヤ之ヲ有スル者ノ心ニ固着シテ之ヲ引キ拔ク爲メニ甚々大ニ長
キ甚々大ニ困難ナル懲治ノ勞力ヲ要スル所ノ者アリ、然ルニ例ヘハ憤怒、復讐、嫉妬ノ情慾
ノ制スル所トナリテ人ヲ死ニ致シタル所ノ人ハ竊盜又ハ他人ノ財産ヲ不正ニ奪フテ生活シ
之ヲ以テ慣習トナシ殆ント職業ト爲シタル所ノ兇棍者詭騙者ヨリハ殆ント常ニ少ナク敗壞
シタル靈魂ヲ有スルモノトス、靈魂ノ學問上ヨリ論スレハ之カ理由ヲ示スニ甚々容易ナリ
又實際上ニ於テハ此事實ハ日々現ハレ來ル、監獄ノ長官ニシテ大罪人ハ一般ニ善キ囚徒ニ
シテ悔悟ト悔改ニ最モ至リ得ヘキ者ナリト言ハサルハナシ然ルニ人カ小罪人ト名ツクル者

ノ中ニ最モ惡ニ固執シ最モ兇拗ニシテ心ノ改良ニ關シテハ大イニ盡力ヲ要スル者存在ス
(一) 此ニ於テハ責罰ノ要用ト懲治ノ要用トハ同一ノ割合ニ於テ進マサルナリ、此ニ要用ノ
何レニ從テ期限ト監禁制度ノ嚴トヲ規定セサル可ラサル歟、

(二) 統計表ハ中央監獄(メーヅン、サントラール)ヨリ出タル被刑者ニ就テ禁錮ニ處
セラレタリシ者ニ關シテハ百人ノ中ニ八十ノ再犯者、懲役ニ處セラレタリシ者ニ關シ
テハ百人ノ中ニ六十五ノ再犯ヲ證セリ

(一四三六) 此答ハ社會刑罰權基礎論ヨリ自然ニ流出シテ毫モ疑ヒテ容ル、所ナシ、我輩
ハ刑ノ嚴烈ハ總テノ場合ニ於テ如何ナル配合シタル元則ニ從テ測度セラレサル可ラサルカ
ヲ知ル(前數二〇三及ヒ二五三〇參看)、倍テ監禁ニ於テ罰ノ多少大ナル嚴烈ヲ成ス所ノ者
ハ恰モ期限ト制度ノ嚴トナリトス然ラハ則チ我輩ハ何ニ從テ此期限ト制度ノ嚴トハ測度セ
ラレサル可ラサルヲ知ルナリ

然レモ社會カ刑罰權論ニ於テ改邪歸善ノ說(テネリ、ド、ラマンドマン)ト名ツクルニ說ノ
主見ニシテ前論スル所ニ反對ノ旨趣ノ來ルハ則チ此ニ於テナリトス即チ監禁ト其期限ト其
制度ノ嚴正ノ點ニ就テナリトス、此說ハ是レ緊要ノ點ヲ取テ正理ヲ顧ミス又緊要ノ一點ヲ
取テ緊要ノ數點ヲ顧ミス責罰ノ理ヲ明カニスルニ辭ヲ假リテ却テ責罰ノ思考ヲ破毀シ之ニ

代ルニ止ク治病ノ意ヲ以テシタル者ナリ(前數一八一參看)、此說ニ因レハ疑ヒモナク測度ノ單一ノ規則ハ懲治ノ要用ナリ

此主見ハ一箇ノ譬喩ニ依リテ人ノ精神ニ入り來ル、此譬喩ニ從ヘハ犯罪人ハ治療セラレ、ノ要用ヲ有スル一個ノ病者ニ過キスシテ刑ハ亦此治療ニ使用セラレ可キ一箇ノ良藥ニ過キス、我輩ハ人若シ之ヲ欲セハ此譬喩ヲ其相當ノ價格ニ制限シテ此ニ採用スルコトヲ猶豫セサル可シ此譬喩ハ多少信用ス可キ所ナキニ非ス何トナレハ刑ノ目的ノ一タル懲治ニ關スルモノニ就テハ眞實ニシテ其錯誤ヲ來タスハ唯人カ之ヲ以テ刑ノ本分ト爲シ刑ヲ立ツル爲メニ單一ノ方針ト爲ス時ニ過キサレハナリ、然レモ人若シ此單一ノ方針トシテ此譬喩ヲ取ル片ハ實ニ奇怪ノ結果ニ至ルヲ見ルヘシ

(一四三七) 此結果ノ尤モ甚クシキ者ハ我輩既ニ之ヲ知ル、若シ獄舎ヲ以テ心ニ疾病アル者ヲ治療スル爲メノ病院ニ過キストスルコトノ眞理ナリトセハ各犯罪ニ對シテ刑ヲ定メタルノ法ヲモ要セサル可ク、命令ノ方法ヲ以テ初メヨリ刑ヲ定メ之ヲ宣告スルノ裁判官ヲモ要セサル可ク、裁判ニ因テ自由ノ剝奪ニ定ムル期限ヲモ要セサル可ク、此ノ如キ實行ハ他ノ疾病者ノ治療ニ於テハ實ニ奇怪ナラスヤ、然レドモ各病者ニ對シ日々診察又少ナクモ定時ノ診察ヲ要ス可ク、病氣ノ各變症ニ從ヒ各回至當ナル異様ノ藥方ヲ要ス可ク、此藥方ハ治

愈完全ナルヤ直チニ止マサル可ラスシテ治愈全カラサル以上ハ限りナク繼續セサル可ラス(前數一八一挿註ニ參看)、嗚呼心理學ノ比較上ノ威權見ル可キナリ、嗚呼此威權ハ推理ノ精神ヲ何處マテ誘クヤ(一)

(一) 此思考ハ千八百七十四年ノ龍動ノ監獄會議ニ於テ人既ニ之ヲ見タルガ如ク亞米利加合衆國ニ於テ今日尙ホ或ル勢力ヲ有ス

(一四二八) 此ノ如ク遠ク結果ヲ推究スルコト止メテ人能ク刑法ヲ採用シ或ル限界ニ在テ初メヨリ定メタル刑ヲ採用シ、裁判官及ヒ裁判ヲ採用スルコトヲ欲セリトセンカ、然ルモ譬喩ヲ遵守シテ動カサルカ爲メニ、立法者ハ各犯罪ニ對シ裁判官ハ各犯人ニ對シ良藥ノ度ト廣サトテ懲治ノ要ニ相當セシムルカ爲メニ辭ヲ換ヘテ之ヲ言ヘハ藥方トシタル監禁ノ期限ト制度ノ嚴トテ此要ニ相當セシムルカ爲メニ懲治ノ想像上ノ緊要ヲ初メヨリ測量セサル可ラサルナリ、故ニ犯者ノ悔改ヲ來スニ常ニ尤モ困難ナル犯罪ニシテ竊盜、詐欺取財、高利貸漁獵規則違背、浮浪、乞丐、風俗ニ對スル慣習罪其他之ニ類スル犯罪ハ尤モ長キ且ツ尤モ嚴ナル監禁ノ刑ヲ以テ罰セラル可ク而シテ人ニ對スル暴行、故殺、謀殺ノ如キハ尤モ屢々刑ノ下等ノ級ニ下タルヲ見ル可キナリ

(一四二九) 最終ニハ此ノ如キ極度ニ至ラサルモ又特ニ此ノ如キ感覺ノ結果ノ爲メニ誤マ

ラル、コナキモ獄舎ノ保持法ト被刑者ニ該ツ可キ制度トニ關シ支配ノ精神ハ一般ニ獄舎ニ在ル囚徒ノ行狀ノミニ注目シテ處刑ノ理由ヲ顧ミサルニ傾ク可シ、着手シタル懲治ノ成功ト不成功トノミニ意ヲ傾ケテ犯罪ニ歸スル責罰ノ點ハ之ヲ度外視スルニ至ル可シ、終ニ既往ニ顧ミテ犯罪ノ同時ニ沂ルコトヲ得懲治ニ當ツル勢力ヲ溫度ニスルニ因リテ正理ト社會ノ緊要ノ思考タル責罰ノ主旨ヲ破壞スルニ至ラサルコトヲ得ル爲メニハ嘗テ裁判官テアリタル者カ若クハ刑事裁判ノ基礎ノ元則ヲ會得シタル者ニ非サレハ之ヲ能クスル能ハサルニ至ル可キナリ

(一四四〇) 然レモ犯罪人ハ將來ノ事件ニ因テ罰セラル、ニ非ス既往ノ事件ニ因テ罰セラ
ル即チ彼レノ犯セル罪ノ理由ニ因リ且ツ此罪ニ關シ彼レノ有罪ノ度ノ測量ニ相當シテ罰セ
ラル、モノトス、宣告セラレタル刑ニ對シ後來ノ事件即チ刑ノ執行間ノ行狀カ多少ノ勢力
ヲ及ホスコトハ敢テ之ヲ否トスルニ非ス然レモ此勢力監獄規則中ノ限界ニ止マル附加ノ勢力
ニ過キサルナリ、此ニ大罪人アリ其心ノ敗壞少ナク悔悟改ニ入り易シトセンカ誠トコ
然ラン然レモ其罪ニ因テ彼レカ破リタルノ義務彼レカ害シタルノ權利ハ純粹ノ正理ノ條件
ト社會ノ安寧ノ條件トニ於テ甚タ高キ位置ヲ有シタリキ、此ニ犯罪人アリ其靈魂尤モ卑陋
ニシテ尤モ惡ニ固執シ尤モ懲治ニ抗拒ストセシカ誠トコ然ラン然レモ彼レハ其犯罪ニ因テ

義務ノ大ナラサル者チ欠ケリ道德ノ階級ト社會ノ利益ノ階級ニ從テ緊要程度ノ少ナキ權利
ヲ害セリ、一方ヨリ見レハ人類ノ裁判ニ於テハ社會ガ人ヲ強迫シテ改良セシムルノ名義ヲ
以テ一刑ヲ人ニ加フルヲ得ルノ權利ヲ有スル爲メニハ此人カ惡癖ヲ有シ頑硬ニシテ敗壞シ
タルノ足ル所ニアラス必ヤ彼レカ定マリタル一罪ヲ犯シタルコトヲ要ス而シテ刑ノ測量セラ
ル、ハ此犯罪ニ存在スル彼レカ有罪ノ度ニ從テナリトス、又他ノ一方ヨリ見レハ一旦罪
ノ犯サ、ルヤ悔悟スルコト善ニ復歸スルコトハ如何ニ之ヲ眞實ナリト想像スルモ人類ノ裁判ニ
於テハ刑ヲ免レシメ又ハ刑ヲ直チニ止メシムル爲メニハ決シテ足ル所ニ非ルナリ(前數九
九一參看)、此ニ大ニ邪ヲ改メ正ニ歸シタル有罪人ヲ想像セシカ從テ大ニ此有罪人ハ自ら己
レ善ニ歸シタルカヲ覺ル可シ、善ニハ善附隨シ惡ニハ惡附隨スルノ此無形ノ調和ノ善美ト
緊要ヲ覺ル可シ從テ大ニ彼レ自己ノ爲メ且ツ時ニ自己外ノ者ノ爲メニ此調和ハ満足セラレ
サル可ラサルコトヲ感ス可シ、若シ然ラストセハ此調和ハ果シテ何物ノヤ又何コ因テ信用ヲ
得ルヤ」 悔悟ニ赦罪ヲ與フル其無形ノ裁判ニ於テスラ天主教旨ハ尙ホ現世ノ懺悔服罪
ヲ命ズルニ非ズヤ

(一四四一) 是ニ由テ之ヲ觀レハ監禁ノ排置ニ於テハ決シテ社會刑罰權基礎論ヨリ出ル所
ノ論理ヲ離ル可ラサルナリ、監禁ノ期限ト制度ノ嚴トハ第一ニ正理ト社會ノ緊要トノ二ツ

ノ境界中ニ存スル責罰ノ元則ト測度トニ從テ制規セラレサル可ラス(前數二〇五參看)、懲治ハ必ス達ス可キ刑ノ本分ノ目的ノ一ニシテ責罰ノ主旨ヲ破壞スルコトナク又之ヲ壓スルコトナク之ト共ニ進ミ之ニ連結シテ監禁ノ中ニ入ルニ過キサルナリ、又責罰ニ必要ナル測度ト懲治ニ必要ナル測度トノ間ニ矛盾ヲ生スルハ責罰ニ必要ナル測度ニ從テ制規セラレサル可ラサルナリ、故ニ假令ヒ懲治ノ目的ハ達セラレタルニモセヨ犯罪ニ從ヒ法律ト裁判官ニ因テ定メラレタル責罰ノ目的未タ達セサルハ監禁ハ元則上繼續セサルヲ得サル可ク之ニ反シテ此目的達セラル、ヤ即チ責罰ノ期限一旦終ルヤ假令ヒ懲治ハ未タ其旨ヲ得サルコモセヨ監禁ハ止マサルヲ得サル可シ

(一四四二) 然レハ監獄則懲戒ノ割合ニ於テ矯正ノ成リタル者ハ自ラ其賞ヲ來タシ惡ニ固執シ膠連スルコトハ反對ニ其罰アル可キハ正當ナルニ因リ又這ハ是レ懲治ノ目的ニ從ヒ刑ノ組織ヲ爲スニ於テ使用ス可キ有効ノ方法ノ一ニシテ至當ナル方法ノ一ナルニ因リ監禁ノ測度ニ關シ決シテ正理ト社會ノ緊要トノ二ツノ境界ヲ超過スルコトナリ法律ニ因テ懲治ノ主旨ニ或ル勢力ヲ與フルハ純理ノ處罰方法ノ精神中ニアリトス、此目的ハ制度ニ關シテハ囚徒ノ行狀ニ從テ或ハ嚴ニ或ハ寬ニナリ得ル所ノ取扱上ノ或ル等級ヲ定メテ以テ之ヲ達スルヲ得ヘシ、又期限ニ關シテハ懲治ノ事業ニ於テ遂ケ得タル成績ニ從ヒ宣告セラレタル監禁ノ

期限ニ於テ時ノ或ハ減縮セラレ、コトヲ得或ハ補遺トシテ増加セラレ得ルノ出入シ得ヘキ或ル部分ヲ定メ以テ(一)此目的ヲ達スルヲ得ヘシ、此論ニ關シ二箇ノ甚タ緊要ナル點ハ第一ニハ右ノ取扱上ノ等級ト出入シ得ヘキ部分トハ止テ附加ノ要物ニ過キヌシテ責罰ノ元則ニ影響ヲ及ホシ得ヘキ重モナル物ニ至ラシメサルコト是ナリ、第二ニハ此等級ト部分トハ初メヨリ一般ノ方法ヲ以テ刑法ニ因テ定メラレ從テ此等級ト部分トハ宣告セラレタル刑ノ未必ノ條件ニ入ルコト是ナリ、之ヲ適用ノ法意ニ至テハ監禁中囚徒ノ行狀ヲ能ク考定シ得懲罰ト賞譽ノ方法ニ因リ此行狀上ニ影響ヲ及ホシ得ルノ位置ニアル官署ニ委任セサル可ラス、我輩ノ列擧シ來リタル過度ニ陥ルコトナク(前數一四二六及ヒ次數參看)人能ク責罰ノ測量ノ中ニ於テ懲治ノ主旨ニ次等ノ勢力ヲ與フルヲ得ルハ此ノ如クシテ始メテ之ヲ得ルモノトス

(一) 理論上ニ於テモ實際ニ於テモ改悛シタル被刑者ノ刑ヲ減縮スルニ於テハ人皆ナ同意ヲ表スト雖モ反對ニ後チニ於テ刑ノ期限ヲ増加スルニ至テハ大ニ駁議ヲ來タス、此増加ヲ名ツケテシヤル、ハ、リユン氏及ヒボンヌビール氏ハ之ヲ補遺監獄(デマンシヨン、シユツプレマンテール)ト云フ

(一四四三) 之ヲ要スルニ此處罰方法ニ依レハ刑法ハ總テノ犯罪ニ對シ左ノ規則ヲ遵守シテ刑ヲ定メサル可ラス、第一純粹ノ有罪ノ測度ニ從フ、第二人々ノ有罪ノ測度ヲ爲メニ

裁判官ニ或ル任他限ヲ與フルヲ、第三刑ノ執行間被刑者ノ行狀ヲ監ミ懲治ノ成功不成功ニ就テ酌量スルヲ得ル爲メニ刑ノ適用上ニ於テ官署ニ更ニ新タナル任他限ヲ與フルヲ、備テ或ハ期限ニ因リ或ハ制度ニ因リ配合シタル差異ノ方法ヲ以テノ此請求ニ應シ得ルノ地位ニアル者ハ獨リ監禁ナリトス

制度、身体ニ對スル取扱(トレイトマン、フヒツツク)、心ニ對スル取扱(トレイトマン、モラール)

(一四四四) 我輩ハ是ヨリ制度ノ講究ニ移ラン而シテ此制度ニ於テハ固ヨリ人間ニ施ス所ノ所業ニ係ルニ因リ此點ニ於テモ我輩ノ講法ノ區別ニ倣ヒ我輩ハ此ニ此二箇ノ取扱ヒノ間ニ存スル所ノ解ク可ラサル連絡ト其互ニ相密着シテ互ニ及ホス所ノ勢力トニ拘ハラス之ヲ身体ニ對スル取扱ト心ニ對スル取扱トノ二ツニ區別ス可キナリ
(一四四五) 身体ニ對スル取扱ノ中ニハ囚徒ノ生活上ノ有形ノ要用ニ關スル總テノモノヲ含舊ス、人間ノ身体ノ要スル飲食食物、衣服、居所、光明、空氣、氣候、動作、運動等此諸種ノ點ニ應スルノ方法ヲ含舊ス、刑ノ固有ノ規則中ニ含舊スル通常ノ嚴酷ニモセヨ懲罰ノ名義ヲ以テ増加シ科セラレ得ル所ノ非常ノ嚴酷ニモセヨ制度ノ嚴酷ノ置カレサル可ラサル所ハ則チ此身体ニ對スル取扱ノ中ニ於テナリトス、我輩ハ斯ク論シテ(身体ニ關シテハ痛苦)ト云フ

純理ノ處罰方法ノ規則ニ從フニ過キヌ我輩ハ後チ又(心ニ關シテハ恩澤)ト云フ可シ(前數一三九〇參看)、學問ハ刑ノ管掌ヨリ毆打、折割、拷責其他身体ノ一肢若クハ或ル一機管ニ及所ノ筋肉ノ痛苦ヲ排斥ス(前數一三五參看)、(一)然レモ又學問ハ場合ニ從ヒ多少ノ嚴酷ヲ以テ身体ノ取扱ハ囚徒ノ需用ノ粗ニシテ避ケ難キ者ヲ満足スルニ止マルヲ要求シテ、總テ奢華ニ涉ルモノ富饒ニ屬スルモノ嗜欲ニ係ルモノ必要ノ満足ニ非スシテ娛樂ノ満足ニ類スル者ヲ除去スルヲ命ス、故ニ一獄舎ヲ巡視スルニ當リ食物ヲ味ヒテ「ソップ」ヲ旨シ燻肉ヲ甜シ寢床ヲ溫柔ト認メテ而シテ(誠トニ能ク保持セラレタル獄舎ナリ)ト云フ所ノ者ハ我輩ニ非ルナリ

(一) 我輩ハチツソ一氏ノ如キ高尙ナル精神ヲ有スル人ニテアリナガラ笞杖ヲ以テ正當ニシテ分割ス可ク簡便ニシテ且節儉ナル刑ナリト認メ之ヲ廢止シタルニ就テ愛惜スルヲ見テ實ニ一驚ヲ喫シタリ(其著書第三篇第一章第二款ヲ看ル可シ)

(一四四六) 此取扱ト此除去トノ嚴酷ハ期限ト相配合シ犯罪ノ上下ノ階級ニ從テ班次セサル可ラス、最上ノ限界ニシテ立法者ノ超過ス可ラサル者ハ囚徒ノ生命又ハ健康ニ對シテ危険ノ始マリ得ル所ノ限界ナリトス、囚徒ハ疾病ニモ漸ニ來ル死ニモ處セラレサルナリ、既ニ推理ヨリ出タル理論ト實驗ノ統計表ノ數トニ因リ囚獄ハ本來人類ノ自然ノ位置ニアラサル

ヨリシテ取扱上ハ總テ他ノ人間ト同シト想像スルモ一般ニ死ニ容易ニ近カシムルヲ證明セラレタリ、然ルニ制度上ニ健康ヲ害ス可キ又ハ死ヲ促ス可キ條件アラシメテ決シテ此不幸ノ運命ヲ増加ス可ラヌ此點ニ關シ衛生上要求スル所ノモノハ總テ満足セラレサル可ラサルナリ

(一四四七) 刑ノ監禁ニ於テ身体ニ對スル取扱ハ假令ヒ監禁ノ尤モ下等ナル者ニ係ルニ過キサルニモセヨ常ニ痛苦ノ性質ヲ有ス可キノ緊要ハ刑ノ思考ヨリ又他ノ一箇ノ思考ニ因リテ益々強固ナリトス、今其果シテ然ルヲ見ル可シ社會カ監禁ノ事實ニ因リ人ノ身体ヲ拿捕シ其舉動其活動ノ能力ノ自由ノ使用ヲ奪ヒ囚獄時間其活生ノ規則ヲ自ラ處分スル以上ハ只此一事ニ因リテ社會ハ其負擔トシテ此生活ノ有形上ノ需用ニ應スルノ緊要ヲ取レリ、然レモ此時ニ當リ有罪ノ囚徒カ此點ニ關シ受ケ得ル所ノ制度ト貧窮ノ勞力カ勉強ヲ極メテ漸ク其親屬ヲ養ヒ屢々尤モ緊要ナル物件ニ於テスラ満足ヲ得スシテ耐忍スル所ノ辛苦トノ對比現出シ來リテ而シテ人カ社會ノ恩惠ヲ自己ニ及ホサシムルノ方法ハ或ハ萬一善良ノ人タルヨリハ寧ロ有罪人タルニアル可キカト自問自答スルニ至ルヲ得ヘキナリ、故ニ身体ニ對スル取扱ノ痛苦上ノ嚴酷ハ之ヲ其諸點ノ一ニ就テ思考セスシテ一般ニ就テ論評シテ以テ右ノ駁議ニ應スルコトヲ得ルノ地置ニアラサル可ラサルナリ、又假令ニ此嚴酷ヲ以テスラ尙ホ

對比ハ存セサルニ非ス何人ト雖モ之ヲ自白セサルヲ得ス、又飲食物上ノ制度、衣服又ハ大氣ノ變換ニ對スル障屏等ヨリ見レハ此對比ハ特ニ其理由アリトス、然レモ畢竟スル所此ニツノ地位ノ間ニ超越ス可ラサル境界ヲ置ク所ノ心中ノ差異姑ク之ヲ論セスシテ只身体上ニ就テ見ルモ是レ所謂籠中ニ在ル鳥ト自由ヲ有スル鳥トノ譬喩ニアラスヤ、誰カ併シナカラ第一者ノ運命ハ第二者ノ運命ニ擇フ可クアルト云フヤ

(一四四八) 囚徒ハ獄舍外ニ於テ自己ニ因テカ其親屬又ハ朋友ニ因テ財源ヲ有スルヲ得ヘク又或ハ大ナル富ヲモ有スルヲ得ヘシ、此囚徒ニ此財源ノ助ケニ因リテ獄舍ニ於テ受クル所ノ身体ニ對スル取扱ノ酷烈ヲ柔ラカニシ此酷烈ニ代ルニ有形上ノ安寧ヲ以テシ、此取扱上斥クル所ノ娛樂嗜慾ヲ満足スルコトヲ許サル、ヤ、二箇ノ大理由アリテ全然之ヲ拒絕ス、第一 刑ノ痛苦ノ性質ヲ破壞セシメサルカ爲メナリ其刑ヲ空物ト爲スニ至ル可キ惡弊ノ如キハ此ニ之ヲ辨スルヲモ要セサルナリ、第二 之ヲ以テ同等ノ元則ニ害ヲ及ホサ、シシムルカ爲メナリ、若シ所有財産ノ差異ト富饒ノ利益トカ獄舍ノ痛苦ノ制度ノ中ニマテ入ルコトヲ得ハ同等ハ地ヲ拂フヘシ、」人ノ需用ノ第一ノ緊要物ニシテ前キノ二箇ノ不便ヲ醸サ、ル以上例外トシテ許サル、コトナキニ非ス例ハ囚徒ニ與ヘラル、」パン」ト同性質ノ「パン」ニシテ囚徒獄舍ノ「パン」ノ不足ヲ補フ爲メニ之ヲ得ント欲スル片ノ如キ是ナリ、」此例外ハ

甚タ重カラサル犯罪ニ係リ從テ監禁ノ下等ノ階級ニ係ルニ從テ次第ニ廣クナルコトヲ得ヘシ、然レモ常ニ規則上ノ限界ヲ出ルヲ得ヘカラサルナリ、又金錢ハ總テノ種類ノ惡弊ヲ來タス爲メニ最モ屢々ナル機會ニシテ最モ容易ナル方法ナルニ因リ刑ノ監禁ノ全期限間ハ如何ナル原因ヨリ囚徒ノ手ニ入ルニモセヨ金錢ハ決シテ何レノ囚徒ノ手ニモ渡ス可ラス又存セシム可ラサルハ常ニ至嚴ノ一箇條ヲラサルナリ故ニ規則ニ因テ許可セラレタル買物、費用又ハ差入物ハ囚徒ノ請求ニヨリ且ツ之カ爲メニ各囚徒ニ開カル、計算ニ從ヒ金錢ノ單獨ノ受寄人タル官署ノ媒介ニ因テナラテハ決シテ之ヲ爲サシム可ラサルナリ。

(一四四九) 規則ノ履行ニ因リ飲食ノ節度ニ因リ清潔ニ因リ自己ノ供給ニ對シ各囚ニ命セラレタル注意ニ因リ其他善良ノ慣習善良ノ性質ト變シ得ヘキ有形上ノ種々ノ條件ニ因リテ身体ニ對スル取扱ノ措置ハ心ノ改悛ノ點ニマテ保身上ノ勢力ヲ及ホスモノトス而シテ我輩カ心ニ對スル取扱ノ講究ニ移ル爲メニ移轉ノ點トスルハ則チ此ニアリトス。

(一四五〇) 我輩ハ此心ニ對スル取扱ノ中ニ囚徒ニ禁シ或ハ許ス交通ニ關スルモノノ勞力ニ關スルモノノ教訓ニ關スルモノノ教育ニ關スル者ヲ含蓄セシム可シ。此四箇ノ點ニ就テ人或ハ言ハン、第一第二、即チ交通ト勞力トハ身体ニ對スル取扱ノ措置ト誠トニ密接ニ連結スト是レ實ニ然リ然レモ純理ノ處罰方法ニ於テハ之ヲ先ツ第一ニ心ノ改良ニ歸向スルノ方法トシ

テ心ノ改良上ニ及ホス彼レノ勢力ノ關係ヨリ考定セサル可ラス、此交通ト勞力トハ人若シ之ヲ欲セハ身体ニ對スル取扱ヨリ心ニ對スル取扱ニ移轉スルノ中間ヲ成サ、ルニ非ス、然レモ之カ規則ノ定制セラル可キノ點ハ則チ全ク此心ニ對スル取扱ノ點ニ於テナリトス。

交通(コンミニユカシヨン)、小房監禁(アンブライツンスマン、セリユレール)、各囚徒ヲシテ不斷離隔セシムルコト(セバラシヨン、コンチコユリア、ントル、ダトユエー)。

(一四五二) 交通ニ關スル所ノ者ニ就テハ人若シ刑ノ監禁ノ措置ニ於テ囚徒ニ對シテ心理上危險ナル總テノ交通ヲ閉チ有要ニシテ且ツ勸善ノ總テノ交通ヲ開クト云フ題言ヲ實行スルニ至ルヲ得、何人カ能ク此ノ如クシテ此點ニ關シ希望ス可キ善良ノ結果ヲ得ル能ハスト爭フ者アランヤ、然ラハ則チ此題言ヲ方針トシテ監禁ノ措置ヲ爲サ、ル可ラス又完全ニ此點ニ達スルコト能ハスノハ可及的之ニ近カラシコトヲ求メサル可ラサルナリ。

(一四五三) サテ危險ナル交通ノ中ニハ疑モナク囚徒相互ヒシ交通存在ス、此交通ハ先ツ拘禁中危險ナリ何トナレハ囚徒ノ心ヲ敗壞スレハナリ又何トナレハ此交通ノ爲メニ汚穢セラレタル囚徒ハ入ル前ヨリ一層腐敗シテ出ルカ故ナリ、此交通ハ次キニ放免ノ後チ危險ナリ則チ獄舎外ニ在テ或ル放免セラレタル罪人間ノ連絡ニ因テ危險ナリ、此連絡ハ不幸ニモ放免セラレタル者ノ中ニ就テ既ニ善良ノ生活ニ歸シ又歸セント欲スル者ヲモ追隨圍繞シ

止マサルナリ

一一三

(一四五三) 人曾テ囚徒ニ沉默ノ法ヲ科シテ囚徒間ノ此敗壞ヲ導ク交通ヲ閉ルノ思考ヲ有シタリキ、我輩ハ先ツ此ノ如キ法ヲ遵奉セシムル爲メニ生シ來ル實際上ノ總テノ困難ト此法カ各時ニ適用ヲ要求スルニ至ル可キ懲罰ノ刑ノ數多ニ至ルコト之ヨリ生スル怒氣ト不服ヲ來スノ機會ト之ヲ逕ル、爲メノ數多ノ詐僞ノ方法トハ姑ク之ヲ論セサル可シ我輩ハ沈黙ノ法ノ完全ニ遵守セラレタリト想像セシ故ニ人能ク囚徒ニ言語ニ因テノ交通ヲ閉テタリトセンカ是レ既ニ大ナリ然レモ未タ盡サス、尙ホ國ニ注視ニ因リ形容ニ因リ文書ニ因テノ交通存ス、尙ホ此ニ囚徒相互ヒニ有スル面識アリ、獄舍外ニ於テ再ヒ結ハル可キ連絡アリ此連絡ニ附隨スル不幸ナル總テノ結果アリ、然ラハ則チ此方法ハ之ヲ不充分ト言ハサルヲ得サルナリ、希望ス可キ達セントカキ可キノ結果ハ囚徒相互ニ面識セサルコト決シテ相見サルコト決シテ相話ササルコト決シテ其各自ノ名ヲ呼フヲ聞カサルコト是ナリ、此點ニ到着スルコト晝間モ夜間ノ如ク言語ニ於ケルモ相視ルニ於ケルモ囚徒ノ間ニ純粹ノ隔離ヲ生スル所ノ小房監禁(譯者曰小房監禁トハ獄舍中ニ數多ノ小房ヲ設ケ囚徒二人ツ、之ニ居ラシムルヲ云フ)ノ方法ヲ以テ之ヲ得ヘシ、囚徒ノ其小房ニ入ルヤ直チニ番號ヲ取リ以來拘禁ノ場所ニ於テハ此番號ノミヲ以テ之ヲ指示ス

(一四五四) 有益ニシテ勸善ナル交通ニ關シテハ常ニ小房通路之ニ開カル可シ、法律ハ此ノ如キノ交通ヲ止タ許サ、ル可ラサルノミナラス尙ホ日ニ數回各囚ヲシテ此利益ヲ得セシムルノ方法ヲ以テ之ヲ組織セサル可ラサルナリ、獄舍ノ官吏、長官、監督官、勞力ヲ指揮スル官吏、職業又初步學ノ教導ヲ爲ス官吏、宗教ノ性質ヲ有スル者、或ル法官、或ル行政官吏、獄舍ニ對スル監察、保護又ハ恩惠ノ會社ノ受托者等ハ此種ノ交通ノ爲メニ定規及ヒ定期ノ元素トナリ得ヘシ其他又規則ノ時間ニ於テ許可シ利益アル可キ不定ノ巡視アリ、親屬朋友ノ相見ニシテ之ヨリシテ囚徒ノ勸善ニ關シ利益アル結果ナラデハ生シ得サルコト明カナルハ這モ亦右ノ中ニ算ス可キナリ

(一四五五) 此ノ如クニシテ前キニ我輩ニ因テ擧ケラレタル題言ハ完全ナルヲ得ヘシ(前數一四五參看)、此仕方ヲ以テ排置セラレタル監禁ハ左ノ如ク命セラレテ正當ナル可シ囚徒間ノ隔離ノ制度ニ從ヒタル小房監禁ト(アンプリソンマン、セリユレール、スト、ル、レシム、ド、ラ、セ、バラシヨン、アントル、デトニユー)、故ニ獨居(イウルマン)ノ制度ニ非スシテ隔離ノ制度ナリ、幽閉(ソリテール)ノ監禁ニ非スシテ離居ノ監禁ナリ、總テノ交通ヲ除棄スルノ方法ニ非スシテ其善ナル者ヲ擇ミ其惡ナル者ヲ排斥スルノ方法ナリ

(一四五六) 人嘗テ小房監禁ニ對シ屢ニ過激ノ方法ヲ以テ種ノ駁議ヲ爲セリ」中ニ就テ小

一一三

房監禁ノ甚々苛刻ナルト其囚徒ノ生命及ヒ精神ヲ毒害スル勢力アルトヨリ理由ヲ引キタル
 駁説ハ幽閉監禁ニ係ラスシテ離居ノ監禁ニ係ルキハ直チニ碎破スルモノトス、此小房監禁ノ
 二類ノ間ニアル大ナル區別ヲ知り得ル單准ノ良能ト是等ノ事ヲ尤モ管掌トスル識者及ヒ其
 組合ノ證明ト特ニ事實ノ實驗ヨリ得タル尤モ確信ス可キ證明トカ存在シテ此點ニ關シテハ
 毫モ疑ヲ狹ムニ所ナキニ至レリ、他人駁説ハ勞力ノ組織ニ對シ、各日或ル時限ニ於テ各囚徒
 ニ爲サシムル屋外ニ於テ爲ス必要ナル動作ト運動トニ對シ、一時ニ與フ可キ種々ノ類ノ教
 導ニ對シ、宗教ノ儀式ノ嚴格ナル執行ニ對シテ小房ノ制度カ現ハス所ノ困難ヨリ理由ヲ取
 リタル者ナリ、然レバ此困難ハ甚々幸ニ此事件ノ爲メニ發明セラレタル建築ト辨理ト用法
 トノ種々ノ方法ニ因リ遂ニ消滅スル所トナレリ、故ニ這ハ今日既ニ存在セサル困難ナリト
 (一四五七) 此種類ノ監禁ハ身体ノ關係ニ於テハ甚々嚴シテ心ノ關係ニ於テハ恩澤ヲ施
 スト云フノ特益ヲ有ス故ニ眞トニ能ク(身体ニ對シテハ刑ノ痛苦、心ニ對シテハ恩惠)ト云
 フ純理ノ處罰方法ノ格言ニ應スルモノトス
 (一四五八) 又尙ホ此監禁ハ其自ラ有スル所ノ嚴酷モ亦被刑者ノ心ノ頑硬ノ度ニ從ヒ自然
 ニ相當ニ平均スト云フ特益ヲ有ス、果シテ此小房ノ被刑者ノ尤モ腐敗シテ其同類ヲ接近ト
 破廉恥ノ交通トヲ絶ダレタルヲ哀ム者ノ爲メニハ甚々苛酷ト見ユ可ク耐忍シ難シト見ユ可

シ、然ルニ之ニ反シテ悔悟ニ至リ得ヘク一時ノ怒リニ乘シテ罪ヲ得又ハ卑劣ノ點少ナキ情
 慾ニ因テ罪人トナリタル者ニシテ其靈魂ノ未ダ降辱セサル被刑者、此小房監禁ヲ屢々一箇
 ノ恩惠トシテ受クルニ至ル可ク惡人ト接近スルヲ免ル、ニ因リ其身体ノ窮屈ノ大ナル如キ
 ハ之ヲ顧ミサル可キナリ、此ノ如キ意義ヲ有シテ勸クノ刑ハ立法者之ヲ採用セサル可ラス
 又此意ニ反シテ動クノ刑ハ嚴ニ之ヲ排斥セサル可ラサルナリ(前數一二八七參看)
 (一四五九) 最終ニ於テ他ノ一箇ノ利益ニシテ又小ナラサル所ノ利益ハ則チ其甚々嚴ナル
 ノ一事ニ因テ此監禁ハ大ニ短クナルヲ得ルコト是ナリ、自由ヲ剝奪スルニ係ル刑ノ總テ
 ノ階級ハ其期限ニ關シテハ然リ非常ノ方法ヲ以テ減縮セラレ得テ而シテ毫モ責罰ノ主旨ヲ
 害スル所ナカル可キナリ、是レ各囚ノ生活ニ於テ時間上ノ甚々貴重ナル節儉ナリ、政府ノ爲
 メニハ其費用ト其獄舎ニ來ル礙滯ヲ除クト其自由ノ人民ノ數ノ増加トニ於テ又同ク貴重セ
 サル可ラサル節儉ナリ噫々(一)
 (一) 國會ニ提出セラレタル府縣監獄ノ制度ニ關スル議案ハ各人禁錮ノ制度ノ下ニ受
 クル刑ノ期限ヲ四分ノ一ニ減縮セリ、我輩ハ他日(數一二五二九)千八百七十年ノ白耳義
 法ニ因テ組織セラレタル減縮ノ方法ヲ引ク可シ、日耳曼刑法ハ尙ホ一步ヲ進メ其第二
 十二條ニ於テ被刑者ハ其承諾ナクシテ三年以上小房ニ居ラシメラレサル可シト定メテ

幽居ノ保身上ノ効果ヲ妨害スルノ點ニ至レリ

囚徒間不斷離隔ノ小房監禁ニ於ケル勞務

(一四六〇) 交通ニ關スル所ノ者ヲ辯シ終リタルニ因リ我輩ハ是ヨリ心ニ對スル取扱ノ中ニ合蓄スル第二ノ點、即チ勞務ニ係ル事項ヲ講究セントス

勞務ハ大概ノ成文刑法ニ於テ痛苦ノ器械即チ刑罰ノ方法トシテ使用セラレ且ツ其最モ重キ者ノ數中ニ算セラル、刑ニシテ是ヨリ名ヲ取り強迫勞務(原語トラボウ、フォルセー譯者曰佛國刑法フトラボウ、フォルセーハ我刑法ノ徒刑ニ當ル故ニ人之ヲ徒刑ト譯シ或ハ又懲役ト譯セリ、強迫勞務ハ其直譯ナリ)ト呼フ刑アルニ至レリ、「純理ノ處罰方法ハ奮然トシテ、勞務、ノ神聖ナリトノ理由ヲ以テ此ノ如キ凌辱ヲ排斥ス可シ、勞務ハ是レ人類カ天ヨリ稟ケ得タル活動力ノ施行ニシテ人類固有ノ智力體力ノ使用ハ是レ人類ノ人類タル所以ニシテ是レ其天命ヲ完了スルニ外ナラズ、疑ヒモナク勞力ハ一箇ノ義務ニシテ人類本分ノ常道ナリ、其ノ之ヲ以テ一箇ノ刑ナリト言フ可ラサルハ尙ホ父母ヲ愛敬スルハ子タル者ノ常務タルヲ以テ故ニ這ハ一箇ノ刑ナリト云フベカラサルガ如シ、勞務ハ一箇ノ刑罰タラサルノミナラス罪囚ノ囚テ以テ得ベキ善良ノ物ハ健康、安心、輕快ニシテ歡愉ナル時日ノ經過其諸種ノ才能ノ進歩、自己ノ爲メ又人ノ爲メノ利益、其惡キ傾向ノ矯正、其道德上ノ思想ト其感覺

トノ練熟完全、等はナリ

(一四六一) 純理ノ處罰方法ニ從テ刑ノ監禁ニ於テ勞務ノ使用セララルハ則チ身体并ビニ神心ニ對スル恩惠ニシテ決シテ刑罰ノ名義ヲ以テスルニ非ズ吾人ハ已ニ實驗ニ由リ小房監禁ニ於テ囚徒ハ勞務ヲ希望シ請求シ一箇ノ恩惠トシテ之ヲ受クルヲ知レリ故ニ勞務ハ一箇ノ苦痛ニ非サルノミナラス却テ一時之ヲ奪フハ一箇ノ懲罰トナリ監獄則中ニ之ヲ入レテ好結果ヲ得ヘキニ至レリ、然レモ罰ヲ加フル所ノ社會ハ監禁ノ間且ツ此刑ヲシテ効果アラシムル爲メニ囚徒ノ生活ノ指揮スヘキモノナレハ獄舎ノ勞務ハ囚徒ノ好擇ニ任セル自由ノ勞務ニ非ラスシテ官署之ヲ選擇指揮スル所ノ規則上ノ勞務ナリ、純理ノ處罰方法ニ於テハ如何ナル目的ニ從テ此選擇此指揮ヲ爲サ、ル可ラサルカヲ論定セサルヘカラス

(一四六二) 若シ責罰ノ目的ニ於テ之ヲ爲ストセハ最モ嫌惡ス可キ最モ艱難ナル最モ危險ナル且最モ健康ヲ害スヘキ勞務ヲ擇フナル可シ、然レモ憐ム可シ、勞務ハ如何ニ艱難ナルニモセヨ如何ニ危險ナルニモセヨ、下水ノ事業ニ係ルニモセヨ礦山ニ石坑ニ水地ヲ乾涸スルノ業ニ係ルニモセヨ善良ノ職人ニシテ唯此ノ如キ勞務ニ因テ生活シ此勞務ヲ得ルヲ以テ天與ノ恩惠ノ如ク思考シ只之ヲ得サランコト是レ恐ル、者ヲ常ニ見ルヲ奈何セン而シテ今此艱難ナル勉勵此多クノ親屬ノ貴重ナル糊口ノ計ヲ以テ一箇ノ罰トシテ現ハサントシ之ヲ

受ケシメントスルハ何ソヤ噫々、或ハ又幻空ノ勞務ヲ擇フナルヘシ則チ英吉利人カ進行器械(英語トリード、ミル)ヲ以テ之ヲ行フカ如ク(一)被刑者ヲシテ空ニ動搖セシメ或ハ器械ヲ打タシメ或ハ器械ノ上ニ歩セシメテ殆ント禽獸ノ其籠檻中ニ在テ運動スルカ如クセンカ、嗚呼是レ支肢ヲ疲勞シ痛苦セシムノ目的ノ外ハ他ノ目的ヲ有セサル虛妄ノ外形ノミ」嗚呼第一ノ場合ニ於テハ勞務ヲ汚辱シ第二ノ場合ニ於テハ憫笑ス可キ勞力ノミ、此ノ如クシテ如何ソ被刑者ヲシテ勞力ノ好味ト尊敬トヲ起サシムルヲ得ンヤ、如何シテ勞務ノ固有ノ勸善ノ効果ヲ引キ出スコヲ得ンヤ如何シテ勞務ヲ以テ將來ノ善良ノ生活ヲ豫備スル器械ト爲スコヲ得ンヤ

(二) 是レ世人ノ工業的勞務ニ對シテ刑罰的ノ勞務ト稱スルモノナリ千八百七十三年二月十二日發行ノルビニュー、デー、ド、モンド(雜誌ノ名ナリ)ニ英吉利處罰方法ト題スルリボー氏ノ論ヲ掲ケタリ、氏曰ク(我輩ハ龍動府ニ屬スル所ニシテ英吉利全國中ノ最モ善ク維持セラレタル獄舎ノ一ナルチロウハエ工ノ獄舎ニ於テ左ノ事ヲ見タリ、二十四人ノ被刑者ヲシテ一器械ノ段階ノ上ニ佇立シ其頭上少許ノ距離ニアル横木ニ兩手ヲ架シテ并列セシム而シテ運轉ノ器械ヲ以テ被刑者ノ足ヲ踏ム所ノ圓形ノ段階ヲ一箇ツ、次第ニ開落ス此ニ於テ被刑者ハ決シテ場所ヲ變スルコトナク階ヨリ階ニ次第ニ攀

登ス、此ノ如クシテ八時十五分間ニ爲シタル勞力ハ直線ニキロメートル半ノ里數高キニ登ルニ價スト云フ、我輩ハ又被刑者ヲシテ數時間右ヨリ左ニ又左ヨリ右ニ鐵彈ヲ運轉セシムル所ノシヨット、ドリール(英語ナリ)ト名ツル運動ニ就テ話説セン歟、嗚呼コレ被刑者ヲ矯正セスシテ只之ヲ激スルノ結果ヲ生センノミ寄語ス英人ヨ此種ノ刑ヲ放棄スルノ時己ニ來リタルニ非スヤ、統計表ニ擧ケラレタル結果ハ英吉利人ヲシテ此ノ如キノ取扱ハ再犯ヲ妨クルニ足ラサルコトヲ知ラシムルニ足ラン即チ千八百七十年ニ於テ裁判官ハ既ニ多少時間獄舎ヲ經タリシ者六萬人餘ヲ更ニ府縣ノ獄舎ニ送致セサルヲ得サリキ)

(一四六三) 若シ被刑者ヲ使用スルノ目的ニアリトセハ政府又ハ被刑者ヲ使用スル射利者ノ爲メニ最モ大ナル金錢上ノ利ヲ與ヘ得ヘキ勞務ヲ擇ラナル可シ、此ノ如キ方法ニ於テハ囚徒ノ改悛ト將來ニ生ズベキ此種ノ勞務ノ結果ト固ヨリ措テ之ヲ問ハス

(一四六四) 之ニ反シテ純理ノ處罰方法ニ於テ要求スルカ如ク監房中勞務ノ目的ハ改悛及ヒ將來ノ生計ニ在リトセハ勞務ノ選擇及ヒ指揮ハ全ク異ナリタル性質ヲ有セサルヘカラス現在ニ於テハ被刑者ノ精神ト慣習トノ上ニ最モ善良ナル結果ヲ生シ放免後ニ至リテ被刑者ニ善良ナル生活ノ方法ヲ確ムル所ノ勞務ヲ擇ム可シ、若シ被刑者他日善良ナル生活ニ入り

得ヘキ種類ノ職業ヲ有セシキハ可及的之ヲ繼續シテ獄舎ノ中ニ於テ施行セシム可シ若シ被刑者此ノ如キ職業ヲ有セサリシキハ之ヲ教フル爲メニハ可及的其地位、其才能、又其親屬ノ住居スル場所ニシテ其刑ノ終リタル後罪囚ノ居住セムコトヲ希望スベキ處ニ適當スル職業ヲ擇ヒ其修業ニハ總テノ注意及ヒ必要ナル總テノ時間ヲ供ス可シ、諸テ此處罰方法ニ關スル細說ハ姑ク之ヲ論セス茲ニ須カラク方針トナル可キ一般ノ規則ヲ舉クレハ先ツ此ノ如シ」各囚徒ニ可及的能ク適當スル職業ハ其數甚タ多シト雖モ概テ各人一箇ニテ行ヒ得ベキ職業ニシテ人口ノ少ナキ村落ニテモ行ヒ得ル者ヲ良トス製作所ノ工事又ハ課業ニシテ殆ント各人ノ爲シ得ルカ如ク分タル勞務ニ關シテハ人口ノ多キ中心又集合ノ住居ヲ要スルニ因リ從テ容易ニ再犯ノ機會ヲ生セシムルヲ以テ此勞務ハ之ヲ適當ノ勞務ト爲スコトヲ得ス、疑ヒモナク我輩カ此ニ指示スル所ノ組織ハ困難多ク且ツ金錢上ノ利益ヲ來タスコト少ナカル可シ、製造所、工作場又ハ被刑者ヲ使用スルノ目的ヨリ見レハ是レ甚タ拙劣ナル組織ナリ、然レモ刑ノ設置ノ目的ヨリ見レハ囚徒ト社會トナシテ再犯ノ患ヲ免レシムルニ歸スル刑ノ第一ノ本然ノ目的タル懲治ニ向テ被刑者ヲ進マシムル所ノ者ハ唯リ此組織ノミ

(一四六五) 我輩ハ斷乎トシテ自由人民ノ目前ニ於テ爲ス所ノ凡テノ勞務ノ種類ヲ擯斥ス、而シテ其道路ノ築造ニ係ルト堤防ノ建築、濕地ノ乾涸、河溝、港埠、石坑、礦山開鑿、又ハ

繫船所若クハ造船所ニ於テ海軍ノ用ニ係ルト其他總テ之ニ類似スル事業ニ係ルトナ問ハザルナリ、抑モ此ノ如キノ勞務ハ囚徒間離隔ノ制度ト抵觸シ從テ純理ノ處罰方法ヨリ擯斥セラレサルヲ得サルハ論ヲ待タズシテ明カナリ(前數一四五二及ヒ一四五三參看)

而シテ隊ヲ組ミ又ハ工作場ニ於テ囚徒ヲ一同ニ勞務セシムルコトヲ採用スル或ル監禁ノ方法ニ於テスラ戶外ニ在リ自由ノ人民ノ目前ニ於テ又ハ之ニ接近スルニ非サレハ執行ヲ得サル所ノ勞務ヲ入ル、一ハ常ニ根本ノ瑕瑾ナリトス、我輩ハ此ニ外部ノ此公示、此接近、此日々ノ交通ガ假令ヒ相視ルニ因テノミニモセヨ其生スル所ノ害毒ノ結果ハ太々大ナルヲ知り又既ニ獄舎ノ牆壁中ニ閉鎖セラレスシテ外部ニ擴リ來ル所ノ此傷風敗俗ノ害ノ太々大ナルヲ知ル、又囚徒ノ周圍ニ成ル所ノ醜陋ナル聚集及ヒ總テノ監督ニ拘ハラス生シ來ル所ノ不正ノ交際ノ害太々大ナルヲ知ル、我輩ハ又犯者ノ心ニ對シ希望スル所ニ反背シテ結果ヲ生スル此ノ如キノ刑ノ責罰ノ性質ノ極メテ薄キコトヲ知ル則チ此刑ハ破廉恥鐵面皮ナル惡徒ニ因テハ熱望セラレ之ヲ苛酷ト感スル者ノ爲メニハ極メテ苛酷ナリ即チ尙ホ惡事ヲ爲スノ恥辱タルヲ感シ此ノ露肆ノ爲メニ失望シテ善ニ復歸スルノ念ヲ絶ツニ至ル所ノ者ニ對シテハ極メテ苛酷ナリ(前數一三八七及ヒ一四五八參看)、我輩茲ニ以上多數ノ瑕瑾ヲ算スルヲ息メ唯々左ノ單準ナル一問ヲ爲スニ止マル可シ、曰ク無數ナル善良ノ職人カ之ヲ爲シ又爲ザン

ト希望シ無數ノ職工場カ之ヲ爲シ又爲サント希望スル所ノ事業ヲハ何スレツ此耻ツ可キ刑罰、公衆ノ汚辱物ト貶降スルヲ得ヘキヤ、拙劣ニ組織セラレタル自由ヲ剝奪スルノ刑ニ就テ此刑ハ拙劣ノ最モ甚シキ者ニシテ又最モ哀ム可キ結果ヲ與フ、則チ責罰ノ目的ニ於テモ懲治ノ目的ニ於テモ刑ノ終リタル後チノ將來ノ職業ノ目的ヨリ見ルモ此刑ニ就テ毫モ善良ノ結果ヲ待ツ可キナシ、這ハ是レ道理上ノ有ラユル元則ノ外ニ在ル粗惡反理ノ刑ノミ、論スルニ足ラス

(二四六六) 我輩ハ田畝ノ勞務又ハ刑ノ名義ヲ以テスル農業的ノ殖民ヲ嫌忌スルニ由リ之ヲ採用スルヲ欲セス、此點ニ關シ村落ノ生活ノ有スル勸善ノ結果ヲ引キ來リテ之ヲ採用セシトスルモノ、一應理アルニモ係ハラス余輩ハ斷々乎トシテ之ヲ拒斥ス田畝ノ勞務ハ是レ慈母的ノ勞務ニシテ最モ愛敬セラレテ如何ナル尊嚴ト雖モ之ヲ卑ムルヲ得ス且ツ其激シキ疲勞ト共ニ其快樂ヲ來シテ止マサルノ勞務ナリ、大陽ノ光照、大氣ノ呼吸、時季ノ交代、山水光景ノ變換、人類ノ手ト才能トガ鼓舞スル土地發生ト蕃殖次第ニ來ル時期等嗚呼皆ナ是レ樂シカラサルハナシ、然ルニ之ヲ以テ有罪者ノ責罰トセントスルハ何ソヤ、之ニ犯罪ノ貶辱ヲ及ホサントスルハ何ソヤ、抑モ勞務ノ大ニ愛敬スベキモノタルヲ知ラサルヤ、刑ノ中ニハ毫モ責罰ノ主旨ノ存セサルヲ欲スルヤ、社會ヨリ總テノ保護ヲ除去シ此ニ此惡事ヲ爲

セハ茲ニ自由ニ此ノ如キノ生活ヲ爲スヲ得ルヲ知ラシムルヲ欲スルヤ假令ヒ遠隔ノ地ニ於テニモセヨ貧困ノ勞力者ノ爲メニ農事殖民ヲ開設セヨ善良ノ家屬ノ此徵募ニ應シ來ルヲ果シテ幾何グヤ農事殖民ハ恩惠ノ事業ニシテ乞丐ノ消滅ニ關スル問題ニ於テ用フヘキ方法ナリ又人類ノ勉強力ノ善良ナル配分ナリ、犯罪ノ惡臭ヲキ寒民ヲ撫慰スル方法ナリ、唯々之ヲ幼年囚徒ニ用ウベキニ至リテハ後ニ説明スル所アラントス然レモ此採用ノ外、農業的殖民ハ決シテ純理ノ處罰方法中ニ採用ス可ラサル者タルナリ

(二四六七) 然レモ尙ホ或ル例外ノ爲ス可キナキヤ、外部ノ工場ニ於テノ事業特ニ農事勞力ハ度ノ甚タ重カラサル犯罪ニ對スルカ或ハ又刑ノ大部分ヲ既ニ受ケ終リテ改悛既ニ善結果ヲ生シ且ツ放免ノ期ニ近ケル囚徒ニ對スル所ノ甚タ嚴ナラサル監禁中採用セラレテ利益アルニ非スヤ(一)若シ輕キ犯罪ヲ想像スルカ又ハ刑ノ既ニ受ケラレ改悛ノ功ヲ奏シタルコ近キヲ想像スルコ從テ前段駁說ノ力ヲ減ズルハ眞トニ爭フベカラズ、然レモ左ノ二ツノ事實、第一公衆ノ觀ト自由ノ人民ノ接近トニ當ル刑罰的ノ勞務、第二囚徒ニ因テ同一ニ執行セラレ相互ノ交通ヲ開ク刑罰的勞務ト、此二ツノ事實ノ存スル以上ハ純理ノ處罰方法ナル刑ノ要求スル處ニ背クモノトス、囚徒間隔離ノ制度ハ何レノ點ヨリ見ルモ此ノ如キ辨理處分ヲ容レサルナリ、其出獄ノ近キニアリテ囚徒ヲ一處ニ集合スルハ是レ此ノ制度ノ終リニ於

テ是マテ苦痛シテ生セシメント欲シタルノ結果ヲ唯一舉ニテ毀壞シ去ルナリ、故ニ離隔監禁ノ大主義ヲ取ル以上ハ他ノ方法ヲ發見セサル可ラス

(一)以太利刑法草按ノ制規スル所ハ下ノ如シ其第五十七條第一項ニ於テ其刑ノ期限ノ三分ノ二ノ時間改換ノ證據ヲ與ヘタル被刑者ヲハ農業殖民地ニ送致スルコトヲ許セリ

(一四六八) 又最終ニハ工場ニ於テ共同シテ腕力ヲ以テ爲ス所ノ勞務ハ遠ク嶋地ニ發遣セント擬スル被刑者ニ左ノ意義ヲ体シテ之ヲ適用スルヲ得サルヤ、則チ英吉利ニ於テ實行スル所ニ照准シ此發遣ノ前加ノ刑トシテ自由ノ人民ノ入來ヲ禁シ得ルノ場所ニ限リ此外部ノ勞務ヲ用フルコト注意シテ之ヲ適用スルヲ得サルヤ、或ハ又發遣ノ場所ニ於テ自由人民ノ中央ニ被刑者ノ入ルコトヲ嚴禁シ即チ此人民ヨリ遠ザカリタル場所ニ於テ之ヲ適用スルヲ得サルヤ、然ルルハ不便常ニ存スト雖モ減少セラレ若クハ場所ヲ換フ而シテ問題ハ嶋地發遣ノ問題ニシテ純理ノ處罰方法中ニ此種ノ刑ヲ入ル可キヤ否ナヤヲ論スルニ過キサルナリ(前數一三六九及ヒ次數并ヒニ後數一四九三及ヒ次數參看)、故ニ囚徒間離隔ノ制度ニ至テハ此ニ之ヲ論スルヲ得ス而シテ此點ニ至ルコトハ監禁ノ制度上既ニ被刑者ニ望ム所ナシトセサルヲ得ス又刑ハ犯罪ニ因テ害ヲ蒙リタル人民ノ中ヨリ有罪者ヲ除去シテ有形上ニ於テ社會ヲ淨除スルニ過キサル者トセサルヲ得サルナリ

(一四六九) 之ヲ要スルニ純理ノ元則ニ從テ排置セラレタル刑ノ監禁ニ於テ、勞務ハ一箇ノ恩惠ナリ然レモ此勞務ノ場所ヲ掩フ所ノ障壁即チ囚徒間離隔ノ制度ニ從ヒタル小房ノ障壁ハ此勞務ノ爲メニ刑ニ適當スル總テノ端嚴ヲ保護セサル可ラス、若シ田舎ノ人民ニ屬スル被刑者ニ係ルルハ(統計表ハ此被刑者ハ割合ニ於テ甚タ多キヲ示ス)小房ニ於テ爲サシム可キ或ハ其修業ヲモ爲サシム可キ職業ハ農業ノ補助トナル所ノ者ニシテ村落ニ於テ要用ニ且ツ行フニ容易ニシテ田畝ノ事業ノ休暇時間ニ爲シ得ル所ノ職業ノ一ナル可シ、又ハ人生ノ種々ノ必要ニ應ジ此農業ノ器械ニ應ジ此職業ノ或ル產物ノ製造着手ニ應スルノ目的ヲ有スル職業ナル可シ、畢竟スルニ職業ハ皆ナ各囚カ其刑ノ終リタル後チ進入スベキ望アル場所ニ從テ之ヲ爲サシムヘシ

(一四七〇) 勞務ノ此ノ如キ選擇、此ノ如キ指揮ハ射利ノ精神ヲ以テ爲ス所ノモノトハ固ヨリ異ナリ(前數一四六三參看)、而シテ彼ノ囚徒ノ勞務又時トシテハ屢々其身体ニ對スル取扱ノ重モナル供給マテチモ或ル請負人乃チ用達人又ハ工業人ニシテ畢竟財ヲ得ルノ目的ヲ以テ之ヲ爲ス所ノ者ニ委任スルニ因テ成ル所ノ方法ハ幾何ク拙劣ナルカ幾何ク純理ノ刑ノ元則ニ遠サカルカヲ見セシムルニ爲メニ我輩ハ右ニ所謂ル選擇ト指揮トニ遠サカルヲ示スノミコト足レリト信スルナリ、所謂企業ノ方法(システム、ド、ラントリブリーズ)ト名ツ

クル者ハ即チ右ノ方法ナリトス、此ニ此方法ノ非難スヘキ悖理并ヒニ刑事裁判ノ處刑ニ因テ已ニ証セラレタル醜陋ノ事等ハ之ヲ論スルコトナク只其平常ノ且ツ温良ノ位置ヨリ之ヲ見ルモ目的ノ差異一箇ノミニテ我輩ヲシテ之ヲ排斥セシムルニ足ル、或ハ此方法ニ從ヘバ入額ノ増加アラザラシク然レモ違ハ是レ論ス可キノ事ニ非ス、又或ル細事ニ關シ用達人又ハ格段ノ工業人ニ任スルコアルモ政府ハ決シテ勞務上ニ於テモ制度上ニ於テモ一般ノ指揮ヲ放棄ス可カラス決シテ利益ノ思考ノ爲メニ制セラレテ其目的外ニ出ツ可ラサルナリ

(一四七一) 世ニ或ハ大ニ囚徒ノ勞務ハ自由人ノ勞務ニ對シテ競争ヲ爲シ來リ從テ商品ノ價格ト賃銀ノ高トニ自然ノ相場以下ノ人爲的減少ヲ來サンコト憂フ、本年刑ノ勞務ヨリ生スル所ノモノハ自由人ノ產出スル所ニ比スレハ眞ニ些少ノ者タルニ過キスト雖モ(一)此人爲的ノ減少ハ或ル商品ニ對シテ獄舎カ企業ノ方法ニ從テ製造場ニ組織セラレタルキニ當リテハ獄舎ノ近傍ニ生スルコトヲ認メサル可ラス企業人ニ與ヘラレタル地位ハ通常ノ工業人ノ地位ヨリ優レルコト理財上獄舎ニ於テ特ニ利益ヲ與フル或ル製造ヲ擇ヒタルコト從テ過度ニ製造ヲ増加シタルコトハ此物價減殺ノ明瞭ナル原因ナリ、(二)人或ハ獄舎ニ於テ製造セラレタル產物ヲ政府ノ大ナル需用特ニ陸軍又ハ海軍ノ需用ニ供用ソ右ノ弊ヲ補ハントテ求メタリ然レモ各省ハ各々其公事ヲ區別スルヨリ各省ニ其特別ノ定金額ヲ有スルニ因リ此協

議ヲ得ルコトハ又多少ノ困難ナキコト非ス、又之ニ加フルニ或ル經濟學者ハ之ヲ以テ弊ヲ補フニ足ラストセリ何トナレハ供給ノ注文ヲ刑ノ勞務ニ爲スニ因リ從テ自由ノ勞務ニ此注文來ラサルニ至レハナリト、但シ此駁說ハ其一部分ニ於テ當ヲ得タリトスルコトヲ得ルノミ、何ソヤ、弊ノ本來ハ物ノ產出上ニアラスシテ人爲ヨリ出タル物價ノ減殺上ニアリ然ルニ產出シタル物件公用ニ供セラル、キハ人爲ノ物價減殺ハ自ラ止ミ獄舎近傍人民ハ爲メニ害ヲ受クルコトナカル可シ而シテ此公用ノ中ニ就テ獄舎自身ノ用ハ第一ニ且ツ尤モ容易ニ此產物ノ使用ニ適當ス(二)人或ハ心理上ノ調和ノ關係ニ於テ、我輩ニ因テ嘗テ實際ニ行フ可キ事ヨリハ寧ロ言フ可クシテ行フ可ラサル希望トシテ提出セラレタル一箇ノ思考ニ因テ煽惑セラレハチ得ヘシ、即チ罪アル人ノ勞務ハ善良ノ貧窮人ノ困難ヲ撫慰スルモノトナル爲メニ獄舎ニ於テ製造セラレタル產物ハ貧病院又ハ其他ノ恩惠ノ建設場ニ分附セラル、一是ナリ、然レモ刑事裁判ノ費用ト獄舎ノ費用トハ此ノ如キ棄損金ヲ増加シ得ル爲メニハ既ニ己ニ政府ノ定額上ノ重キニ過グル負擔ナリトス、此寛大ノ恩賜ニ至ルノ前ニ充タス可キ緊急ノ義務アリトス、眞ニ物價減殺ノ弊ヲ補フコトハ射利又ハ製造ノ目的ヲ以テセヌシテ純理ノ處罰方法ノ刑ノ目的ヲ以テスル離隔小房監禁ニ於テ須カラク爲ス可キ勞務ノ選擇ト指揮トニアリ(前數一四六四及ヒ一四六九參看)獄舎ノ勞務カ其產出物ノ價ニ關シテ通常ノ賣買ノ本然

ノ地位ニ入ル以上ハ只此一事ニテ人ヲシテ不平ヲ鳴ラサシムルニ足ルモノトス、囚徒ハ人類ノ一部分タルノ一事ニ因リテ他人ノ如ク勞力ヲ産出スルノ權利ヲ有ス其特別ナル地位ヲ需用供給ノ一般ノ定數外ニ於テ相場ヲ變セシムル爲メニ使用セラレサレハ足レリトス、政府カ獄舎外ニ對シテモ獄舎内ニ於ケルカ如ク現在ニ於テハ各囚徒ノ人々ノ改良ト將來ニ關シテハ善良ノ生活ノ方法トテ目的トシテ注目シテ此勞務ノ選擇ヲ爲セハ足レリトス、然ルニ弊害ヲ矯正スルヲ務メスシテ獄舎ノ勞務ヲ禁スルハ是レ幽閉ニ總テノ惡癖ノ母タル懶惰ヲ添フルナリ、人ノ此ノ如キ事實ヲ見ルコト得ルハ止テ道理絶滅ノ時代ニ於テノミ

(一) 千八百四十八年ニ於テ巴里府ノ裁縫職人カ獄舎ノ裁縫職人ノ競争ニ對シテ歎訴シタリ、然ルニ自由ノ裁縫人カ一萬五千人アリテ獄舎ニ於テ用ヒラレタル職人カ六十人ニ過キササルコトカ證セラレタリキ

(二) 是ヨリシテ幸コト亞米利ニ於テ實行セラレタル被刑者ヲ直チニ獄舎ノ建築ニ使用スルノ思考來リタリ、然レモ這ハ我輩ノ唯被刑者ノ或ル部類ノ者ニ對シテノミ採用スル所ノ者ナリ(數一四六七參看)

勞務ノ利得ノ使用

(一四七二) 刑ノ監禁ニ於ケル囚徒勞務ノ利得ハ種々ノ方法ニ使用セラレ得ヘシ即チ第一

ニハ責罰ノ主旨ヲ助クルノ方法トシ、第二ニハ犯人ノ心ノ改良ヲ助クルノ方法トシテ、第三ニハ刑ノ終リタル時ニ當リ囚徒カ獄舎ヨリ自由ニ移ルヲ助クルノ方法トシテ、第四ニハ犯罪事件又ハ刑ノ事實ニ密着ニ連絡シタル或ル義務ヲ果シ又ハ或ル費用ニ應スルノ方法トシテ之ヲ使用スルコトヲ得ヘシ」此使用ハ何レモ必要ニシテ刑ノ監禁ノ純理ノ排置中ニ之ヲ制規スルヲ要ス、然レモ囚徒ノ勞務ヨリ生シタル利得ノミヲ以テ此等總テノ費用ニ應スルコトハ希望ス可ラサルノコトタルニ因リ如何ナル分配ガ至當ナルヤ又此分配ヲ爲スニハ如何ナル方法ニ依ルヲ可トスヘキヤヲ論定セサルヘカラス

(一四七三) 責罰ノ方法トシテ囚徒勞力ノ利得ハ政府ニ屬スト定メラレ得ヘシ這ハ純理ノ處罰方法中ニ十分ニ採用シ得ヘキ痛苦ノ一種タル金錢上ノ利益ニ係ルニ過キササルナリ、本來囚徒ハ賃銀ヲ請求スルノ權利ヲ有シ之ヲ使用スル僱主ニ對スル如ク政府ニ對シテ計算ヲ要求スルコトヲ得ル自由ノ職人ノ如ク見做サレ得ルモノト自ラ想像スヘカラス、刑法ハ獄舎外ノ自由ノ勞力ニ對シテ區別ヲ爲ササル可ラス是レ一時ニ責罰ノ正理ト票例ヲ示スノ緊要トヨリ出ル一所爲ナリ、政府ハ刑ノ監禁ノ期限間囚徒ノ日々ノ生活ノ指揮ヲ有ス故ニ其活動力ノ使用ヲ有ス乃チ活動力ノ產出物ヲ物件或ハ金幣トシテ之ヲ有スルコトヲ得、然レモ此金額ヲ政府ニ屬スル以上ハ政府ハ定マリタル割合ヲ以テ前段ニ指示シタル種々ノ

使用ニ満足セシムルヲ負擔セザル可ラサルナリ是レ則チ善良ノ方法トシテ採用ス可キ分配ノ方法ハ政府ノ手ニ總テノ入額ヲ集合シ政府チシテ殆ント請負人ノ如ク至當ノ割合ニ於テ他ノ使用ニ應スルヲ任セシムルニアリト云フニ過キサルナリ

(一四七四) 犯人ノ心ノ改良ノ方法トシテハ囚徒チシテ其爲ス所ノ勞務ニ於テ進歩ヲ爲ス片ハ或ル利益ヲ得セシメ不勉強ナル片又ハ勞務ニ妨害チ爲ス片ハ不利益チ與フルチ良法トス

道理ニ照スモ實驗ニ徴スルモ此點ニ關シ最モ善良ナル獎勵ノ賞譽ハ勞力ヨリ生セル不意ノ報酬トシテ囚徒ニ或ル金額ヲ給シ之ヲ使用スルヲ許スニ在リ我輩ハ此金額ヲ使用シ得ヘキ賞金(グラチフィカシヨン、ヂスボコーブル)ト名ツク可シ、獎勵ハ囚徒チシテ互ヒニ集合セシムル所ノ職場、工作場、製造場ニ於テ共同ニ勞務チ爲サシムルニ當リテハ欠クヘカラサル良法タルカ如ク不斷ノ離隔ニ從フ小房監禁ノ方法ニ於テハ之チ欠ク可ラサル者ト爲スニ至ラス何トナレハ此ニ於テハ勞務ハ囚徒ノ爲メニ希望セラレ遂ニ要用トナルカ故ナリ然レモ此ニ於テモ此賞譽ハ疑ヒモナク勞務ニ加ヘ來タル一層ノ鼓舞トシ且ツ改良ノ精神ト一致シテ進ム賞譽トシテ必要ナリトス、囚徒ハ此金額ニ就テハ規則ニ因テ許サル、所ノ使用外他ノ使用チ爲スヲ得ス且ツ此金額ハ決シテ其手中ニ渡サレヌン既ニ我輩カ之ヲ説明シタ

リシカ如ク(前數一四一八參看)止タ官署ノ媒介ニ因テ之ヲ使用スルヲ囚徒ニ許サル可キハ言ヲ待タスシテ明カナリ、此使用ニ與ヘラル、善良ノ方向ハ例ヘハ獄舍外ニ在ル親屬チ扶助スル爲メ、被害者ニ賠償スル爲メ又ハ做シ得ベクンハ貯蓄ニ使用スル如キハ是レ心意改良事業ニ必要ナル他ノ一元素ナリトス

此使用シ得ヘキ賞金ノ多寡ノ規則及ヒ之ニ與フ可キ形式ノ規則ハ細説ノ事業ニ屬スル者ト雖モ又左ノ元則ニ因テ管理セラレサル可ラス

第一 實際ニ於テ全ク賞金(グラチヒカシヨン)ノ性質チ保存シ其實行上ニ於テ囚徒ヲシテ要求スヘキ一箇ノ權利ノ如ク見做サシムヘキ總テノ傾向チ避ケサルヘカラス、故ニ這ハ常ニ一箇ノ賞譽(レコンバンス)又ハ慰勞(レミニユネラシヨン)ニシテ其分配ハ獄舍ノ支配官署ニ任シ何人カ之ヲ受クルコ應當スルヤ否ヤチ考定セサルヘカラス」第二 此多寡ハ其最多數ノ點ニ於テハ法律ニ因テ定メラレサル可ラス而シテ官署ハ此多數ノ極點ヲ超過スルヲナク囚徒ノ行狀ニ從ヒ此點以下ニ上下スルノ自由ヲ有ス可シ」第三 此最多數ハ刑ノ階級ノ順序ニ從ヒ我輩カ既ニ前ニ(數一四二八)舉ケタル格言ニ從テ多少嚴酷ナル他ノ元素ト一致シテ進退スルヲ純理ノ處罰方法ニ全ク適合スルモノトス故ニ期限ノ最モ短クシテ制度ノ寛ナル刑ニ於テハ使用シ得ヘキ賞金ノ最多數ハ最モ多カル可ク之ニ反シテ期限長

ク制度嚴ナルルハ使用シ得ヘキ賞金ノ最多數ハ寡ナカラサル可ラサルナリ此方法ヲ排斥シ
 獄舎ニ於ケル囚徒ノ行狀ニ從テノミ使用シ得ヘキ賞金ノ最多數ヲ上下セント欲スル者ハ常
 ニ矯正ノ成否ノミニ拘泥シ犯罪ノ責罰ヲ遺忘スルノ過ヲ犯スモノナリ、我輩ハ常ニ斷乎
 トシテ此ニツノ思考ヲ失ハス其各箇ニ適合スル所ノ割合ニ於テ計算ヲ爲サンコトヲ欲スルナ
 リ(前數一四三四及ヒ次數參看)「第四 最終ニハ使用シ得ヘキ賞金ノ最多數ハ法律ニ因テ
 各囚ノ勞務ノ利得上ノ百分ノ幾何クトシテ定メラレサル可ラス是レ各囚カ受クル所ノ使用
 シ得ヘキ賞金ト各囚カ爲シ得タル勞務トノ間ノ關連ヲシテ各被刑者ニ對シ直接ニ感シ得ヘ
 ラカシムル爲ナリ這ハ賞譽獎勵ヲノ効果アラシムル爲メノ善良ナル條件中ノ一ナリトス」
 囚徒カ勞務上ニ於テノ懈怠、忌嫌又ハ妨害ニ附隨スル不利益又ハ獄舎内ノ責罰ニ因テ成リ
 立ツ所ノ懲罰ノ獎勵ハ種々ノ方法ヨリ生シ得ルモノトス」第一 此獎勵ハ自ラ或ル點マ
 テハ賞金ノ規則ト之カ計算ヲ爲スノ方法トニ附着スルモノトス但シ時ニ過失ナキモ或ル情
 狀ヨリシテ賞譽ヲ得サルコトアルノ免ルベカラサルノミ、故ニ休暇ノ日ニ對シテモ疾病ノ日
 ニ對シテモ、修業人ノ勞務カ利得ヲ生スト認メラレサル以上ハ修業中ノ日ニ對シテモ又囚
 徒ヲ罰シテ勞務ヲ爲サシメサルハ此責罰中ノ日ニ對シテモ使用シ得ヘキ賞金ハアリ得サ
 ル可シ又總テノ場合ニ於テ賞金ノ最多數ハ利得ノ割合ニ從フニ因リ自ラ懈怠又忌嫌ヲ罰ス

ルニ至ル然レモ這ハ又毫モ過失ナキ不合格ト腕力又ハ技能ノ缺乏トニモ及フナリ」第二
 此獎勵ハ支配官署ニ委任セラレタル賞金ノ與奪、増減、等ニ由ルベシ此賞金ノ與奪増減ハ
 常ニ法律ノ定メタル最多數ノ限界中ニアリテ囚徒ノ行狀ニ從テ爲ス可キハ辯ヲ待タズ又此
 行狀ハ唯リ勞務ニ關スル行狀ノミニアラスシテ尙ホ一般ノ行狀ヲモ含蓄ス可キナリ」第
 三 最終ニ此獎勵ハ特ニ勞務ニ關スル行狀ニ就テ之ヲ行フ則チ規則ニ因テ飲食上ノ費用ニ
 應スル爲メ及ヒ我輩カ後ニ講說セントスル所、他ノ止ム可ラサル使用ニ充ツル爲メニ各囚
 徒ノ勞務ノ最少ナキ點ニ付テ要求スル日々ノ結果トシテ最下ノ額數ヲ定メタルハ當リ
 若シ此數ニ達スルノ能力アリト判セラレタル囚徒ニシテ之ニ達セサルハ其達セサル各日
 ニ對シテ使用シ得ヘキ賞金ヲ與ヘタル可シ又飲食上ノ取扱ノ費用トシテ定メラレタル數ニ
 モ達セサルハ其囚徒ハ此取扱上ニ於テ食物ノ減少又ハ甚ダ嚴ナル剝奪ニモ服セラル可キ
 是ナリ

(一四七五) 刑期已ニ畢リ放免ニ遇ヒタル者ノ自由ノ勞務ト善良ナル生活トニ入ルコトヲ助
 クルノ方法トシテ節檢ニ依頼シ各囚徒ノ爲メニ獄舎ノ勞力ノ利得ノ上ニ貯蓄本錢(マツス、
 ド、レゼルブ)ト名ツクル者ヲ組織スルノ必要アリトス
 使用シ得ヘキ賞金ト貯蓄本錢トノ元則ハ其性質ニ於テ大ナル差異アルヲ以テ其組織上ニ於

ナモ同一ナルヘカラス使用シ得ヘキ賞金ハ重モニ之ヲ得ル囚徒ノ満足ノ爲メニ與ヘラレ直
 チニ之ヲ使用スルヲ許スト雖貯蓄本錢ハ放免セラル、者其自身ノ満足ノ爲メヨリハ寧
 ロ放免セラレタル者カ更ニ入ラントスル所ノ社會ノ利益ノ爲メニ設置セラレサル可ラサル
 ナリ、此本錢ヲシテ應セシメントスル所ノ費用ノ中ニ避ク可ラスシテ其避ク可ラサルヤ若
 シ他ニ如何ナル財源モナキハ勢ヒ止テ得スシテ政府カ自ラ損失シテ之ニ應セサルヲ得サ
 ルニ至ル者アリ則チ被免者カ獄舎ノ衣ヲ脱スル時ニ當リ通常衣服ノ費用、其居住セント欲
 スル場所ニ至ルマテノ道路ノ費用ノ如キ是ナリ、器械ノ買入及ヒ被免者カ爲サ、ル可ラサ
 ル職業ヲ得又ハ之ヲ待ツコト得ルノ位置ニ至ルマテノ第一ノ日用ノ入費ハ前段ノモノニ比
 スレハ甚タ緊急ナラサル種類タルカ如シ然レモ公衆安寧ノ目的ヨリ見レハ這モ亦實ニ避ク
 可ラサルモノニ非ズヤ」貯蓄本錢ノ各被免者ニ對シテ設ケラル、コトハ甚タ必要ニシテ老
 年者ニ對スルト不具者ト軟弱又ハ不能ナル職人ニ對スルト強壯ナル又ハ技巧ナル職人ニ對
 スルトヲ論セサルナリ勞務ニ合格スルト堪能ナルトヨリ出タル人々ノ利得ハ人類固有ノ地
 位ニ背カザルヨリハ社會ヨリ除去シ得サルノ甚タ必要ナル獎勵物ニシテ獄舎ノ勞力ニ關シ
 テハ使用シ得ヘキ賞金ノ中ニ存在ス、然レモ這ハ同性質ヲ以テ貯蓄本錢ノ中ニ現ハル、コ
 トヲ得ルナリ、現今ノ獄舎及ヒ工場ニ於テ一處ニ勞力セシムルノ弊害多キ組織ニ於テハ實驗

上ヨリシテ最モ重罪ニ太ダシク固結シタル囚徒ハ或ハ其獄舎ニ永ク住居シタルノ事實ニ因
 リ或ハ之ヲシテ此種ノ生活ニ熟練セシムル所ノ再犯ノ事實ニ因リ或ハ他ノ理由ニ因テ屢々
 刑ノ勞務ニ最モ多ク利益ヲ與フル所ノ職入タルコトヲ見ハセリ、而シテ同一ノ現像ハ假令ヒ
 右ニ比スレハ少ナキ割合ニ於テニモセヨ不斷ノ離隔ニ從ヒタル小房監禁ノ方法中ニモ生シ
 來リテ止マサル可キナリ、倍テ此ノ如キ被刑者ヲシテ時ノ同一ノ期限ノ終リニ於テ改良カ
 其効果ヲ生シタル所ニシテ彼等ヨリハ罪ノ輕キ囚徒ノ貯蓄本錢ヨリハ多キ本錢ヲ有シテ獄
 舎ヨリ出シム可ラス、況ンヤ又此貯蓄ハ屢々善良ノ職人カ其生計ト其親屬ノ生計トヲ負擔
 シテ艱難辛苦ノ生活ヲ爲シテ同年數間ニ節儉シテ貯蓄シ得ル所ノ者ヨリ大ニ多キニ至ルコ
 アルチヤ」最終ニハ又同一ノ理由ニ因リ被放免者ヲシテ貯蓄本錢ヲ淫蕩ニ又ハ多少不道
 理ナル費用ニ消費スルヲ得セシム可ラサル耳ナラス尙ホ此貯蓄使用ノ本然ノ目的外ニ於テ
 使用スルヲ得セシメサル可ラサルナリ、被放免者ヲシテ之カ自由ノ處分ヲ有セシム可ラス、
 被放免者ハ此貯蓄ノ使用ニ關シテハ公ケノ後見ノ一種ノ下ニアリトス、是金額ハ彼レニ因
 テ得ラレタル者ニアラス又其所有ニモ屬セス此所有ニ關スルノ思考ハ嚴ニ之ヲ破毀セサル
 可ラス這ハ是レ豫備ノ目的又此目的ニ因テナラテハ爲サレサル所ノ恩賜ナレハナリ、
 我輩ハ右ノ議論ヲ根據トシテ貯蓄本錢ニ關スル規則ハ左ノ如キ方針ニ從テ設置セラレサル

可ラサルコトヲ決定セントス」第一 日々ノ節儉ニ因テ各囚ノ爲メニ貯蓄本錢ヲ積立ツルハ任ヲ有スル者ハ政府ナル可シ、此貯蓄ノ積立ハ刑ノ勞務ノ總テノ利得ヲ一般ニ己レニ屬セシメテ殆ント請負ノ方法ヲ以テノ如ク政府カ自ラ任スル所ノ公務ノ數中ニ在ル可シ」第二 各囚徒ノ貯蓄ニ入ル、日々ノ節儉ノ高ハ各囚ノ勞務ノ利得ヲ基トセル百分率ニ由テ定メスシテ同級ノ總被刑者ニ對シテ同一ノ定數ヲ以テ定ム可シ」第三 此定數ハ刑ノ輕重ノ等級ニ從ヒテ進退シ刑期ノ最モ短カク制度ノ寬ナル監禁ニ於テハ最モ多ク即チ被刑者ノ爲メニ利多ク刑期長ク制度嚴ナルニ從テ減スルヲ良法トス、此方法ニ從フトキハ最重ナル罪ヲ犯シ最重ナル刑ニ處セラレタルモノニ對シテハ其貯蓄本錢完テ致スニハ多時ヲ要シ其監禁ノ長期限内ニ遂ニ積リテ多キヲ致スニ至ルナリ」第四 祀祭休暇ノ日ハ何人ノ爲メニモ貯蓄ノ積立ノ日ニ算セサル可シ何トナレハ此日ハ勞務ナキニ因リ從テ政府ハ勞務ヨリ得タル所ニ就テ節儉ヲ爲スト云フヲ得サレハナリ、懲罰ヲ加ヘテ勞務ヲ爲サシメサル日ハ被刑者ノ爲メニ積立ノ日トシテ算セサル可シ然レモ老年者ニ對シテモ不具者ニ對シテモ疾病者ニ對シテモ又未タ利得ヲ生セサル終業中ニ在ル囚徒ニ對シテモ總テノ他ノ者ニ對シテノ如ク積立ノ日ニ算ス可シ、是レ政府ノ任ニ置カレタル請負ノ供給ノ條件中ノ一ニシテ各囚徒ニ對シ貯蓄本錢カ同等ノ方法ヲ以テ積立ラル、モノハ畢竟各囚徒ノ勞務ヲ一般ニ取り決シテ

之ヲ區別セサルノ方法ニ依レハナリ」第五 貯蓄本錢ノ總額ハ其最多數ヲ規定シ決シテ之ヲ超過セシム可ラス人以爲ラク我國ニ於ケル現時ノ情勢ニ因レハ貯蓄本錢ノ使用ヲ以テ應セントスル所ノ種々ノ必要ヲ充分ニ満足セシムル爲メニハ二百「フランク」ヲ以テ足レリトスル故ニ貯蓄本錢ノ最多數ハ之ヲ以テシテ至當ナリトスト、但シ此額數ノ問題ハ時宜ニ關スル所ノ者ニシテ決シテ決定シテ動かサ可ラサルモノニハ非ルナリ、サテ此最多數ニ達スルヤ貯蓄本錢ハ完全シタルニ因リ其囚徒ノ爲メニ如何ナル金額ヲモ此貯蓄ノ中ニ入ル、ノ要ナカル可シ乃チ此ノ供給ハ此ニ完了シタルカ故ナリ、若シ此最多數ニ達セサル前ニ於テ或ル方法ニ因リ監禁ノ終リタルキハ貯蓄本錢ハ被放免者ノ計算ニ入りタル日數ニ從テ本人ニ屬セラル可シ、又放免前死去スル所ノ各囚徒ニ對シテハ貯蓄本錢ニ關スル問題ハアラサハル可シ何トナレハ政府ハ目的ナキ豫備的ノ此恩賜ヲ爲スノ要ナケレハナリ、且ツ此ニハ相續人ニ因テ請求セラレ得ル所ノ如何ナル權利モ之レナキナリ」第六 若シ放免ニ至ルトモ貯蓄本錢ハ直接ニハ被放免者ニ附與セラレサル可シ、則チ支配官署若クハ法律上此役義ニ任スル所ノ人ニ因テ常ニ恩賜トシテ且ツ此貯蓄本錢ノ本然ノ使用ニ適合スル方法ヲ以テ其使用カ被放免者ノ利益ノ爲メニ爲サル、カ或ハ其需用ノ有ルニ從テ金額ハ漸次ニ少シツ、渡サル可シ

(一四七六) 或ル義務ノ消却犯罪又ハ刑ニ原因シタル所ノ或ル費用ニ應スルノ方法トシテ刑ノ勞務ノ利禁ハ左ノ三點ニ使用スルヲ得ヘシ、被害者ニ對スル損害ノ賠償、刑事訴訟ノ費用ノ還納、拘禁ニ因テ生シタル衣食及ヒ其他總テノ費用是ナリ、此三種類ノ使用ニ就テハ何レヲ如何ナル割合如何ナル順序ニ從テ之ヲ採用ス可キヤ

政府ヲシテ有罪者ニ對シテ轉價ヲ要求スルヲ得ル保證人、資格ヲ有セシメ政府ヲシテ直接ニ本國地内ニ於テ犯サレタル總テノ犯罪ニ關シ被害者ニ對シテ爲ス可キ賠償ノ消却ヲ負擔セシムルノ議論ハ是レ社會カ犯罪ニ對シテ各人ニ與ヘサル可ラサルノ保護ヨリ出ル結果ニ從ヒ公ケノ保險ノ一種類ヲ構成セントスル所ノ者ナリ(前數五九四及ヒ五九五參看)此ノ如キ發議ハ現時ノ精神ト組織ノ有様トニ在リテハ實行ス可ラサル者ナリトシテ遠ク放棄セラル、者タルニ因リ此ニ之ヲ姑ク論セス又刑事裁判ハ各人ニ對スル社會ノ負債ナリ此裁判ト刑ノ執行トニ因リ生シタル費用ハ社會カ其自己ノ利益ノ爲メニ爲ス所ノ費用ナリ又特別ニ囚徒ノ飲食ト取扱トノ費用ハ此囚徒ニ社會カ科シタル自由ノ剝奪ニ必要ナル附屬ナリト云フノ考案(前數一四四七)ヲモ極論セス我輩ハ只此ノ勞務ノ利得ハ責罰ノ名義ヲ以テ其金額ヲ政府ニ屬セシムルカ故ニ(前數一四七三參看)前論ニ來リタル理由ニ因リ又此理由ヨリシテ囚徒被害者并ヒニ公衆ノ精神上トニ生スル道德上ノ結果ノ爲メニ囚徒ノ負債償却ト

シテ政府ノ自ラ任スル供給ノ中ニ被害者ニ與フ可キ賠償ヲ或ル一部分ニテモ現ハレシムルハ甚タ善良ノ方法ナリト決定スヘキノミ而シテ此ニ之ヲ現ハレシムヲ欲スル者ハ是レ刑ノ勞務ノ利得ノ過剩ハ自然ニ飲食衣服ノ費用及ヒ其他拘禁中ノ總テノ費用即チ勞務產出ノ資本ノ雜費等ニ使用セラレテ畢竟使用セスシテ保存シ置ク所ノ者ハ總テ此費用ヲ超過シタル所ノモノニ過キササルヲ以テ之ヲ以テ賠償スルハ殆ント能ハサルノコトナレハナリ、又是レ此利得ノ產出ハ理財上ノ利益ノ目的ニアラスシテ刑ノ目的ヲ以テ爲サル、カ故ニ常ニ甚タ費用ヲ要シ從テ過剩金ハ甚タ稀レニシテ之ニ付テ希望スルハ能ハサルノコトナレハナリ、裁判費用ハ刑ノ勞務ノ利得上ヨリ償却スルモノトシテ算セラレサルニ非ス、乃チ被刑者ノ負擔トシテ存ス可シ只此被刑者ノ財産ノ上ニ未タ消却セサル民事賠償ノ部分ノ後トニ其位置ヲ取ルノミ

民事賠償ニ當テラレタル額ハ使用シ得ヘキ賞金ノ額ト同ク各囚徒ノ人々ノ勞務ノ利得上ニ於テ百分率ヲ以テ定メラル可シ何トナレハ這ハ各囚人々ノ負擔ヲ卸スニ係ハレダリ」此額ハ殆ント使用シ得ヘキ賞金ノ最多數ト同クシテ輕少ノ部分タルニ過キササル可シ但シ此部分ハ賞金ノ部分ト異ニシテ監禁ノ嚴ニ從テ變更スルヲ得サル可シ何トナレハ此部分ハ責罰ノ目的ニ關セスシテ民事賠償ノ目的ニ應シテ而シテ此賠償ノ義務ハ罪ノ輕重ハ如何アルニモ

セヨ常ニ同シケレハナリ斯ク扣除スル金額ハ幾何ク些少ナルニモセヨ争フ可ラサル道德上ノ結果ヲ生スルモノトス、且ツ尙ホ我輩カ嘗テ盜罪ニ就テ話説シタル所ニ依レハ其賦物ノ金額ハ半ハ、五十「フランク」ヲ超過セサルニ因リ(前數九七七參看)略々一年以下ニ於テモ損害ノ賠償セラレ得ルハ甚タ稀レノ「ニアラサルヲ見ル可シ」賠償一旦完了セラレ、ヤ政府ハ此供給ノ負擔ヲ免レテ而シテ刑ノ勞務ノ利得上ニ於テ此供給ニ當テラレタリシ部分ハ其利益ニ歸ス可シ、又反對ニ刑ノ勞務ノ利得上ヨリ斯ク控除セラレタル金額ノ總計カ賠償ス可キ高ヨリ少ナクシテ遂ニ賠償ノ殘ル場合ニ於テモ此賠償ヲ自ラ爲スニ至リタル負債者タル被刑者ハ既ニ其幾分ヲ賠償シタルノ位置ニアリトス(一)

(一) 我輩カ刑ノ勞務上利得ノ使用ニ就テ講説シ來リタル所ノ方法ノ全局ヲ明瞭ニ會得セシムル爲メニ我輩ハ此ニ例トシテ左ノ算數ヲ示ス可シ、各囚徒ノ勞務ノ價ヲ勞務ノ各一日「フランク」(譯者曰「フランク」ハ略々我二十錢ニ通ス而シテ「サンチム」ハ其百分ノ一ナリ故ニ例ハ「二十」サンチムト云フ時ハ「フランク」ノ百分ノ二十ナリト知ル可シ)ト評定シ得ルモノト想像セシテ我輩ハ左ノ分配ヲ爲ス可シ
民事賠償 各囚人々ノ勞務ノ利得ニ就テ百分ノ二十、故ニ我例ニ於テハ「二十」サンチムナリ、是レ一年間勞務ノ日數二百九十日ト算シテ一年ノ終リニ五十八「フランク」ヲ

與フルモノトス

貯蓄本錢 定マリ金額ニシテ五年又ハ五年以下ノ監禁ニ於テハ十五「サンチム」其以上ノ年數ノ監禁ニ於テハ止テ十「サンチム」、此方法ニ依レハ貯蓄本錢ノ二百「フランク」ノ最多數ニ第一ノ場合ニ於テハ五年ヨリ少ナキ年數第二ノ場合ニ於テハ七年ヨリ少ナキ年數ヲ以テ達スルヲ得ヘシ(人若シ之ヲ欲セハ右ノ差異ヲ二ツヨリ多クスルニ於テ毫モ妨クル所アルヲ見ス)

使用シ得ヘキ賞金 其最高額ハ五年又ハ其以下ノ監禁ニ於テハ各囚人々ノ勞務ノ利得ニ就テ百分ノ十五又其以上ノ年數ノ監禁ニ於テハ止テ百分ノ十五トス、故ニ我輩ノ例ニ依レハ第一ノ場合ニ於テハ二十「サンチム」第二ノ場合ニ於テハ十五「サンチム」ナリ、而シテ支配官署ハ囚徒ノ行狀ニ從ヒ是ヨリ少ナク與ヘ或ハ毫モ與ヘサルノ自由ヲ有ス(人若シ之ヲ欲セハ右ノ差異ヲ二ツヨリ多クスルニ於テ毫モ妨クル所アルヲ見ス)殘餘即チ衣食ノ費用及ヒ其他ノ雜費ニ關スル者 第一ノ場合ニ於テハ少ナクモ四十五「サンチム」ニシテ而シテ第二ノ場合ニ於テハ五十五「サンチム」ナリ

刑ノ勞務ノ組織ニ於ケルヤ概ネ平均各囚徒一日ノ勞務ノ利得ノ高チ「フランク」ト想像シ此想像ノ利得ニ達スルヲ甚タ遠シ(中央監獄署ノ千八百七十年ノ計算ハ一年七十

八「フランク」二十六「サンチーム」ナリ、然レ我輩カ民事賠償ト使用シ得ヘキ賞金トニ關シテ定メタル割合ハ百分ノ幾何クトアルニ因リ此割合ハ自ラ平均ス可シ、只常ニ同額ニテ存ス可キ者ハ貯蓄本錢ニ關シテ定メタル額數ノミナリ」又婦女ニ對シテハ其勞務ノ産出スル所尤モ少ナキニ因リ尙ホ此額數ト割合チ底下スルチ適當トス之ヲ要スルニ最モ便利ナル例ヲ想像スルモ政府ニ殘ル所ノ者ハ衣食ノ費用ト其他拘禁ニ因テ生スル所ノ總テノ費用ヲ償フ爲メニ甚タ遠キコヲ掩蔽スルヲ得サルナリ、政府ノ定額ハ常ニ爲メニ負擔ヲ感ス可シ、是レ尙ホ其他司法部ノ總テノ費用ノ外ニ於テノ刑事裁判ニ關スル社會ノ義務ノ一箇ノ結果ナリトス

教學(アンストリユクシヨ)及ヒ教育(エデユカシヨ)

(二四七七) 教學ト教育トノ二點ハ單獨ノ心ニ對スル部分ニ屬シテ而シテ矯正ノ事業則チ恩澤ニ屬スト雖モ我輩ハ此心ニ對スル取扱ノ二點ニ就テハ話説スル所少ナカル可シ
(二)前數一三九〇及ヒ一四四五參看)

(一) ドフソンピール氏カ指明セシカ如ク教訓ハ獄舎ニ於テハ強迫ナラサル可ラス、
教學ハ 第一ニハ職業ニ關スル所ノモノナル可シ而シテ此資格ヲ以テ勞務ト放免ノ後トニ對スル被刑者ノ善良ナル生活方法ノ豫備トニ密着ス第二ニハ智識ニ關スル所ノモノナル可

シ而シテ這ハ止タ此職業ト此生活ノ經過トニ要用トナリ得ル所ノ讀書ト習字ト最モ簡單ナル算術トノ初歩ヲ含蓄ス

教育ハ是レ矯正ノ本然ノ部分ナリ、囚徒ノ心神靈魂智覺及ヒ意志ニ及フ所ノ者ハ獨リ此教育ナリ、心理上ノ藥石ヲ以テ心理上ノ疾病ヲ治療シ是ヨリ求メタル痊癒出ツト云フ無形ノ罪刑類似ニ達シ得ルモノハ獨リ此教育ナリ(前數一三四〇及ヒ一三四五參看)、偕テ此教育ハ規則ヲ以テ排置シ規則ヲ以テ會得セシメ得サル所ノ者ナリ、嗚呼幸ナル哉斯クノ如キ役義ニ身ヲ委ヌル人又感情ト宗教上ノ確信トハ此ニ大ナル部分ヲ有セサル可ラス

建築術(アルシテクチュール)

(二四七八) 建築術ハ屋舎ト其附屬ノ安排ニ於テ實行シ得ル所ノ巧妙ナル配合ヲ以テ不斷離隔ノ小房監禁ノ方法ノ實際適用ニ對シ大ナル補助ヲ與フルモノトス、問題ニ就テノ理論ト此種ノ監禁ノ總テ要求スル所一旦定マリテ之ヲ満足スルノ方法ヲ發見シ或ル困難ト又ハ能ハスト假想スルヨリ出ル所ノ駁議トヲ消滅セシメ充分ニ之ニ對シ勝ヲ制シ得タル所ノ者ハ則チ此建築術ナリ、此點ニ關シテハ既ニ毫モ疑ヲ遺ス所ナシ
費用ノ點ヨリ見レハ囚徒ノ爲メニ一獄舎ヲ建築スルニ當リ此囚徒ノ人口ノ數多ケレハ從テ此建築ニ於テ割合上ノ節儉アリトス然レモ監督、教學、教育其他不斷離居ノ小房監禁ニ於テ

避ケ難キ條件ノアルアリテ甚タ多キニ過グル人口ノ數ト協合スルヲ得サル可シ、實驗ハ五百ノ小房ヲ以テ決シテ超過ス可ラサルモノトシテ指シ示セリ

囚徒間ノ不斷離隔ノ小房監禁ノ班次

(一四七九) 不斷離隔ノ小房監禁ハ要スルニ刑法ノ單法ナルヲ得ヘシ即チ其等級ハ非常ニ異變シテ第一ニ期限ニ依テ區別セラレ其制度ハ被刑者ノ不應當カ又ハ刑ノ執行間ノ其地位ノ自然ノ關連トシテ此制度ニ附隨シ來ル所ノ或ル權利ノ失墜ト共ニ(前數一四〇八及ヒ一四〇九參看)右ノ期限ノ増加スルニ從テ次第ニ嚴ニナル所ノ單獨ノ刑トナルヲ得ヘシ而シテ此期限ト此嚴格トノ一致ハ常ニ保持セラレサル可ラサルハ既ニ嘗テ論シタルカ如シ(前數一四二八、一四四五及ヒ次數又一四五四、一四七四、一四七參看)

我輩自己ノ主見ハ此方法ヲ以テ最モ簡單ニシテ又最モ善良ナリトスルコアリ刑法ニ異様ノ刑ヲ陸續發見シ記載スル爲メニ技能ヲ盡スノ要用ナシトスルコアリ、刑ハ總テ同一ノ稟性ヲ有スルカ故ニ其各色アル點ヲ指シ示ス爲メニ特別ノ名目ヲ發見スルヲチモ自脫シ得ヘシトスルコアリ、此稟性ヲ最モ明瞭ニ說示スル所ノ普通ノ名稱例ヘハ獄舍(プリゲン)ノ名稱ノ如キカ嚴烈ノ總テ刑異ナリタル各期點ニ使用セラレテ至當ナルヲ得ヘシトスルコアリ、故ニ邦語其物カ能ク新ナル學問ヨリ出タル刑ノ單獨ト云フ此思考ニ應スルナル可シ)數

一三五ニテ見ル可シ)

然レモ公衆ヲシテ感動ヲ起サシムル爲メニ各種ノ期點ニ之ニ通スル所ハ稱呼即チ人衆ノ精神ニ感シテ而シテ一箇ノ名稱ヲ以テ次第ニ猛烈ナル責罰ノ表例ノ一結果ヲ生スルニ足ル所ノ稱呼ヲ與フルノ必要アリトス名稱ニ無要ノ重位ヲ與フルニ非サレモ我輩ハ斷然トシテ害ヲ生ス可キ又ハ誤謬ナル思考ヲ提起スル所ノ名稱ヲ擯斥ス可シ、乃チ或ル一刑ヲ指シ示ス爲メニ強迫勞務(トラボール、フアルセエ)ト云フカ如シ何トナレハ純理ノ處刑方法ニ於テ勞務ハ一箇ノ痛苦タルヲサレハナリ(前數一四六〇參看)、又ハ特別ニ或ル刑若クハ刑ノ或ル一級ヲ指シ示ス爲メニ懲治(コレクシヨネール)ノ名稱與フルカ如シ何トナレハ純理ノ處刑方法ニ從ヘハ立法者ハ總テノ刑ニ於テ懲治ヲ求メサル可ラサレハナリ、又此懲治ニ特別ノ意義ヲ與ヘ之ヲ以テ唯リ刑、警察、裁判所、獄舍チ名稱スルニ止マラスシテ犯罪チモ名稱スルニ至テハ嗚呼奇怪モ亦甚シト云フ可キナリ(譯者曰佛國刑法ノ犯罪ニシテ我刑法ノ輕罪ニ通スル者之ヲ直譯スレハ懲治犯罪ト云フ)「我輩ノ意見ニ依レハ此點ニ關シ最モ善良ナル方法ハ周密ニ犯罪ノ順序及ヒ名稱其物ニ從テ稱呼ヲ與フルニ在リ、我邦ニ於テハ例ヘハ警察ノ繫獄(ブリッヅン)輕罪ニ對スル繫獄、重罪ニ對スル繫獄ニシテ尙ホ或ル等級ニ因テ之チ差異スルコヲ得ルカ如キ是ナリ(一)

(二) 假設ノ例ヲ舉クルコト左ノ如シ但シ小房監禁カ要スル所ノ期限ノ減省ニ從フ又制度ノ嚴シ次第ニ増加スルモノトス又期限ノ區域ハ決シテ一級ヨリ他ノ二級ニ侵估スルコトヲ得サルニ從フ、「警察ノ繫獄(プリグン、ド、サンプル、ボリス)一日以上十五日以下ト爲ス但シ或ル所爲ニシテ食事ノ如キ運動ノ如キハ之ヲ衆囚同一ニ爲スコトヲ許可シ得ラル可シ輕罪以上ハ決シテ之ヲ許サス」輕罪ニ對スル繫獄(プリグン、プール、デリー)十六日以上三年以下ト爲ス」重罪ニ對スル繫獄(プリグン、プール、クリーム)第一等ハ三年以上九年以下、第二等ハ九年以上十五年以下、第三等ハ無期ニシテ十五年ヲ經過シタル後ヲ制度ノ寛柔アリトス」職業ノ再犯ニ對シテハ其刑ヲ受ケ終リタル後ヲ嶋地發遣アル可シ」國事犯ニ對スル禁ニ於テハ同一ノ班次ニシテ輕罪ニ對スル禁獄(デタンシヨン、プール、デリー)又ハ重罪ニ對スル禁獄(デタンシヨン、プール、グリーム)ノ名稱ヲ與フ但シ國事犯ト犯舍ヲ別ニス、現時繫獄一年一ケ日ノ國事犯被判刑者ハ最モ寬ナル制度ニ服セラル(千八百六十七年二月九日ノ規則)然レモ一年一箇日ヨリ多キニ處セラレタル者ハ中央監獄署ニ於テ常事犯被判刑者ト混淆セラル(千八百七十三年一月十四日ノ判定)

又同ク區別ノ判然タル獄舍カ之ニ通スルノ稱呼ヲ有シ監禁ノ各級ニ當テラル、ノ必要アリトス、疑モナク不斷離隔ノ小房制度ハ總テノ制度ノ中ニ就テ獄舍ニヨリ又ハ獄舍中ニ區域ヲ立テ以テ分離ヲ爲スノ要用尤モ少ナキモノトス何トナレハ其内部ニ於テ小房ノ方法ニ因リ囚徒間分離ハ常時存スルカ故ナリ、然レモ外部ノ結果ニ關シテハ必要ハ全ク其緊急ノ性質ヲ有シテ存在ス、區別アル監禁ノ等級ニシテ一ハ他ノ一ヨリ重シト見做サル、者カ同障壁ノ内ニ在リテ同一ノ建造物ニ於テ受ケラル、并ハ票例ノ結果ハ決シテ其方サニ然ル可キ者タルヲ得サル可シ、徒不完全ノ方法ハ常ニ公衆ノ精神上ニ輕キ刑ニ處セラレタル者ニ對シテハ不正ナル又票例ノ衰弱ニ因テ公安ノ爲メニハ不幸ナル混淆ヲ來スヘシ、是弊害ハ土地ノ幅員ノ狭ク人口ノ少ナキ小國ニ於テハ可及的害惡ヲ豫防シテ他ハ之ヲ忍ハサルヲ得ス何トナレハ各級止ター二人ノ囚徒ヲ爲メニ特別ノ獄舍ヲ建築セントスルハ能ハサルコトナレハナリ、然レモ大國ニ於テハ此ノ如キハ弊害ハ之ヲ默許スルヲ得サルモノトス

囚徒間不斷離隔ノ小房制度ヲ使用ス可ラサル所ノ監禁
(一四八〇) 不斷離隔ノ小房制度ノ方法ハ本來囚徒間相互ヒノ壞風敗俗ヲ妨クルニ必要ニ基スルニ因リ(前數一四五二參看)此ニ此壞敗ヲ恐ル、ノ充分ナル理由ヲ存セサル處ニ於テハ自ラ止マサル可ラス、我輩ハ警察ノ監禁ニモ國事ニ關スル重罪輕罪ニ對スル監禁ニモ又是非ヲ辨別シナカラ犯行セリトシテ罰セラレタル幼年者ニ對スル重罪ニ關スル監禁ニモ此

方法ヲ使用ス可ラスト思考スルナリ

(一四八一) 警察ノ監禁ニ關シテハ固ヨリ輕キ犯罪ヲ理由トスルニ過キス且ツ其多數ハ無
意犯ニシテ其期限モ極メテ短ク我邦ニ於テハ最長期五日ニ過キサルニ因リ此ニ一般ノ規則
ニ從ヘハ惡ニ固執スト云ヒ又囚徒相互ヒニ壞敗スト云フ論アルヲ得サルナリ、小房ハ此ニ
整頓ト風倍ヲ正スノ方法トシテ又或ハ囚徒ニ満足ヲ與フルノ方法トシテ採用セラレサル可
ラス然レモ囚徒ヨリ囚徒ニ對スルノ交通ハ規則ノ命スル所ニ從テ許可モラル可ク又或ル運
動ハ食事ト同ク同一ニ之ヲ爲スコトヲ得ヘシ、制度ノ最モ寛ナラサル可ラサルハ則チ此監禁
ニ於テナリトス

(一四八二) 國事犯ノ監禁國事ニ關スル重罪輕罪ニスル自由剝奪刑ニ關シテハ此種ノ重罪
又ハ輕罪ヲ生セシムル所ノ情慾、思考、感覺ハ特別ノ性質ヲ有スルモノトス(前數七〇四ヨ
リ七〇六ニ至ル參看)、此ニ於テモ亦常事ノ重罪又ハ輕罪ニ因テ刑ニ處セラレタル者ノ接近
ヨリ生スル壞敗ヲ恐ル、ノ論アルヲ得サルナリ、人或ハ國事犯被刑者ハ相互ヒニ交通シテ
屢々其思想上其感覺上ニ於テ互ヒニ信據ヲ固ウシ相ヒ挑唆シ將來ニ於テ之ヲ流通セシムル
ノ考案ヲ爲ス可シト云フコトヲ得ヘシ、其方サニ然ルヘキヲ否定スルニ非サルモ我輩ハ曩キ
ニ明示シタル(前數六九五參看)此種ノ有罪的ノ性質ヲ能ク勘考スル片ハ之ヲ對シ不斷離隔

ノ小房制度ノ使用ヲ正當ナリトスル充分ナル理由アルヲ見ルヲ得サルナリ」國事ニ關ス
ル重罪又ハ輕罪ニ對スル自由剝奪刑ハ常事ノ重罪又ハ輕罪ニ對スル此種ノ刑ノ如ク其次第
ニ重キ重罪又ハ輕罪ヲ對スル爲メニ當テラル、ニ從ヒ期限ト制度トニ因リ重キニ増加スル
種々ノ部類ニ班次セラレサル可ラス、我輩此ニ時間ノ大半囚徒ニ小房ニ拘束スルノ規則ヲ
以テ小房ノ制ヲ採用スルヲ欲ス然レモ食事及ヒ種々ノ運動ハ同一ニ之ヲ爲スコトヲ得ヘク又
獄舍外トノ交通ハ獄舍内ニ於ケルカ如ク規則ヲ以テ許可セラル可シ此點ニ對スル制度ノ寬
ト嚴トハ總テノ他ノ點ニ於テノ如ク刑ノ班次ニ於テ同一ノ結果ニ至ルノ方法ヲ以テ刑ニ期
限ノ元素ト調和一致セサル可ラサル也」國事ニ件ニ對シテ此刑ヲ受ケシムル所ノ獄舍ハ重
罪ニ係ルモ輕罪ニ係ルモ非國事件ニ對シテ刑ヲ受ケシムル所ノ獄舍ト區別セサル可ラサル
ハ必要中ノ必要ナリトス、我輩ハ既ニ之ヲ理論ヲ述ヘタリ(前數七〇七及ヒ次數參看)、他ニ
如何ナル斟酌ス可キアルモ其然カセサルヲ決シテ至當ナリトスルヲ得サルナリ、且ツ須カ
ラク常事ノ重罪又ハ輕罪ニ對スル責罰ハ之カ爲メニ却テ一層有効ナルニ至ラサルヲ得サル
ヲ確信ス可シ

(一四八三) 我輩ハ既ニ幼年被刑者ニ對シテ左ノ結局ニ誘メ所ノ考定ヲ陳述シタリキ即チ之
ニ該當ス可キノ刑ハ唯リ減輕シタル刑タル可キノミナラス尙ホ特ニ全ク他ノ一性質ヲ有ス

方法ヲ使用ス可ラスト思考スルナリ

(一四八一) 警察ノ監禁ニ關シテハ固ヨリ輕キ犯罪ヲ理由トスルニ過キス且ツ其多數ハ無
意犯ニシテ其期限モ極メテ短ク我邦ニ於テハ最長期五日ニ過キサルニ因リ此ニ一般ノ規則
ニ從ヘハ惡ニ固執スト云ヒ又囚徒相互ヒニ壞敗スト云フ論アルヲ得サルナリ、小房ハ此ニ
整頓ト風倍ヲ正スノ方法トシテ又或ハ囚徒ニ満足ヲ與フルノ方法トシテ採用セラレサル可
ラス然レハ囚徒ヨリ囚徒ニ對スルノ交通ハ規則ノ命スル所ニ從テ許可モサル可ク又或ル運
動ハ食事ト同ク同一ニ之ヲ爲スコトヲ得ヘシ、制度ノ最モ寛ナラサル可ラサルハ則チ此監禁
ニ於テナリトス

(一四八二) 國事犯ノ監禁國事ニ關スル重罪輕罪ニスル自由剝奪刑ニ關シテハ此種ノ重罪
又ハ輕罪ヲ生セシムル所ノ情慾、思考、感覺ハ特別ノ性質ヲ有スルモノトス(前數七〇四ヨ
リ七〇六ニ至ル參看)、此ニ於テモ亦常事ノ重罪又ハ輕罪ニ因テ刑ニ處セラレタル者ノ接近
ヨリ生スル壞敗ヲ恐ル、ノ論アルヲ得サルナリ、人或ハ國事犯被刑者ハ相互ヒニ交通シテ
屢々其思想上其感覺上ニ於テ互ヒニ信據ヲ固ウシ相ヒ挑唆シ將來ニ於テ之ヲ流通セシムル
ノ考案ヲ爲ス可シト云フコトヲ得ヘシ、其方サニ然ルヘキヲ否定スルニ非サルモ我輩ハ曩キ
ニ明示シタル(前數六九五參看)此種ノ有罪的ノ性質ヲ能ク勘考スル片ハ之ニ對シ不斷離隔

ノ小房制度ノ使用ヲ正當ナリトスル充分ナル理由アルヲ見ルヲ得サルナリ」國事ニ關ス
ル重罪又ハ輕罪ニ對スル自由剝奪刑ハ常事ノ重罪又ハ輕罪ニ對スル此種ノ刑ノ如ク其次第
ニ重キ重罪又ハ輕罪ヲ對スル爲メニ當テラル、ニ從ヒ期限ト制度トニ因リ重キニ増加スル
種々ノ部類ニ班次セラレサル可ラス、我輩此ニ時間ノ大半囚徒ニ小房ニ拘束スルノ規則ヲ
以テ小房ノ制ヲ採用スルヲ欲ス然レハ食事及ヒ種々ノ運動ハ同一ニ之ヲ爲スコトヲ得ヘク又
獄舍外トノ交通ハ獄舍内ニ於ケルカ如ク規則ヲ以テ許可セラル可シ此點ニ對スル制度ノ寬
ト嚴トハ總テノ他ノ點ニ於テノ如ク刑ノ班次ニ於テ同一ノ結果ニ至ルノ方法ヲ以テ刑ニ期
限ノ元素ト調和一致セサル可ラサル也」國事ニ對シテ此刑ヲ受ケシムル所ノ獄舍ハ重
罪ニ係ルモ輕罪ニ係ルモ非國事件ニ對シテ刑ヲ受ケシムル所ノ獄舍ト區別セサル可ラサル
ハ必要中ノ必要ナリトス、我輩ハ既ニ之ヲ理論ヲ述ヘタリ(前數七〇七及ヒ次數參看)、他ニ
如何ナル斟酌ス可キアルモ其然カセサルヲ決シテ至當ナリトスルヲ得サルナリ、且ツ須カ
ラク常事ノ重罪又ハ輕罪ニ對スル責罰ハ之カ爲メニ却テ一層有効ナルニ至ラサルヲ得サル
ヲ確信ス可シ

(一四八三) 我輩ハ既ニ幼年被刑者ニ對シテ左ノ結局ニ誘タ所ノ考定ヲ陳述シタリキ即チ之
ニ該當ス可キノ刑ハ唯リ減輕シタル刑タル可キノミナラス尙ホ特ニ全ク他ノ一性質ヲ有ス

ルノ刑ヲサカサル可ラサルナリ(前數二七〇參看) 晝夜ノ不斷離居ノ小房監禁ハ其幼
 弱ノ年齢ノ自然ト其次第二來ル身体ノ成長ノ需要ト既ニ甚シク抵解スル者ニシテ之ヲ幼年
 者科スルハ刑ノ始メニ於テスルニ過キサル可シ、而シテ刑ノ始メニ於テ之ヲ科スルモノハ
 是レ彼レヲシテ責罰ヲ感セシムル爲メナリ、是レ彼レカ進入シタリシ要路ヨリ遠クル所ノ
 善良ノ感化ニ彼レヲ服スルカ爲メナリ、是レ彼レヲシテ回想反求セシムル爲メナリ又彼レ
 ヲシテ此苦辛ヲ感セシメタル後之ニ繼キ來ラサル可ラサル刑ノ期點ニ危險ナク入レラレ
 得ルニ致ス所ノ善良ノ決定ヲ取ラシメンカ爲メナリ」我輩カ勞務ヲ同一ニ爲スコ又外部ノ
 勞務特ニ農事勞務ニシテ且ツ之カ附属タル職業ノ修業又ハ施行ト共ニ之ヲ採用セントスル
 ハ則チ此幼年者ニ對シテノ此第二ノ期點中ニ於テナリトス(前數一四六六參看)、故ニ我
 輩ハ幼年被刑者ノ爲メニ特別ノ獄舎ニシテ我輩カ幼年被刑者ニ對スル責罰ノ民場(コロニ
 ー、ド、レプレシヨ、ン、プール、レー、シウ、ヌ、コンダム、ネー)ト名ツクル獄ヲ欲スルナリ」
 此殖民場ハ此粹ニ公ケノ獄舎ナル可シ何トナレハ刑罰ノ權ハ獨リ社會ニ屬シテ刑ヲ執行ハ
 公署ノ官吏ヲ除ク外他人ニ因テ爲サル、ヲ得サレハナリ」刑ノ第一期點トナラザル可ラ
 サル所ノ離居小房監禁ノ期限ハ重罪又ハ輕罪ノ大小ニ相當シ且ツ幼年ノ年齢ノ二ツノ異ナ
 リタル期ノ間ニ爲スコ可キ差異ニ從ヒ法律ニ從テ定メラル可シ、此二ツノ期ハ第一ニ七歲ヨ

リ十四歲ニ至ルノ一期、第二ニ十四歲ヨリ二十一歲ニ至ルノ一期トス(前數二八一參看)、又
 右第一期點ノ監禁ノ期限ニ關シテハ裁判官ニハ人々有罪ノ度ヲ酌量スル爲メニ次キニ支配
 官署ニハ幼年囚徒カ其小房ニ於テノ行狀ニ就テ酌量スル爲メニ我輩カ前キニ説明シタル所
 ノ附加ノ加重減輕ヲ爲スコニ重ノ住他限ヲ與ヘサル可ラス(前數一四四二及ヒ一四四三參
 看)刑ノ第二期點ノ期限ニ就テモ右ニ類似スルノ方法ヲ用ヒテ略々同一ナル可シ、然レモ
 此第二期點ハ特別ニ刑ノ勸善ノ一部分タルニ因リ我輩ハ裁判官ニ許スニ幼年犯罪者カ其處
 セラレタル所ノ不斷離隔ノ小房監禁ヲ受ケタル後チ責罰ノ殖民場ニ其丁年ノ期マテ留置ス
 ルコトヲ命スルヲ得ルノ權ヲ以テセント欲スルナリ、放免セラレタル幼年者ニ對シテ裁判官
 ノ爲メニ既ニ之ニ類似スルノ權存在ス(前數二七一及ヒ二七二參看)、我輩此理ヲ推シテ之
 チ刑ニ處セラレタル所ノ幼年者ニ對シテモ欲スルナリ(一)

(一) 此希望ハドウソンヒール氏ニ因テモ提出セラレタリ且ツ氏ハ懲治ニ送附間ニ尙
 ホ長キニ至ルヲ得ルコトヲ希望セリ

(二四八四) 夜間離隔ノ小房ノ制ハ不斷離隔ノ制度ヲ使用セサル所ノ總テノ場合ニ對シテ
 整頓ト一般ノ監獄則トニ關スル一箇條件トナルヲ得可シ

懲治教育ノ監禁(アンプリツンヌマン、デッシュカシヨ、ン、コレクシヨネール)

(一四八五) 此種類ノ監禁ニ於テ忌避ス可キ最モ大ナル弊害ハ之ヲ前段(數一四八三)ノ監禁ト混スルニアリ、此ニ所謂ル監禁ハ公刑ノ目的ヲ有セス、這ハ一家庭ノ矯正及ヒ指揮ノ現在幼年者ニ對シテ缺乏スルニ因リ政府之ニ代テ爲ス所ノ者ナリ、此ニ於テハ刑ニ處セラレタル幼年者ニアラスシテ放免セラレタル幼者ニ關ス、此監禁ノ一般ノ性質ハ懲治ノ意ヲ離レザル純然タル恩惠ナリトス、若シ或ル理由ノ爲ニ幼年者ノ二階級ヲ混淆シテ而シテ之ヲ同一ノ獄舎ニ於テ同一ノ制度ニ服スルニ至ルハ正理ノ感覺ハ傷毀セラレ、票例ノ旨趣ハ誤ラレ彼等ニ對シテハ刑事裁判ハ一箇ノ死語タルニ過キササルニ至ル可キナリ(前數二七一、一四二四、及ヒ一四二五參看)

幼年被刑者ニ對シ我輩カ止タ刑ノ最初ノ時間ニ於テ贖罪前加ノ苦痛トシテ採用スル所ノ不斷隔離ノ小房監禁ハ之ヲ被放免幼年者ニ對シテ使用スルコトナカル可シ、只此監禁ハ囚徒ノ行狀上ニ關シ要用トナリ得ル所ノ内部ノ懲罰ノ處分トシテ右ノ幼年者ニ該當スル制度ノ中ニ甚々短キ期限ヲ以テ現ハレ來ルヲ得ヘキノミ」 通常ノ制度ハ夜間ノ隔離小房ニ從フ殖民場ノ制度ニシテ而シテ晝間ハ教學、職業ノ修業、教育、勞務及ヒ運動皆ナ之ヲ一同ニ爲サシム可キナリ(一)」 此殖民場ハ我輩カ幼年被放免者ニ對スル懲治教育ノ殖民場(コロニー、デジュカシオン、コレクシヨネール、ブール、レー、シウイス、デトニユー)ト名ツクル所

ノ者ニシテ彼ノ幼年被刑者ニ對スル責罰ノ殖民場トハ全ク異ナリトス、コレ公ケノ刑ニ非スシテ唯政府カ幼年者ノ矯正ト教育トニ關シ缺乏スル所ノ家屬ニ代ルノミニシテ私ノ恩惠タルニ過キス是ヨリシテ此殖民場ハ政府ニ因テ設置セラル、ト政府ノ許可ヲ經テ私人ニ因テ建設セラル、トニ從ヒ公ケノ建設タルヲ得又私設ノ建造物タルヲ得ヘキナリ、又此殖民場ハ特ニ擇テ農事ノ性質ヲ有セシム可シ然レハ此殖民場ニシテ工業ニ富ム大都府ノ人民ニ當テラル、者ナルハ此ニ入り來ル幼年囚徒ノ將來ノ生計ニ自然ニ適合スル所ノ工業ノ性質ヲ有セシメテ大ニ利益アル可キナリ」 懲治教育ノ殖民場ノ制度ハ其一般ニ於テ自ラ責罰ノ殖民ノ制度ヨリ寛ナル可シ、然レハ此制度ヲシテ決シテ放免セラレタル幼年犯罪人ノ過チニ對スル強迫ト懲治トノ性質ヲ失ハシム可カラズ何トナレハ此建設途ニ純粹ノ恩惠ノ事業ト混同シ貧困ノ家屬ヲシテ其善良ナル子孫ノ爲メニ之ヲ誘ミ希フニ至ラシムルノ恐レアレハナリ」 懲治教育ノ殖民場ニ拘禁スルニ關シ裁判官ニ因テ定メラル、時間ハ幼年囚徒ノ滿二十一歳ノ年齢マテ得ヘシ何トナレハ此拘禁ハ重モニ恩惠ノ主旨ニ關スル所ノ一處分ニシテ一箇ノ修業及ヒ善良ノ指揮ヲ完了スル爲メニ充分ノ時間ヲ要スレハナリ(二)、然レハ此時間ハ決シテ動カス可ラサル者ニアラサル可シ、此拘禁ハ若シ管理官署ニ因テ至當ト判セラレタル理由アリテ之ヲ請求スルハ常ニ終ルコトヲ得ヘキナリ(前數二七二參看)

(一) 放免セラレタル幼年者ニ其二十歳ニ達スルマテ辞ヲ換ヘテ之ヲ言ヘハ六年間七
 年間或ハ又尙ホ長キ年數ニ至ルマテ不斷離隔ノ小房監禁ヲ科スルトハ嗚呼又威力ノ如
 何ナル濫用ツヤ然ルニ同事件ニ就テ罰ス可キ丁年者ハ却テ僅々數月間ノ禁錮ニ罰セラ
 ル嗚呼割合ヲ忘却スルノ何ソ甚シキヤ、這ハ是レ刑法ニ外物タル行政上ノ左ノ精神ヲ
 其極端マテ推シ及ホシタルニ非サルナキヲ得ンヤ、曰ク(彼レヲ罰セラレヨ、而シテ予
 ニ如何ナル名義カヲ以テ附送セラレヨ、予ハ次キニ予カ爲サント欲スル所ノモノヲ爲
 ス可シト)嘗テ單ニ行政官ニ因テ適用セラレタル此方法カ千八百五十年八月十三日
 ノ法ニ因テ改正セラレサリシ以前ニ在テハロケット(譯者曰巴里ニアル獄舎ノ名ナリ)
 ニ於テ左ノ事ヲ見ルニ稀有ノコニアラサリキ、而シテ這ハ予カ自ラ目撃セシ所ナリ、一
 箇小房ニ幼年被刑者一人、其鄰房ニ被放免幼年者一人、而シテ此二人ハ通謀シテ同一ノ
 罪ヲ犯シタリト公訴セラレテ一ハ是非ヲ辨別シテ犯シタリト判セラレ一ハ辨別ナクシ
 テ行ヒタリト判セラレタル所ノ者ナリ此二者同一ノ獄舎ニ於テ同一ノ制度同一ノ小房
 監禁ニ服セラレテ而シテ期限ハ幾何ンソ曰ク被刑者ハ二年、被放免者ハ二十歳ノ年齢
 マテナリ嗚呼又甚タシト云フ可シ如何ニツ被告カ其幼年ナルコトヲ掩蔽シ年齢ヲ偽ハリ
 テ十六歳ノ丁年者ナリト云フヲ見テ驚クヲ得ンヤ、如何ンソ幼年者カ放免セラレ、ヨ

リハ却テ屢々罰セラレ、ヲ喜ブヲ見テ驚クヲ得ンヤ

(二) 我輩ハ被刑幼年囚徒ニ對シテハ二十一歳ニ至ルコトヲ得ルヲ請求ス可シ是レ是等
 ノ者ニ對シテ特ニ嚴ナランコトヲ欲シテナリ、然レモ之ニ對シテ然リ補助トシテ命セラ
 レタル拘禁ハ被放免幼年者ノ拘禁ノ如ク至當ナリト判セラレタル理由ノ存スル場合ニ
 於テハ直チニ終ルコトヲ得ヘカラシム可キナリ

婦女ニ對スル獄舎

(一四八六) 丁年者ニ對シテモ又幼年者ノ或ハ罰セラレ或ハ放免セラレタル者ニ對シテモ
 種々ノ性質ノ甚タ緊急ナル理由ノアルアリテ男女ノ區別ハ敬セラレ從テ婦女ト幼年女囚ト
 ニハ特別ノ獄舎ヲ與フルコトヲ要ス、而シテ其獄舎ノ組織ニ至テハ我輩カ陳述シ來リタル所
 ノ根本ノ規則ヲ常ニ遵奉シ且ツ婦女ノ身体及ヒ心ノ稟質ト其事業又ハ勞務ノ性質トニ適合
 セシメサル可ラサルナリ

學者宜シク下ノコトニ注目ス可シ、人若シ刑ノ名稱ト期限トノミニ就テ考フレハ同一ナル
 カ如キ刑ノ外面ノ形狀ノ下ニ於テ婦女ノ刑罰ト男子ノ刑罰トニ關シ道義學者カ種々ノ理由
 ヨリシテ請求シテ止マサル所ノ判然タル差異ヲ見ハスニ足ル可キ甚タ深遠ナル區別即チ制
 度ノ基本タル區別ハ此特別ノ組織中ニ存セザルベカラズ

(一四八七) 滿七十歳ノ年齢以上ノ者ニハ不斷離隔ノ制度ヲ行フベカラズ、監禁ハ常ニ小房ノ制ニ從フト雖モ食事ト運動トハ此年齡ノ衛生法ニ因テ命セラル、所ノ攝生上ノ變更ニ從ヒ之ヲ共同ニ爲サシム可キナリ」然レモ食事ト運動トチ人ト共ニ爲スコトヲ得ルノ利ヲ允准スルノ前ニ於テ尙ホ七十歳ノ者ト雖モ其刑ノ始メニ在リテハ不斷離隔ノ或ル時間ヲ受ケシメサル可ラサルナリ

又前段婦女ニ就テ辯シタルカ如ク老年者即チ右ノ年齢ニ達シタル者ニ特別ノ獄舎ニシテ其制度及ヒ其處分ハ重罪又ハ輕罪ノ理由ニ因リテ多少嚴ナル刑ノ性質ヲ失フコトナキモ老衰カ自ラ被刑者ヲ誘キ來リタル新タナル地位ニ適合スル所ノ獄舎ヲ與フルコトハ刑ノ施行ニ於テ爭フ可ラサル一條ノ進歩ナリトス、若シ心ニ對スルモ婦女ノ刑罰ハ其組織ニ於テ男子ノ刑罰ニ異ナラサル可ラストセハ老年者ノ刑罰ト年齢強壯ノ者ニ適用スル所ノ者トノ比較ニ於テモ亦同一ナラサル可ラサルニ非スヤ、然レモ此ニ於テハ獄舎ノ別離ノ緊要ハ甚タ大ナラストス何トナレハ同一ノ獄舎ニ於テ區域ヲ立ツルノ方法ニ因リ殆ント欲スル所ノ結果ニ近ツクヲ得レハナリ、且ツ之ニ加フルニ此ノ如キ特別ノ獄舎ヲ建設シテ満足ヲ得ル爲メニハ幅員ノ甚タ大ニシテ人口ノ多數ナル邦國タルヲ要スルナリ

刑ヨリ社會通常ノ生活ニ至ル移轉方法ノ處分

(一四八八) 此處分ノ緊要ナルハ我輩既ニ之ヲ知レリ(前數一三四三)、處罰方法ニシテ此處分ヲ實行セサル以上ハ之ヲ不完全トイハサルベカラズ、刑ノ此部分ハ成文法ニ於テハ最モ放棄セラレタル部分ニシテ學問上ニ於テモ亦考定シタル目的ニ達スル爲メノ實際方法ニ關シテハ最モ少ナク進歩シ又最モ決定セラレタルノ點少キノ部分ナリトス(一)

(一) 此問題ニ關シテハ多クノ著書ノ中ニ就テシヤル、リユカス氏カ千八百三十八年ノ著述ニ係ル監禁理論第三卷三十五丁ニ於テ監禁ノ理論ニ密着スル所ノ前加ノ定規及ヒ補遺ノ定規ト題シタル項ヲ參看ス可シ」又千八百四十七年ノ著述ニ係ルボンヌピール氏カ獄舎ノ制度ノ諸種ノ補遺ノ定規ノ講義ト題スル書」又ベランゼト氏カ著書刑ノ責罰第一卷四百四十丁以下及ヒ第二卷二百二十四丁、二百三十一丁以下ヲ參看ス可シ

最モ重モナル方法ニシテ近時發見セラレ且其或ル部分ニ諸國ニ於テ種々ノ被刑者ニ對シテ使用セラレタル方法ハ則チ左ノ三箇ナリトス、第一預備釋放(リベラシヨシ、アレバトワール)第二貯蓄本錢(マツス、ド、レゼルブ)第三庇保ノ會社(ソシエテ、ド、パトロナーヂユ)(一四八九) 豫備釋放ハ前ニ我輩カ辨シタルカ如ク(數一四四二)左ノ元則ニ密着スルモノ

トス、則チ獄舎ニ於テ被刑者ノ行狀ト其生シ來リタル改悛トヲ不問ニ付セザル爲メニ法律ハ刑ノ期限ノ中ニ於テ制度ガ寛ニセラレ得ル所ノ或ル期點ヲ定メサル可ラス或ハ又拘禁カ減省セラレ得ル所ノ或ル附加ノ區分ヲモ定メサル可ラスト云フ原則是ナリ

囚徒間不斷離隔ノ小房制度ニ於テハ囚徒ヲ其行狀ト其精神ノ情態トニ從テ種々ノ等級ニ區別スルコトハ囚徒ヲ一處ニ置ク監禁ノ制ニ於ケルト同一ノ目的ニ於テ必要ナルニ非スト雖モ亦各被刑者ニ對シ改悛ノ成否及ビ之レヨリ生ズル結果トヲ指シ示ス爲メニ必要ナリトス

此等級ヲ立ツルコトハ紙上ニ於テ即チ被刑者ヲ其番號ヲ以テ指シ示スル所ノ表ニ記入シテ甚タ簡單ナル方法ニ因テ之ヲ爲スニ過ギサル可シ然レトモ此等級ハ取扱ノ變更ニ因リ之ニ附屬スル所ノ利益ト不利益トニ因リ實効アル結果ヲ有ス可シ、獄舎ニ於テ總テノ官吏ニ對シ又巡視訪問人ニ對シテハ揭示ノ方法ヲ以テ右ノ表ヲ公示スルコト又常ニ離隔シ居ル囚徒ニ對シテハ或ル定時ニ於テ告誥ヲ以テ此表ヲ示スコトハ囚徒ヲシテ幾何カ競争心ヲ起サシムルニ足ル可シ」此表ニ就テ最モ緊要ニ最モ希望スベク且ツ尤モ勢力アルハ改悛セリト判セラレタル囚徒ノ表ナリトス、預備釋放ノ方法ヲ以テ移轉方法ト爲スハ則チ此囚徒ニ對シテナル可シ

本然ノ釋放ニ誘ク所ノ此預備ノ釋放ニ誘ク爲メニ又種々ノ順序ヲ立ツルコトヲ得ヘシ」第

一ハ改悛シタル囚徒ニ其小房ニ於テ獄舎外ヨリ來ル勞務ノ注文ヲ受クルコトヲ允准スルコト即チ此試驗ニシテ遂ケラレナハ預備又ハ本然ノ釋放ノ後チ或ハ此囚徒ヲ使用セントスル人ヨリ官署ノ許可ヲ得テ來ル注文ヲ受クルコトヲ允准スルコト是ナリ、此種ノ勞務ニ關シテハ囚徒ニ甚タ大ナル賞金ヲ與フルコトヲ得ヘシ」第二ハ官署ニ於テ改悛シタル囚徒ニ獄舎外ニ在ルコトヲ許可スルコト則チ雇主職人頭又ハ土地所有者等ニシテ或ル時限ヲ約シテ囚徒ノ勞務ヲ僱ヒ官署ニ對シテ唯リ約束ノ賃銀ヲ納ムルノ義務ノミナラス尙ホ被刑者ノ住所、飲食及ヒ時宜ニ因リテハ之ヲ獄舎ニ返入スルノ保証ニ關シ或ル義務ヲ契約スル所ノ者ニ囚徒ヲ引渡スコト是ナリ、囚徒ヲ一處ニ置ク制ノ監禁ニ於テハ多クノ被刑者ヲ集合シテ此種ノ雇入ヲ日雇ニ爲スモ毫モ妨ケアルコトナシ、既ニベルヌニ於テ之ヲ實行スルガ如ク時トシテハ此方法ヲ田畝ノ事業ニ用フルヲ得ヘシ、然レモ不斷離隔ノ小房ノ制度ニ於テハ獄舎外ニ在テ囚徒相互ヒノ接近ヲ來タスカ又之カ機會ヲ生セサラシムル爲メニ或ル時限ヲ定メテ各囚徒毎ニ此方法ヲ行フコトヲ要ス、雇傭ノ賃銀ハ常ニ官署ニ納メラル、ト雖モ官署カ此賃銀ノ中ヨリ囚徒ニ與フル所ノ賞金ハ前段ノ場合ヨリ猶ホ多カル可キナリ」第三ハ囚徒ニ其親屬又ハ官署ガ其保證ニ信任シ得ルト信スル所ノ人ノ無形的ノ保證ヲ以テ預備ノ釋放ヲ與フルコト即チ其釋放間ノ被刑者ノ生活又ハ勞務ノ方法ヲ檢案シタル後チ官署ハ如何ナル時ヲ論

セス場合ニ因リ此被刑ヲ獄舎ニ復スルコトヲ命スルノ權アルコトヲ告示シテ右ノ保證ヲ以テ豫備ノ釋放ヲ爲スコト是ナリ(一)此地位ニ在テハ勞務ノ賃銀又ハ利益ハ皆ナ被刑者ニ與ヘラル可シ」我輩ハ既ニ此ノ如キ寬優ノ處分ハ止タ此ノ期限ノ最終ノ部分即チ刑法カ責罰ヲシテ纖弱ニ至ラシメサルノ方法ヲ以テ自ラ定ル所ノ最終ノ部分ノミニ非サレハ之ヲ施スコトヲ得サルハ極メテ緊要ノコタルヲ知ル(前數一四四ニ參着)例ヘハ宣告セラレタル刑ノ四分ノ三又ハ五分ノ四ヲ受ケシメタル時ノ如キ是ナリ、監獄則ノ懲罰ハ場合ニ因リテハ特ニ之ヲ嚴ニシテ以テ預備釋放中ノ弊害ヲ鎮壓ス可シ

(一) 英吉利ニ於テ最終ニ千八百五十三年八月二十日ノ法ニ因テ制規セラレタル方法ニ依レハ預備釋放ノ適用ハ之ヲ受クルコトヲ得ヘシト判セラレタル被刑者ニ之ヲ證スル自由ノ證標ヲ與フルノ方法ヲ以テ實行セラル、日耳曼刑法モ亦同一ノ方法ヲ採用セリ

巴里ニ於テハ法律上ノ組織ニ出タルヨリハ寧ロ行政上ヨリ出タル處分トシテ右ニ類似スル所ノ方法ハ放免セラレテ刑法第六十六條ニ因テ拘禁セラレタル十六歳以下ノ幼年者ニ對シテ久シク實行セラル、又幼年囚徒ノ教育及ヒ庇保ニ關スル千八百五十年八月十三日ノ法ハ其第九條ニ於テ責罰ノ殖民場ノ幼年囚徒ニモ之ヲ適用スルコトヲ許セリ、又同一ノ精神ヲ以テヌーベル、カレドニー(譯者曰鳩ノ名ニシテ佛國ノ殖民地ナ

リ)ニ發遣セラレタル者ノ地位ニ關スル千八百七十三年三月二十五日ノ法ハ其第十五條ニ於テ善良ノ行狀ヲ以テ知ラル、コトヲ得タル總テハ被刑者ニ流刑ニ當テラレタル土地外ニ居住スシノ允准スルコトヲ許可セリ、然レモ此允准ハ常ニ之ヲ取消スコトヲ得

此ノ如キ移轉ニ關スル定規ハ能ク組織セラル、モ實際ノ施行ナクシテ存セサルヲ得スト信ス可ラス、多數ノ被刑者特ニ割合ニ於テ甚タ多キ田舎ノ人民ニ屬スル多數ノ被刑者カ其親屬トノ關係ヲ保存セリ、又其他ノ被刑者ハ或ル貴重ス可キ人ガ與フル所ノ庇保ニ因リ又ハ其拘禁中其行狀ヲ以テ來タス所ノ人ノ回顧ニ因リ又ハ支配官署カ自ラ關與シテ爲ス所ノ盡力ニ因リテ或ル扶助或ル慈善ノ保護ヲ得ルノ地位ニアルヲ得ヘシ、從テ囚徒ノ甚タ多キ數ニ對シ刑ノ終リヨリ社會ノ通常ノ生活ニ至ルノ移轉ハ斯クノ如ク實行セラル、ヲ得ヘシト云フハ決シテ幻空ノ想像ナリト云フ可ラサルナリ、然レモ左ノ點ヲ明認セサルヲ得ス、改悛シタル囚徒ノ分種ヲ多ク爲セハ爲スニ從テ其區別ヲ太ダシクスルニ至ル可ク又從テ其種類ニ因リ通常ノ生活ニ入ルニ容易ナルニ至ル可シ然レモ又從テ反對ノ意ニ於テ問題ニ困難ヲ動起シ來リ彼ノ改悛セサル囚徒ニ對シテハ殆ント窮巷ニ入りテ出ル所ナキカ如キノ地位ニ至ル可キコト是ナリ、這ハ是レ方法ノ短處ニシテ地位ノ避ケ難キ危險ノ點ナリトス

(一四九〇) 貯蓄本錢ニ就テハ我輩カ既ニ辨シタル所ニ加フル所ナカル可シ(前數一四七

四參看)、其構成ニ關シテハ若シ弊害多キ規則ニ管理セラレ刑ノ終ルヤ直チニ被放免者ニ其自ラ得タル所有物トシテ附與セラル、并ハ貯蓄本錢ハ其要用ノ甚タ疑ハシキ結果ヲ生スルカ又ハ却テ不幸ナル結果ヲ生ヌ可キナリ、然レモ我輩カ陳述シ來リタル所ノ元則ニ從テ制規セラレ全ク常ニ政府ニ屬スル所ノ救助ノ資本ト見做サレ被放免者ノ需用ニ從テ漸次ニ附與セラレ且ツ最モ屢々貨幣ヲ以テヨリハ寧ロ實物ヲ以テ渡サル、ニ過キサル并ハ此貯蓄ハ善良ノ結果ナラテハ生スルヲ得サル可ク且ツ時トシテハ前段ノ處分ノ利益ヲ受ケ得サル被刑者ニ對シテモ希望スル移轉ヲ助クルニ至ル可キナリ

(一四九一) 庇保ノ會社ハ其重要ナル職務トシテ自由ノ勞務ノ位置ニ被放免者ヲ導ビソ本然ノ目的ニ從ヒ此貯蓄本錢ノ使用ヲ監督スルノ任ヲ有ス、故ニ勞力ノ爲メニ必要ナル器械ノ購求、家賃ノ仕拂、轉居ノ入費及ヒ職業ノ來ルヲ待ツ間此本錢ノ高限リ救助ヲ附與スルハ是レ釋放ノ最初ノ時間中充タス可ク避ク可ラサル職務ナリトス而シテ此職務ノ避ク可ラサルヤ若シ之ヲ庇保ノ會社ニ於テ爲サ、ルハ行政官署ニ於テ之ヲ爲サ、ル可ラサルニ至ルモノナリ、被免者カ貯蓄本錢ヨリ來ル資本ヲ受ケ得ルハ獨リ此方法ヲ以テナル可ク然ラサレハ此資本ニ關シ如何ナル權利ヲモ有セサル可キナリ」 庇保ノ會社ハ又之ニ加フルニ被免者ニ對シ勸諭ノ方法ニ因リ又ハ善良ノ助言ヲ與ヘ又ハ善良ナル方向ヲ會得セシメテ被

免者ヲシテ自ラ保護セシムルノ注意ヲ以テス可ク又此會社ハ其被免者ト云フ身分ヨリ他人ノ爲メニ嫌惡セラレ忌避セラル、ヨリシテ雇人トナリ又ハ勞務ヲ得ル爲メニ生シ來ル所ノ妨害ヲ撲滅スルコトニ被免者ヲ幫助スルノ事業ヲ取ル可キナリ」 又庇保會社ハ特別ノ方法ヲ以テ預備釋放ヲ允准ス可キ者ノ表中ニ在ル被刑者ヲ保庇スルヲ得ヘシ乃チ此允准ヲ構成スル所ノ三箇ノ等級ニ附屬スル利益ヲ實際ニ是等ノ者ニ有セシムルヲ容易ニスルカ爲メナリ(前數一四八九參看)、此點ニ關シテハ此會社ハ預備ノ釋放中モ本然ノ釋放ノ後チニ於ケル如ク其職務ヲ施行スルナリ

庇保會社ノ官務的ノ職掌ハ貯蓄本錢ノ盡了ニ因テ終ルモノトス其他之ニ繼キ來ル者ハ一私人的ノ慈惠ニ過キス而シテ時トシテハ茲ニ危險ト弊害ト存スルナリ」 今其果シテ然ルヲ見ル可シ、假令ヒ被免者ヲ之チ改悛セリト想像スルモ繼續シテ之レニ庇保ヲ與ヘ恰モ其生計ノ保護者ノ如ク之ニ勞務ヲ得セシメント力メ其資本ヲ要スルアルキハ直チニ之ニ救助ヲ與フルハ是レ夫ノ不幸薄命ナル善良ノ貧窮者ヲシテ羨マシムルニ非スヤ是レ公ケノ保護ヲ得ルニ到ルニ最モ好キ路トシテ犯罪ノ路ヲ指シ示スニ非スヤ、庇保會社ノ扶助ハ一時ノ扶助タルニ過キス即チ囚徒ノ勞務ヲ以テ積立ニ供シタル所ノ貯蓄本錢ノ使用ニ因リテ公ケニ公刑ニ連結シ此預見スベキ恩賜ノ盡了ニ至ルマテ此刑ノ恩惠ノ部分ヲ繼續シ假令ヒ被免者

ハ既ニ獄舎ヨリ出て自由ノ人ナルニモセヨ恩賜ヲ受クルニ足ルノ行狀アラサル以上ハ此救助ヲ或ハ減縮シ或ハ剝奪スルマテニモ至リ殆ント刑ノ懲罰ノ威權ノ一部分ヲ成ス所ノ一時ノ扶助タルニ過キササルナリ、而シテ此會社ノ義務トシテ爲サ、ル可ラサル所ノ職務ハ此扶助ニ止ル是レ此會社ノ公衆ニ對スル單一ノ義務ニシテ純理ノ處罰方法ノ法律上ノ鐵鎖ノ最終ノ鑲ナリ、若シ庇保會社ニシテ被放免者ニ對シ或ハ不幸ナル情狀アルカ或ハ悔悟眞實ナルカ或ハ他ニ酌量ス可キ場合アル等ヨリシテ其保庇ヲ要スルキニ當リ其扶助ニ尙ホ一步ヲ進メント欲スルカ、若クハ或ル會社ニシテ婦女ニ對シテハ其軟弱ナル原由ニ因リ幼年者ニ對シテハ其年齡ノ幼弱ナル原由ニ因リ會社ノ事業ヲ尙廣ク且ツ長キニ至ル方法ヲ以テ組織シタル片ハ是レ此等ノ會社ハ刑ノ組織ニ附屬スル所ノ限界ヲ出テ既ニ數多ノ慈善ノ事業カ鼓舞スル所ノ一私人的ノ恩惠ノ區域中ニ入ルモノトス(一)

(一) 千八百三十三年巴里ニ於テセーヌ縣ノ幼年囚徒及ヒ幼年被免者ニ對スル庇保ノ一會社カ建設セラレタリ、又千八百三十七年ニハ放免セラレタル幼年ニ對スル一會社カ建設セラレ、爾來之ニ類似スル會社カ佛國ノ他ノ市中ニ多ク設立スル所トナレリ、外國ニ於テモ亦諸邦ニ此種ノ設置アリテ而シテ多ク幼年被免者ト壯年被免者トノ庇保會社ニ係ル、千八百七十三年二月十五日ノ發行ニ係ルルビエー、デー、ドー、モンド(

雜誌ノ名ナリ)ニ記載セラレタル英吉利處罰方法ト題スル論說ニ於テリポー氏ハ英吉利ニ於テ庇保ノ會社ニ因テ與ヘラル、德義ニ關スル細説ヲ擧ケタリ、就テ見ル可シ、千八百五十七年ニ開基セラレタルギスチー、トリツナー、ス、エード、ソサイヤテート呼フ會社ハ被免者七千人餘ヲ保庇シタリト云フ

我輩カ定解ヲ與ヘ來リシ如キ庇保ノ會社ノ關涉ハ總テ貯蓄本錢ノ分配ス可キアル場所ニハ必要ナリ從テ改悛シタル囚徒ノ表中ニ在ル者ト之ニ載セラレサル者トノ區別ナク總テ釋保セラレタル者ノ利益ノ爲メニ必要ナリトス(前數一四七四參看)、獄舎ノ此表記ハ如何ナル信用ヲ置クヲ得ルニモセヨ一箇ノ回復ス可ラサル運命ナリトシテ之ヲ見做スヲ得サル可ク又總テ釋放セラレタル者ハ改悛シタル者ト否ラサル者トヲ論セス其日々ノ勞力ニ因ラズンハ妥當ニ生活スル爲メニ他ノ財源ヲ有セサル片ハ皆ナ勞務ヲ求メ又ハ之カ來ルヲ待ツ爲メニ助クル所ノ此第一ノ救助ノ附與此第一ノ扶持ノ要用ヲ有セサルハナシ、故ニ我輩カ擧ケタル三箇ノ移轉方法ノ處分ノ中ニ就テ第一ノ方法即チ預備釋放ノ處分ハ改悛シタル囚徒ニ之ヲ適用スルノミ、其他ノ方法即チ貯蓄本錢及ヒ庇保ノ會社會ノ注意ニヨル此本錢ノ分附ハ之ヲ總テ釋保セラレタル者ニ通用ス同一ノ理由ニ因リ我輩カ定メ來リタル所ノ限界ニアル庇保會社ノ構成ハ之ヲ私シノ着手ニ係ル偶然ニ任スルヲ得ス、假令ヒ其成功ニ至

ル重要ナル元素ハ人民ノ隨意ノ熱心ト恩惠トノ協力中ニアリト雖モ此會社ハ幾何クカ官務的ノ性質ト規模トチ有シテ全邦土ニ廣マリテ規則ニ從テ存在スルヲ要スルナリ

(一四九二) 然リト雖モ問題ノ解釋ハ未タ其終ニ達セリト云フヲ得ス、人若シ更ニ一步ヲ進ムレハ進ムルニ從テ解除ス可ラサル困難ニ近ツクノ點ニ至ルナリ、前舉ケ來リタル所ノ移轉方法ノ處分ニ拘ハラス社會ノ中央ニ釋放セラレタル者ヲ入ル、ニ當リ事皆十全キヲ得ルニ非ス、人能ク目的ヲ達シ得タル被放免者ノ數ハ幾何ナルニモセヨ、常ニ必ズ終ニハ不幸ナル殘餘ニ對シ如何ニ之ヲ處分ス可キヤト問ハサルヲ得サルナリ、此問ニ應スルヲ答トシ現ハレ來ル出路ハ再犯ニアラスンハ抑モ何物ナルヤ

事實カ今日經過スル所ノ有様ト統計表カ我輩ニ示ス所ノ注意ト算數トニ因テ事實ヲ取レハ或ル被放免者ニ對シ諸方ヨリ起リ來リ遂ニ之ヲ右ノ不幸ナル出路ニ推シ迫ルニ至ル所ノ妨害ノ數ト種類トヲ數フルニ違アラサル可シ、純理ノ處罰方法ニ於テハ事大ニ右ニ比スレハ善良ノ姿ヲ以テ現ハレ來ル可キハ確信シテ疑ハサルヲ得ヘシ則チ刑ハ壞風敗俗ノモノタラスシテ常ニ被刑者ノ改悛ニ力ヲ盡スニ因リ改悛シタル被放免者最モ多カル可ク又改悛セサル者モ危險少ナカル可ク從テ人ノ之ヲ忌避スルコト甚シカラサル可ク之ヲ嫌惡スルコトモ強カラサル可ク遂ニ最モ容易ニ最モ屢々通常ノ生ニ入ル可キナリ、然レモ常ニ失望ハ依然ト

シテ存シ決シテ之ヲ掩蔽スルヲ得サル可シ、即チ假令ヒ減少スルモ到底避ク可ラサル殘餘ハ常ニ社會ニ遺存シテ止マズ、此殘餘ハ甚タ異ナリタル二箇ノ元素ヨリ成ルモノトス則チ社會ニ妥當ナル地位ヲ取りテ犯罪ヨリ免レタル生計ヲ爲サントスル善良ナル決心ヲ有シテ獄舍ヨリ出タル囚徒ト斯ノ如ク善良ナラサル此ノ如ク確乎タラサル決心ヲ有シ或ハ又兇惡ナル目的ヲモ有シテ出タル囚徒ト是ナリ、而シテ此第一部類ノ者ニ關シテハ其善良ナル決心ニ拘ハラス其勞務ヲ求ムルモ之ヲ得ス、立身ノ處ヲ求ムルモ之ヲ得ス、温良ニ生活スルノ方法ヲ求ムルモ之ヲ得サル時、又庇保ノ會社ハ是等ノ者ノ爲メニ困難ヲ撲滅セント盡力スルモ之ヲ得スシテ徒ラニ貯蓄本錢ヨリ來ル救助ヲ盡了シタル時ハ是等ノ者ハ如何カナル可キヤ、是レ問題ノ第一ノ部分ナリ」此第二部類ノ者ニ關シテハ即チ妥當ノ生活ノ方法ヲ希望シ追求スルモ着實ニ之ヲ求メスシテ其之ヲ得サルハ自己ノ過チニ係ル者ト又或ル方法ヲ以テ社會ニ其地位ヲ復シタル者トニ關シテハ其將來ハ刑法ノ目的ヨリ論スレハ爾來左ノ二點ノ何レカニ決セサルヲ得ス、曰ク新タニ罪ヲ犯サス、然ルモハ是レ處罰方法ハ其効果ヲ生シタルナリ、曰ク新タニ罪ヲ犯ス、然ルモハ是レ彼レニ適用セラレタル處罰方法ハ無効ニ歸シタルナリ、是レ再犯ノ場合ナリ、之ヲ問題ノ第二ノ部分トス

(一四九三) 第一部類ノ者ノ爲メニ現ハレ來リタル所ノ思考ハ之ニ立身處、工作場又ハ工

業若クハ農事ノ殖民場ヲ開キテ社會ニ因テ拒絕セラレタル勞力ヲ此ニ爲シテ生活ノ方法ヲ請願スルコトヲ得セシムルノ思考ナリトス、是レ憐ム可キ極端ニシテ甚タ危險ナル便宜法ナリ何トナレハ此被免者ヲ善良ナル人民ノ中央ニ散布セシメテ却テ刑期間繼續シタル方法ヲ以テカメテ之ヲ隔離シタル後チ今刑ノ終リタルヤ否ヤ直ニ又之ヲ集合セザルベカラザルノミナラズ且ツ嘗テ是等ノ者ニ對シテ人ガ有シタリシ強迫ノ權利モナキカ故ナリ、又尙ホ憂フ可キアリ則チ疵瑕チ有セザル善良ノ窮民カ得ルコトヲ得サル逃難處ヲ此被免者ニ隨意ニ與フルカ故ナリ果シテ此ニ所謂ル困難ハ之ヲ要スルニ勞務ヲ希望スルモ之ヲ得サル貧困ヨリ出タル困難ナルニアラスヤ、只其良民ト異ナル所ハ被免者カ刑ヲ受ケテ其罪ヲ贖ヒタルニ拘ハラス其過去ノ所業ヲ忘レスシテ人民カ之ヲ譴責スルヨリ出タル妨害ナルコト是ナリ、人或ハ此逃難處ニ與フル組織ニ因リテ右ノ弊害ヲ補フヲ得ヘシ、然レモ其實善良ノ方法ハ之ヲ能クスルコトヲ得ルノ邦ニアリテハ僅カニ被免者ノ爲メニ立身處ヲ設クルヨリハ寧ロ之ヲ拒絕スル人民ノ中ヨリ脱去シテ然ク忌避セザル新ナル場所ニ之ヲ發遣スルコトアリ、即チ辭ヲ換ヘテ之ヲ言ヘハ本國ノ土地外ニアル刑ノ逃避ノ殖民ノ方法はナリ(前數一三七九)

(一四九四) 第二部類ノ者即チ再犯者ニ關シテハ甚タ輕キ罪ノ再犯ニ係ルコト過キサル以上ハ不斷離隔ノ小房監禁ハ未タ其嚴度ヲ用ヒ盡サザルニ因リ充分ノ加重ノ無數ノ等級ヲ與ヘ

テ之ヲ責罰スルニ足ルチ得ヘシ、然レモ重罪事件ノ再犯ニ係ルカ若クハ輕罪ニシテ容易ニ痼疾又ハ傳染病ノ有様トナリ殆ンド營業職務トナリテ甚タ危險ナル再犯者ヲ來タス所ノ犯罪事件ノ再犯ニ係ルキハ犯者ニ對シテ通常ノ處罰方法ノ無効ハ事實ニ因テ証明セラレタルナリ故ニ是等ノ者ニ對シテハ他ノ性質ノ方法ニ依ルノ必要ナルヤ又言ヲ待タズシテ明カナリ(前數一一八八及ヒ次數參看)、海外遠隔ノ殖民地發遣カ其此ノ如キ事業ヲ組織シ得ルノ國ノ爲メニ其利益ヲ見ハシ來ルハ、則チ又此ニ於テナリトス(一)(前數一三七九參看)

(一) ドウソンピール氏其報告書ニ於テ云ヘリ、曰ク(人嘗テ警視廳ニ於テ我輩ニ十年間ニ四十四回處刑ヲ受ケタリシ者ノ裁判簿記ヲ示シタルコトアリタリキ、嶋地發遣ノ元則一旦採用セラル、以上ハ此種ノ矯正ス可ラス逐斥セラレテ回復ス可ラサル者ニシテ社會ハ之ニ正理ハ即チ正理ナリト雖モ慘酷ニ門戸ヲ閉鎖シ爾來社會チ害シ法律チ破ラヌンハ他ニ生活シ得サル所ノ者ニ此發遣ヲ適用シテ利益アルヲ得サルヤト)

嶋地發遣及ヒ國外ニ於テ刑事上ノ托身(ルフューシユ)ノ殖民地

(一四九五) 是ニ由テ之ヲ觀レハ我輩カ純理ノ處罰方法中ニ置ク所ノ種類ノ大陸地外發遣ハ無論其殖民所有ト航海ニ關スル權勢トカ之ヲ實行スルコトヲ得セシムル所ノ地位ニアル邦

國ニ於テハ二箇ノ異ナリタル使用ヲ受クルモノトス則チ其一ハ前我輩カ舉ケ來リタル所ノ部類ノ再犯者ニ對シ其二ハ本國ノ中央ニ於テ自己ノ爲メニ必要ナル勞力ヲ希望スルモノ之ヲ得サル所ノ被放免者ニ對シテ

(一四九六) 右ニ所謂ル再犯者ニ對シテハ我輩ハコンスタチユアント(譯者曰千七百九十一年ノ佛國立憲議院ナリ)カ其千七百九十一年ノ刑法ニ入レタリシモ曾テ實行セラレサリシ所ノ方法ヲ採用スルコトニ猶豫セサル可シ(前數一二二參看)而シテ此方法トハ再犯人カ新タニ犯シタル重罪又ハ輕罪ニ付テハ加重セズシテ通常ノ刑ヲ科シ先ツ之ヲ受ケシメタル後チ此種ノ發遣ニ供セラル、所ノ場所ニ終身發遣シテ再犯人ノ爲メニ一箇ノ他ノ人民ノ傍ラニ在テ新タナル生活ノ路ヲ開クコトヲ得セシムル是ナリ、法律ハ自ラ此ノ如キ方法ヲ執行スルコトヲ得ル度ノ割合ヲ立テ重罪及ヒ輕罪ニシテ其再犯カ此結果ヲ來タス所ノ者ト其處刑ノ原因タル犯罪及ヒ殖民地ニ於テノ行狀ニ從テ被發遣者カ受ケサル可ラサル殖民地ノ制度トヲ定ム可シ」此殖民地ハ須カラク遠隔ノ地ナル可シ是レ距離ニ因テ本國ノ中央ニ復歸スルノ禁ニ更ニ一箇ノ制裁ヲ加フルカ爲メナリ」六十歳以上ノ老年者ハ發遣セラレサル可シ然レモ其再犯ノ理由ヨリシテ法律ニ因テ定メラレタル期間其年齡ノ被刑者ニ對シテ立テラレタル制度ニ服シテ之ヲ獄舎ニ在ラシム可キナリ(前數一四八六參看)

(一四九七) 不斷離隔ノ小房監禁ハ苛酷ニ陥ラスシテ大ニ長キニ及ブコトヲ得サルヘント思考シ此最長期ヲ十年ニ定メント欲スル所ノ者ハ嶋地發遣ノ右ニ類似スル一箇ノ使用ヲ爲サント發議シタリキ、即チ此期限ノ後チ被刑者チ嶋地發遣ニ服セシムルコト是ナリ、我輩ハ毫モ此所見ニ與ミスルコトヲ得サルナリ何トナレハ囚徒間相互ヒノ不斷離居ノ小房制度ノ期限ニ關スル此憂ヒハ我輩ノ爲メニ存セサレハナリ、總テノ場合ニ於テ人若シ此制度ヲ採用セハ大ニ之カ期限ヲ減縮セサル可ラス、又純理ノ處罰方法ニ於テ死刑ニ代ル爲メニ該ラル、所ノ無期ノ刑ハ之ヲ決シテ如何ナル寬宥ヲモ受ケ得可ラスト云フニ非サルモ亦法律上ノ規則一般ノ規則トシテ決シテ此ノ如キ寬宥ノ處分ヲ受クルコトヲ得ヘカラサルナリ

(一四九八) 被放免者ニ對シテハ是等ノ者ノ爲メニ開カル、所ノ刑事上ノ托身處ハ前段ノ殖民地ノ如ク責罰ノ性質ヲ有スルヲ得サル可シ、又其設置ハ本國ニ大ニ接近ニシタル距離ノ場所ニ在ルヲ得可シ、唯リ之ヲ得ルノミナラス這ハ希望ス可キ一條件ナリ」被放免者ノ此托身處ニ入ルハ其好ミニ任ス可ク且ツ運輸ノ方法モ與ヘラル可シ、然レモ被免者此ニ入ルノ許可ヲ得ルニハ或ル期間間例ヘハ五年間官署ノ許可ナクシテ殖民地ノ自由ノ人民ト混シ居ル爲メニ此托身處ヲ去ルヲ得サルコト及ヒ或ル尙ホ長キ期間間例ヘハ十年間尙ホ上官ヨリ出ル許可ナクシテ本國ニ入ルコトヲ得サルコトヲ約束スルニ非サレハ之ヲ得可カラサルナリ

(一四九九) 右ノ如ク使用セラレタル嶋地發遣ニ於テハ刑ノ此方法ニ對シテ起リ來リタル駁説ノ大半ハ消滅スルカ若クハ大ニ其勢力ヲ失フモノトス何トナレハ第一ニ島地發遣ハ此ニ於テハ既ニ前ニ陸地ニ於テ其刑ヲ受ケタル者ニ適用セラル、ニ過キス且ツ一方ノ者ニ對シテハ恩惠トシテ又他ノ一方ノ者ニ對シテハ純粹ノ刑トシテヨリハ寧ロ之ヲシテ土地ヲ變ヘシムルノ方法トシテ使用セラル、カ故ナリ又第二ニハ純理ノ處罰方法カ其改良ノ結果ヲ生スルニ從テ尙ホ減少セサル可ラサル所ノ既ニ制限セラレタル或ル數ノ被刑者ニミ適用セラレレハナリ、然レモ此ノ如キ建設ニ離ル可ラサル不便ト困難トハ多少常ニ留存セサルニ非ス、之ニ對シテ可及的能ク勝ヲ制スルハ唯リ善良ノ執行ニアルノミ」凡ソ刑法カ其定規スル所ノ者ノ中ニ嶋地發遣ノ處分ヲ容ル、ヤ毎回必ヤ海上ノ戰爭又ハ其他ノ總テ交通ヲ中斷スル原因ヨリシテ發遣ヲ一時中止セサルヲ得サル所ノ總テノ場合ヲ預見シ其間之ヲ補綴スルノ方法ヲ豫メ定メサル可ラサルナリ(前數一三八一參看)

(一五〇〇) 其之ヲ能クスルコトヲ得ルノ地位ニ在ル國ニ於テ國事犯罪ニ對スル刑トシテ使用スル所ノ流刑ハ(前數一三八二參看)其制度ニ於テモ其建設ノ場所ニ於テモ前段ノ嶋地發遣ト區別スル所ナカル可ラス(前數七〇四及ヒ次數又一四八二參看)

第六 監獄方法(システム、ペニタンシエール)ノ歴史

(一五〇一) 獄舎若クハ刑ヲ行フ爲メノ建造物、又ハ此ニ施行スル制度ヲ形容スル爲メニペニタンシエールノ語及ヒ獄舎又ハ建造物其物ヲ指シ示ス爲メニペニタンシエールノ語ノ今日傳播シタル如キ使用ハ英吉利語ヨリ我々ニ來リタルモノナリ(一)、此語ハ語學的ノ本源ニ溯レハ一時ニ刑ノ思想ト特ニ悔悟ノ思想トニ附着スルニ因リ(前數一三二〇參看)刑ヲ行フ爲メノ建設ニシテ其制度ハ獨リ罰スルノミナラス尙ホ特ニ悔悟ヲ生セシメ囚徒ノ改悛ヲ來タサントカムルノ方法ヲ以テ組織セラレタル所ノ者ニ對スルニ非ラスハ適切ニ之ヲ使用シ得サルナリ、止ダ此ノ如キノ制度ニシテ始メテ眞ニ之ヲペニタンシエール制度ト呼ブノ適當ナルノミ總テ其他ノ建造并ニ制度等ハ假令ヒ此名ヲ受クルヲ得ヘキモ能ク此名ニ應當スルヲ得ス

(一) 英吉利語ペニタンシエール、ハウスハ監獄ノ建造物ト云フ意ニシテ單ニペニタンシエールトイハ獄舎ト云フ意ナリ

(一五〇二) 監禁ノ二箇ノ方法ノ發見ヲ以テ亞米利加ノ榮譽ニ歸シ此ニ方法ヲチーハルンノ方法、ヒラデルフィーノ方法ト呼フハ今日遂ニ慣習トナリタリ、此ニ方法互ニ相ヒ爭先シテ監獄制度ノ設置ニ關シ一時各黨派ヲ分チタルカ如クナリキ、而シテニ方法トハ其第一ハ夜間ハ獨居セシメ晝間ハ沈黙ノ法ノ下ニ共ニ勞務ヲ取ラシムル小房監禁ノ方法ナリ(前數

一四五三參看)、其二ハ晝間夜間共ニ不斷ノ獨居ニ從フ小房監禁ノ方法コシテ辭ヲ換ヘテ之ヲ言ヘハ幽閉監禁ノ方法ナリ(英語ソリタリト、コンファインメント)、然レモ此ニ於テモ他ノ事物ノ多クニ於テ然ルカ如ク今流通スル所ノ名ハ屢々歴史上ノ事實ニ應セサルモノトス、問題ノ湧沸シタルモ、之ニ附隨シタル名聲モ立法官又ハ政府ノ懇慮若クハ所爲モ又此二箇ノ方法ニ至ルマテモ亞米利和合衆國ニ其本源ヲ取ラサルナリ、一步溯リテ進メテ其源ヲ求ムベシ

(一五〇三) 之ニ加フルニ人若シ晝間沈黙ノ法ノ下ニ共ニ勞務ヲ爲サシムル夜間ノ小房監禁ト云ヒ 又或ハ晝間夜間ノ幽閉監禁ト云フ 此有形的ノ經營ヲ以テ事總テ組織セラレタリト信シ此二ツノ聯語ハ孰レモ監獄制度ノ語ノ含蓄スル所ヲ盡ク含蓄スト信セハ大ニ誤ル可シ、反對ノ意ニ於テ此經營此聯語ハ監禁ノ最モ甚シキ醜惡ナル刑ノ基礎タルヲ得ヘシ、果セル哉此聯語ハ是レ制度中ノ一點ニ關スルニ過キス即チ交通ノ點是ナリ、然レモ我輩ハ既ニ或ハ身体ニ對スル取扱ニ關シ或ハ心ニ對スル取扱ニ關シ或ハ移轉方法ノ處分ニ關シ此制度ニ就テ規定ス可キ他ノ事件ハ幾何クアルカヲ知ル(前數一四四四及ヒ次數參看)、然ラハ則チ我輩ハ此有形ノ經營ヲ以テ制度完全ナリトシテ取ラサル可キナリ、其他我輩ハ此二箇ノ經營ハ孰レモ之ヲ採用ス可ラサルコトヲ知ルヲヤ、理論ニ從テ他ノ經營ヲ用ヒサルコトヲ知ル

ヲヤ此經營ヲ用フルモ尙ホ刑ノ期點ト種々ノ適用ニ從テ多クノ變様ヲ要スルコトヲ知ルヲヤ(前數一四五四及ヒ次數、又一四八〇及ヒ次數、又一四八五及ヒ次數參看)、此問題ニ關シ時トシテ或ル偏癖ヲ以テ提出セラレタル思想ニ就テ多クハ既ニ放棄セラレタリ、其他ノ思想ハ此問題ニ附加シ來リタリ、此ニ於テモ總テ他ノ事ニ於テノ如ク人類ノ精神ハ雪球ヲ作り成シタリ、我輩ハ亞米利加方法ト誤リ呼ハレタル右二箇ノ經營ニ之尙ホ拘泥スル者ヲ甚ク時機ニ後レタル者ト思考ス可キナリ

(一五〇四) 此ニ夜間小房監禁ノ本源ヲ示ス爲メニ我輩ハ寺院僧侶ノ生活上ノ懲戒ニモ其品行上ノ嚴謹ニモ又トラヒス(譯者曰トラヒスハトラツテ府ニ開基シタル宗旨ノ組合ニ入りタル宗旨家チ云フ)ノ小房(原語セリユ)ヲ譯者曰宗旨家ノ勤行スル場所ナリ)ニモ其沈黙ノ勞務ニモ又羅馬法王クレマン第十一世ノ命令ニ因テ十八世紀ノ初年ヨリ羅馬ニ設置セラレタル幼年囚徒ニ對スル監獄ニモ溯ルコトヲ欲セサル可シ、假令ヒ此等ノ者ハ其主義ニ於テハ疑ヒモナク悔罪(ペニタンス)ノ思想ニ基礎ヲ取リタルニモセヨ我輩ハ之ヲ以小房監禁ノ本源ト認メサルナリ」我輩ハ又幽閉監禁ノ元則チ往時ノウーブリエツト(譯者曰ウーブリエツトハ忘レルト云フ字ヨリ來リタル語ニシテ往時終身ノ繫獄ニ處セラレタル者ヲ入レ置キシ暗黒ノ窟牢ナリ、且ツ國王ノ怒ニ觸レタル者ハ屢々裁判ヲ受ケスシテ此獄ニ

繫カレタリキ)ニモ又カツシヨ(譯者曰カツシヨ一匿クスト云フ字ヨリ來リタル語ニシテ昔者獄舎中ニアリシ狭小ニシテ暗黒ナル半檻ナリ)ニモ求メサル可ク又千七百八十七年ノシヨセフ帝第二世ノ刑法ノ酷ナル(ギウール)繫獄又ハ甚タ酷ナル繫獄(一)ニモ、又我千七百九十一年ノ刑法ニ於テ起按者ノ精神ニ因レハ死刑ニ換フルノ刑タリシ彼ノゼーヌ(譯者曰ゼーヌハ困屈ノ意ニシテ三尺半ノ類ナリ)ニモ求メサル可キナリ(二)、又奧地哩亞國ヨリ來リタルカルセル、シユロ、カルセル、シユリシム、ノ名ヲ以テスレハ人必ス怒リテ發スル所、者ニ就テ亞米利加合衆國ヨリ來リタリト誤リ呼ハレタルソリタリ、コンファインメント(幽閉ノ監禁)ノ名ヲ以テスレハ之ヲ喜ヒ容ルノ理アランヤ、今其然ル者ハ人類ノ精神ノ機變ノ性ト言語ノ勢ヲ以テ容易ニ此精神ニ受ケシメタル變更トカ遂ニ斯ノ如キヲ致シタルモノナリ

(一) 同刑法第二十七條及ヒ二十八條ニ見ユ

(二) 千八百九十一年ノ刑法第一編第二章第十四條(凡ソゼーヌノ刑ニ處セラレタル者ハ鐵鎖モナク繩索モナク暗黒ナラサル場所ニ獨リ幽閉セラル可シ)

同第十五條(右ノニ刑處セラレタル者ニハ獄舎ノ費用ヲ以テ「バント水ナラデハ與ヘラレサル可シ其他ノ物ハ其勞力ノ利得ヲ以テ與ヘラル可シ)

(一五〇五) 此二箇ノ方法ノ両者ノ創始トシテ見ル可キ第一ノ直接ノ使用ハ其内部ノ清潔、整頓及ヒ處辨ニ極メテ順序アル精神ト事物及ヒ時間ノ規律アリテ巧妙ナル配分ト工業的ノ勢力トニ因テ有名ナル二箇ノ人民ヨリ我々ニ來リタリ即チフラマン人ト英吉利人ヨリ我々ニ來リタリ、懲罰ノ善良ナル規則アリテ時期ヲ定メテ内部ニ於テ勞務ヲ取ラシメ且此制度ニ適當スル建造上ノ方法ノ全般ヲ具ヘタル所ノ夜間ノ小房監禁ノ制ハ「ランドル國ニ因テ建テラレタルガン」ノ獄舎ニ於テ千七百七十五年前ヨリ現ハレ來リタリ(一)、又晝夜間ノ幽閉監禁ノ制(英語ソリタリ、コンファインメント)ハ元則トシテ千七百七十六年ヨリ英吉利國會ニ因テラミルバンノ獄ニ對シテ命令セラレテ(二)千七百九十年ヨリグロセステールノ獄ニ於テ實行セラレタリ而シテ此ニ實行ノ繼續シタル十七有年間ナリキ、故ニ其今日ノ人ノ話説スルチービユルスノ獄舎ト(千八百二十年)ヒラデルヒーノ獄舎ト(千八百二十九年)方法組織セラレタルハ三十年餘ノ後チニアリタルニ過キササルナリ

(一) 千七百七十三年及ヒ千七百十五年ノ法」千七百七十五年ビレン候第十四世ニ因テ著述セラレタル兇行人及ヒ懦弱人ヲ其自己ノ利益ノ爲メニ矯正シ之ヲ國ニ要用ナルニ致スル方法記事ト題スル書ヲ參看ス可シ

(二) シヨウルシユ第三世ノ法令第十九號(千七百七十六年)」シヨウルシユ三世ノ